

# 川原平(1)遺跡VI

－ 津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

北捨場地区

2017年3月

青森県教育委員会







# 川原平(1)遺跡Ⅵ

－ 津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

北捨場地区

2017年3月

青森県教育委員会





北捨場 調査風景 北西上空→



彩文土器 (写75-18)



赤漆塗り石製品剥落片  
(写188-3) S=1/1





土製品集合



石刀 (写175-1) 出土状況 北西→

# 序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成15年度から平成27年度にかけて津軽ダム建設事業予定地内に所在する遺跡の発掘調査を実施しました。そのうち、川原平(1)遺跡では、平成15・23・25～27年度に発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代中期から晩期にかけての建物跡・土坑・土器埋設遺構・配石遺構・焼土遺構・盛土遺構・捨場等が確認され、縄文時代の集落が営まれていたことがわかりました。遺物は土器・土製品、石器・石製品、漆製品、木製品、骨角器、動植物遺存体等が出土しました。特に縄文時代後期後葉～晩期にかけての遺物は、この地域では稀少な出土例として注目され、晩期の亀ヶ岡文化を考える上で貴重な発見となりました。

本報告書は、26年度に実施した川原平(1)遺跡発掘調査事業のうち、北捨場地区の調査成果をまとめたものです。この成果が、埋蔵文化財の保護に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と調査報告書の作成にあたり、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成29年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 田村博美

## 例言・凡例

1 本書は、国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所による津軽ダム建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成15・23・25～27年度に発掘調査を実施した西目屋村川原平(1)遺跡のうち、平成26年度に行った北捨場地区の発掘調査報告書である(図①・②参照)。

2 川原平(1)遺跡の所在地は中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡地内、青森県遺跡番号は343009である。

3 川原平(1)遺跡の発掘調査報告書は、既に以下3冊が刊行されている。

- ・『川原平(1)・(4)遺跡・大川添(2)遺跡・水上遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第409集
- ・『川原平(1)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第564集
- ・『川原平(1)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第565集

また、本書と同時期に、以下の4冊の刊行も予定されている。

- ・『川原平(1)遺跡Ⅳ(平場地区・クラック地区)』青森県埋蔵文化財調査報告書第576集
- ・『川原平(1)遺跡Ⅴ(東捨場地区・北東捨場地区)』青森県埋蔵文化財調査報告書第577集
- ・『川原平(1)遺跡Ⅵ(西捨場地区)』青森県埋蔵文化財調査報告書第579集
- ・『川原平(1)遺跡Ⅷ(自然科学分析・補遺・総括)』青森県埋蔵文化財調査報告書第580集

4 発掘調査と整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所が負担した。

5 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。








発掘調査期間	平成26年5月1日～平成26年11月14日
整理・報告書作成期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日
	平成28年4月1日～平成29年3月31日

6 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、報告書抄録記載の編著者が担当し、執筆者名は文末に記した。なお、発掘調査成果の一部は、現地見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合においては本書が優先する。

7 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。なお、自然科学分析の委託者については、『川原平(1)遺跡Ⅷ』にまとめて掲載した。

基準点・水準点測量	株式会社キタコン
空中写真撮影	株式会社シン技術コンサル

土器・小型土器の図化作業の一部	株式会社アルカ、株式会社ラング、 株式会社シン技術コンサル
石器の図化作業の一部	株式会社アルカ、株式会社ラング
遺物の写真撮影	シルバーフォト、フォトショップいなみ、有限会社無限
遺物の洗浄・注記の一部	ナカシャクリエイテブ株式会社、第一合成株式会社、 株式会社イビソク
遺物写真の切り抜き作業の一部	ワタナベサービス株式会社

- 8 石器の石質鑑定は調査員の柴正敏氏・島口天氏に依頼した。
- 9 地形図（遺跡位置図等）は、国土地理院発行の地図を合成・加工して使用した。
- 10 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。挿図中の方位は、すべて世界測地系の座標北を示している。
- 11 遺構については、その種類を示すアルファベットの略号と算用数字を組合せた番号を付した。以下のとおりである。  
S Q - 配石遺構
- 12 遺物については、取り上げ順に種別ごとの略号と番号を付した。略号は、以下のとおりである。  
P - 土器    S - 石器    C - 炭化材    特 - 漆製品など特殊なもの
- 13 土層の色調表記には、『新版標準土色帖2005年度版』（小山正忠・竹原秀雄）を用い、遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。土層断面図には、水準点を基にした海拔標高を付した。
- 14 遺物実測図で使用したスクリーンパターンは以下の通りであるが、一部については図に記したのものもある。
- |                    |   |                    |   |         |   |     |   |
|--------------------|---|--------------------|---|---------|---|-----|---|
| 漆容器などの<br>漆塗膜      |  | 土器アスファルト<br>・黒色付着物 |  | 赤色顔料・赤彩 |  |     |   |
| 石器アスファルト<br>・黒色付着物 |  | 石器磨面               |  | 石器光沢    |   | 敲打痕 |  |
- 15 遺構実測図および遺物実測図の各図版にはスケールを付している。
- 16 実測図の掲載を省き、写真のみで報告した遺物もあるため、土器の実測図には遺物写真の個別番号を付した。石器・石製品は、遺物写真と実測図それぞれにページ単位で1から個別番号を付し



た。写真と図の個別番号は異なり、観察表にそれぞれの番号を記載した。文章中では写真の番号を使用した。土製品・小型土器は実測図と遺物写真に共通の個体番号を付した。また、写真の掲載を省き、実測図のみで報告した遺物については、実測図に個別番号を付した。なお、本文中で遺物実測図あるいは遺物写真を引用する場合は、以下のように記した。

例1) 写真19の1の場合 → 写19-1

例2) 『川原平(1)遺跡Ⅲ』の図11の1の場合 → 報告書Ⅲ-図11-1、Ⅲ図11-1

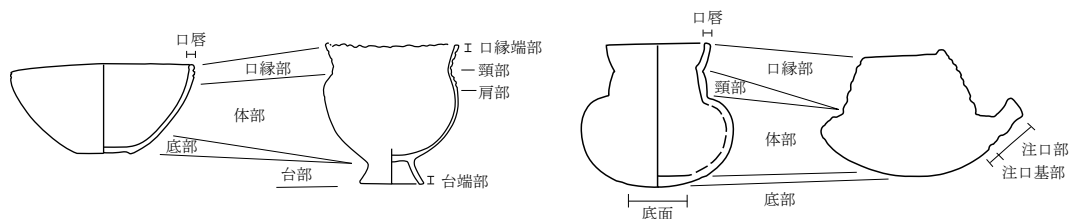
17 遺物の実測図及び写真の縮尺は、原則として土器は1/4、土製品は1/2あるいは1/3、剥片石器・石製品は1/2、礫石器・石製円盤集合写真は1/3である。この原則からはずれるものについては、個別に縮尺を示した。

#### 18 調査経過等について

今回の報告範囲における調査に至る経緯、調査体制（調査体制及び整理・報告書作成体制）、作業経過（発掘作業の経過及び整理・報告書作成作業の経過）については、今回報告範囲以外の地区のものにあわせ、『川原平(1)遺跡Ⅳ』（576集）に掲載した。

#### 19 土器の整理・分類について

土器は写真掲載を基準とし、可能な範囲で実測図を作成した。区分・分類基準などについては、本報告書の「第2章第2節2土器」に掲載した。また、口径あるいは器高が10cm以下の容器についてはミニチュア・小型土器として扱った（詳細については『川原平(1)遺跡Ⅷ』（580集）参照）。土器観察表における（ ）内計測値は、口径・底径については推定値（残存1/2未満）、器高については残存値を示す。部位の名称は下図のとおりである。



#### 20 石器の整理・分類について

石器の整理・分類については、『川原平(1)遺跡Ⅲ』（565集：pp.9-10）を準用した。なお、石製円盤については、集合写真を併用し、「円1（円盤集合写真1）」、「円2（円盤集合写真2）」…と名称を付した（『川原平(1)遺跡Ⅳ』例言参照）。また、写真には表示しないものの、左上から1、2、3…として石製円盤観察表を作成した。なお、石器・石製品および石製円盤集合写真には、本報告範囲以外で出土したものが一部含まれる。



円●

## 21 時期区分

本報告書で触れる遺構・遺物の時期は、『川原平（1）遺跡Ⅱ』（564集）を準用した。

表① 本書の時期区分

				本報告	青森県史 (関根2013)	型式等	備考	
後期		後葉	瘤付土器	7-3期	7期3段階	十腰内V群	本文中で7-3期以前を瘤付土器前半とした	
		7-4期		7期4段階	(十腰内V群に欠落する時期)	瘤付土器第Ⅲ段階 (小林2008)		
		末葉		8期	8期	(十腰内VI群)	瘤付土器第Ⅳ段階 (小林2008)	
晩期	前半	初頭	亀ヶ岡式土器	1期	1a期	1a期	大洞B	大洞B1
		1b期			1b期	大洞B2		
		前葉		2期	2期	大洞BC		
	後半	中葉		3期	3期	大洞C1		
		後葉		4期	4期	大洞C2		
				5期	5期	大洞A		
		末葉		6期	6期	大洞A'		

## 22 近世の遺物について

今回の報告範囲において、近世の土器が僅かに出土しているが、今回報告以外の地区で得たものとあわせて、『川原平（1）遺跡Ⅷ』（580集）に掲載する。

## 23 自然科学分析

今回の報告範囲出土遺物等について、放射性炭素年代測定や樹種同定、漆製品・土器の塗膜分析などの自然科学分析を外部委託しているが、これらの成果については今回報告以外の地区で得たものとあわせて、『川原平（1）遺跡Ⅷ』（580集）に掲載する。ただし、本報告における遺構・遺物の記載にあたり、それらの結果を部分的に引用した箇所がある。分析に使用した資料は、観察表の備考欄に下記のように資料番号を記載した。

Ⅷ第1編第5章第1～7節 放射性炭素年代測定→「年代測定KAWA（1）-●」

Ⅷ第6章第5節 漆関連遺物の塗膜分析→「塗膜分析No●」

Ⅷ第7章第5節 炭素・窒素安定同位体比分析→「安定同位体比分析資料●」

Ⅷ第8章第2節 胎土分析→「胎土分析●」

24 引用文献については巻末に掲載したが、参考文献については『川原平（1）遺跡Ⅷ』（580集）に掲載した。

25 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品・実測図・写真等は現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。

26 発掘調査及び報告書の作成に際して、ご指導・ご協力をいただいた機関・諸氏に関しては、『川原平（1）遺跡Ⅳ』（576集）に掲載した。

# 目 次

巻頭写真

序

例言・凡例

目次

図版目次

表目次

写真図版目次

## 第1章 調査の方法

### 第1節 調査方法

- 1 発掘作業の方法 ..... 1
- 2 整理・報告書作成作業の方法 ..... 1

## 第2章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 遺構

- 1 配石遺構 ..... 5
- 2 ピット ..... 5

### 第2節 北捨場

- 1 調査方法と堆積層 ..... 7
- 2 土器 ..... 31
- 3 土製品 ..... 51
- 4 石器 ..... 68
- 5 石製品 ..... 71
- 6 その他の遺物（植物製品・骨角器） ..... 111

## 第3章 まとめ

- 1 北捨場の堆積について ..... 112
- 2 遺物について ..... 116

引用文献 ..... 118

遺物観察表 ..... 119

写真図版 ..... 199

報告書抄録 ..... 397

## 図 版 目 次

図1	北捨場地区の範囲とセクション位置図
図2	北捨場旧地形とグリッド配置図
図3	第37号配石遺構・出土遺物図
図4	北捨場セクション図(1)
図5	北捨場セクション図(2)
図6	北捨場セクション図(3)
図7	北捨場セクション図(4)
図8	北捨場セクション図(5)
図9	北捨場セクション図(6)
図10	土器(1)11, 11・25, 25~27, 32~34, 34・63, 35・36, 38・39, 43 以下, 43上, 43・44層
図11	土器(2) 54, 55相当, 57層
図12	土器(3) 57・62・127, 60・63・89, 62, 63, 66層
図13	土器(4) 69層
図14	土器(5) 69, 76層
図15	土器(6) 78, 82, 84, 85層
図16	土器(7) 89層
図17	土器(8) 89, 89下, 89・120・121層
図18	土器(9) 92, 93, 94, 107, 109, 116~118層
図19	土器(10) 95, 96層
図20	土器(11) 122, 122・125, 122・125・128, 125層
図21	土器(12) 127, 128, 129層, 出土地点不明
図22	土製品(1)
図23	土製品(2)
図24	土製品(3)
図25	土製品(4)
図26	土製品(5)
図27	土製品(6)
図28	土製品(7)
図29	土製品(8)
図30	土製品(9)
図31	土製品(10)
図32	土製品(11)
図33	土製品(12)
図34	土製品(13)
図35	土製品(14)
図36	土製品(15)
図37	石器・石製品(1)
図38	石器・石製品(2)
図39	石器・石製品(3)
図40	石器・石製品(4)
図41	石器・石製品(5)
図42	石器・石製品(6)
図43	石器・石製品(7)
図44	石器・石製品(8)
図45	石器・石製品(9)
図46	石器・石製品(10)
図47	石器・石製品(11)

図48	石器・石製品(12)
図49	石器・石製品(13)
図50	石器・石製品(14)
図51	石器・石製品(15)
図52	石器・石製品(16)
図53	石器・石製品(17)
図54	石器・石製品(18)
図55	石器・石製品(19)
図56	石器・石製品(20)
図57	石器・石製品(21)
図58	石器・石製品(22)
図59	石器・石製品(23)
図60	石器・石製品(24)
図61	石器・石製品(25)
図62	石器・石製品(26)
図63	石器・石製品(27)
図64	石器・石製品(28)
図65	石器・石製品(29)
図66	石器・石製品(30)
図67	石器・石製品(31)
図68	石器・石製品(32)
図69	石器・石製品(33)
図70	石器・石製品(34)
図71	石器・石製品(35)
図72	石器・石製品(36)
図73	石器・石製品(37)
図74	骨角器
図75	北捨場セクションの時期区分図
図76	北捨場出土の石棒・石刀・石剣

---

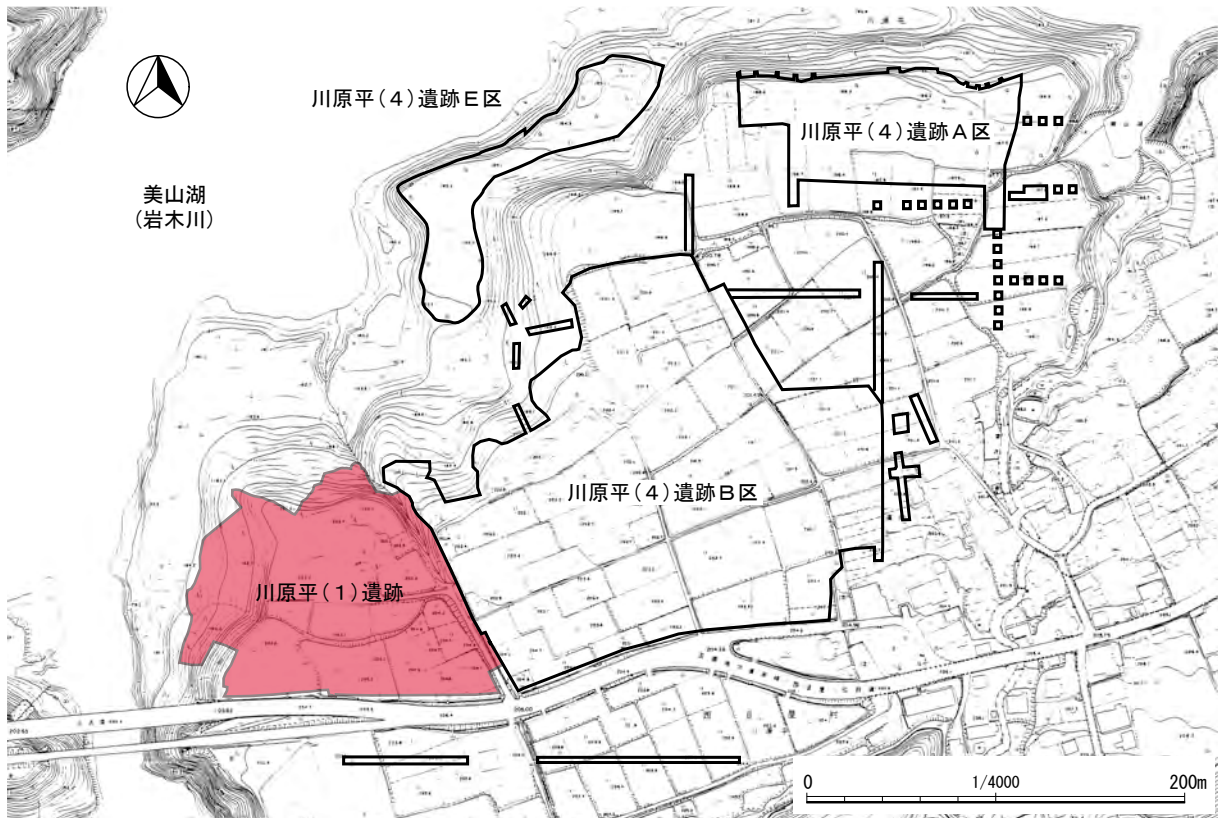
## 表 目 次

表1	発掘調査時における堆積層名と特徴
表2	層対応一覧・出土土器様相
表3	層対応表
表4	土器観察表
表5	土製品観察表
表6	ミニチュア・小型土器観察表
表7	骨角器観察表
表8	石器・石製品観察表
表9	石製円盤観察表

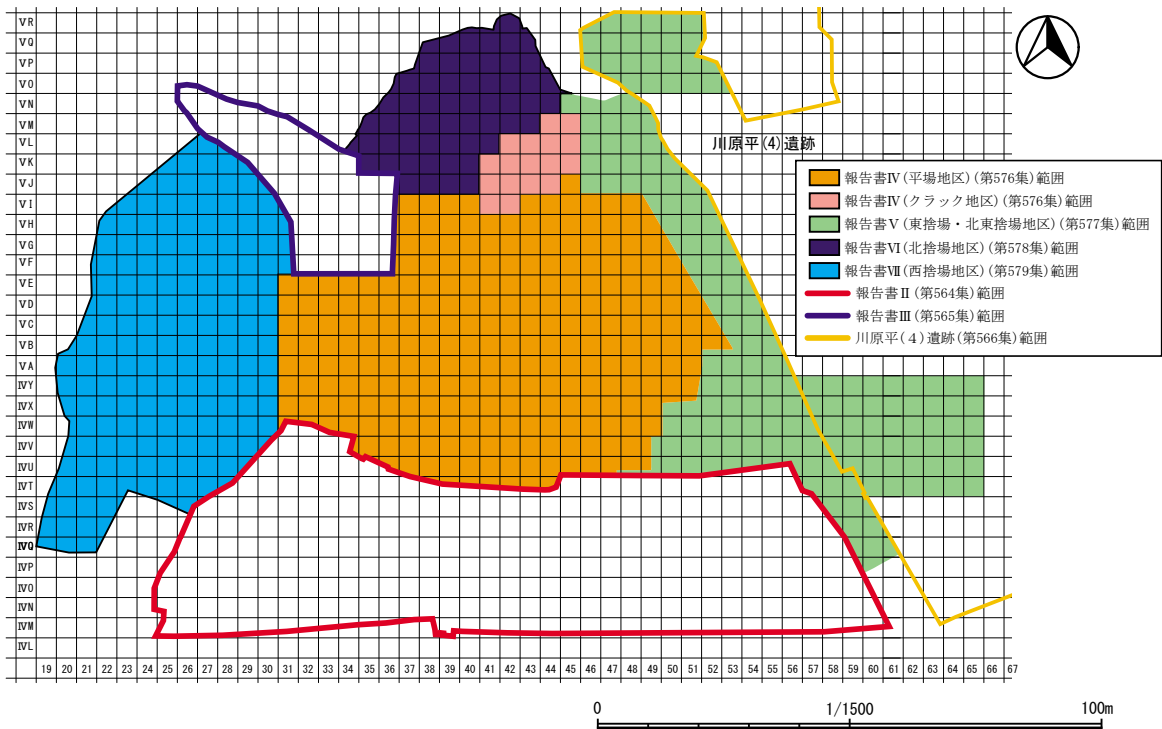
## 写真図版目次

写真1	北捨場調査前風景	写真49	北捨場遺物出土状況 (14)
写真2	北捨場調査風景	写真50	北捨場遺物出土状況 (15)
写真3	第37号配石遺構 (SQ37)	写真51	北捨場遺物出土状況 (16)
写真4	北捨場 セクション写真 (1)	写真52	北捨場遺物出土状況 (17)
写真5	北捨場 セクション写真 (2)	写真53	北捨場遺物出土状況 (18)
写真6	北捨場 セクション写真 (3)	写真54	北捨場遺物出土状況 (19)
写真7	北捨場 セクション写真 (4)	写真55	北捨場遺物出土状況 (20)
写真8	北捨場 セクション写真 (5)	写真56	北捨場遺物出土状況 (21)
写真9	北捨場 セクション写真 (6)	写真57	北捨場遺物出土状況 (22)
写真10	北捨場 セクション写真 (7)	写真58	北捨場遺物出土状況 (23)
写真11	北捨場 セクション写真 (8)	写真59	北捨場遺物出土状況 (24)
写真12	北捨場 セクション写真 (9)	写真60	北捨場遺物出土状況 (25)
写真13	北捨場 セクション写真 (10)	写真61	北捨場遺物出土状況 (26)
写真14	北捨場 セクション写真 (11)	写真62	北捨場遺物出土状況 (27)
写真15	北捨場 セクション写真 (12)	写真63	北捨場遺物出土状況 (28)
写真16	北捨場 セクション写真 (13)	写真64	北捨場遺物出土状況 (29)
写真17	北捨場 セクション写真 (14)	写真65	北捨場遺物出土状況 (30)
写真18	北捨場 セクション写真 (15)	写真66	北捨場遺物出土状況 (31)
写真19	北捨場 セクション写真 (16)	写真67	北捨場遺物出土状況 (32)
写真20	北捨場 セクション写真 (17)	写真68	第37号配石遺構出土遺物
写真21	北捨場 セクション写真 (18)	写真69	土器 (1) 1, 6・7, 8, 9, 10, 11層
写真22	北捨場 セクション写真 (19)	写真70	土器 (2) セク12の11~25, 11・15・18, 11・25, 12, 13層
写真23	北捨場 セクション写真 (20)	写真71	土器 (3) 14~18, 19・20・25, 23・96, 23, 24, 26・29, 1号盛土22~23層
写真24	北捨場 セクション写真 (21)	写真72	土器 (4) 25, 25~27, 28, 28・29・31, 31層
写真25	北捨場 セクション写真 (22)	写真73	土器 (5) 29, 30, 32, 32~34, 34層
写真26	北捨場 セクション写真 (23)	写真74	土器 (6) 34・63, 34・63・89, 34~89平行, 34・63の中間, 37, 38・39, 40, 41層
写真27	北捨場 セクション写真 (24)	写真75	土器 (7) 35・36, 42層
写真28	北捨場 セクション写真 (25)	写真76	土器 (8) 43の上, 43・44, 45, 46, 47層
写真29	北捨場 セクション写真 (26)	写真77	土器 (9) 43以下, 50, 51・56, 51層
写真30	北捨場 セクション写真 (27)	写真78	土器 (10) 52・97, 54・56, 54層
写真31	北捨場 セクション写真 (28)	写真79	土器 (11) 55, 56, 57層
写真32	北捨場 セクション写真 (29)	写真80	土器 (12) 57, 58, 59層
写真33	北捨場 セクション写真 (30)	写真81	土器 (13) 57・62・127層
写真34	北捨場完掘状況	写真82	土器 (14) 60・63・89, 62, 63・89, 65, 66層
写真35	北捨場完掘状況	写真83	土器 (15) 63層
写真36	北捨場遺物出土状況 (1)	写真84	土器 (16) 63, 68, 69層
写真37	北捨場遺物出土状況 (2)	写真85	土器 (17) 69層
写真38	北捨場遺物出土状況 (3)	写真86	土器 (18) 69, 76層
写真39	北捨場遺物出土状況 (4)	写真87	土器 (19) 76層
写真40	北捨場遺物出土状況 (5)	写真88	土器 (20) 77, 78・89・109, 78下部, 78, 79, 83層
写真41	北捨場遺物出土状況 (6)	写真89	土器 (21) 80以下, 80, 81, 82層
写真42	北捨場遺物出土状況 (7)	写真90	土器 (22) 84層
写真43	北捨場遺物出土状況 (8)	写真91	土器 (23) 85, 87, 89・120・121, 89・125層
写真44	北捨場遺物出土状況 (9)	写真92	土器 (24) 89層
写真45	北捨場遺物出土状況 (10)	写真93	土器 (25) 89層
写真46	北捨場遺物出土状況 (11)	写真94	土器 (26) 89層
写真47	北捨場遺物出土状況 (12)	写真95	土器 (27) 89層
写真48	北捨場遺物出土状況 (13)	写真96	土器 (28) 89層
		写真97	土器 (29) 89, 89下, 89以下層

- 写真98 土器 (30) 92, 93層
- 写真99 土器 (31) 93, 94, 95下, 95層
- 写真100 土器 (32) 95層
- 写真101 土器 (33) 95層
- 写真102 土器 (34) 95, 96, 103, 103以下, 104, 107層
- 写真103 土器 (35) 109, 112, 116~118, 120, 121, 122層
- 写真104 土器 (36) 122·125層
- 写真105 土器 (37) 122·125, 122·125·128, 124層
- 写真106 土器 (38) 125層
- 写真107 土器 (39) 125層
- 写真108 土器 (40) 125, 127層
- 写真109 土器 (41) 127層
- 写真110 土器 (42) 128層
- 写真111 土器 (43) 128, 129層
- 写真112 土器 (44) 表土, 上層, 出土地点不明, 包含層
- 写真113 土製品 (1)
- 写真114 土製品 (2)
- 写真115 土製品 (3)
- 写真116 土製品 (4)
- 写真117 土製品 (5)
- 写真118 土製品 (6)
- 写真119 土製品 (7)
- 写真120 土製品 (8)
- 写真121 石器・石製品 (1)
- 写真122 石器・石製品 (2)
- 写真123 石器・石製品 (3)
- 写真124 石器・石製品 (4)
- 写真125 石器・石製品 (5)
- 写真126 石器・石製品 (6)
- 写真127 石器・石製品 (7)
- 写真128 石器・石製品 (8)
- 写真129 石器・石製品 (9)
- 写真130 石器・石製品 (10)
- 写真131 石器・石製品 (11)
- 写真132 石器・石製品 (12)
- 写真133 石器・石製品 (13)
- 写真134 石器・石製品 (14)
- 写真135 石器・石製品 (15)
- 写真136 石器・石製品 (16)
- 写真137 石器・石製品 (17)
- 写真138 石器・石製品 (18)
- 写真139 石器・石製品 (19)
- 写真140 石器・石製品 (20)
- 写真141 石器・石製品 (21)
- 写真142 石器・石製品 (22)
- 写真143 石器・石製品 (23)
- 写真144 石器・石製品 (24)
- 写真145 石器・石製品 (25)
- 写真146 石器・石製品 (26)
- 写真147 石器・石製品 (27)
- 写真148 石器・石製品 (28)
- 写真149 石器・石製品 (29)
- 写真150 石器・石製品 (30)
- 写真151 石器・石製品 (31)
- 写真152 石器・石製品 (32)
- 写真153 石器・石製品 (33)
- 写真154 石器・石製品 (34)
- 写真155 石器・石製品 (35)
- 写真156 石器・石製品 (36)
- 写真157 石器・石製品 (37)
- 写真158 石器・石製品 (38)
- 写真159 石器・石製品 (39)
- 写真160 石器・石製品 (40)
- 写真161 石器・石製品 (41)
- 写真162 石器・石製品 (42)
- 写真163 石器・石製品 (43)
- 写真164 石器・石製品 (44)
- 写真165 石器・石製品 (45)
- 写真166 石器・石製品 (46)
- 写真167 石器・石製品 (47)
- 写真168 石器・石製品 (48)
- 写真169 石器・石製品 (49)
- 写真170 石器・石製品 (50)
- 写真171 石器・石製品 (51)
- 写真172 石器・石製品 (52)
- 写真173 石器・石製品 (53)
- 写真174 石器・石製品 (54)
- 写真175 石器・石製品 (55)
- 写真176 石器・石製品 (56)
- 写真177 石器・石製品 (57)
- 写真178 石器・石製品 (58)
- 写真179 石器・石製品 (59)
- 写真180 石器・石製品 (60)
- 写真181 石器・石製品 (61)
- 写真182 石器・石製品 (62)
- 写真183 石器・石製品 (63)
- 写真184 石器・石製品 (64)
- 写真185 石器・石製品 (65)
- 写真186 石器・石製品 (66)
- 写真187 石器・石製品 (67)
- 写真188 石器・石製品 (68)
- 写真189 石器・石製品 (69)
- 写真190 石器・石製品 (70)
- 写真191 石器・石製品 (61)
- 写真192 石製円盤 (1)
- 写真193 石製円盤 (2)
- 写真194 石製円盤 (3)
- 写真195 石製円盤 (4)
- 写真196 石製円盤 (5)・赤色顔料塊
- 写真197 植物製品
- 写真198 骨角器
- 写真199 北捨場遺物出土状況 (追加)



図① 川原平(1)遺跡の地形



図② 本書の報告範囲

# 第1章 調査の方法

## 第1節 調査方法

### 1 発掘作業の方法および基本層序

#### 【測量基準点・水準点の石器・グリッド設定】

報告書Ⅱ・Ⅲに準拠する(報告書Ⅱp.8、報告書Ⅲp.16参照)。

#### 【表土の調査】

表土(第Ⅰ層)の除去は、人力で行ったが、北東捨場との境の急斜面の一部は重機を用いた。出土した遺物はグリッド単位で取り上げた。

#### 【基本層序】

2003年調査(青森県教委2006)で区分したものを引き継いで調査している。基本層序の解釈を再掲すれば次のとおりである。

Ⅰ層：表土(耕作土含む)。

Ⅱ層：造成土。本来はⅢ層であったが、耕地や道路の造成時に攪乱を受けた部分(縄文時代の遺物を含む)。

Ⅲ層：黒色土。耕作等による新しい時代の攪乱を受けていない縄文時代の堆積層。

漸移層：Ⅲ層とⅣ層の間にある、遺物を含まない自然堆積土。

Ⅳ層：低位河成段丘堆積物。人的な攪乱が及んでいない堆積土。

本報告の範囲では、Ⅱ層に該当する層は確認していない。北捨場堆積層の一部は基本層序に対比されており、基本層序名が付与されている層(Ⅰ層、東Ⅲ-1・2層、Ⅳ層)がある(表1~3)。

#### 【遺構の調査】

本報告の範囲で検出された遺構は、配石遺構、ピット、捨場である。調査方法については、各遺構の事実記載と合わせて掲載した。土層の図化や遺物出土地点図の作成にあたっては、(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」を使用した。土層の色調表記には『新版標準土色帖2006年度版』(小山正忠・竹原秀雄)を用いた。

#### 【写真撮影】

写真撮影は、原則として35mmモノクローム・35mmカラーリバーサルの各フィルムカメラ及びデジタルカメラ(キャノン製 EOS7D 5184×3456ピクセル 約1800万画素)を併用し、発掘作業状況、土層の堆積状況、遺物の出土状況・精査状況・完掘後の全景等について記録した。

ラジコンヘリによる遺跡及び調査区域全体の空中写真撮影は業者に委託した。

### 2 整理・報告書作成作業の方法

捨場の形成過程等に重点をおいて整理・報告書作成作業を進めた。

【図面類の整理】遺構の平面図や堆積土層断面図等は、簡易遣り方で主に作成したため、遺構毎に図面修正を行った。また、遺構台帳・遺構一覧表等を作成して、発掘作業時の所見等を整理した。



【写真類の整理】35mmモノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、遺構や遺物包含層からの遺物の出土状態、遺構の検出・精査状況等に整理してスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは35mmカラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付し、ハードディスク・DVD等に保存した。

【遺物の洗浄・注記と接合復元】

遺物の洗浄を早期に終え、接合・復元作業を進めるため、業務の大部分を委託した。遺物の注記は調査年度・遺跡名・遺構名・グリッド名・層位・取り上げ番号などを略記したが、直接注記できない剥片石器等については収納したチャック付きポリ袋に注記した。また、土器の接合・復元については第2章第2節2に記載した。

【報告書掲載遺物の選別】

それぞれの遺物の項に記載した。

【遺物の観察・図化】

十分観察した上で、遺物の特徴を適切にわかりやすく表現するように図化した。また、観察表・計測表を作成した。整理期間の制約上、写真のみで報告した遺物も多い。

【遺物の写真撮影】

業者に委託して行ったが、実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。また、編集にあたって、背景の切り抜きやスケールの統一などは業者に委託した。

【トレース・版下作成】

遺構・遺物の実測図などの挿図のトレースは、アドビシステムズ(株)製「Adobe Illustrator CS3～CS6, CC」を用いたデジタルトレースとし、実測図版・写真図版などの版組はアドビシステムズ(株)製「Adobe Illustrator CS4～CS6, CC」と「Adobe InDesign CS4, CC」で作成した。

【調査成果の検討】

捨場の層ごとに構造的特徴や出土遺物、新旧関係に関するデータを整理し、形成時期や同時性などについて検討を加えた。また、遺物を時代・時期・種類ごとに整理し、出土遺物全体の分類・器種構成などについて検討した。

遺構・遺物の検討結果を踏まえて、捨場の時期・構造・変遷などについて検討・整理した。

(高橋・岩井)

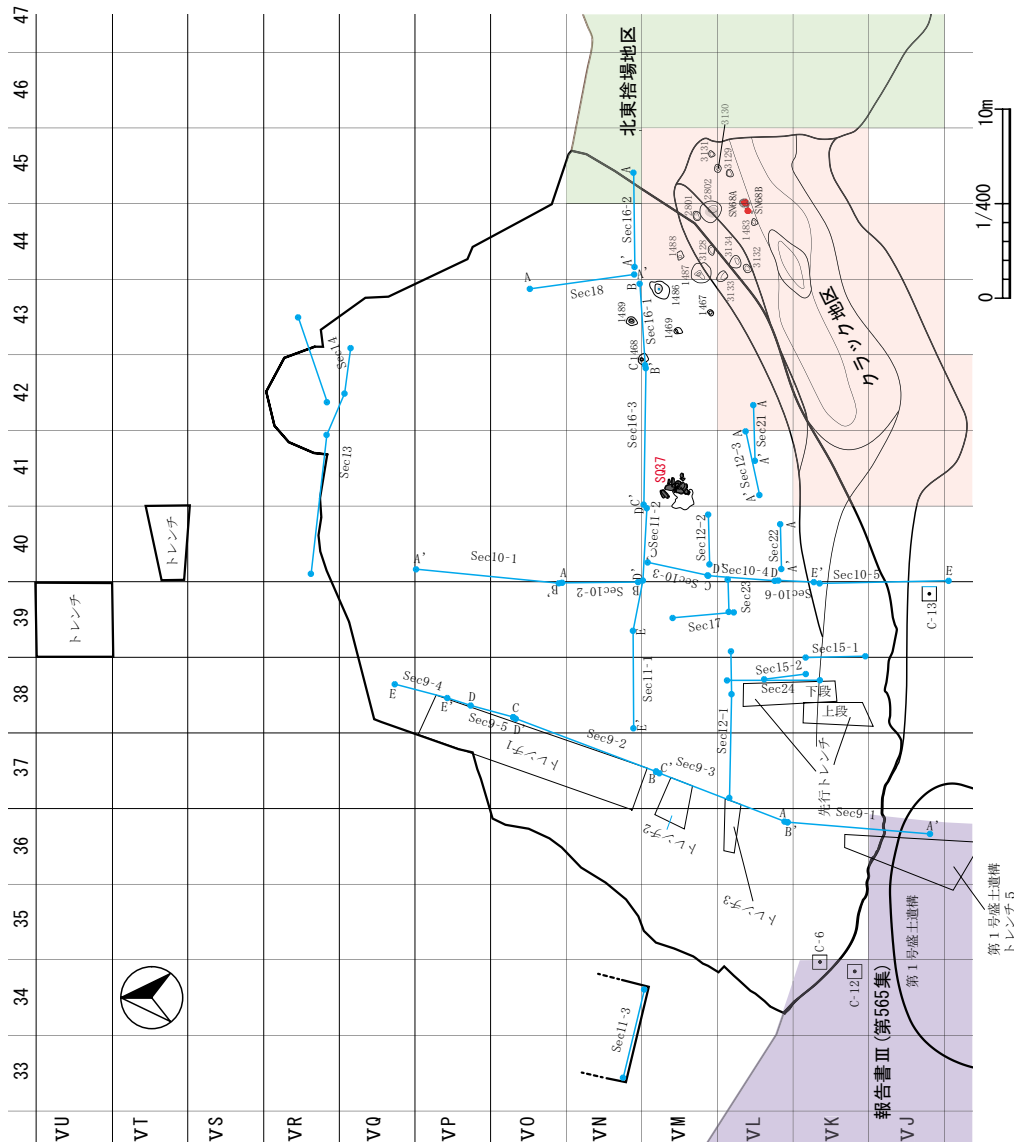
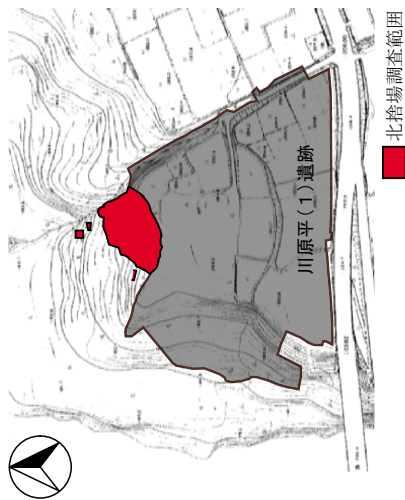


図1 北捨場地区の範囲とセクション位置図



グリッドVL・VM-42~45一帯のピットは、報告書Ⅳ(第576集)で報告する。北捨場地区と、クラック地区・北東捨場地区の境界付近で出土した遺物は厳密に区分していない。

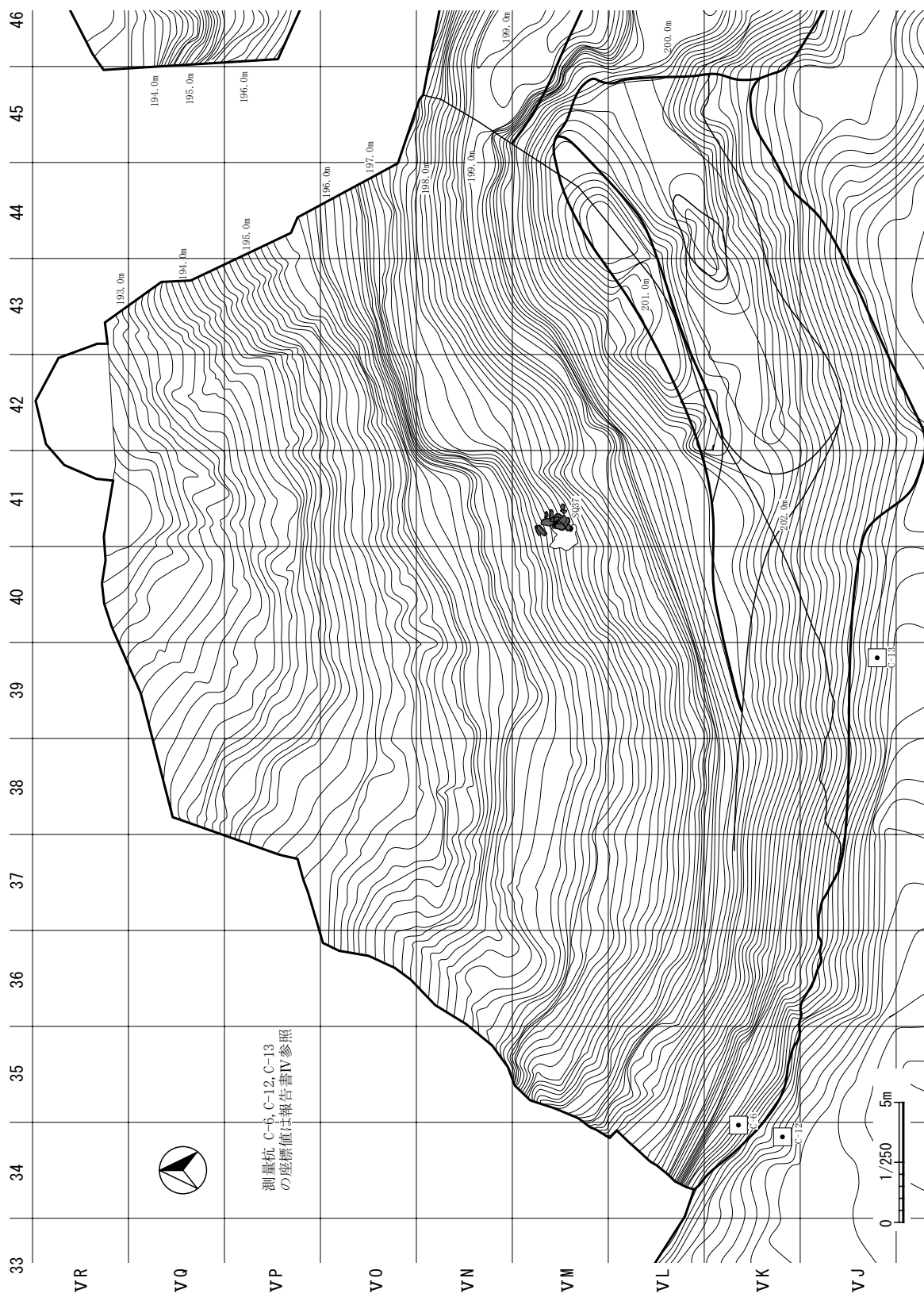


図2 北捨場旧地形とグリッド配置図

## 第2章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 遺構

#### 1 配石遺構 (図3 写真3、68)

第37号配石(略号:SQ37)

[位置・確認・調査方法] VM-41グリッドに位置し、北捨場の中央付近の振替層位69層(現場層位東Ⅲ-1層)の掘り下げ中に確認した。調査にあたっては、配石の中心を通る2本のセクションベルトを設定し、構築状況などを記録した。

[重複] なし。

[規模・形状] 北西から南東に1.8m、北東から南西に1.64mの範囲でまとまって礫が置かれている。礫は長径20cm~60cm大で、棒状のものから扁平なものまで形状は様々である。花崗岩類、凝灰岩、緑色凝灰岩など在地の礫が使用されている。A-A'ラインの断面図で北西の2点の礫は傾斜の下方となるためレベル差が大きく見える。しかし、礫の形状や石質はSQ37中核部分と同質であり、周辺には同様の礫がないため、本配石の構成礫として捉えた。また、配石の下には土坑等が確認できず、本配石に付属する施設はないと判断される。

[出土遺物] 配石の中央の石の間から晩期1b期の赤彩が施された壺(取り上げ番号P11 写68-3)を確認した(図3、写真3)。石をはずして、全体を掘り出すと、底部を斜め上にした状態であった(写真3)。他に配石の直下から、石製品(写68-5)が出土している(写真3)。配石を構成する礫のなかでS-14は石皿破片(写68-4)である。また、P1~10は出土位置から遺構に関係する可能性があるが、小片のため未掲載のものもある。配石の精査中に石鏃・石匙・磨製石斧などの石器が出土し、本遺構の名前を付して取り上げた。全てが有意な関係を示すか不明であるがSQ37に近接し、晩期1b期の大洞B式期の可能性があることから、本遺構の中で図版を組んでいる。

[小結] 本遺構は、北捨場の東端に近い部分で、傾斜が緩やかになった場所で1基のみ見つかった。中央部には配石に組み込まれた土器(写68-3)があり、帰属する縄文時代晩期前葉(晩期1b期)に構築されたと考えられる。なお、本遺構は北捨場の中で見つかったこともあり周囲の遺物が多い。土器は傾斜の上方である南側では少なく、南西方向にまとまりを持っていたので図に範囲を示した。配石との有意な関係があるかは不明瞭であり、北捨場の振替層位69層の土器(P-10047~10063)として取り上げている。

(斎藤)

#### 2 ピット

VM・VN-43~45一帯で確認したピットは報告書Ⅳの平場地区に掲載した。

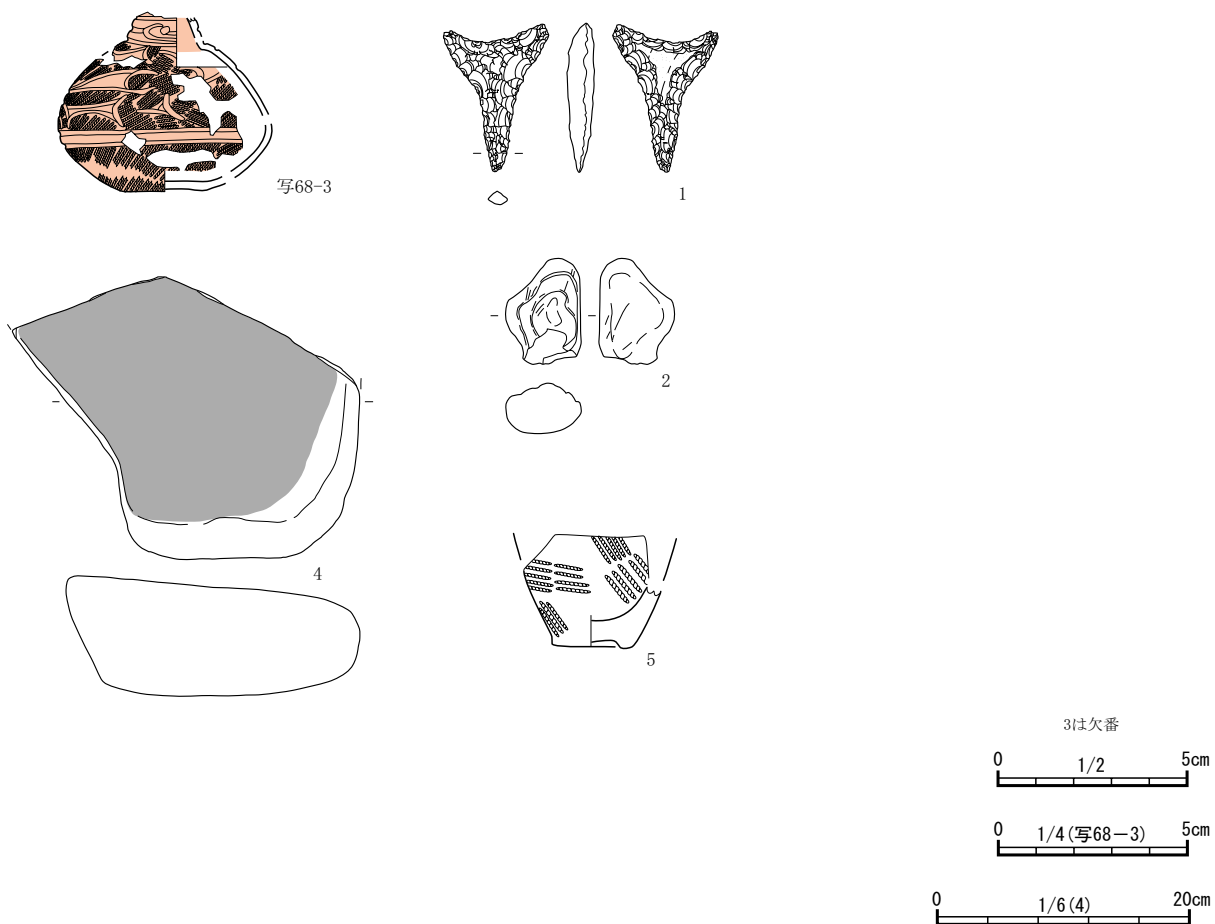
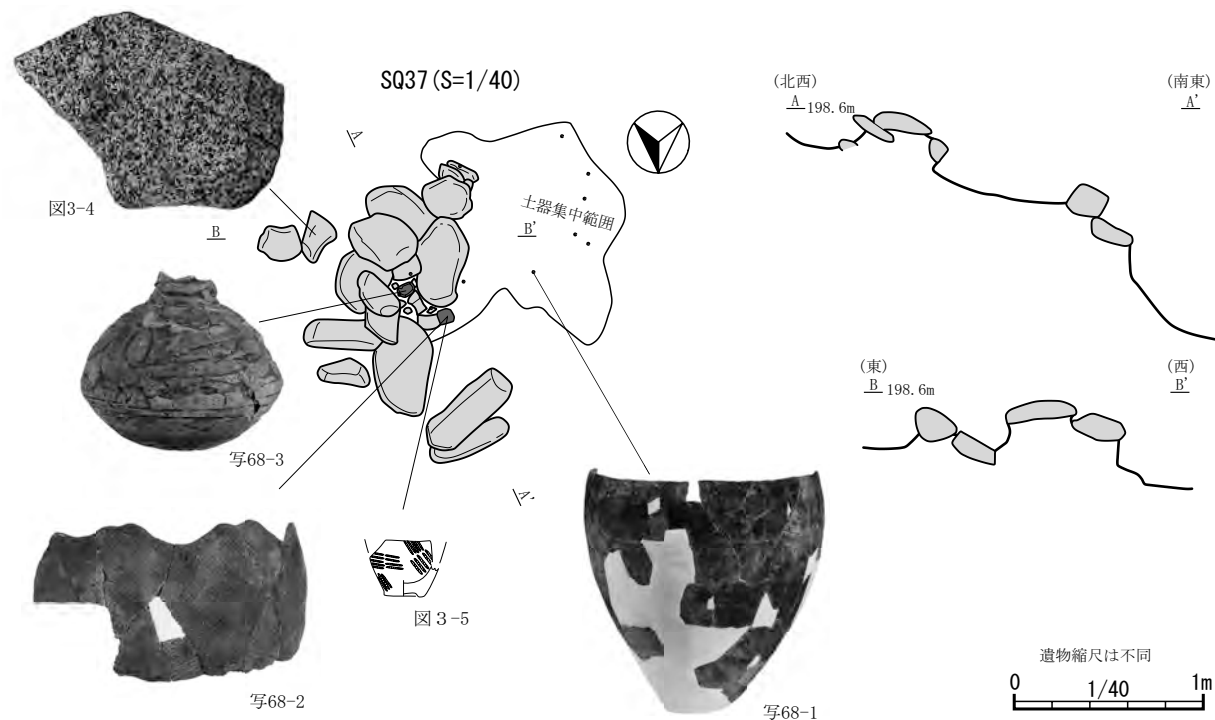


図3 第37号配石遺構・出土遺物

## 第2節 北捨場

### 1 調査方法と堆積層

#### (1) 調査前の北捨場とその周辺の現況

【位置】(図①、図1、写真1) 北捨場は調査区の北側、グリッドVKライン以北に位置する。平成25年の調査において、第1号盛土遺構の北端を調査している最中に、調査区北斜面に落ちる包含層を確認した。次年度の平成26年度の調査で、第1号盛土遺構のトレンチ5(報告書Ⅲ 図75)の延長でトレンチをいれたところ、2m近くの厚さを持つ包含層が確認でき、遺跡平坦地の北側斜面に、大規模な捨場が広がることが確認できた。

【規模】(図1、写真2)北捨場の範囲は以下の通りである。

範囲の西側は、中期遺構がある半島状につき出た部分の北斜面(セクション11-3よりも以西)は、勾配がきつく、中期遺構周辺の斜面への落ち際を調査した際も、第1号盛土遺構と北捨場が接する部分と比較し、出土遺物の量は少なかった。さらに一帯の表面状態などを観察したが、遺物が散乱しているような状況でもない。そのため、露頭の状況と、旧村道付近の表面状況、セクション11-3の様相から、この一帯には包含層は広がらないと判断した。セクション11-3一帯は、遺物が散見できる程度であり、包含層は形成されていないと判断した。またグリッド36・37列より、包含層の厚さが徐々に薄くなり(写真18-2)、グリッド35・36列では表土を剥くとすぐに地山が現れたので、このあたりが西端となる。

東側は、そのまま北東捨場と連続するが、セクション18よりも東側グリッド44・45列近辺は、遺物包含層が薄くなるので、およそこの部分を目安に北東捨場と区分した。南側は、クラック地区と第1号盛土遺構と重なる部分もある。グリッドVJ-37~40一帯は、遺物の出土量が減少するので、北捨場の南限はこのあたりと考えられる。

次に北端であるが、川原平(1)遺跡と川原平(4)遺跡の間に旧村道がある。この村道はグリッドVS・VRあたりを東西に走っており、一帯の斜面は村道で削平され、段差ができている(セクション13・14あたり)。そしてこの村道よりも北側の斜面に2カ所テストトレンチ(VU-39、VT-40、写真33-1~4)を入れたが、遺物が散見できる程度であり、明確な遺跡包含層は形成されていない。そのため、この村道あたりが北捨場の北端と判断した。

グリッドVK-41~42一帯は、平場地区の北端にあたり、地形的に平坦である。径2m近くの大杉があり、大杉の根の下から晩期前葉の遺物包含層が確認され、当初北捨場の一部として調査した。その後、北捨場と平場の境に位置する大きな窪地であることが判明したので、クラック地区と独立した単位の捨場と判断した。この辺りの調査報告はクラック地点(報告書Ⅳ 第576集)に掲載することにした。

よって北捨場は、東西45m、南北32mほどの範囲に形成された大規模捨場である。

【北捨場の地形】(図2、写真34・35)北捨場範囲の東西端が北側につきだし、範囲の南側中央が南側にへこんだ、播り鉢状の地形である。調査前の現地の地形観察から、VMラインを境に、南側の急斜面と北側の緩斜面に分かれる。地形が変化する当たりが、堆積層の変化するひとつの目安と調査前に判断した。

調査後の地山の形状では、北捨場中央のセクション10で、南側は30°、北側は15°の傾斜である。特に平地地区との境からの傾斜が著しく、セクション9のあるグリッドVK・VLあたりは、勾配がさらに強く48°、地形変換点で28°、北側の緩斜面で7°である。セクション18の北東捨場との境は29°である。

## (2) トレンチ、ベルトと層名前

調査に先立ち、調査区は斜面地形のため、上からの落石などの恐れがあったので、調査区に適宜コンパネなどで障壁を作り安全を確保した。また作業員の転倒防止のため、移動式の手すり付き階段を設置し、調査区の昇降などの際の足場確保などに努めた。

抜根前の切り株が調査区に多数残されていたので、それらを除去する際に、その場所を下層まで掘り下げ、トレンチとし、堆積層の状況を把握した。斜面地区であり、作業場危険が多いので、場合には切り株周辺を人力では掘り下げ、重機によって抜根をした。

堆積層は、南側においては北側よりも細かな単位が多く、傾斜も急なため、複雑な層になることが予想された。小さな単位でトレンチを入れ、層相の変化ごとに層名を与えて掘り下げた。そしてそこを足掛かりにトレンチの範囲を広げ、最終的にベルトのみを残した。

### 【トレンチとセクション9】(図4)

北捨場の調査では、まず昨年度の第1号盛土遺構のトレンチ5を基準として、その延長上に3カ所トレンチを入れ、堆積状況の把握につとめた。トレンチは北から、トレンチ1、トレンチ2、トレンチ3とした。

その結果、トレンチ1、トレンチ2の表土の下には、黒い層、明るい層、黒い層に区分できたので、黒色層、明褐色層、黒褐色層の名称を与え、大きく3層に区分した。トレンチ3のあたりは、北捨場の急斜面にあたり、第1号盛土遺構のトレンチ5あたりの堆積層から、より複雑な堆積層を想定し、「捨アラビア数字」と「炭アラビア数字」の層名とした。

そしてこの3つのトレンチと、第1号盛土遺構のトレンチ5の部分をつなげ、ロングセクション9を作成した。このセクションで北捨場の西側の堆積層の状況と第1号盛土遺構との関係が捉えられた。

### 【セクション10】(図5)

北捨場の中央部に南北に延びるロングセクション10を設定した。

斜面の北側緩斜面は、そのまま黒色層、明褐色層、黒褐色層で掘り進めた。グリッドVNラインよりも北側は比較的単純な層であると判断した。そしてセクション10の、グリッドVNラインよりも北側(Sec10-1・10-2)には、基本的に、算用数字の層名を与えた。

一方でグリッドVNラインよりも南、グリッド40列以西では、セクション9の状況を想定し、細かな単位の層が重複することを想定し「捨アルファベット大文字」の層名をつけた。層が変わったと判断できた時、新たに層名を振って掘り進めた。炭化物の層については、「炭アルファベット小文字」の層名をつけた。

### 【セクション11・16・18】(図6)

北捨場の北半を先に調査したことで、VNラインの部分に壁ができたので、セクション11とした。VNグリッドに設置したセクション、セクションNライン(SN)という意味で、「SN-アルファベット」の層名をつけた。最終的には残されたベルトの層名を基準とし、各トレンチでつけた層名との関係を押さえた。SNの層は全体に西へ傾斜している。セクション10よりも以東側(Sec11-2)は、すでに

Sec10-1・10-2で算用数字の層名が与えられていたので、その層名を用いた。

またグリッド40ラインより東側は、北捨場の東端にあたり、そこにセクション11の延長でセクション16を設定した。このセクションによって北捨場のほぼ中央の東西に延びる堆積層の状況だけでなく、セクション9とセクション10の関係が捉えられた。また北捨場の東端、急斜面部にセクション18を設け、北東捨場との境になる急斜面の堆積層の把握に努めた。この一帯は、川原平(1)遺跡の基本土層、第Ⅲ層を踏襲し、東Ⅲ層という名称を与え、調査に応じて分層した。

【セクション12・23・21・22】(図7)

セクション11の少し南側、急斜面の北端に東西に延びるセクション12を設定した。セクション11と12の間のグリッドVM-37・38は、捨B層を層名の基本とし、適宜トレンチを入れ、層が変わるたびに、捨B層を細分して掘り進めた。この時点で捨B層並びに、各セクションに層名がつけられていたので、Sec12では新たな層名をつけずに、既存層名を並列することにした。同一層に複数の層名があるのはそのためである。

【セクション13・14】(図8)

北捨場北端部分のセクションである。基本算用数字の層名を与えた。

【セクション17・15・24】(図5、9)

セクション17は、セクション10の西側である。上記セクションにかからなかった層名があるので、それらを抑えるためにセクションを作成した。

北捨場の斜面はVM・VN列を境に、北捨場の傾斜が異なる。そのライン以南は急斜面であり、そこから北は緩斜面である。その変換点は、セクション17の幾分平らなセクションで確認できる。この平らな面あたりで、第37号配石遺構が確認できたので、かつての生活面があった可能性がある。

セクション15と24はVK・VL-38・39を調査した際に作成したセクションである。調査区の中央に先行トレンチを入れ、堆積層を把握し、堆積層を上面のセクション15までは順次上から「捨アルファベット大文字」の層名をつけた。炭化物の層については、「炭アルファベット小文字」の層名をつけた。その後一端上面を平らにした。高さが2m以上あるセクション10を掘り下げる際の足場の確保のためである。この段階でセクション15を作成した。その後下段に、さらに先行トレンチを設定し、下の堆積層の状況を把握し、セクション24を作成した。

最終的にはセクション10が残り、この部分を完掘して調査は終了した。

(3) 堆積層について

北捨場の各堆積層について、特徴、グリッド、記載セクションなどを表1にまとめた。調査中は、礫の含有率、色調、炭化物の量などで分層した。頭に「捨」や「炭」などがつかない算用数字やアルファベットなどの層名は、セクションごとに振ったので、同じ層名でも、セクションが違えば異なる層である。堆積層の分層線で破線表示の部分がある。これは途中で分層することができなくなったり、分層できそうであるが、明瞭に線が引けないので推定で引いた線である。こうした推定線は急斜面の堆積部分に見られる。これ以外にも分層できそうな箇所は多々あったが、第3章のまとめなどで、個別に説明する。

(4) 振替層について(表1～3)

北捨場では調査の進捗に応じて、断面を精査した部分から個々に層名を付しており、同一層であっ



でも、セクションごとに層名が異なる例や、同一セクションでも調査のタイミングにより別の層名が付される例などがある。また、調査初動時には同一層と仮定して調査を進めたが、調査の結果、別層と判明した例や、別層であっても異なるセクションであれば、同一層名が付された例もある。このため、整理段階で各断面の調査所見やセクション交点から、層の対応および相対的な前後関係を整理し、1つの層位には1つの層名とするために、すべての層に新規の「振替層位」を付与することとした。「振替層位」はアラビア数字を用い、概ね上層から順に1、2、3・・・層とした。調査で作成された断面図は複数に及び、相関関係にあることから、層名は全体を通して付したため、単一のセクションでは層名は連続しない。現場層位と振替層位の対応は第1～3表のとおりである。文章中の表記については基本的に振替層位を用いているが、振替層名と現場層名を併記する場合もある。なお、異なる層位に同一の現場層名が付与されている場合、特に遺物の出土層位に関して、下記のとおりとした。

- ・層位が異なるものの同一の層名が付されるものは、基本的にセクションが異なるため、出土地点に応じて、振替層位を確定した。

- ・現場層位で「上」「中」「下」などの細分があり、かつ細分のない層名もある場合は、出土地点がセクションベルトか否かで判断した(例えば出土層位が「B4層」の場合、セクションベルト出土の場合は振替60層、ベルト出土でなければ振替60,89層出土となる。現場層位「捨5」なども同様である)。

- ・上記の場合でも統合された層名があれば、それを使用した。(例えば出土層位が「捨H」の場合、「捨H」が含まれる現場層位は「捨H上(振替63)」「捨H下(振替83)」があり、それらを含む「捨H(振替84)」が存在する。この場合は「捨H(振替84)」とした。現場層位「捨A」、「捨L」、「捨V」なども同様である。

- ・現場層位で「上」「中」「下」などの細分があり、細分のない層名がない場合は、対応するすべての層名を併記した(例えば出土層位が「捨U」の場合、「捨U」が含まれる現場層位は「捨U上(振替122)」「捨U下(振替125)」がある。このため振替層位は「122, 125」とした。

- ・現場層位「10」層は複数層に付されている。層の振替にあたっては、セクション9付近(38ライン以西)の場合は、VLライン以北を「振替103層以下」、VJライン以南は「振替24層」、VKグリッドは現場層位が「捨10」であれば「振替103層以下」、現場層位が「捨」が付かない「10層」の場合は「振替24層」とした。39、40ライン付近はセクション10に対応するとし、前述の基準に従い振替層を付した。

#### (5) 捨場層位の堆積時期(表3)

捨場層位の堆積時期については、出土土器の下限を基に表3に色分けにより記載した。下限の出土土器に拠ったため、時期が下る層位と接している場合などは、遺物の混入により、実態よりも下る時期に比定されている可能性がある。下限の土器が小片かつ少量であり、他の時期の土器の出土状況が極めて良好である場合など、下限土器が上位層からの混入であることが明らかな場合には、下限土器を除外し、時期比定した。

#### (6) 北捨場の全体像と各種遺構の関係

北捨場の他の地区・遺構との重複関係は、クラック地区、第1号・第4号盛土遺構であり、概要は以下の通りである。

クラックは後期後葉から晩期前葉までの時期の包含層であり、上面に晩期2期の建物跡(SI118)が位置する。上面が晩期前葉なので、北捨場最下層の時期と概ね一致する。晩期後半から、第1号・第4号盛土遺構が構築されると同時に、北捨場に土砂を主体とする大規模な廃棄行為が行われる。北捨場の

大半の層には、晩期5期の遺物が含まれている。2つの盛土遺構の時期は、晩期4・5期が中心なので、北捨場の上層側の堆積時期と一致する。第1号盛土遺構と北捨場の堆積層は一部つながっているので、晩期後半の廃棄はほぼ同時期に行われたと思われる。

北捨場の堆積は、近隣の遺構の動向、集落の変遷などと密接に関係する。

(高橋・齋藤・岩井)

表1 現場時の堆積層の名称と特徴(1)

層名	振替層	セクション	主要グリッド	特徴、現場で分層した根拠の特徴など	前期	中期	後期	後7-4	後8	晩1a	晩1b	晩2	晩3	晩4	晩5
捨1	振替23層	セ79	VL・M-36・37	礫の少ない、暗褐色の層。第1号盛土遺構のトレンチ5近辺でつけた層名。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。		●		●	●	●		●	●	●	●
捨1a	振替45層	セ79	VK-36	礫の少ない、黒褐色の層。セク9で捨1から分層。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。					●	●	●				
捨2	振替46層	セ79	VK-36	礫の少ない、暗褐色の層。第1号盛土遺構のトレンチ5近辺でつけた層名。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。					●	●	●	●	●	●	●
捨3	振替47層	セ79	VK-36	礫の少ない、褐色の層。第1号盛土遺構のトレンチ5近辺でつけた層名。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。				●					△	●	
捨3a	振替49層	セ79	VK-36	礫の少ない、暗褐色の層。セク9で捨3から分層。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。	情報なし										
捨3b	振替48層	セ79	VK-36	礫の少ない、黒褐色の層。セク9で捨3から分層。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。	情報なし										
捨4	振替54層	セ79	VK-36	礫の少ない、暗褐色の層。第1号盛土遺構のトレンチ5近辺でつけた層名。平成26年度調査時に「11～」と取り上げている。		●		●	●		●	●	●	●	●
捨4Ca	振替54層	グリッドのみ	VL-36	捨4内で炭化物を多く含む。	情報なし										
捨5	振替56層	セ79	VK-36	礫を含む黒褐色の層。第1号盛土遺構のトレンチ5近辺でつけた層名。トレンチ調査時には、最下層と認識して調査した。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。		●		●	●	●	●	●	●	●	●
捨5a	振替100層	セ79	VK-36	礫を含む層。セク9で捨5から分層。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。		●			●						
捨5b	振替101層	セ79	VK-36	礫を含む層。セク9で捨5から分層。平成26年度調査時に「11～」と遺物を取り上げている。		●					●				
捨6	振替17層	セ79	VL-36	炭4層の下層で確認できた焼土層があり、その直下で確認できた層。礫が少ない。トレンチ2・3でつけた層名。				●	●					△	●
捨7	振替52・97層	グリッドのみ	VL-36	-		●			●				●	●	●
捨7(ロ)	振替52層	セ79	VL-36	礫を含む層。当初捨7と大きくとらえたが、礫の入り具合で分層した。	情報なし										
捨7(ハ)	振替97層	セ79	VL-36	礫の多い層。当初捨7と大きくとらえたが、礫の入り具合で分層した。	情報なし										
捨8	振替12層	-	VM-37	礫の少ない層。トレンチ2・3でつけた層名。											●
捨8(明褐色)	振替12層	セ79	VM-37	礫の少ない層。当初明褐色層と同一と考えたが、層が連続しないので、区分した。	情報なし										
捨9	振替96層	セ79	VM-37	礫の多い層。トレンチ2・3でつけた層名。				●	●		●		●	△	●
捨10	振替103層以下	-	VM～O-37・38	礫を含む層。トレンチ2・3でつけた層名。トレンチ調査時には、最下層と認識して調査した。現場層位10層のうち、VL以北のもの、およびVKラインの10層のうち「捨10」と記載されているもの。		●		●	●	●	●	●	●	●	●
捨10(チ)	振替104層	セ79	VL-36	セク9で捨10から分層。		●		●		●	●				
捨10(リ)	振替110層	セ79	VM-37	礫の多い層。セク9で捨10から分層。		●									
捨10黄褐(ホ)	振替103層	セ79	VL-36	礫の多い層。セク9で捨10から分層。		●									
捨10下	振替126層	セ712	VL-37	セクション9の捨10(リ)層に対応か。	情報なし										
捨A	振替14層	セ717	VL・M-39	表土直下の層。		●		●	●		●	●	●	●	●
捨A上	振替11層	セ723	VL-39	セクションで捨A層を分層。礫の少ない層。											●
捨A下	振替15層	セ723	VL-39	セクションで捨A層を分層。	情報なし										
捨A上・捨B	振替11層	セ712・24	VL-37・38	表土直下、礫の少ない層。	情報なし										
捨A下・捨B	振替15層	セ712	VL-38	-										△	△
捨B	振替11・15・18層	-	VL-37・38	表土直下の層。				●						●	●
捨B・捨8	振替18層	セ712	VL-37	-										●	
捨B・B2	振替セ712の11～25層	グリッドのみ	VL-37・38	セクション12で層名を与える。									●	●	●
捨B2	振替19・20・25層	グリッドのみ	VL-37・38	セクション12で層名を与える。									●	●	●
捨B2	振替20層	セ712	VL-37	炭化物が混入する黒い層。	情報なし										
捨B2・捨9	振替19層	セ712	VL-37	-	情報なし										
捨B3	振替25層	セ724	VK・L-37～39	礫の少ない層。炭化物が混入する層。				●					●	●	●
捨B4	振替60・63・89層	グリッドのみ	VL-37	トレンチ調査で付けた層名。		●		●	●		●	●	△	●	●
捨B4	振替60層	セ712	VL-37	炭化物が混入する黒い層。頭大の礫が多い。	情報なし										
捨B4下	振替89層	-	VL-37・38	捨B4の下層部分。捨B4層より礫が少ない。		●		●	●		●	●			
捨B5	振替34層	-	VL-38	炭化物が混入する黒い層。頭大の礫が多い。				●	●		●	●	●	●	●
捨B6	振替63・89層	-	VL-38	捨B4の下層部分。捨B4層より礫が少ない。		●		●	●	●	●	●	●	△	●
捨B6下	振替89層	セ724	VK・L-37～39	-				●	●	●	●	●	●	△	
捨C	振替68層	セ712	VL-41	表土直下の層。					●		●			●	
捨D	振替25層	セ712・23	VL-38・39	礫の少ない層。炭化物が混入する層。	情報なし										
捨D	振替26層	セ717	VL-38・39	-							●			●	●

表1 現場時の堆積層の名称と特徴(2)

層名	振替層	セクション	主要グリッド	特徴、現場で分層した根拠の特徴など	前期	中期	後期	後7-4	後8	晩1a	晩1b	晩2	晩3	晩4	晩5
捨D	振替27層	セク12・23	VL-38・39	-	情報なし										
捨D	振替25~27層	グリッドのみ	VL-38・39	-											●●
捨D・捨B3・捨B2	振替25層	セク12	VL-38	礫の少ない層。炭化物が混入する層。					●						●●
捨E	振替29層	セク12・23・17	VL-38・39	にぶい黄褐色の層。					●●			●			●●
捨F	振替11層	セク10・12	VL・M-40	表土直下の礫の少ない層。明るい層。					●			●●●●			●●
捨G	振替11層	セク10	VL-40	表土直下の礫の少ない層。					●		●				●●
捨G	振替11・25層	グリッドのみ	VL-40	-					△				●●●●		●●
捨Ga	振替30層	セク10	VL-40	表土直下の礫の少ない層。セク10で捨Gから分層。					●						●●●●
捨Gb	振替65層	セク10	VJ・K-40	礫を含む層。セク10で捨Gから分層。					●			△			●●●●
捨G上	振替11層	セク10	VL-40	表土直下の礫の少ない層。セク10で捨Gから分層。											●●●●
捨G下	振替25層	セク10	VL-40	礫の少ない層。セク10で捨Gから分層。					●						●●
捨H	振替84層	セク12	VL・M-39・40	明褐色層。					●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	△
捨H上	振替63層	セク10・23	VL・M-40	トレンチ調査時は、捨Hで一括、セク10で分層する。					●			●●●●			●●
捨H下	振替83層	セク10・23	VL・M-40	トレンチ調査時は、捨Hで一括、セク10で分層する。					●		●●●●	●●●●			●●
捨I	振替111層	セク12・21	VL-41・42	-	情報なし										
捨I下	振替124層	セク22	VL-40	セクションで捨Iから分層。					●●●●						
捨I下	振替112層	セク21	VL-41・42	セクションで捨Iから分層。					●●●●						
捨J	振替89層	セク10・12	VL・M-40	黒褐色の堆積層、晩期1b期の遺物多く含む。		●		●●●●	●●●●	●●●●	●●●●				
捨Ja	振替89層	グリッドのみ	VL・M-40	捨Jの上層。	情報なし										
捨K	振替34・63層	グリッドのみ	VL-39	-					●			●●●●	●●●●	●●●●	●●
捨K	振替34層	セク23・17	VL-39	炭a層の下の礫層。	情報なし										
捨K	振替63層	セク24	VK・L-37~39	炭a層下で検出した層。捨K下に対応するが、この辺りでは礫が多くなる。捨K下から分層できた可能性がある。	情報なし										
捨K下	振替63層	セク23・17	VL-38・39	捨K層と捨N層の間に礫の少ない明褐色層。					△●		●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	△
捨K下・捨B6・捨B4	振替63層	セク12	VL-37・38	西側に行くにつれ、礫が多くなる。分層できた可能性がある。	情報なし										
捨K・捨B5	振替34層	セク12	VL-38	炭a層の下の礫層。	情報なし										
捨L	振替32~34層	セク10・22	VL・M-40	トレンチ調査時のみ。捨G層下から明るい黄褐色層。		●		●			●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●
捨L上	振替32層	セク10	VL-40	セク10で捨Lから分層。											●
捨L中	振替33層	セク10	VL-40	セク10で捨Lから分層。	情報なし										
捨L下	振替34層	セク10・23	VL-40	セク10で捨Lから分層。										●●	
捨M	振替35・36層	-	VK・L-37~39	表土直下の層。調査時、捨A対応と判断。					●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●
捨M上	振替35層	セク15	VK・L-37~39	セクションで捨Mを分層。											●
捨M下	振替36層	セク15	VK・L-37~39	セクションで捨Mを分層。	情報なし										
捨M/P	振替38・39層	グリッドのみ	VK・L-37~39	-					●			●●●●	●●●●	●●●●	
捨M/P上	振替38層	セク15	VK・L-37~39	捨M層か捨P層か判断がつかなくなったためつけた層名。さらに上下に分層する。											●
捨M/P下	振替39層	セク15	VK・L-37~39	捨M層か捨P層か判断がつかなくなったためつけた層名。さらに上下に分層する。	情報なし										
捨M①	振替35・36層	グリッドのみ	VK・L-37~39	セクションに表れなかった層名。捨Mの下層。	情報なし										
捨M②	振替35・36層	グリッドのみ	VK・L-37~39	セクションに表れなかった層名。捨Mの下層。										●	●
捨M炭	振替35・36層	グリッドのみ	VK・L-37~39	セクションに表れなかった層名。捨Mの下層。											●
捨M黄	振替35・36層	グリッドのみ	VK・L-37~39	セクションに表れなかった層名。捨Mの下層。											●●
捨N	振替89層	セク23・17	VL-39	捨K層下の炭化物混じりの黒い層。					●●●●	●●●●	●●●●	△△			
捨N・捨B6下・捨B4下・捨10	振替89層	セク12	VL-37・38	炭化物を含む黒褐色の層。	情報なし										
捨O	振替129層	セク10・24・17	VM-40	捨N層よりも明るい層である。地山への漸移層。					●●●●					●	
捨P	セク15の43層以下	-	VK・L-37~39	捨M層下の明褐色層。当初捨Pは地山直上層と認識していたが、北側に行くにつれ層が厚くなるので、1~3に区分する。		●			●●●●			●●●●	●●●●	●●●●	●●
捨P1	振替43層の上層	-	VK・L-37~39	セクションで捨Pを分層する。		●			●			●●●●	●●●●	●●●●	●●
捨P2	振替43・44層	グリッドのみ	VK・L-37~39	-		●		●●●●		●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●

表1 現場時の堆積層の名称と特徴(3)

層名	振替層	セクション	主要 グリッド	特徴、現場で分層した根拠の特徴など	前期	中期	後期	後 7- 4	後 8	晩 1a	晩 1b	晩 2	晩 3	晩 4	晩 5
捨P2上	振替43層	セク15	VK・L-37 ~39	捨P2は、P1とP3の間に入る明褐色で、捨Pを3分割にした間層である。セクションで捨2さらに上下に分層する。	情報なし										
捨P2下	振替44層	セク15	VK・L-37 ~39	捨P2は、P1とP3の間に入る明褐色で、捨Pを3分割にした中間の層である。	情報なし										
捨P3	振替57・62・127層	グリッドのみ	VK・L-37 ~39	-	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●
捨P3上	振替57層	セク15	VK・L-37 ~39	セクションで捨P3を分層する。				●				●	●	△	●
捨P3中	振替62層	セク15	VK・L-37 ~39	セクションで捨P3を分層する。	●		●				●	●	●	●	△
捨P3下	振替127層	セク15・ 24	VK・L-37 ~39	セクションで捨P3を分層する。	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●
捨Q	振替129層	セク10・ 12・21・23	VL-40	地山への漸移層。	●		●	●	●	△			●	●	●
捨R	振替28・29・31層 の下	-	VL-40	トレンチ調査。炭d層下の層。暗褐色で礫が多い上層と礫の少ない下層に分かれる。	情報なし										
捨S	振替66層	セク10	VK-40	捨G層の下、暗褐色の礫が多い層。				●	●	●	●	●	●	●	△
捨S1	振替66層	グリッドのみ	VK-40	-	情報なし										
捨S2	振替79層	セク10	VK-40	セク10で捨Sから分層。								●	●		
捨S3	振替81層	セク10	VK-40	セク10で捨Sから分層。				●				●	●		
捨S4	振替80層	セク10	VK-40	セク10で捨Sから分層。にぶい黄褐色の層。				●				△	●	●	
捨S5	振替85層	セク10	VK-40	セク10で捨Sから分層。								●	●	●	
捨T	振替14層の下	-	VK-39	トレンチ調査。捨A層の下の礫の多い黒色の層。	情報なし										
捨U	振替122・125層	グリッドのみ	VK-40	捨S層下の黒褐色層。				●	●	●	●	△	△		●
捨U上	振替122層	セク10	VK-40	トレンチ調査時は、捨Uで一括、セク10で分層する。				●	●			●	●		
捨U下	振替125層	セク10	VK-40	トレンチ調査時は、捨Uで一括、セク10で分層する。炭化物を多く含む層。	●			●	●	●			●		
捨V	振替セク10の80層 以下	グリッドのみ	VL-40	-						△	●	●	●		
捨V	振替83層	セク10・ 22	VL-40	下層の黒褐色層の一部。	情報なし										
捨V上	振替80層	セク10	VL-40	捨Vが分層できそうなので、便宜的に分けた。				●	●	●		●			
捨V下	振替82層	セク10	VL-40	捨Vが分層できそうなので、便宜的に分けた。				●	●	●	●	●	●	△	
捨V黄褐	振替87層	セク10・ 22	VL-40	捨V層の中にある黄褐色の層。								●	●		
捨V炭	振替89・125層	グリッドのみ	VL-40	-				●	●	●	△				
捨V炭上	振替89層	セク10・ 22	VL-40	捨V層の中にある炭化物を多く含む層。捨L下層の下に分厚い炭化物交じりの層を確認し、捨V層の範囲と捉えられたため。				●		●	△	△	●	△	
捨V炭下	振替125層	セク10・ 22	VL-40	捨V層の中にある炭化物を多く含む層。				●	●	●	●	●	●		
捨W	振替128層	セク10	VK-40	捨U層下の少し明るい層。地山への漸移層。	●		●	●	●	●	△	●			
捨X	振替89・120・121層	グリッドのみ	VK-40	-				●	●	●	●	●	●		
捨X	振替120層	セク10	VK-40	捨S層が深くなったので、便宜的につけた層。	●			●				●			
10上層・捨X炭	振替89層	セク10	VK-40	捨X層の中にある炭化物を多く含む層。	情報なし										
捨X下	振替121層	セク10	VK-40	-				●	●			●	●		
捨Y	振替40~42層	-	VK・L-37 ~39	捨P2対応と想定してつけた層名。										●	●
捨Y1	振替40層	セク24	VK・L-37 ~39	セク24で捨Yを3つに分層する。										●	●
捨Y2	振替41層	セク24	VK・L-37 ~39	セク24で捨Yを3つに分層する。										●	△
捨Y3	振替42層	セク24	VK・L-37 ~39	セク24で捨Yを3つに分層する。									●	●	
捨Z	グリッドのみ	-	VK・L-37 ~39	捨P3対応と想定してつけた層名。	情報なし										
捨Z1	振替59層	セク24	VK・L-37 ~39	セク24で捨Zを2つに分層する。									●	●	△
捨Z2	振替58層	セク24	VK・L-37 ~39	セク24で捨Zを2つに分層する。			●						●	●	
炭a	振替31層	セク17・ 23	VL-38-39	北捨場のほぼ中央、広範囲にわたる炭化物層。炭b下層に対応する。									●	●	●
炭b	振替28・29・31層	グリッドのみ	VL・M-40	-										●	●
炭b	振替28層	セク12	VL・M-40	北捨場のほぼ中央、広範囲にわたる炭化物層。	情報なし										
炭b上	振替28層	セク10・ 23	VL・M-40	炭b層はセクション10で分層。									●	●	
炭b中間	振替29層	セク10	VL・M-40	炭b層を分層したにぶい黄褐色の層。									●	●	●
炭b下	振替31層	セク10・ 12	VL・M-40	炭b層はセクション10で分層。										●	●

表1 現場時の堆積層の名称と特徴(4)

層名	振替層	セクション	主要グリッド	特徴、現場で分層した根拠の特徴など	前期	中期	後期	後7-4	後8	晩1a	晩1b	晩2	晩3	晩4	晩5
炭c	振替116~118層	グリッドのみ	VL-40	-					●	●	●		△	●	
炭c	振替116層	セク21	VL-41・42	捨V層相当に対応する。											
炭c	振替118層	セク12	VL-41	-											
炭c焼土	振替117層	セク12	VL-41	炭c層の下で確認。											
炭d	振替28・29・31層	-	VK・L-40	調査中、炭b層とつながるので、炭b層に統一した。											●
炭e	振替37層	セク15	VK・L-37~39	-								●	●	●	●
炭f	振替50層	セク15	VK・L-37~39	-					●			●	●		
炭g	振替34層	セク24	VK・L-37~39	-										△	●
炭h	振替15層	セク24	VK・L-37~39	捨B3直下の炭化物層。										△	△
炭1	振替16層	セク9	VK-36	セク9で層名を与える。平成26年度調査時に「10層」と遺物を取り上げている。										△	●
炭2	振替50層	セク9	VK-36	セク9で層名を与える。								●	●	●	
炭3	振替55層	セク9	VK-36	セク9で層名を与える。					●	●	●	●	●	●	
炭4	振替13層	セク9	VL-36・37	焼土層の上に広がる炭化物の層。										△	●
炭5	振替51層	セク9	VL-36・37	セク9で層名を与える。					●					●	●
炭6	振替102層	セク9	VL-36・37	セク9で層名を与える。		●	●							△	△
明褐色	振替76層	セク9・11	グリッド Nライン以北	黒色層(振替8層)下の明るい層。トレンチ調査時の層名。グリッド Nライン以北は、ベルトを除きこの層で遺物を取り上げている。		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
黒褐色	振替95層	セク9・11	グリッド Nライン以北	地山上の黒色の層。トレンチ調査時の層名。グリッド Nライン以北は、ベルトを除きこの層で遺物を取り上げている。		●	●	●	●	●	●	●	●	●	△
黒褐色(レキ層)	振替110層	セク9・11	VM-38	最下層の礫を多く含む層。セクション9の捨10(リ)層に対応か。											
黒色	振替8層	セク9・11	グリッド Nライン以北	表土下の黒色の層。トレンチ調査時の層名。グリッド Nライン以北は、ベルトを除きこの層で遺物を取り上げている。										△	●
ブロック13	振替93層	セク11	VN-39・40	遺物の集中範囲。		●									
ベルト2	振替10層	セク10	VO-40	セクションでつけた層名。礫が多い。					●						
ベルト3	振替63層	セク10	VO-40	セクションでつけた層名。					●	●		●	●	△	●
ベルト4	振替78層	セク10	VO-40	セクションでつけた層名。											
ベルト5	振替90層	セク10	VO-40	セクションでつけた層名。											
ベルト6	振替91層	セク10	VO-40	セクションでつけた層名。											
ベルト7	振替92層	セク10	VP-40	セクションでつけた層名。					●		●	●	●		●
ベルト8	振替109層	セク10	VP-40	セクションでつけた層名。		●		●			●	●	●		
ベルト9	振替129層	セク10	VP-40	セクションでつけた層名。		●					●	●	●		
ベルト4	振替93層	グリッドのみ	VN-39・40	ブロック13と併記。											
1	振替1層	セク14・10	VR-40~43	表土。セクションでつけた層名。											
2	振替2層	セク13・14	VR-40~43	セクションでつけた層名。											
3	振替3層	セク13・14	VR-40~43	セクションでつけた層名。											
3	振替113層	セク21	VL-41・42	セクションでつけた層名。											
3	振替129層	セク16	VM・N-43	セクションでつけた層名。											
4	振替4層	セク13・14	VR-40~43	セクションでつけた層名。											
4	振替107層	セク16	VM・N-43	セクションでつけた層名。											
4	振替114層	セク21	VL-41・42	セクションでつけた層名。											
5	振替115層	セク21	VL-41・42	セクションでつけた層名。											
5	振替129層	セク16	VM・N-43	セクションでつけた層名。											
5a	振替129層	セク13・14	VR-40~42	セクションでつけた層名。											
5b	振替129層	セク13・14	VR-40~42	セクションでつけた層名。											
5c	振替129層	セク13・14	VR-40~42	セクションでつけた層名。											
5d	振替129層	セク13・14	VR-40~42	セクションでつけた層名。											
6	振替129層	セク16	VM・N-44	セクションでつけた層名。											
6	振替130層	セク21	VL-41・42	セクションでつけた層名。											
7	振替116層	セク21	VL-41・42	セクションでつけた層名。											
8	振替129層	セク12・21	VL-41・42	セクションでつけた層名。											
9	振替129層	セク12・21	VP-40	セクションでつけた層名。									●		
10	振替24層	セク9	VJ-35・36	第1号盛土遺構の層名。現場層位10層のうち、VJ以南のもの、およびVKラインのうち、「捨」が見つからない10層。					●	●	●	●	●	●	●
10	振替89層以下	グリッドのみ	VJ-40	トレンチ調査のみ。当初、セクション9にある10層に対応すると考えていた。結果的に同一かは不明。現場層位10層のうち、39・40ライン付近のもの。											

表1 現場時の堆積層の名称と特徴(5)

層名	振替層	セクション	主要 グリッド	特徴、現場で分層した根拠の特徴など	前 期	中 期	後 期	後 7- 4	後 8	晩 1a	晩 1b	晩 2	晩 3	晩 4	晩 5
10-2	振替9層	セク9	VJ・K-35・36	第1号盛土遺構の層名。											△ ●
10上	振替89層	セク10	VJ-40	当初、セクション9にある、10層に対応すると考えていたので、10層とした。結果的に同一かは不明。				●	●			●	△		
10中	振替119層	セク10	VJ-40	当初、セクション9にある、10層に対応すると考えていたので、10層とした。結果的に同一かは不明。				●			●				
10下層	振替128層	セク10	VJ-40	当初、セクション9にある、10層に対応すると考えていたので、10層とした。結果的に同一かは不明。	●			●	●	●	△				●
10・地山	振替134層	セク12・21	VL-41・42	地山層。	情報なし										
11	セク9 M1の23層	セク9	VJ・K-35・36	第1号盛土遺構の層名。晩期前半の生活面。	●			●	●	●	●	●	●	●	●
11-2	セク9 M1の23層	セク9	VJ・K-35・36	第1号盛土遺構の層名。晩期前半の生活面。	情報なし										
11	振替131層	セク21	VL-41・42	セクションでつけた層名。	情報なし										
12	振替132層	セク21	VL-41・42	セクションでつけた層名。	情報なし										
13	振替133層	セク21	VL-41・42	セクションでつけた層名。	情報なし										
SN-a	振替6層	セク11	VM-38・39	セクションでつけた層名。								●	●		●
SN-b	振替7層	セク11	VM-38・39	セクションでつけた層名。								●	●		●
SN-c	振替10層	セク11	VM-38・39	セクションでつけた層名。礫が多い。				●	△			●	●	●	●
SN-d	振替77層	セク11	VM-38・39	セクションでつけた層名。				●		●	●	●			●
SN-e	振替63層	セク11	VM-38・39	セクションでつけた層名。						●	●	●	△		
SN-f	振替5層	セク11	VM-38・39	セクションでつけた層名。	情報なし										
SN-g	振替94層	セク11	VM-38・39	セクションでつけた層名。					●	●		●			
SN-h	振替109層	セク11	VM-38・39	セクションでつけた層名。				●		●	●	●			
※	振替86層	セク10	VK-40	捨Sと捨Xを分けるレンズ状の堆積層。	情報なし										
4(東Ⅲ-1最下部)	振替105層	セク16	42列以東	北東捨場との境界付近でつけた層名。基本土層第Ⅲ層に応じた名称。	情報なし										
7(東Ⅲ-1最上部)	振替69層	セク16・18	42列以東	北東捨場との境界付近でつけた層名。基本土層第Ⅲ層に応じた名称。	情報なし										
I	振替1層	セク10・24・15・12・11・9・16	調査区全体	表土。	●			●	●	●	●	●	●	●	●
I a	振替67層	セク11・12	VL-41	セクションでつけた層名。	情報なし										
a(I)	振替1層	セク11	VN-37	-											
a	振替1層	セク10	VN-40	表土。セクションでつけた層名。							●				
a	振替110層	セク9	VN~VP-37・38	捨10(リ)と同一。最下層の礫が多い層。セク9で暗褐色層から分層する。	情報なし										
b	振替10層	セク11・16	VM・N-40	セクションでつけた層名。礫が多い。										△	△
b	振替96層	セク9	VN-37	セクション9を分層する際につけた小さな単位の層。礫が多い。	情報なし										
b	振替106層	セク18	VN・O-43・44	セクションでつけた層名。	情報なし										
c	振替61層	セク10・11	VM・N-40	セクションでつけた層名。	情報なし										
c	振替62層	セク9	VK-36	セクション9を分層する際につけた小さな単位の層。	情報なし										
c	振替63層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。	情報なし										
c	振替107層	セク18	VN・O-43・44	セクションでつけた層名。	情報なし										
c	振替129層	セク9	VN-37	セクション9を分層する際につけた小さな単位の層。	情報なし										
d	振替63層	セク10・11	VM・N-40	セクションでつけた層名。				△			●	●	●		
d	振替70層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。	情報なし										
d	振替129層	セク18	VN・O-43・44	セクションでつけた層名。	情報なし										
e	振替78層	セク10・11	VM・N-40	セクションでつけた層名。礫が多い。						△	●	●			
e	振替69層	セク16・18	VM・N-42	セクションでつけた層名。	情報なし										
f	振替71層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。	情報なし										
f	振替109層	セク10・11	VM・N-40	セクションでつけた層名。				●		●	●				
g	振替73層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。	情報なし										
g	振替129層	セク11	VM-40	セクションでつけた層名。	情報なし										
h	振替64層	セク10	VN-40	セクションでつけた層名。	情報なし										

表1 現場時の堆積層の名称と特徴(6)

層名	振替層	セクション	主要 グリッド	特徴、現場で分層した根拠の特徴など	前 期	中 期	後 期	後 7- 4	後 8	晩 1a	晩 1b	晩 2	晩 3	晩 4	晩 5
h	振替72層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。											
i	振替74層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。											
j	振替75層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。											
k	振替109層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。											
l	振替108層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。											
m	振替129層	セク16	VM・N-41	セクションでつけた層名。											
n	振替129層	セク16	VM・N-42	セクションでつけた層名。											
a	振替21層	セク23	VL-39	セクションでつけた層名。											
β	振替22層	セク23	VL-39	セクションでつけた層名。											
イ	振替8層	セク9	VK・L-36	セクション9を分層する際につけた小さな単位の層。								●			●
風倒木	-	セク10	VP-40	セクションでつけた層名。											
仮あ	振替123層	セク22	VL-40	セクションでつけた層名。											
仮い	振替88層	セク22	VL-40	セクションでつけた層名。											
仮う	振替123層	セク22	VL-40	セクションでつけた層名。											
SN-B 22層	M1の22層			平成25年度の第1号盛土遺構調査時の層名。											
SN-B 22-2層	M1の22-2層			平成25年度の第1号盛土遺構調査時の層名。		●			●				●	△	△
23層	M1の23層			平成25年度の第1号盛土遺構調査時の層名。											
地山直上	振替129層	セク10-5	VK-40	地山への漸移層。縄文中期の土器を含む。		●		●	●	●	●	●	●	△	△
漸移層	振替129層	セク12	VL・M-40	セクションでつけた層名。											
ト	振替99層	セク9	VL-36	セクション9を分層する際につけた小さな単位の層。		●			●		●		●		
ニ	振替53層	セク9	VL-36	セクション9を分層する際につけた小さな単位の層。											
東Ⅲ-1	振替69層	セク21・ 16・18	VL-41・42	北東捨場との境界付近でつけた層名。基本土層第Ⅲ層に応じた名称。				●	●	●	●	●	●		
東Ⅲ-2	振替107層	セク16	42列以東	北東捨場との境界付近でつけた層名。基本土層第Ⅲ層に応じた名称。								●			
へ	振替98層	セク9	VL-36	セクション9を分層する際につけた小さな単位の層。											
埋土1	-	セク10	VP-40	セクションでつけた層名。											
埋土2	-	セク10	VP-40	セクションでつけた層名。											



表2 層対応一覧・出土土器様相(1)

振替層名	現場層名	セクション	出土土器重量(g)	土器の様相
振替1層	1	セク13・14・10	156.1	各時期の土器が出土しているが、完形となる遺物は出土しておらず、いずれの土器も破片である。写69-4・9などが最も新しい晩期5期の土器である。
	I	セク10・24・15・12・11・9・16		
	a	セク10		
	a(I)	セク11		
振替2層	2	セク13・14	-	本層に伴う土器は抽出できない。振替76層(明褐色)もしくは振替96層(黒褐色)として取り上げた。
振替3層	3	セク13・14	-	
振替4層	4	セク13・14	-	
振替5層	SN-f	セク11	1.2	本層に伴う土器は抽出できない。振替109層(現場層位f層)と混同か。
振替6層	SN-a	セク11	-	出土土器は非常に少ない。振替6・7層を合わせて取り上げている。晩期4～5期の鉢(写69-10)が最も新しい時期の土器である。
振替7層	SN-b	セク11	-	
振替8層	黒色	セク9・11	26.5	出土土器は少ない。晩期5期の台付鉢の小片(写69-12)のほか、晩期4～5期の粗製鉢(写69-11)などが出土している。
	イ	セク9	0.9	
振替9層	10-2	セク9 第1号盛土遺構	6.2	晩期4～5期がまとまって出土している。
振替10層	ベルト2	セク10	-	各時期の土器が出土しているが、完形となる遺物は出土しておらず、いずれの土器も破片である。写69-21や写69-20などが最も新しい土器で晩期4～5期に比定される。
	SN-c	セク11	35.3	
	b	セク10・11・16	36.0	
振替11層	捨A上	セク23	0.7	晩期5期の遺物がまとまって出土している。写69-29は晩期5期の台付鉢で、略完形である。その他の土器はいずれも小片である。
	捨A上・捨B	セク12・24	-	
	捨F	セク10・12	27.4	
	捨G	セク10	-	
	捨G上	セク10	8.9	
振替11・15・18層	捨B	グリッド	13.3	いずれも破片資料ではあるが、晩期4・5期の土器がまとまって出土した(写70-15など)。
振替セク12の11～25層	捨B・B2	グリッド	6.1	晩期3～5期の遺物が出土している。
振替11・25層	捨G	グリッド	53.9	時期は様々であるが、比較的復元率の高い土器が多く出土した。晩期4期もしくは4～5期に比定される鉢(写70-5・6)のほか、晩期後半(写70-11)や前期前葉～中葉に比定される壺(写70-12)などがある。
振替12層	捨8	グリッド	6.5	破片資料であるが、晩期5期の土器のみが出土している(写70-18など)。
	捨8(明褐色)	セク9	-	
振替13層	炭4	セク9	5.0	破片資料であるが、晩期4・5期の土器のみが出土している(写70-20など)。写70-21は25～27層で同一個体が出土している(写72-13)。
振替14層	捨A	セク17	93.7	各時期の土器が出土しているが、特に晩期5期の土器がまとまって出土した。写71-3は晩期5期の台付鉢で、比較的遺存状態が良い。写71-10は口縁部のみが欠損している粗製壺である。体部上半が張る器形であることから、晩期4～5期に帰属すると推定される。写71-11は35・36層で同一個体が出土している(写75-20)。
振替14層の下	捨T	グリッド	-	捨S層に対応するため、遺物は基本的に捨S層として取り上げている。
振替15層	捨A下	セク23	-	晩期4～5期と推定される体部上半が張る器形の壺が2点出土している(写71-13・14)。いずれも略完形の粗製土器である。
	捨A下・捨B	セク12	3.2	
	炭h	セク24	-	
振替16層	炭1	セク9	3.4	土器は非常に少なく、晩期4・5期の土器片のみが出土している。写71-15は晩期4～5期の壺の口縁部片である。
振替17層	捨6	セク9	8.8	後期の破片資料も出土したが、晩期では5期もしくは4～5期のみが出土している(写71-16・17)。口径が30cmを超える大形の粗製深鉢の口縁部も出土している(写71-18)。
振替18層	捨B・捨8	セク12	3.5	土器は非常に少ない。晩期5期の壺の小片(写71-19)が出土している。
振替19・20・25層	捨B2	グリッド	28.3	土器は非常に少ない。晩期5期の台付鉢の破片(写71-20)や、晩期4期の浅鉢の小片(写71-21)が出土している。
振替19層	捨B2・捨9	セク12	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替20層	捨B2	セク12	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替21層	a	セク23	-	土器は出土していない。
振替22層	β	セク23	-	土器は出土していない。
振替23層	捨1	セク9	25.9	各時期の土器が出土したが、いずれも小片である。最も新しい時期である晩期5期の遺物のみを掲載した(写71-23など)。96層(現場層位捨1.9相当)とあわせて取り上げられた層では、遺存状態のよい晩期5期の台付浅鉢(写71-24)が出土している。
振替24層	10	セク9 第1号盛土遺構	71.4	各時期の土器が出土しているが、いずれも小片である。最も新しい時期は晩期5期である(写71-29など)。
振替25層	捨D	セク23	-	晩期4・5期の土器がまとまって出土した。いずれも破片資料である。
	捨B3	セク24	20.2	
	捨D・捨B3・捨B2	セク12	-	
	捨D下	セク10	27.7	
振替26層	捨D	セク17	-	振替25～27層で遺物を取り上げているため、本層に伴う土器は抽出できない。
振替27層	捨D	セク23	-	振替25～27層で遺物を取り上げているため、本層に伴う土器は抽出できない。
振替25～27層	捨D	グリッド	52.1	晩期4・5期の土器がまとまって出土した。略完形の晩期4期の鉢が出土している(写72-14)。写72-13は振替13層で同一個体が出土している(写70-21)。
振替28層	炭b	セク12	-	晩期3・4期の土器が出土している(写72-19など)。いずれも小片である。
	炭b上	セク10・23	5.8	
振替29層	捨E	セク12・23・17	17.3	各時期の土器が出土した。特に晩期4・5期の土器がまとまっているものの、いずれも遺存状態は良くない。写73-5は晩期4～5期に比定される鉢である。振替34・63層で同一個体が出土している(写74-5)。
	炭b中間	セク10	8.1	
振替30層	捨Ga	セク10	5.7	晩期後半期の土器と後期7・4期の土器が出土しているが、いずれも小片である。写73-15は晩期4～5期の鉢と推定される小片である。
振替31層	炭a	セク12・17・23	18.6	晩期後半期の遺物がまとまって出土している。写72-22は完形の粗製壺である。晩期中葉～後葉に比定される。
	炭b下	セク10・12	14.4	
振替28・29・31層	炭b	グリッド	25.7	晩期4・5期が出土している。略完形の後期後葉の台付浅鉢(写72-16)が出土している。本層で採取した炭化物の放射性炭素年代は2,750±20yrBP(KAWA(1)-65、66)、2,720±20yrBP(KAWA(1)-67)、2,710±20yrBP(KAWA(1)-68)である。
	炭d	グリッド	0.4	

表2 層対応一覧・出土土器様相(2)

振替層名	現場層名	セクション	出土土器重量(g)	土器の様相
振替28・29・31層の下	捨R	グリッド	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替32～34層	捨L	セク10・22	61.8	各時期が出土しているが、最も新しい土器は晩期5期である(写73-21など)。
振替32層	捨L上	セク10	5.5	晩期4期の土器が出土している(写73-16など)。いずれも小片である。
振替33層	捨L中	セク10	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替34層	捨B5	グリッド	13.3	各時期の土器が出土しているが、いずれも小片である。最も新しい時期は晩期5期であるが、小片のため未掲載である。写73-32は晩期4期の皿もしくは浅鉢である。略完形である。写73-31は晩期4期の浅鉢である。
	捨K	セク23・17	-	
	捨K・捨B5	セク12	-	
	捨L下	セク10・23	9.5	
	炭g	セク24	7.5	
振替34・63層	捨K	グリッド	45.2	各時期の土器が出土している。略完形の晩期2期の台付鉢が出土している(写74-8)。写74-5は29層(写73-5)で、写73-5は34層(非掲載)で同一個体が出土した。
振替35・36層	捨M	グリッド	224.4	各時期の土器が出土しているが、特に晩期4・5期の土器がまとまって出土している。晩期5期では、略完形の台付鉢や台付浅鉢が4点出土した(写75-10～12・14)。写75-20は14層で同一個体が出土している(写71-11)。
	捨M①	グリッド	5.5	
	捨M②	グリッド	6.1	
	捨M炭	グリッド	-	
	捨M黄	グリッド	-	
振替35層	捨M上	セク15	2.1	晩期5期の土器が出土しているが、小片のため掲載していない。
振替36層	捨M下	セク15	-	振替35層と合わせて取り上げているため、本層に伴う土器は抽出できない。
振替37層	炭e	セク15	6.9	晩期2～5期の土器が出土している。
振替38・39層	捨M/P	グリッド	7.2	最も新しい時期の土器は晩期4期である。写74-30は略完形の晩期4期の台付鉢である。立ち上がる大突起を伴い、各部には透かし孔が施される。
振替38層	捨M/P上	セク15	-	39層と合わせて取り上げているため、本層に伴う土器は抽出できない。
振替39層	捨M/P下	セク15	-	39層と合わせて取り上げているため、本層に伴う土器は抽出できない。
振替40・42層	捨Y	グリッド	0.9	出土土器は少なく、晩期4・5期の土器が出土した。小片のため掲載していない。
振替40層	捨Y1	セク24	1.9	出土土器は少なく、晩期4・5期の土器が出土した(写74-32など)。いずれも小片である。
振替41層	捨Y2	セク24	2.7	出土土器は少なく、晩期4・5期の土器が出土した(写74-34など)。いずれも小片である。
振替42層	捨Y3	セク24	4.9	出土土器は少なく、晩期3・4期の土器が出土した(写75-26など)。いずれも小片である。
セク15の43層以下	捨P	グリッド	42.5	各時期出土している。最も新しい時期は晩期5期である。
振替43層の上層	捨P1	グリッド	43.3	各時期出土しているが、晩期4・5期が比較的まとまっている。最も新しい土器は晩期4～5期である(写76-5など)。
振替43～44層	捨P2	グリッド	48.4	各時期出土している。最も新しい遺物は晩期4期の皿(写76-15)や晩期3期の浅鉢(写76-14)、晩期2期と推定される壺(写76-16)などが略完形の状態で出土している。
振替43層	捨P2上	セク15	0.5	44層と合わせて取り上げられており、本層に帰属する土器は抽出できない。
振替44層	捨P2下	セク15	-	43層と合わせて取り上げられており、本層に帰属する土器は抽出できない。
振替45層	捨1a	セク9	3.1	後期8期～晩期1b期の土器が出土した。いずれも小片である(写76-18など)。
振替46層	捨2	セク9	10.6	各時期の土器が出土しているが、いずれも小片である。最も新しい土器は晩期5期であるが、小片のため掲載していない。
振替47層	捨3	セク9	4.3	晩期4期の遺物がまとまって出土した。写76-25は完形の壺である。
振替48層	捨3b	セク9	-	土器は出土していない。
振替49層	捨3a	セク9	-	土器は出土していない。
振替50層	炭f	セク15	5.3	晩期2～4期の土器が主に出土している。また、未掲載だが中期の土器も出土した。写77-16は晩期4期の皿である。比較的遺存状態が良好である。
	炭2	セク9	4.1	
振替51層	炭5	セク9	9.3	晩期3～5期の土器が主に出土している。
振替52層	捨7(口)	セク9	-	振替97層と合わせて取り上げられており、本層に伴う土器は抽出できない。
振替52・97層	捨7	グリッド	10.2	主に晩期3～5期が出土している。
振替53層	ニ	セク9	-	土器は出土していない。
振替54層	捨4	セク9	168.2	比較的多くの土器が出土しており、晩期3・4期の浅鉢や皿などで、比較的状態のよいものも見受けられる(写78-17～20など)。なお、本層中の炭化物層から採取した試料の放射性炭素年代は $2920 \pm 20$ yrBPである(KAWA(1)-64)。
	捨4Ca	グリッド	-	
振替55層	炭3	セク9	14.7	晩期3期以前の土器が出土している。特に晩期3期の浅鉢や皿が比較的良好的な状態で3点出土した(写79-1～3)。また、後期8期の略完形の注口も出土している。
振替56層	捨5	セク9	67.1	各時期が出土しているが、いずれも小片である。最も新しい土器は晩期5期である(写79-5)。
振替57・62・127層	捨P3	グリッド	171.9	各時期が出土しており、最も新しい時期は晩期5期であるが、晩期4・5期は小片のため掲載していない。晩期3期では浅鉢(写81-2)や壺(写81-12)など、略完形の土器が見受けられる。粗製深鉢でも良好な状態の資料が多い(写79-9～13)。中期の小片(写81-16)も出土している。
振替57層	捨P3上	セク15	29.2	最も新しい土器は晩期5期であるが、小片のため掲載していない。残存状況の良好な資料が多く、晩期3期の台付鉢(写80-4)や台付浅鉢(写80-8)、壺(写80-10・11)、晩期2期の浅鉢(写80-6)などが完形もしくは略完形の状態で出土している。
振替58層	捨Z2	セク24	6.9	主に晩期3・4期の土器が出土している。写80-15は略完形の晩期4期の皿である。
振替59層	捨Z1	セク24	5.1	主に晩期3・4期が出土している。いずれも半精製土器である(写80-17～19)。
振替60層	捨B4	セク12	-	63・89層と合わせて取り上げられており、本層に属する遺物の抽出は困難である。
振替60・63・89層	捨B4	グリッド	71.2	各時期の土器が出土している。晩期5期の鉢(写82-1)や、晩期4～5期の壺(写82-3)などがあり、どちらも略完形である。
振替61層	c	セク10・11	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替62層	捨P3中	セク15	33.4	出土している土器のうち、新しいものは晩期4・5期であるが、小片のため掲載していない。写82-7は振替57層で同一個体が出土している(非掲載)。
	c	セク9	-	
振替63層	捨H上	セク10・23	13.2	各時期が出土しており、最も新しい遺物は晩期5期である。晩期5期の土器(写83-21など)は少量であり、平場に近い現場層位ベルト3層で出土していることから、上位層の遺物が混入した可能性が考えられる。一方、斜面の下位に位置する現場層位SN-e層では、晩期1a～2期の時期がまとまっている。中位層(現場層位捨K・捨H上層など)では晩期1b～3期が多い。残存状況のよい土器も多く、晩期3期の浅鉢(写83-22)や、晩期1b期の台付浅鉢(写83-27、28)は略完形である。写84-8は89層で(写96-3)、写83-24は10層で(非掲載)同一個体が出土している。
	捨K	セク24	36.0	
	捨K下	セク23・17	37.5	
	捨K下・捨B6・捨B4	セク12	0.3	
	ベルト3	セク10	30.4	
	SN-e	セク11	3.0	
	c	セク16	-	
	d	セク10・11	22.4	

表2 層対応一覧・出土土器様相(3)

振替層名	現場層名	セクション	出土土器重量(g)	土器の様相
振替63・89層	捨B6	グリッド	77.5	各時期が出土しており、最も新しい遺物は晩期5期である。写82-16は83層で同一個体が出土している(写88-19)。
振替64層	h	セク10	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替65層	捨Gb	セク10	7.9	主に晩期3～5期の土器が出土している。いずれも小片である。写82-18は晩期2期と推定される鉢である。76層で同一個体が出土している(写86-14)。
振替66層	捨S 捨S1	セク10 グリッド	45.7 -	晩期中葉以前の土器が出土している。掲載した4点はいずれも残存状況が良好であり、そのうち晩期3期の壺(写82-21)は完形である。
振替67層	I a	セク11・12	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替68層	捨C	セク12	1.1	土器の出土量は極めて少ない。晩期4期などの土器が出土しているが、小片のため掲載していない。写84-8は89層で同一個体が出土している(写96-3)。
振替69層	7(東Ⅲ-1最上部)	セク16・18	-	後期7-4期～晩期3期の土器が出土した。遺物の出土量が多く、晩期3期の浅鉢(写85-1)や、晩期2期の皿(写85-7)、晩期1b～2期の壺(写85-15)、晩期1a期の注口(写86-3)、晩期前葉の壺(写85-17)が完形で出土している。ほかにも晩期3期の台付鉢(写84-11)や浅鉢(写85-2～4)、晩期2期の鉢(写84-12)や浅鉢(写85-8)や壺(写85-14)、晩期1a～1b期の壺(写85-16)、晩期1a期の鉢(写84-22)や注口(写86-4)、などが略完形で出土している。
	e	セク16・18	-	
	東Ⅲ-1	セク21・16・18	-	
振替70層	d	セク16	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替71層	f	セク16	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替72層	h	セク16	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替73層	g	セク16	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替74層	i	セク16	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替75層	j	セク16	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替76層	明褐	セク9・11	374.5	各時期の土器がそれぞれ多量に出土しており、残存状態の良い土器も多い。晩期2期の壺(写87-12)が完形で出土したほか、晩期3期の浅鉢(写87-1)、晩期2期の鉢(写86-7)や晩期2～3期の注口(写87-16)が略完形で出土している。写86-14は振替65層で同一個体が出土している(写82-18)。
振替77層	SN-d	セク11	13.5	最も新しい時期は晩期5期である(写88-1)が、小片であり、晩期3・4期は出土していないことから、主体は晩期2期以前の可能性がある。
振替78層	ベルト4	セク10	-	晩期1b期と晩期2期が出土している。写88-7は晩期1bの注口である。口頸部と体部は接合しないが、残存状況は良好である。
	e	セク10・11	27.2	
振替79層	捨S2	セク10	2.5	土器は少量出土したのみである。晩期3期の鉢を掲載した(写88-13)。
振替80層	捨S4	セク10	13.8	晩期3期の土器が最も新しい時期である(写89-4など)。
	捨V上	セク10	3.7	
振替セク10の80層以下	捨V	グリッド	19.3	概ね晩期1b～3期の土器が出土した。
振替81層	捨S3	セク10	6.7	晩期3期の土器が最も新しい時期である(写89-7など)。
振替82層	捨V下	セク10	24.0	晩期1a～4期の土器が出土した。写89-18は肩部に突起が付く鉢である。突起が小さく立ち上がることから晩期3～4期に比定される。晩期1a期の鉢(写89-19)や後期8期の台付鉢(写89-20)などが略完形で出土した。
振替83層	捨H下	セク10・23	32.7	晩期3期以前の土器が出土している。晩期3期の無文の浅鉢(写88-17)のほか、晩期1b期の浅鉢(写88-20)が略完形で出土している。写88-19は振替63・89層で同一個体が出土している(写82-16)。
	捨V	セク10・22	-	
振替84層	捨H	セク12	58.4	最も新しい時期は晩期4～5期であるが、小片である(写90-6)。一方で、晩期2期では台付鉢(写90-8)が完形で出土しており、晩期1b期では鉢(写90-11、14)、台付皿(写90-18)、注口(写90-20)、晩期1a～1b期の(写90-9)鉢が略完形で出土している。また、晩期1a期の注口(写90-21)も注口部が欠損しているのみで、遺存状況が良好である。
振替85層	捨S5	セク10	20.8	晩期1b～3期の土器が出土した。精製土器はいずれも小片であるが、粗製の深鉢では全体が復元できたもの(写91-1)がある。
振替86層	※	セク10	-	土器は出土していない。
振替87層	捨V黄褐	セク10・22	10.7	晩期2・3期の土器が少量出土した(写91-4～5)。
振替88層	仮い	セク22	-	土器は出土していない。
振替89層	捨B4下	グリッド	16.3	大量の土器が出土した。最も新しい時期は概ね晩期3期である。晩期3期の浅鉢(写95-20)、晩期2期の浅鉢(写95-26)や壺(写96-13)、晩期1b期の鉢(写93-8など)や台付鉢(写94-9～11)や浅鉢(写96-5、6)や台付浅鉢(写96-2)や台付皿(写96-7)や壺(写96-11、12)や注口(写96-20、写97-14)、晩期1a期の鉢(写95-1など)、粗製鉢(写92-15など)など、多くの遺物が略完形で出土している。また、小片であるが後期7-3期の土器片(写95-21、23)や中期の土器片(写97-9)も出土している。写96-3は63層(写84-8)で、写96-21は125層(写108-4)で、写97-9は127層(写109-17)で、写97-10は89・120・121層(写91-13)で、それぞれ同一個体が出土している。
	捨B6下	セク24	47.0	
	捨J	セク10・12	336.0	
	捨Ja	グリッド	-	
	捨N	セク23・17	60.1	
	捨N・捨B6下・捨B4下・捨10	セク12	8.6	
	捨V炭上	セク10・22	16.0	
	捨X炭	セク10	17.0	
10上	セク10	5.4		
振替89層以下	10	グリッド	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替89・125層	捨V炭	グリッド	12.4	概ね晩期1b期を下限とする。写91-9は122・125層で、写92-5は89層と69層でそれぞれ同一個体が出土した(非掲載)。
振替89・120・121層	捨X	グリッド	16.0	晩期3期を下限とする。写91-13は89層で同一個体が出土している(写97-10)。
振替90層	ベルト5	セク10	-	晩期1b～2期の遺物が出土しているが、小片のため掲載していない。
振替91層	ベルト6	セク10	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替92層	ベルト7	セク10	13.2	各時期が出土している。いずれも小破片である。最も新しい遺物は晩期5期(写98-1)である。
振替93層	ブロック13	セク11	171.0	晩期3期以前の土器が出土した。出土量が多く、晩期3期の壺(写98-25)や、晩期1b期の台付皿(写98-24)、晩期1a期の壺(写99-4)などが略完形で出土している。また、中期の壺の小片(写99-5)も出土した。
	ベルト4	グリッド	-	
振替94層	SN-g	セク11	25.7	晩期2期以前の土器が出土した。晩期1b期の浅鉢(写99-11)や、晩期の粗製鉢(写99-9)が略完形で出土した。

表2 層対応一覧・出土土器様相(4)

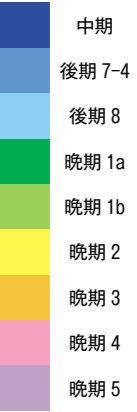
振替層名	現場層名	セクション	出土土器重量(g)	土器の様相
振替95層	黒褐	セク9・11	542.2	各時期の遺物が出土した。最も新しい土器は晩期4～5期である(写100-2)。出土量は非常に多く、晩期3期の浅鉢(写100-21)、晩期2～3期の台付鉢(写100-8)、晩期2期の深鉢(写99-14)や台付皿(写101-4)や皿(写101-5)や注口(写102-4)、晩期1b期の台付鉢(写100-10)、晩期の壺(写101-13～15)などが略完形で出土している。
振替96層	捨9 b	セク9 セク9	38.4 -	晩期5期の遺物が最も新しく、比較的まとまって出土している(写102-7,10～13)。
振替97層	捨7(ハ)	セク9	-	振替52層とあわせて取り上げているため、本層に伴う遺物は抽出できない。
振替98層	へ	セク9	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替99層	ト	セク9	2.2	出土土器は少量で、晩期3期以前の土器が出土しているが、いずれも小片のため掲載していない。
振替100層	捨5a	セク9	2.8	出土土器は少量で、晩期1a期の土器が出土しているが、小片のため掲載していない。
振替101層	捨5b	セク9	1.4	出土土器は少量で、晩期2期の土器が出土しているが、小片のため掲載していない。
振替102層	炭6	セク9	0.2	出土土器は少量で、後期7-4期のほか、晩期4-5期と思われる土器が出土しているが、実態は不明である。
振替103層	捨10黄褐(ホ)	セク9	0.4	出土土器は少量である。中期の土器が出土している。
振替103層以下	捨10	グリッド	97.1	出土量が大きく、各時期の遺物が出土しているが、いずれも破片資料である。晩期5期が一定数出土しているが、セクション出土資料では晩期3期を下限とすることから、ベルトでない箇所の遺物取り上げの際に、上位層である96層の遺物が混入した可能性が考えられる。
振替104層	捨10(チ)	セク9	2.9	晩期1b期以前が出土している(写102-22,23)。いずれも破片資料である。
振替105層	4(東Ⅲ-1最下部)	セク16	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替106層	b	セク18	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替107層	4 c 東Ⅲ-2	セク16 セク18 セク16	- - -	晩期2期の略完形の浅鉢が出土している(写102-24)。
振替108層	l	セク16	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替109層	ベルト8 SN-h f k	セク10 セク11 セク10・11 セク16	- 10.8 29.6 -	現場層位ベルト8層からは晩期3期以前、現場層位SN-hからは晩期2期以前、現場層位fからは晩期1b期以前の土器が出土している。写103-4は振替76層に同一個体が出土している(写87-5)。
振替110層	捨10(リ) 黒褐(レキ層) a	セク9 セク9・11 セク9	0.6 - -	現場層位捨10(リ)から中期の土器が出土している。
振替111層	捨I	セク12・21	8.1	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替112層	捨I下	セク21	15.5	晩期1b期以前の土器が出土している。出土量は多くはないものの、比較的状態のよい遺物が多い。後期後葉～晩期1b期の注口(写103-10～13)が略完形で出土している。
振替113層	3	セク21	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替114層	4	セク21	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替115層	5	セク21	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替116～118層	炭c	グリッド	11.4	最も新しい遺物は晩期4期の鉢の破片(写103-15)であるが、晩期中葉の土器は極めて少量であることから、上位の層の遺物が混入した可能性も考えられる。
振替116層	炭c 7	セク21 セク21	- -	振替116～118層をまとめて取り上げており、本層に伴う土器は抽出できない。
振替117層	炭c焼土	セク12	-	振替116～118層をまとめて取り上げており、本層に伴う土器は抽出できない。
振替118層	炭c	セク12	-	振替116～118層をまとめて取り上げており、本層に伴う土器は抽出できない。
振替119層	10中	セク10	2.3	後期7-4期と晩期1b期の土器が僅かに出土しているのみであり、小片のため掲載はしていない。振替89層以下としてまとめて取り上げているものもある。
振替120層	捨X	セク10	-	振替89、121層とあわせて取り上げているものが多い。本層単独で取り上げているものでは、後期8期、晩期2期(写103-22)が出土している。
振替121層	捨X下	セク10	7.8	本層単独で取り上げているものでは、晩期3期以前の土器(写103-20など)が出土している。ほかに振替89、120層とあわせて取り上げているものもある。
振替122層	捨U上	セク10	14.1	本層単独で取り上げているものは少なく、振替125層とあわせて取り上げているものが多い。本層単独で取り上げているものでは、晩期3期以前の土器(写103-23など)が出土している。写103-23は晩期3期の浅鉢で、略完形である。
振替122・125層	捨U	グリッド	132.4	晩期1a期の鉢もしくは台付鉢(写104-10～13・15)や注口(写105-14)などの略完形個体が含まれる。また、晩期5期のもの(写104-1など)が含まれるが、122層は斜面肩部付近で地表面から50cm程度の深さに堆積した層であり、5期の遺物は1点のみのため、混入と推定する。写104-4は89・125層で同一個体が出土した(非掲載)。
振替123層	仮あ 仮う	セク22 セク22	- -	土器は出土していない。
振替124層	捨I下	セク22	-	後期8期～晩期1b期の土器が出土している。写105-23は晩期1a期の注口で、完形である。
振替125層	捨U下 捨V炭下	セク10 セク10・22	27.8 121.8	多くの土器が出土しており、最も新しい時期は晩期3期である。遺存状態のよい土器も多く、後期7-4期の深鉢(写106-4)、後期8期の深鉢(写106-2)、晩期1a期の台付鉢(写107-1～3)などが略完形で出土している。写106-21は晩期1a期の鉢である。報告書Ⅱ図12-4と同一個体である。写108-4は振替89層で同一個体が出土している(写96-21)。
振替126層	捨10下	セク12	-	本層に伴う土器は抽出できない。
振替127層	捨P3下	セク15・24	137.8	最も新しい時期は晩期4期であるが、4期の土器は小片のため掲載していない。多くの土器が出土しており、晩期3期以前の土器が主体であることから、4期の土器は混入の可能性が考えられる。晩期1a期の台付鉢(写108-17)や、晩期3期の注口(写109-6)などが略完形で出土している。また、中期の遺物もまとめて出土している(写109-7～18)。なお、振替57・62層とあわせて取り上げているものもある。写109-17は振替89層で同一個体が出土している(写97-9)。写109-3はⅦ写73-22・Ⅶ写105-19と同一個体である。
振替128層	捨W 10下層	セク10 セク10	84.8 8.4	晩期4期以前の遺物が出土しているが、晩期4期(写110-4)土器は小片である。後期8～晩期1a期の鉢(写110-9)や晩期1b期の鉢が略完形で出土している。

表2 層対応一覧・出土土器様相(5)

振替層名	現場層名	セクション	出土土器重量(g)	土器の様相
振替129層	捨O	セク10・24・17	3.2	本層は地山漸移層のため、本来ならば遺物は出土しない層であるが、本層名が付されている遺物がある。上位層が混入したものと推定する。
	捨Q	セク10・12・21・23	15.0	
	3	セク16	-	
	5	セク16	-	
	5a	セク13・14	-	
	5b	セク13・14	-	
	5c	セク13・14	-	
	5d	セク13・14	-	
	6	セク16	-	
	8	セク12・21	-	
	9	セク10・12・21	3.5	
	c	セク9	-	
	d	セク18	-	
	g	セク11	-	
	m	セク16	-	
	n	セク16	-	
IV	グリッド	1.0		
地山直上	セク10	4.1		
漸移層	セク12	-		
振替130層	6	セク21	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替131層	11	セク21	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替132層	12	セク21	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替133層	13	セク21	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
振替134層	10・地山	セク12・21	-	東Ⅲ-1層として取り上げている可能性があり、本層に伴う土器は抽出できない。
第1号盛土遺構22層	SN-B 22層	グリッド	6.4	土器が少量出土している。
第1号盛土遺構22-2層	SN-B 22-2層	グリッド	5.1	もっとも新しい時期は晩期5期である。
第1号盛土遺構23層	11	セク9	-	もっとも新しい時期は晩期5期である。
	11-2	セク9	-	
	23層	グリッド	5.1	
-	風倒木	セク10	-	-
	埋土1	セク10	-	-
	埋土2	セク10	-	-
	捨Z	グリッド	-	-

表3 層対応表

セク10-5	セク10-4	セク22	セク10-3	セク23	セク17	セク12VM37・38	セク24	セク15	セク12 VM40	セク10-2	セク10-1	セク11	セク9	セク16	セク18	セク21	セク12VL41	セク13・14
I 1			I 1			I 1			a 1	i 1	a(I)・I 1		I 1	a 1		表土 1	I 1	I 1
												SN-f 5 SN-a 6 SN-b 7 黒色 8						
			b 10						b 10	2 10		b・SN-c 10	黒色・イ 8					
捨G 11	捨G上 11		捨F 11	捨A上 11	捨A 14	捨A上・捨B 11		捨M上 35 捨M下 36	捨F 11				捨8(明褐色) 12 炭4 13					
			捨A下 15			捨A下・捨B 15		炭h 15										
				α 21 β 22		捨B・捨8 18 捨B2・捨9 19												
			捨G下 25	捨D 25	捨D 26	捨D・捨B3・捨B2 25		捨B3 25					捨6 17					
	捨G下 25			捨D 27		捨D 27							捨1 23					
	炭b上 28 炭b中間 29		炭b上 28					炭e 37										
	捨Ga 30					捨E 29		捨M/P上 38										
	炭b下 31		炭b下 31			炭a 31												
捨L上層32																		
捨L中層33		捨L 32~34																
捨L下層34						捨K 34		捨M/P下 39										
						捨K・捨B5 34		炭g 34 捨Y1 40 捨Y2 41 捨Y3 42										
捨Gb 65								捨P2上43 捨P2下44										
								炭f 50										
								捨Z2 58 捨Z1 59										
捨S 66						捨K下 63		捨P3上 57 捨P3中 62										
	捨H上 63		捨H上 63 h64			捨K下・捨B6・捨B4 63		捨K 63										
			e 78															
捨S3 81	捨S2 79 捨S4 80 捨V上層 80 捨V下層 82																	
	捨S585																	
	※86																	
10上層・捨X炭89	捨V炭上層89		捨J89	捨N89		捨N・捨B6下・捨B4下・捨10 89		捨B6下 89										
10中層 119	捨X 120 捨X下層 121		仮う 123															
	捨U上層 122		捨I下 124															
	捨U下層 125					捨10下 126												
10下層・捨W 128								捨P3下 127										
地山直上	捨Q 129		捨0 129	捨Q 129	捨0 129			捨0 129	漸移層 129									



※1 縦軸はセクション、横軸は相対的な時間軸である。層名の上下に引かれた横線の範囲が各セクションの対応関係から想定される層の時期幅である。  
 ※2 上下に記載した層名のうち、上（黒字）は現場層名、下（赤字）が振替層名である。  
 ※3 現場層名のうち、文字が緑となっているものは、異なる層で同一層名が付されたものである。  
 ※4 各層に付した色は出土土器から比定した層の下限時期である。色が付いていない層は、時期が特定できる遺物が出土していない。

11131  
 12132  
 13133



Sec9-1

10	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~250mm)10%、炭化物(φ1~4mm)1%
10-2	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~240mm)20%、炭化物(φ1~2mm)1%
11	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~120mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%
11a	黒褐色土	10YR5/6	黄褐色土30%、礫(φ10~80mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%
捨1	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~150mm)5%、炭化物(φ1~4mm)1%
捨1a	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~170mm)20%、炭化物(φ1~8mm)2%
捨2	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~60mm)2%、炭化物(φ1~4mm)2%
捨3	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~30mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%
捨3a	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~140mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%
捨3b	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~40mm)2%、炭化物(φ1~4mm)1%
捨4	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~180mm)20%、炭化物(φ1~4mm)1%
捨5	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~190mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%
捨5a	暗褐色土	10YR3/3	10YR4/6褐色土20%、礫(φ10~120mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%
捨5b	暗褐色土	10YR3/4	10YR5/6黄褐色土30%、礫(φ10~270mm)40%、炭化物(φ1~3mm)1%
炭1	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~110mm)3%、炭化物(φ1~10mm)3%
炭2	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~140mm)5%、炭化物(φ1~12mm)3%
炭3	暗褐色土	10YR2/2	礫(φ10~100mm)3%、炭化物(φ1~8mm)3%
c	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%

Sec9-2

1	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~240mm)5%
イ	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~300mm)7%、炭化物(φ1~2mm)5%
明褐色	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~150mm)7%、炭化物(φ1~2mm)5%
黒褐色	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~120mm)3%、炭化物(φ1~2mm)7%
a	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~250mm)15%、炭化物(φ1~2mm)15%
b	暗褐色土	10YR3/2	礫(φ10~200mm)10%、炭化物(φ1~2mm)15%
c	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~300mm)5%、炭化物(φ1~2mm)5%

Sec9-3

1	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~300mm)7%、炭化物(φ1~2mm)10%
イ	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~120mm)7%、炭化物(φ1~2mm)10%
炭4	黒褐色土	10YR2/1	礫(φ10~120mm)7%、炭化物(φ1~10mm)40%
捨8(明褐色)	暗褐色土	10YR3/2	礫(φ10~120mm)5%、炭化物(φ1~2mm)5%
捨6	暗褐色土	10YR2/2	礫(φ15~180mm)10%、炭化物(φ1~2mm)5%
捨9	暗褐色土	10YR2/3	礫(φ20~340mm)30%、炭化物(φ1~2mm)5%
捨1	暗褐色土	10YR2/3	礫(φ10~180mm)7%、炭化物(φ1~30mm)10%
炭5	暗褐色土	10YR3/1	礫(φ10~60mm)5%、炭化物(φ1~30mm)30%
捨7(ロ)	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~270mm)15%、炭化物(φ1~2mm)7%
捨7(ハ)	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~280mm)15%、炭化物(φ1~2mm)7%
二	暗褐色土	10YR2/2	礫(φ10~160mm)10%、炭化物(φ1~2mm)7%
炭6	暗褐色土	10YR2/3	礫(φ10~70mm)3%、炭化物(φ1~10mm)7%
へ	暗褐色土	10YR2/3	礫(φ10~170mm)7%、炭化物(φ1~2mm)7%
捨10(チ)	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~20mm)7%
捨10(手)	暗褐色土	10YR3/2	礫(φ10~180mm)5%、炭化物(φ1~2mm)5%
捨10(リ)	暗褐色土	10YR3/2	10YR4/4褐色土5%、礫(φ10~200mm)10%、炭化物(φ1~2mm)5%
捨5a	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~70mm)5%、炭化物(φ1~10mm)7%
捨10黄褐色(ホ)	褐色土	10YR4/6	礫(φ10~150mm)10%、炭化物(φ1~2mm)3%

Sec9-5

1	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ5~50mm)5%
1	黒色土	10YR2/1	礫(φ10~70mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%
1	明褐色土	10YR3/3	礫(φ30~90mm)3%、炭化物(φ1~2mm)2%



図4 北捨場セクション図(1)



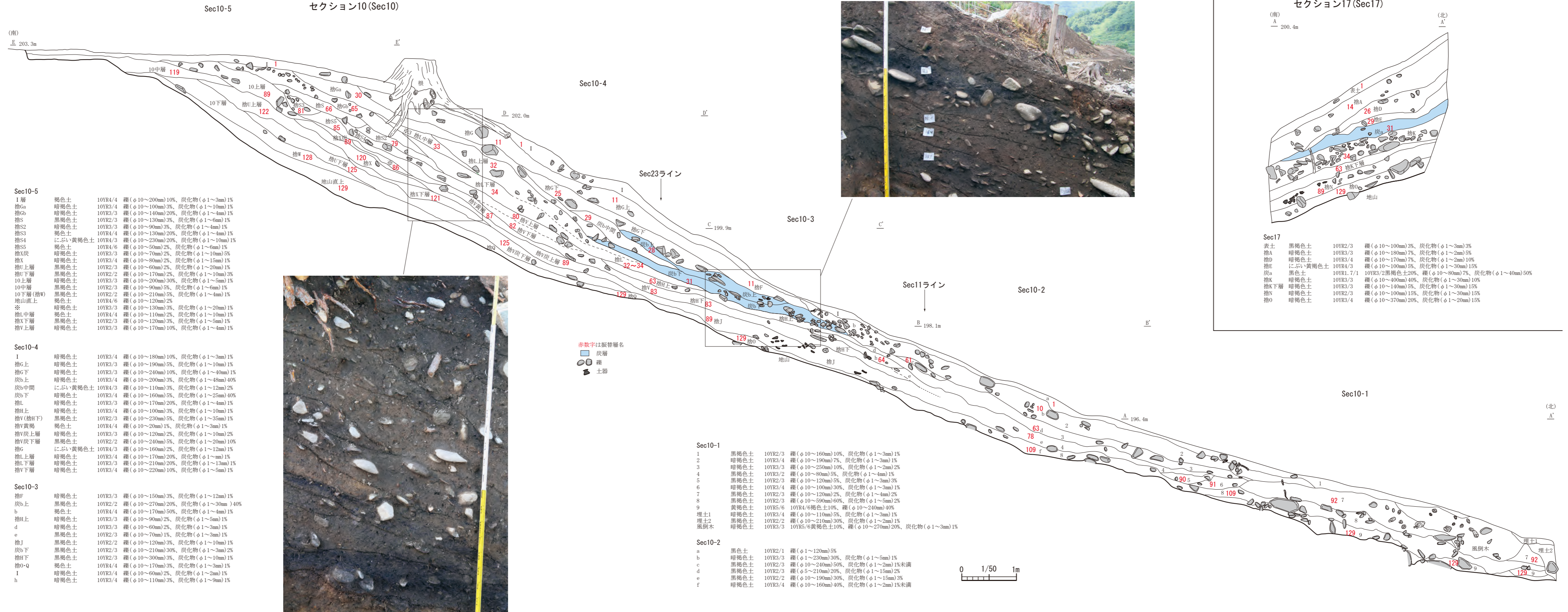


図5 北捨場セクション図(2)



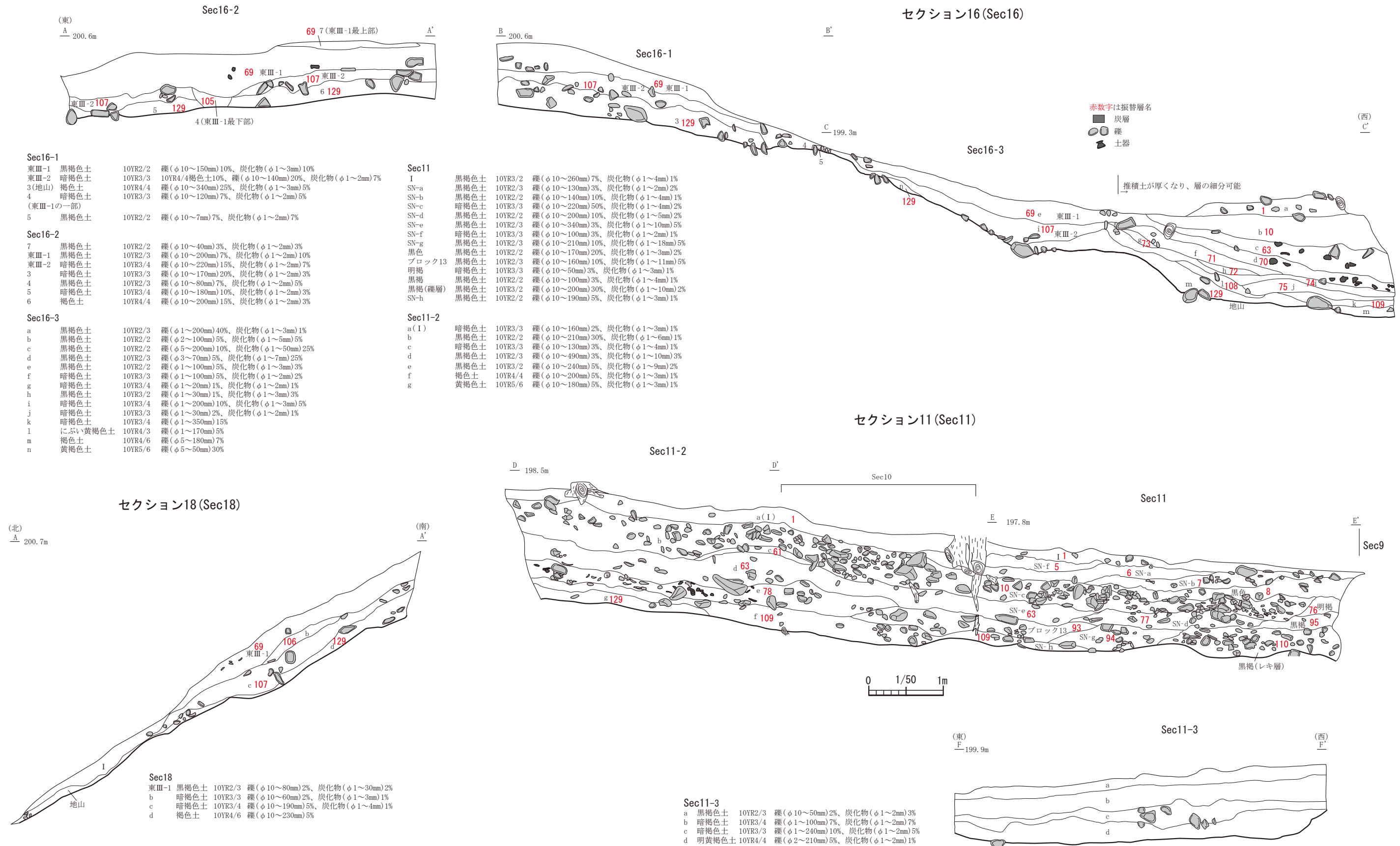
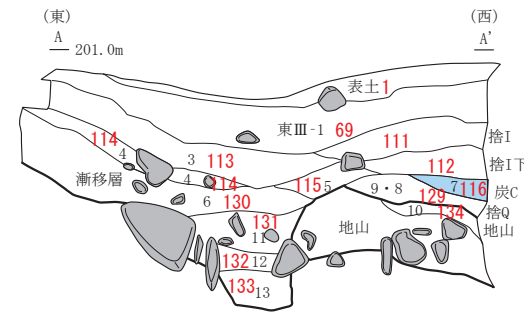


図6 北捨場セクション図(3)

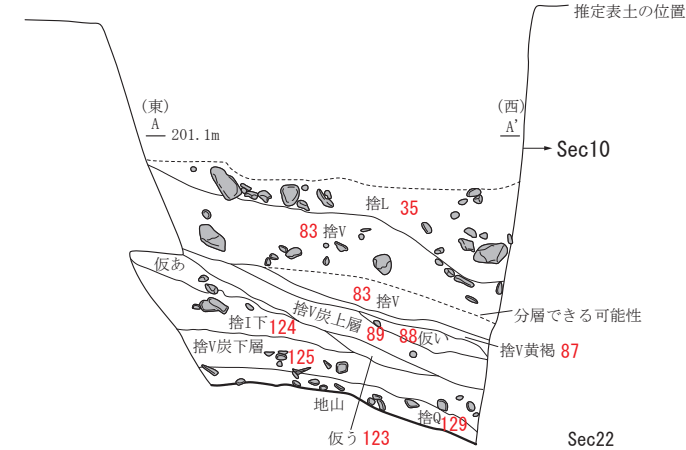
**Sec21**

表土	黒褐色土	10YR3/2	10YR4/6褐色土20%、礫(φ10~190mm)7%、炭化物(φ1~2mm)3%
東Ⅲ-1	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~140mm)7%、炭化物(φ1~2mm)15%
3	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~100mm)5%、炭化物(φ1~2mm)10%
4	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~220m)10%
5	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ10~140mm)5%、炭化物(φ1~2mm)10%
6	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~130mm)20%、炭化物(φ1~2mm)5%
7	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~90mm)3%、炭化物(φ1~3mm)7%
8	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~70mm)7%、炭化物(φ1~2mm)3%
9	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ10~80mm)5%、炭化物(φ1~2mm)3%
10	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~70mm)7%
11	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ10~150mm)25%
12	にぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ10~250mm)10%
13	にぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ10~120mm)10%
地山	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~mm)%、炭化物(φ1~mm)%

**セクション21 (Sec21)**



**セクション22 (Sec22)**



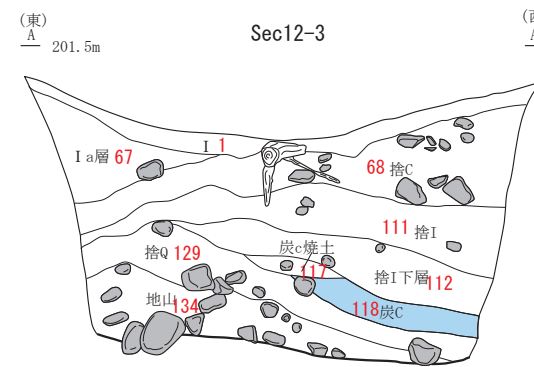
**Sec22**

仮あ・仮い	褐色土	10YR4/4	礫(φ10~30mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%
捨I下	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~90mm)2%、炭化物(φ1~18mm)2%
捨L			
捨V			
捨V炭上層			
捨V炭下層			

Sec10参照

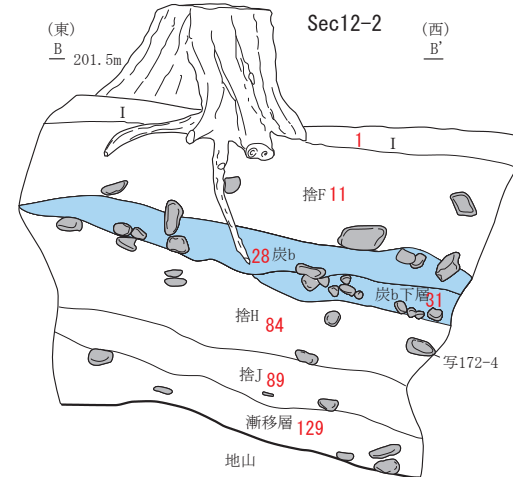
赤数字は振替層名

**セクション12 (Sec12)**



**Sec12-3**

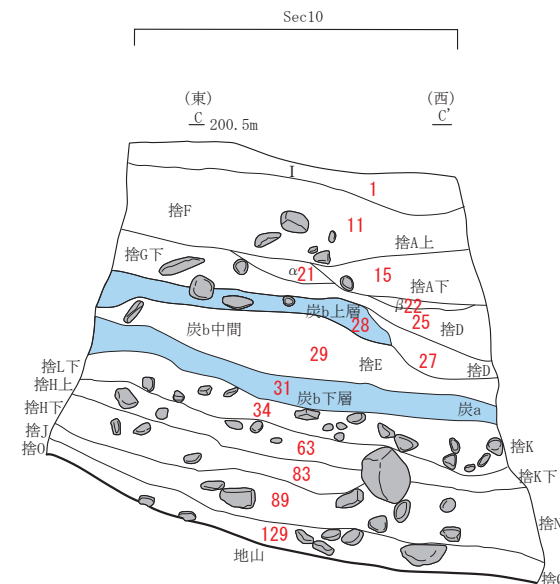
捨C	黒褐色土	10YR2/3	10YR2/2黒褐色土20%、礫(φ10~250mm)5%、炭化物(φ1~4mm)1%
捨I	暗褐色土	10YR3/3	10YR5/6黄褐色土2%、礫(φ10~110mm)3%、炭化物(φ1~6mm)1%
捨I下層	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ10~90mm)2%、炭化物(φ1~18mm)2%
炭c	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ10~70m)2%、炭化物(φ1~35mm)5%
捨Q	黒褐色土	10YR2/2	10YR3/4暗褐色土30%、礫(φ10~210mm)5%、炭化物(φ1~4mm)1%
Ia層	褐色土	10YR4/6	10YR4/4褐色土10%、礫(φ10~130mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%
炭c焼土層	黒褐色土	10YR2/3	10YR4/6褐色土20%、礫(φ10~60mm)3%、炭化物(φ1~3mm)5%



**Sec12-2**

捨F	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~260mm)7%、炭化物(φ1~4mm)7%
炭b	黒色土	10YR1.7/1	礫(φ1~240mm)10%、炭化物を主体とした層、最大5cmくらいのもが出る
炭b下層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ1~150mm)25%、炭化物(φ1~20mm)15%
捨H	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~160mm)5%、炭化物(φ1~10mm)7%
捨J	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~120mm)7%、炭化物(φ1~10mm)10%
漸移層	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~150mm)10%、炭化物(φ1~5mm)5%

**セクション23 (Sec23)**

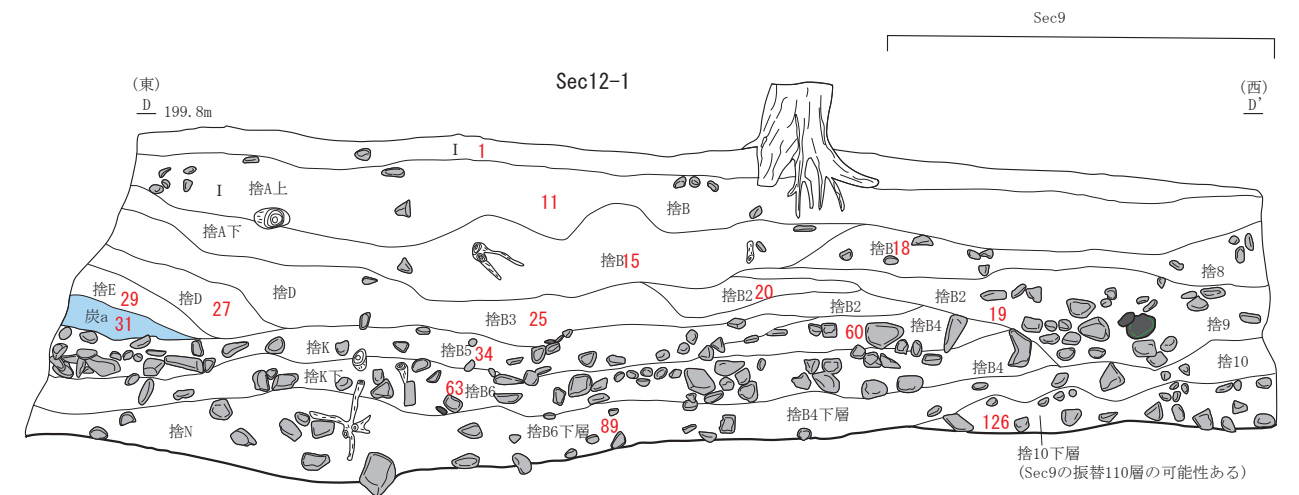


**Sec23**

α	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~30mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%
β	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~50mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%

Sec10参照

**セクション12 (Sec12)**

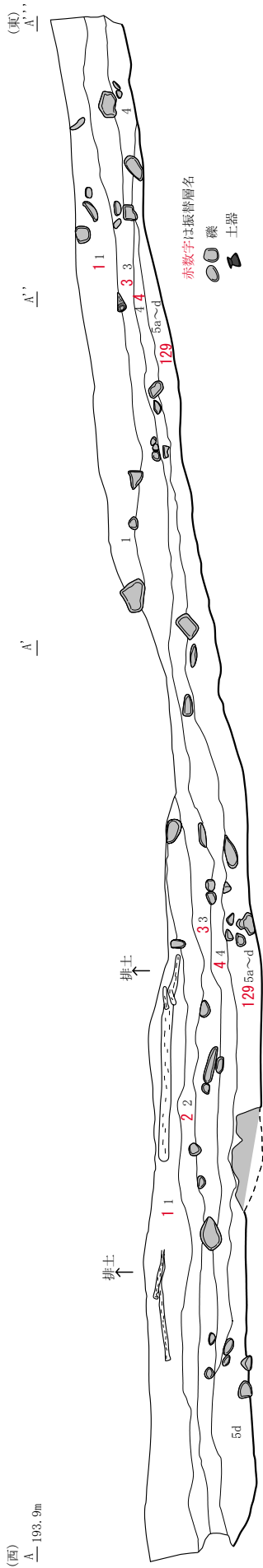


**Sec12-1**

捨A上・捨B	黒褐色土	10YR2/2	10YR4/3にぶい黄褐色土30%、礫(φ1~150mm)10%、炭化物(φ1~3mm)3%
捨A下・捨B	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~150mm)5%、炭化物(φ1~10mm)3%
捨B・捨8	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~120mm)10%、炭化物(φ1~10mm)2%
捨B2	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ1~70mm)2%、炭化物(φ1~7mm)5%
捨B2・捨9	黒褐色土	10YR2/3	礫(φ5~220mm)40%、炭化物(φ1~40mm)3%
捨B2・捨B3・捨D	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~50mm)3%、炭化物(φ1~2mm)3%
捨D	暗褐色土	10YR3/4	礫(φ1~100mm)2%、炭化物(φ1~5mm)3%
捨E	褐色土	10YR4/4	礫(φ1~70mm)2%、炭化物(φ1~3mm)3%
炭a	黒褐色土	10YR2/1	礫(φ1~100mm)10%、炭化物(φ1~30mm)20%
捨B5・捨K	にぶい黄褐色土	10YR4/3	礫(φ5~250mm)50%、炭化物(φ1~70mm)5%
捨B4・捨B6・捨K	暗褐色土	10YR3/3	礫(φ1~200mm)20%、炭化物(φ1~30mm)3%
捨B4下層・捨B6下層・捨N・捨10	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~170mm)15%、炭化物(φ1~30mm)3%
捨10下層	黒褐色土	10YR3/2	礫(φ1~300mm)30%、炭化物(φ1~2mm)1%
捨B4	黒褐色土	10YR2/2	礫(φ1~250mm)10%、炭化物(φ1~30mm)3%

図7 北捨場セクション図(4)

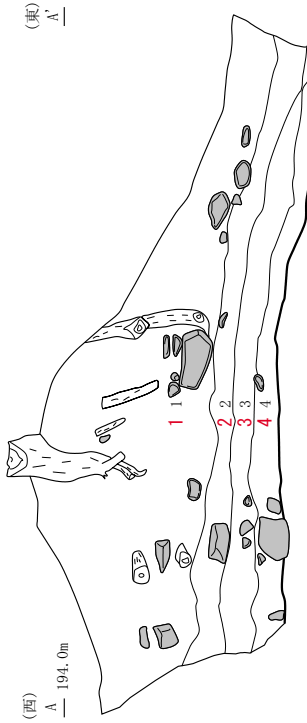
セクション13(Sec13)



Sec13

- 1 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~280mm)15%、炭化物(φ1~2mm)3%
- 2 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~180mm)15%、炭化物(φ1~2mm)7%
- 3 黒褐色土 10YR2/3 礫(φ10~300mm)10%、炭化物(φ1~2mm)7%
- 4 黒褐色土 10YR3/2 礫(φ10~170mm)7%、炭化物(φ1~2mm)10%
- 5a 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~160mm)20%、炭化物(φ1~2mm)10%
- 5c 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~220mm)20%、炭化物(φ1~2mm)7%
- 5d 黒褐色土 10YR2/3 10YR5/6黄褐色土5%、礫(φ10~160mm)5%、炭化物(φ1~2mm)7%
- 5b 暗褐色土 10YR3/3 礫(φ10~700mm)15%、炭化物(φ1~2mm)7%

セクション14(Sec14)



Sec14

- 1 暗褐色土 10YR3/4 礫(φ10~300mm)15%、炭化物(φ1~2mm)7%
- 2 褐色土 10YR4/6 10YR3/3暗褐色土の互層、礫(φ10~230mm)7%、炭化物(φ1~2mm)15%
- 3 黒褐色土 10YR3/2 礫(φ10~100mm)7%、炭化物(φ1~2mm)7%
- 4 褐色土 10YR4/4 礫(φ10~240mm)10%、炭化物(φ1~2mm)7%

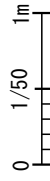


図8 北捨場セクション図(5)

セクション15(Sec15)  
セクション24(Sec24)

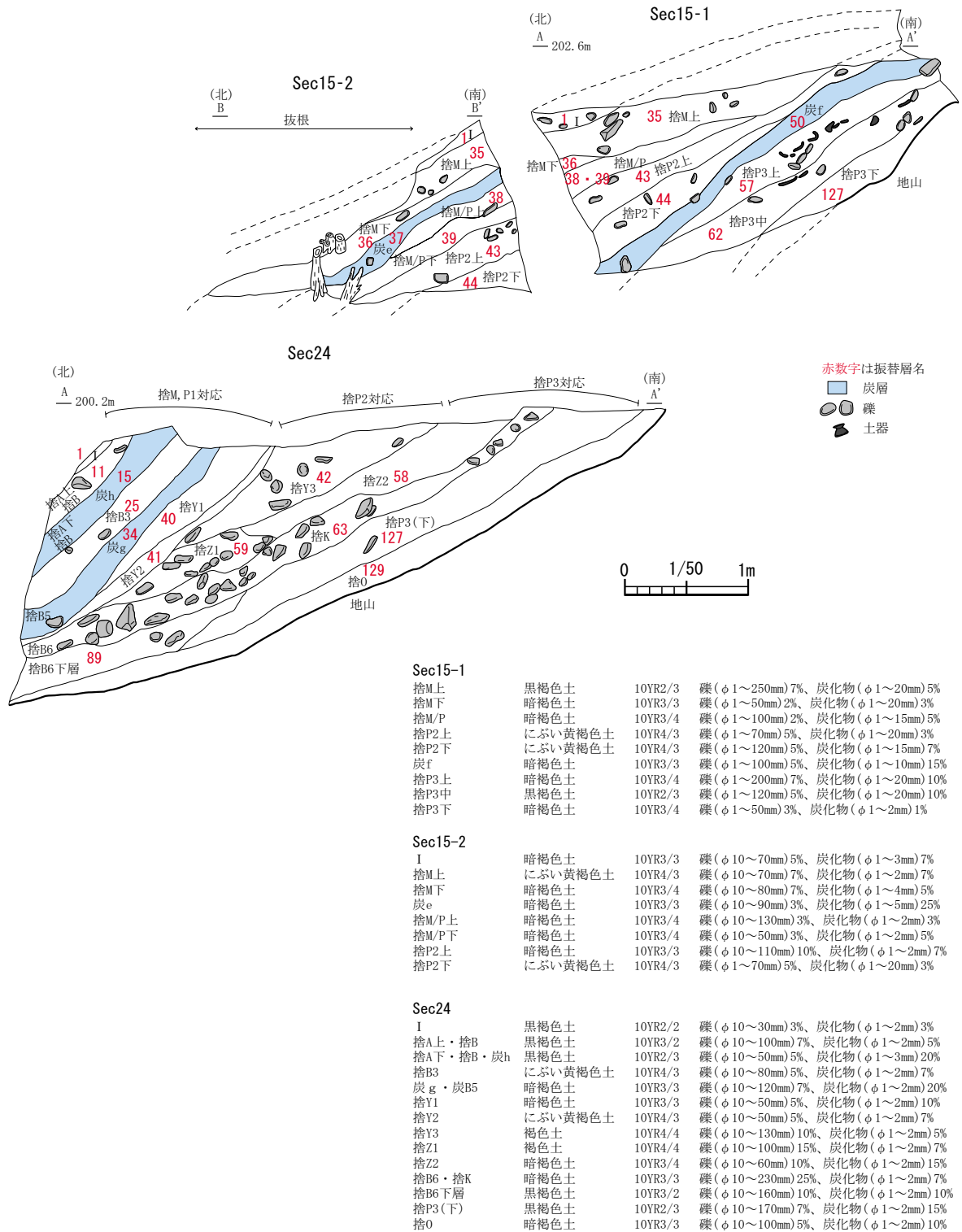


図9 北捨場セクション図(6)

## 2 土器 (図10~21、写真69~112)

### (1) 土器の整理作業及び報告書掲載の方法

北捨場からは約7,300kgの土器が出土した。土器の出土量は西捨場に次いで多い。整理作業はまず重量を計測し、その後接合作業を進めた。時間的制約から、接合・復元作業は基本的に同一グリッドの同一層に対してのみ行った。また、接合作業と並行して、出土地点・層位ごとの時期的な出土傾向を把握するために、グリッド・層単位で出土土器の時期を記録した(表1)。接合・復元作業が終了した個体には、一次抽出資料として整理番号を付した。また、有文の口縁部片や、特徴的な破片なども同時に抽出し、合わせて整理番号を付した。最終的に一次抽出資料は、約1,600点を数える。これらの資料については、可能な限り掲載に努めたが、整理作業の制約上、一次抽出資料のなかから、極端に小さい破片や、粗製土器の破片、底部のみの資料、帰属する層の時期を反映しない破片資料などを除外し、最終的に約1,100点を掲載した。このため小片であっても層の中で最も新しい遺物は優先的に掲載され、逆に大きい破片であっても、層のなかで最も新しい遺物ではなく、同種の土器が複数出土している場合などは、掲載外となっている。なお、掲載資料のうち約60点はミニチュア・小型土器として土製品の項で扱っている。

資料は基本的に写真掲載としたため、文様のみでなく、器形も表現することを重視し、撮影を行った。破片資料についても文様と器形を表現するため、可能な範囲で2カット撮影した。実測図は118点作成した。写真掲載資料における図化率は約10%である。掲載にあたっては、実測図・写真ともに振替層を基準とし、その中で器種順としている。同一器種内では時期が新しいものから順に掲載した。複数の層位資料が接合した場合は、最も大きい破片の出土層位に帰属させ、観察表にすべての出土地点を記載した。

### (2) 区分・分類基準

いずれも基本的に既刊の報告書Ⅱ・Ⅲに準拠した。内容について報告書Ⅱ・Ⅲを集約し再掲する。なお平成28年度の整理作業を反映させ一部加筆・修正している。

#### 【時期区分】 報告書Ⅱp.119 報告書Ⅲpp.5,7-8

青森県史で示された後期から晩期の時期区分(青森県2013)を準用した。本文では県史の後期7期第4段階を後期7-4期と略したほか、観察表などで晩期1a期を晩期1aのように記している。また、中期以前は円筒上層d式、榎林のように形式名で記載した。時期区分や形式に対応できないと判断したものは後期後葉~晩期前葉のように幅を持たせた。土器の帰属時期については、山内清男氏の一連の研究(1930、1937、1964)などのほか、後期後葉から晩期前葉については関根達人氏(関根2005)、小林圭一氏(小林2010)の論文を、晩期後半については青森県薬師遺跡(青森県教委2014)、青森県今津遺跡(弘前大学2005)、青森県不備無遺跡(弘前大学2012)、北海道七飯町聖山遺跡(七飯町教委1979)などを参考とした。聖山式土器については晩期4~5期に位置づけた。中期の土器の帰属時期については報告書Ⅲに準拠した。

#### 【器種区分】 報告書Ⅱp.120 報告書Ⅲpp.5-6

深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、皿形土器、壺形土器、注口付土器、香炉形土器の7器種に区分した。器種名称については、「~形(付)土器」を省略した表記を基本とした。また、これら7器種のほかに異形土器としたものもある。深鉢、鉢、浅鉢、皿については台(脚)部が付くものがあり、そ



れらについては「台付深鉢」などと呼称する。台がつくものと付かないものを総称する際は「深鉢(台付)」などと表記した。高台と台部の区分は明瞭にできないが、概ね1cmを超える高さのものを台とした。台の有無が不明のものは深鉢、鉢、浅鉢、皿に区分している。また、口縁部に片口が付く土器については、「片口鉢」などと呼称する。鉢系統の器種区分は弘前大学による今津遺跡の報告書(弘前大学2005)を準用し、口径と器高の比率で区分した<sup>1)</sup>。台付の場合は台部を除いた容器部分(口縁部から体部)の数値を用いた。最大長が概ね10cm以下の土器はミニチュア・小型土器として土製品扱いとした<sup>2)</sup>が、一部土器の項に掲載されているものもある。また、香炉の頂部などは、ミニチュア・小型土器に含まれていることがある。

- ・深鉢：口径に対する器高の比率が概ね1を超えるもの。台部が付くものは台付深鉢とする。
- ・鉢：口径に対する器高の比率が概ね0.5以上1未満のもの。台部が付くものは台付鉢とする。器高が不明な鉢系統の破片は鉢に分類している。
- ・浅鉢：口径に対する器高の比率が概ね0.3以上0.5未満のもの。台部が付くものは台付浅鉢とする。
- ・皿：口径に対する器高の比率が概ね0.3未満のもの。台部が付くものは台付皿とする。
- ・壺：体部に最大径を持ち、口縁がすばまった器形である。最大径と頸部径が近似の場合は、内面がナデ調整のものを広口の壺、ミガキ調整のものを鉢とした。
- ・注口：筒状の注ぎ口が付けられた土器である。
- ・香炉：体部が玉状やソロバン玉状を呈し、口縁部にアーチ状の部分が形成されたものや側面に透かし孔を有す土器である。
- ・異形土器：上記7器種に区分できない土器。環状土器など個別の名称を用いる場合もある。

【製法区分】 報告書Ⅱp.123

器種区分のほか、製法や装飾の違いにより精製、半精製、粗製の区分がある。時期や器種によっては区分が困難な場合もあることから、必要に応じて使用した。

- ・精製土器：文様が施文された外面全面にミガキ調整が施されるなど装飾性の強い土器である。
- ・半精製土器：部分的(主に口縁部から頸部)に沈線など簡単な文様が施された土器である。
- ・粗製土器：縄文のみ、あるいは無文で調整が粗雑な土器である。稀に文様が施されるものもある。

【器形区分】 報告書Ⅱpp.120-123

報告書Ⅱにおいては、口縁形状や器形について分類を行っているが、報告書Ⅳ～Ⅶについては行っていない。口縁・口唇形状・底部形状については観察表に個別に記載し、器形については必要に応じて文章中に記載した。

【口縁形状について】

平口縁・波状口縁・小波状口縁・装飾的な口縁と表現した。波状口縁・小波状口縁は、基本的に波底部に平坦な部分がない場合に用いた。波底部に平坦な部分がない場合でも、波状部分が口縁突起と同形態の場合は、平口縁に連続する突起が付されたものとした。平口縁で、口唇に刻目が施されるもののうち、刻目を施した後、刻目部分に調整が施されるものは小波状口縁とした。突起は形状により台形突起、一山突起、二山突起、B突起などと表現した。晩期後半に多く見受けられるA突起は一山突起としている。

## 【部位名称】

部位には口縁部、体部、底部などの名称を用いた。具体的な内容については「例言・凡例」の項で図を示した。

## 【文様など】 報告書Ⅲpp.6-7

写真掲載を基本としたため、観察表で可能な限り詳細に文様を表記した。観察表に記載した文様などの表現の定義は次のとおりである。

・入組文：後期7-4期～晩期1a期に帰属する土器の場合は、「入組带状文」（小林2010、関根2005）などと呼ばれる文様(写89-20など)を指し、晩期1b期以降では、弧状の沈線を互い違いに組み合わせた文様(写94-5など)を指す。

・三叉文：三叉文が入組文の入組部と結合している場合(写104-12など)は「入組文に接続」と記載した。また、単純に沈線で施文されるものと分岐部分が抉られるものがあることから、前者を「沈線による三叉文」もしくは「三叉文(沈線)」、後者を「抉りによる三叉文」もしくは「三叉文(抉り)」と表現した。

・羊歯状文：横位沈線と刺突により単純化された羊歯状文(写84-11など)については「退化した羊歯状文」とした。

・雲形文：ミガキ調整などにより、文様を表出する沈線が不明瞭となっているものを「彫去による雲形文」もしくは「雲形文(彫去)」、沈線が確認できるものを「沈線による雲形文」もしくは「雲形文(沈線)」と記載した。

・工字文：広義でとらえたため、「匹」字状を呈するものなども「工字文」とした。

・横位沈線：横方向に巡る沈線を「横位沈線」とした。破片の場合は、残存部分のみで判断したため、実際は異なる文様の可能性もある。また、可能な限り条数を記載し、破損している場合は現存の条数を記載した。横位沈線間や沈線内に突起などの要素が付加される場合は、「○・○条目の沈線間に」「○条目の沈線に」などと表記したが、この数字は上から数えた条数である。横位沈線に「ノ」字状の文様が付加される場合(写93-14など)は「ノ」字状に垂下」と記載した。

・沈線文：上記の定型的な文様以外の文様を総称した。渦巻文、三角形文など形状を示す表現を併記したものもある。

・弧線文：弧線文の向きの表現として、例えば上が開くものを「上向きの弧線文」などと表記した(写94-10など)。また、横方向に複数の弧線文が連なる場合は「横位に連続(連繋)する弧線文」などと表現した。

・刻目列(写86-7など)、短沈線列(写108-17など)、刺突列：同一の文様要素が多数連なる場合に「○○列」という表現を用いた。また、2条の沈線の間には施文される場合は「沈線間に○○列」と記載した。

・貼瘤、突起：突出する粒状の装飾については、後期の土器では「貼瘤」、晩期の土器では「突起」と表現した。

・穿孔、透かし孔、貫通孔：貫通する孔については、焼成前に設けられており装飾と捉えられるものは基本的に「透かし孔」、補修孔のように焼成後に施され、装飾と捉えられないものは「貫通孔」と表現した。「透かし孔」「貫通孔」とともに「穿孔」と表現している場合もある。

・入組文や雲形文など主文様の上下に横位沈線が施される場合は、「沈線間に入組文」などという表現を用いた<sup>3)</sup>。複数条の場合は「○条の沈線間に」としたものもある。主文様に連繋する横位沈線も基本的に本数に含めている。

・地文など：沈線や隆帯で施された文様に縄文が伴わない場合は「地文なし」もしくは「文様帯地文なし」とした。縄文が沈線などで囲まれた範囲内だけに施されている場合、狭義の意味では充填手法だとしても、従来の表現を踏襲し、「磨消縄文」と表現した。縄文を施したのちに文様を施し、縄文を消していないものは「縄文地施文」とした。

・文様や縄文が施されない無文部については、ナデやミガキなどの調整とその部位を記載した。

・赤彩：赤く塗られた土器については「赤彩」という表現を用いた。発色が悪く、褐色を呈するものは「褐色膜状付着物」と記載したものもある。「漆」という表現は、分析で確証が得られたものや、漆製品製作遺物などに限定して用いている。また器表面に若干赤色顔料が残存しているのみの場合でも、全面に赤彩が施されていたと推定が可能な場合は、「赤彩」とし、実測図にも全面に赤彩に表現をしている。彩文土器のように塗り分けの可能性がある場合や、装飾のために塗彩したとは考えにくい場合は、実測図でも顔料が確認できる範囲のみに表現している。なお、後者は「赤色顔料付着」と表現した。

・炭化物：スス・コゲなどをまとめて炭化物とした。

### (3) 土器の出土傾向

北捨場で出土した土器のうち、最も古い土器の時期は中期後葉である。24点を掲載した。円筒上層d・e式、榎林式、大木10式のほか、大木7b式と思われる鉢の口縁部片(写112-10)や、中期後葉の壺の口縁部片(写99-5)も出土している。出土地点は概ねVK・VL37~40グリッドの下位層である。後期以降の遺物で時期が特定できたものは後期7-3期~晩期5期に該当する。後期7-3期の資料は極少量であることから、本捨場の機能時期は概ね後期7-4~晩期5期と考えられる。掲載土器のうち、残存率が概ね器形全体の1/4以上のもので、なおかつ時期が特定できた資料は297点ある。これらの時期の内訳は後期7-4期が7点で2%(パーセンテージは残存率が概ね器形全体の1/4以上のもので、なおかつ時期が特定できた資料297点に対する比率。以下同じ)、後期8期が10点3%、晩期1a期が45点15%、晩期1b期が74点24%、晩期2期が54点18%、晩期3期が58点19%、晩期4期が30点10%、晩期5期が19点6%である。これらの比率をみると、北捨場は本遺跡の主体時期である後期後葉~晩期にかけて連綿と利用された状況が窺え、とくに晩期1a~3期では比率が高くなる傾向が読み取れる<sup>4)</sup>。

層位ごとにおける出土土器の時期は表1に記載した。「●」は出土している土器の時期を示し、「△」は該当期の可能性があるもの、もしくは小片が少量出土した場合などに記した。層位ごとにおける出土重量は表2に記載した。層位が特定できる場合にのみ記載したため、出土土器の全重量ではない。なお、表1の「情報なし」、表2の「-」としたものは、記録がないものの他に、出土土器がないものや、他の層と合わせて遺物を取り上げられているものなどが含まれている。なお、これらの資料は整理の初期段階に作成したため、発掘調査時点で異なる層位に同一名称が付されている場合(現場層位10層など)は、資料が混同している可能性がある。平面の土器重量分布については、報告書IV図234に隣接するクラック地点とあわせて掲載した。



## (4) 出土土器の様相

層位ごとにおける出土土器の様相は表2に記載した。以下、時期ごとに特記を要する土器について記載する。時期幅がある土器は古いほうの時期の項に記載したが、晩期4～5期の遺物は数が多いため項を設けた。特記遺物が多い場合は器種ごとに記載したが、特記を要する個体がない器種は記載していない。なお、各時期における器形や文様などの概要は「報告書Ⅷ 第3編 第2章 第2節」に記載した。

**後期7-3期**：器種は鉢のみである。写108-12は125層で出土した鉢と推定される破片である。貼瘤列が多用され、格子目状の沈線文が施される。

**後期7-4期**：器種は深鉢、鉢、注口がある。他に香炉や、底部が高台となる粗製深鉢や壺が該期に伴うと推定されるが、後期8期との区別は困難である。写107-21は125層で出土した後期7-4期と推定される鉢の小片である。沈線間に刺突列が施される。

**後期8期**：器種は深鉢、鉢(台付)、浅鉢、注口がある。他に香炉や、底部が高台となる粗製深鉢や壺が該期に伴うと推定されるが、後期7-4期との区別は困難である。写95-28は89層で出土した後期8-晩期1a期と推定される浅鉢である。口縁端部が強く内湾する。写110-14は、128層ほかで出土した浅鉢である。外面に磨消縄文を伴う沈線文が施される。底部は高台である。

**晩期1a期**：器種は鉢(台付)、壺、注口がある。他に粗製深鉢や粗製壺が該期に伴うと推定されるが、特定は困難である。

浅鉢：写105-22は124層で出土した晩期1a～1b期の浅鉢で、体部全面に磨消縄文を伴う入組文が施される。

壺：写105-16は122・125層で出土した。晩期1a～1b期と推定される。内外面とも片側のみに被熱痕が認められることから、横倒しの状態で被熱したものと推定される。

注口：写86-3は69層で出土した。体部文様をもち、入組文とその空隙に三叉文が施される。外面には赤彩が認められる。写96-21は89層で出土した。晩期1a～1b期と推定される。体部に把手状の突起が伴う。同一個体の突起は125層でも出土している(写108-4)。写102-5は95層で出土した。頸部と体部に入組文が施され、入組文の空隙に三叉文が充填される。写103-18は116～118層で出土した。晩期1a～1b期と推定される小片である。凹みの沈線が施されるが、凹み部分を口とみれば、人面表現の一部とみることもできる。写111-1は128層ほかで出土した大形の注口である。口縁部に立体的な突起が付加される。

**晩期1b期**：器種は深鉢、鉢(台付)、浅鉢(台付)、台付皿、壺、注口がある。

鉢：写93-5は89層で出土した。口縁部に弧状の沈線を多用して粗雑な文様が施される。写94-5は89層で出土した。小波状口縁で1単位の大突起と3単位の小突起を伴う。口縁部には入組文が10単位施文される。文様帯下端の区画沈線には、頂部に刺突を伴う突起が入組文に対応して付される。

浅鉢(台付)：写89-23は小波状口縁に1単位の突起がつく。比較的小形で、模式的に作られている。82層で出土した。写88-20は83層で出土した。頸部が括れ、口縁部が直線的に開く。底部は丸底である。写96-6は89層で出土した。小波状口縁で三山突起が5単位伴う。底部は丸底である。口縁部には入組文が7単位施される。文様帯下端の区画文には眼鏡状隆帯が施される。写99-10は94層で出土した台付浅鉢と推定される台部である。補修孔と思われる貫通孔が多く、底面4個、体部下半に推定4個(3個残存)、台部に3個残存する。底面1箇所は穿孔をやり直している。3部位の孔は1列に並ぶ。写99

-11は94層で出土した。平口縁に立体的な大突起が1単位とB突起が4箇所以上付加される。磨消縄文を伴う沈線文が施され、文様帯下端には無文帯が設けられる。写103-7は109層で出土した。口縁部に三叉文が施される。口縁部内外面のみ赤色顔料が認められることから、彩文状に塗り分けがなされていた可能性がある。

壺：写96-11は89層で出土した。長胴形で体部には縄文が施されるが、体部中位に無文帯が設けられる。写96-12は89層で出土した。口縁部に眼鏡状隆帯が巡り、体部には入組文が施される。外面に赤彩が施される。

注口：写97-14は89層ほかで出土した大形の注口である。口縁部に立体的な装飾を施す。文様部分にのみ赤色顔料が残存することから、塗り分けがされていた可能性がある。

**晩期2期**：器種は深鉢、鉢(台付)、片口鉢、浅鉢(台付)、皿(台付)、壺、注口がある。

鉢(台付)：写71-30は24層で出土した。口縁が強く内湾する。写74-24は37層で出土した。羊歯状文が施される片口鉢である。写83-7は63層で出土した。体部に文様に縦位の区画文が伴う。写85-5は69層で出土した。底部は平底だが、底面が凸状となる。文様は口縁部に沈線と短沈線が複数条施されるのみである。写98-7は93層で出土した。台部が強く丸みを帯び、透かし孔が巡る。

浅鉢(台付)：写80-6は57層で出土した。口縁部と底部直上に簡易な羊歯状文が施される。口縁突起内側に隆帯で加飾が施される。写86-16は76層で出土した浅鉢と推定される小片である。内面に隆帯が施される。写87-8は76層で出土した。平面が楕円形と推定され、短軸方向の口縁部が外側に張り出し、張り出し部分に穿孔が伴う。また、写87-7も平面が楕円形の浅鉢である。76層で出土した。写88-4は78層で出土した。台部は直線的で、端部が外傾する。写95-26は89層ほかで出土した。小波状口縁部に三山突起が7単位付加される。口縁部は直線的に開き、体部は扁平で丸みを帯びる。口縁部と体部上半それぞれに沈線文が施され、体部下半には縄文が施される。写102-24は107層で出土した。体部から口縁部にかけて内湾する器形で、底部は凹底である。張り出し状の脚が4単位伴う。そのうち1単位のみ内面からの押圧が認められる。

皿(台付)：写85-7は69層で出土した。平面形が滴形である。写85-10は69層で出土した皿と推定される小片である。内面口縁部に沈線文が施される。写101-4は95層で出土した台付皿である。平面が滴形である。

壺：写85-13は69層で出土した。体部上位が屈曲する器形である。写85-14は69層で出土した。底部に内面からの押圧による張り出し状の脚を4単位伴う。写101-10は95層で出土した。体部上半が屈曲する器形で、体部は比較的扁平と推定される。

注口：写86-1は69層で出土した。沈線間に施される刻目列で文様が構成される。写98-3は92層で出土した注口と推定される口縁部である。下端欠損部に貫通孔が確認でき、周囲に剥離痕が認められることから、注口の欠損部と推定されるが、通常注口部の位置よりもやや上位に位置する。

香炉：写76-17は43・44層で出土した。刻目を伴う隆帯で加飾され、透かし孔を伴う。晩期2期の可能性が考えられる。

**晩期3期**：器種は鉢(台付)、浅鉢(台付)、皿、壺、注口がある。

鉢：写74-4は晩期中葉の鉢と推定される小片である。浅く細い横位沈線が複数条認められる。写80-1は粗製の鉢である。異なる原体による非結束羽状縄文が施される。晩期中葉と推定される。

浅鉢(台付)：35・36層で内面に彩文が施される略完形の浅鉢が出土した(写75-18)。写87-1は76層で出土した。口縁突起が1単位付属し、突起の内面には隆帯による装飾が付加される。写95-20は89層で出土した。口縁に2個一組のB突起が1単位伴う。底部は凹底で張り出し状の脚が4単位伴う。92層で出土した写98-2は、出土状況の写真(写真57)から内面に彩文が施されていた可能性が窺われる。写101-1は95層で出土した浅鉢と推定される底部である。外底面に雲形文が施される。

壺：写109-1は127層ほかで出土した。最大径が50cmを超える大形のものである。写109-3は127層で出土した壺の口縁部片で、西捨場で同一個体が出土している(報告書Ⅶ写73-22、105-19)。

注口：写102-1は95層で出土した。底部が平底で体部は直線的に開く。壺状の器形に注口が伴う特異な器形である。体部には雲形文が施される。

**晩期4期**：器種は、鉢(台付)、浅鉢(台付)、皿、壺、注口がある。他に口縁端部に3条の横位沈線が巡る粗製深鉢や、肩部が張る粗製壺(写71-10)などが該期に伴うと推定されるが、5期との区別は困難である。写71-31は24層で出土した片口鉢の片口部である。口唇に刻目が施され、口縁部に横位沈線が施されることから、晩期4期の可能性がある。

**晩期4～5期**：写69-21は10層で出土した鉢と推定される破片である。西捨場で同一個体が出土している(Ⅶ写87-9)。写72-9は25層ほかで出土した比較的大形の壺である。口唇に刻目があり、体部上半が張る器形と推定されることから、晩期4～5期に比定される。写74-23は37層から出土した台付と推定される晩期4～5期の鉢である。立ち上がる大突起を伴い、体部には地文縄文に沈線文が施文される。写78-5は52・97層で出土した壺である。地文縄文に工字文が施されることから、聖山Ⅱ式の可能性がある。写77-18は51層で出土した立ち上がる突起を伴う鉢である。突起は口縁部と一体化している。写102-12は96層で出土した壺である。外面に黒色塗膜が確認でき、口縁部と、頸体部境界のみに帯状に赤彩が認められる。彩文と推定される。写102-13は96層で出土した横位連繫入組文が施文される壺である。聖山Ⅰ式の可能性がある。

**晩期5期**：器種は、深鉢、鉢(台付)、浅鉢(台付)、壺がある。他に口縁端部に3条の横位沈線が巡る粗製深鉢や、肩部が張る粗製壺(写71-10)などが該期に伴うと推定されるが、晩期4期との区別は困難である。

写69-13は9層で出土した深鉢である。多条の横位沈線が施文され、突起や縦位短沈線が伴う。写69-29は11層で出土した台付鉢である。台部には刻目を伴う工字状の文様が施される。写72-21は鉢である。細い横位沈線が口縁部に複数条施文され、2個一組の突起が付加される。写75-22は35・36層で出土した中位が屈曲する土器である。工字文が施されることから、晩期5期に比定したが、器種は不明である。写87-11は76層で出土した壺である。肩部に穿孔を伴う隆帯が巡る。写102-11は96層ほかで出土した体部に工字文が施される壺である。晩期5～6期に比定される。

**その他**：写75-17は35・36で出土した端部に刺突列が2条施される台である。時期は特定しがたい。写79-10は57層で出土した晩期の深鉢である。口縁部に1単位の突起がつき、その下に隆帯が施される。写86-23は片口鉢である。片口部の上部分が橋状につながる。時期は特定しがたい。写97-10は後期後葉～晩期前葉の鉢である。刻目列が充填される。同一個体が写91-13のほか、報告書Ⅱ図3-4・5、報告書Ⅶ写87-7、報告書Ⅶ写98-24で出土している。写101-15は95層で出土した粗製壺である。外面に赤彩が施される。写102-20は刺突と貼付により人面を表現した土器で、2面出土した。写

108-9の頂部には隆帯が逆S字状に貼り付けられており、端部に刻目が1本施される。獣面を表現している可能性がある。125層ほかで出土した。

その他特記遺物として下記がある。

**漆液容器**：底部片が多い。1層(写69-1)、14層(写71-7)、25層(写72-6)、57・62・127層(写81-13)、63・89層(写82-12)、82層(写89-17)で出土した。写72-6は底部径が5cm程度と小さいことから小型土器と推定される。写89-17も小型土器である。内面に赤褐色の漆膜が付着する。顔料が含まれていると推定される。

**赤色顔料容器**：35・36層(写75-6)、43・44層(写76-12)、62層ほか(写82-9)、76層(写86-24)、89層(写92-9)、127層(写108-11)で出土した。写82-9は晩期3期の壺である。外面に黒色～褐色の膜状付着物が認められ、内面には赤色の付着物が認められることから、赤色顔料容器の可能性はある。写86-24は高台である。高台内面のみならず赤色顔料が付着することから、天地を逆にして顔料容器に転用したと推定される。写92-9は上端欠損部にも顔料の付着が認められることから、土器上部が欠損した状態で使用していたと推測される。

**アスファルト状の黒色物質付着土器**：10層で出土した写69-23はアスファルトと推定される黒色物質が注口の穿孔部に充填されている。63層で出土した写83-18は鉢である。欠損部外面にアスファルトと推定される黒色物質が厚く付着している。

**粘土紐接合痕が残存する土器**：32～34層ほか(写73-18)、57層ほか(写79-13)、63・89層(写82-10)で出土した。製塩土器との関連が窺われる(藤沼1989)。

**発泡土器**：34層(写73-27)、43層の上層(写76-3)で出土した。どちらも小片である。

**小型土器**：58層で出土した写80-12は外面に沈線文が施される鉢である。76層で出土した写87-10は外面に縄文が施される浅鉢である。

**分析資料**：写72-14は25～27層で出土した晩期4期の鉢である。付着炭化物による安定同位体比分析の結果、炭化物は概ねC3植物由来と推定されている。写74-15は34・63・89層で出土した晩期4期の鉢である。付着塗膜の塗膜分析の結果、漆塗膜が少なくとも4層確認されており、漆を入れる容器として繰り返し使用されたものと指摘されている。写78-5は聖山Ⅱ式に比定される土器片である、胎土分析の結果、遺跡周辺の堆積物を材料として作成されたと推定されている。写97-14は89層から出土した晩期1b期の注口である。外面の赤彩の塗膜分析の結果、赤色顔料としてベンガラの使用が確認されている。膠着材は明瞭に検出されておらず、劣化の進んだ漆、もしくは現在は残存していない漆以外の膠着材の可能性が指摘されている。写101-9は晩期3期の壺である。内面に付着する塗膜の分析の結果、透明漆層が観察された。

(岩井・岡本)

注釈

- 1) 鉢系統の器種区分は口径と器高の比率に応じて機械的に行ったため、製作・使用時の意図と異なる器種に分類している可能性がある。例えば鉢と浅鉢について、鉢に区分した中に文様などの特徴が浅鉢に類似するものがある。
- 2) 報告書Ⅱでは、最大長が概ね5cm以下の土器を小型(ミニチュア)土器としている。
- 3) 文様帯系統論(山内1964)を踏まえれば、集約した表現は適切でないといえるが、ここでは表の煩雑さを避けるため、機械的に集約した表現を用いた。
- 4) 限定された資料での比率であるため、実態とは差異がある可能性があるものの、大局は示されているものと考えられる。ただし後期後葉～晩期前葉においては、特に注口や台付浅鉢などについて、帰属時期の特定が困難なため、分析対象から除外している。このため、後期後葉～晩期前葉の土器点数は実際よりも少なく計上されている可能性がある。

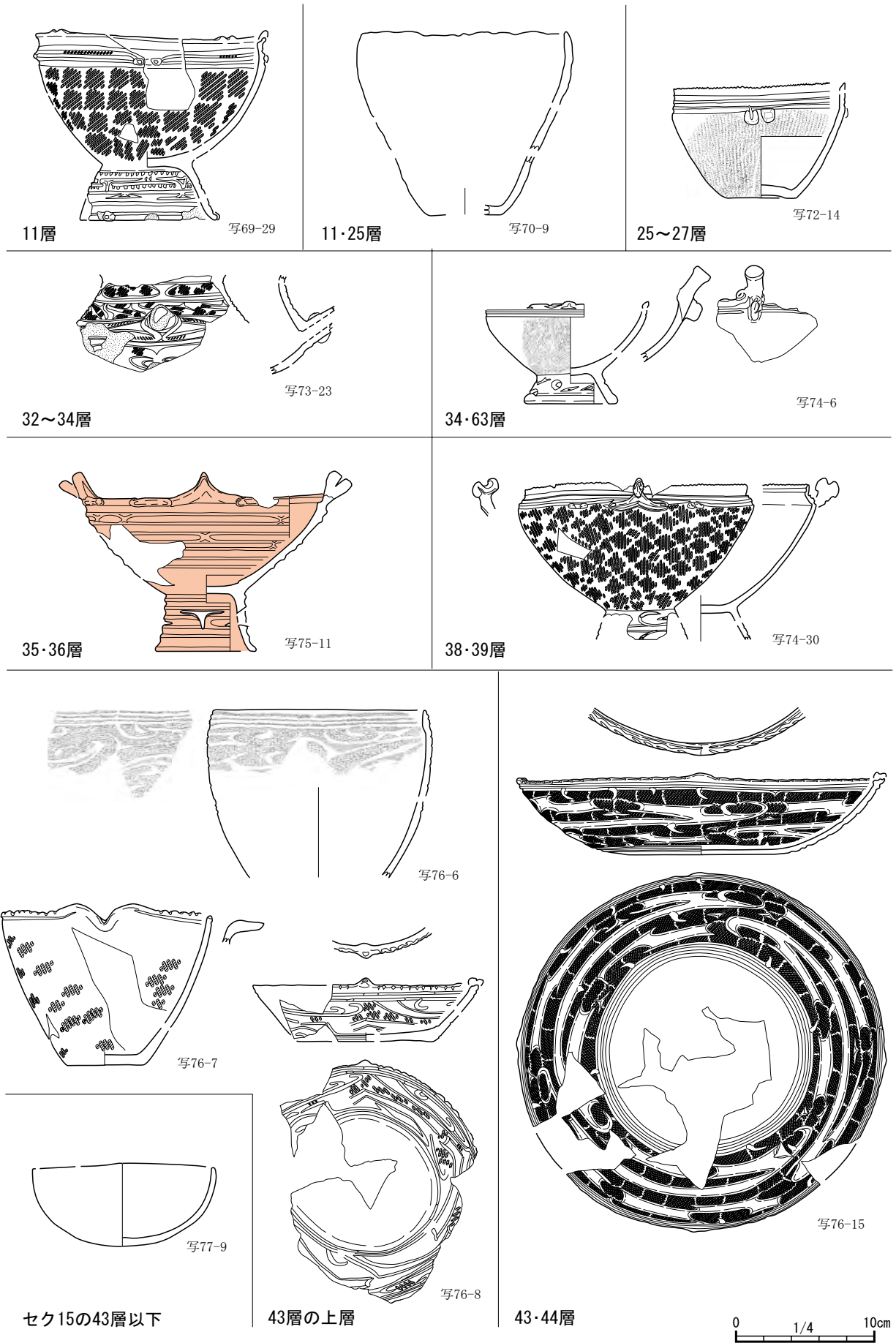


図10 土器(1) 11, 11・25, 25~27, 32~34, 34・63, 35・36, 38・39, 43以下, 43上, 43・44層

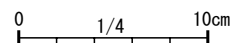
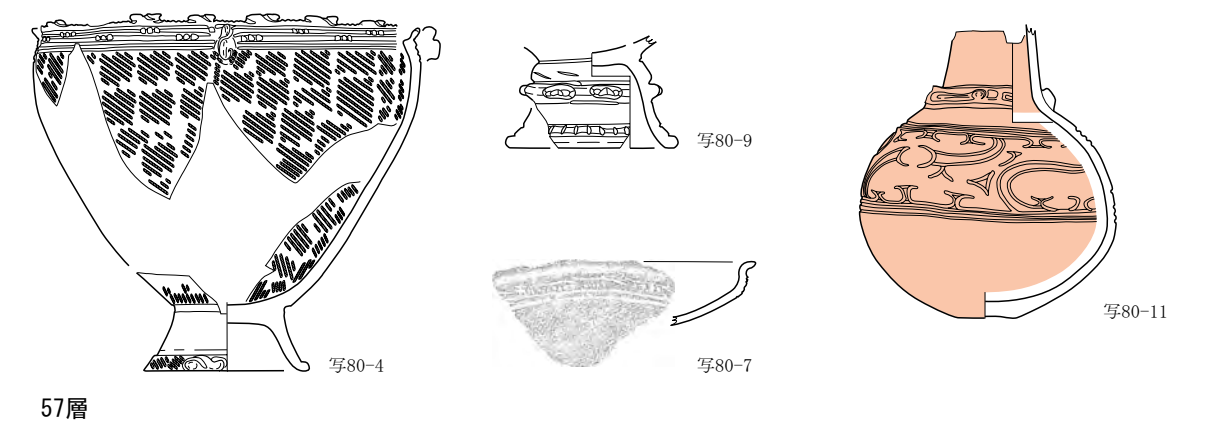
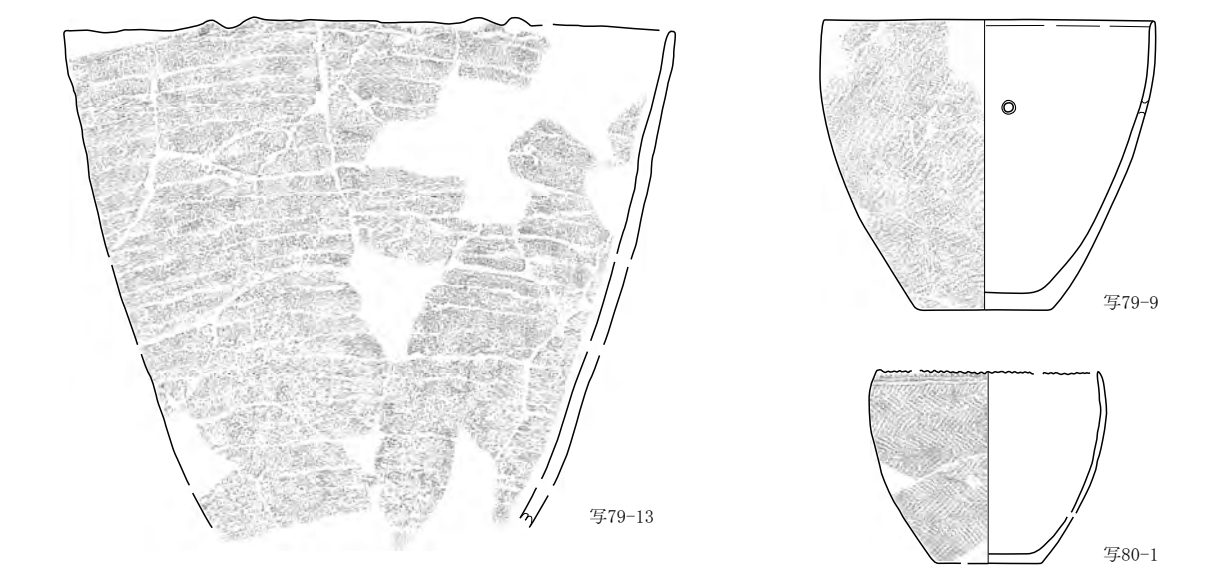
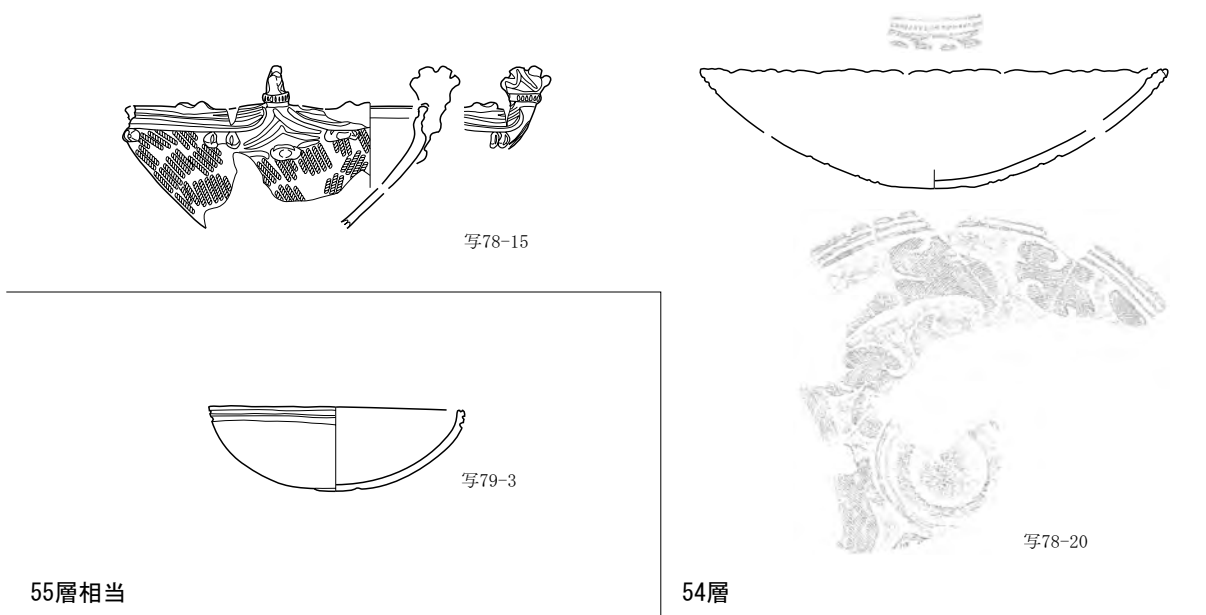


図11 土器(2) 54, 55相当, 57層

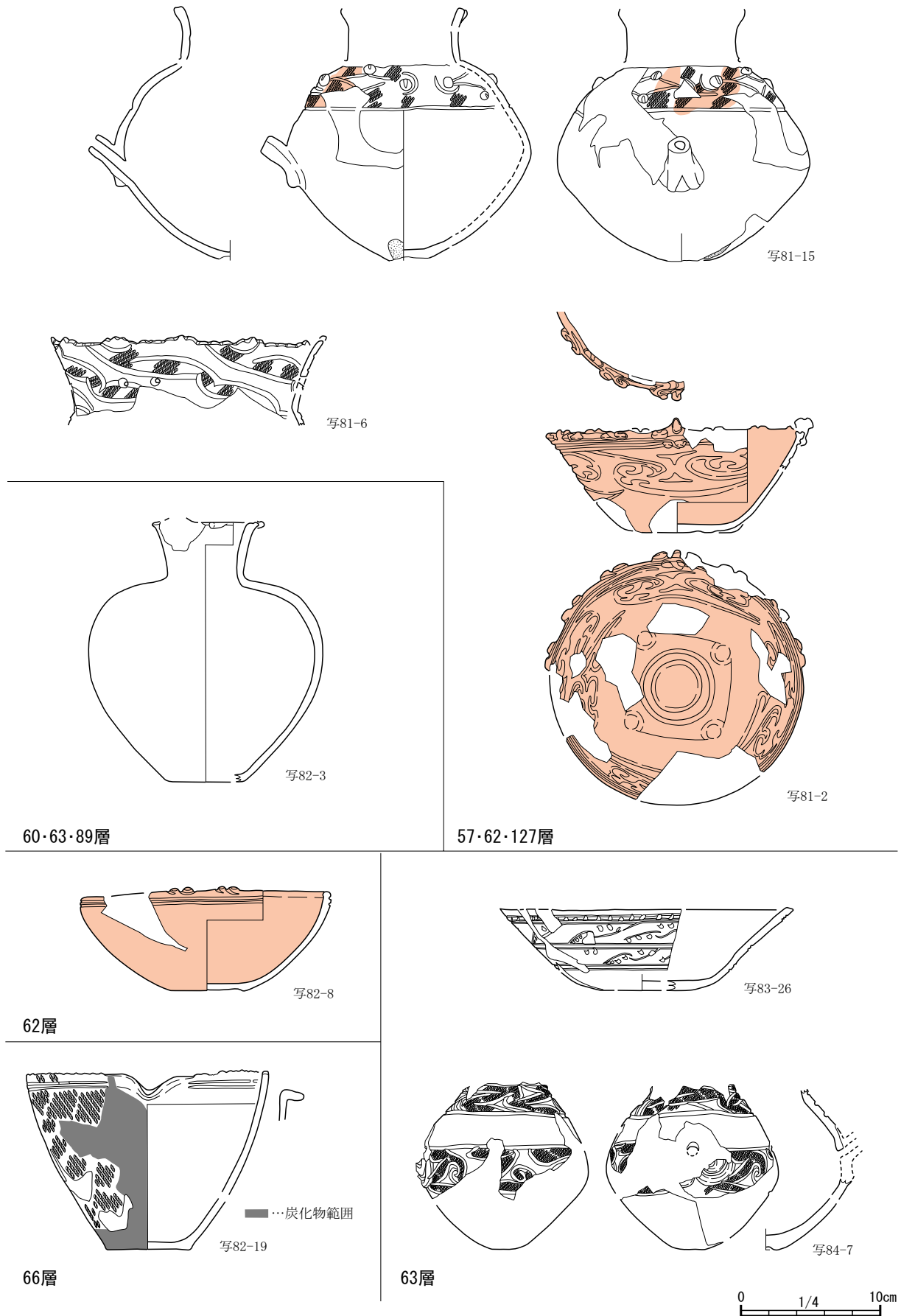


図12 土器(3) 57・62・127, 60・63・89, 62, 63, 66層

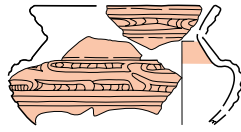
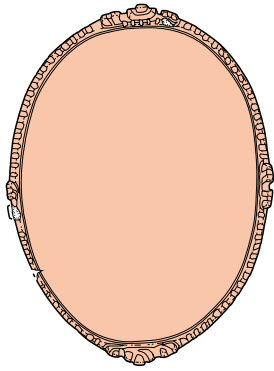




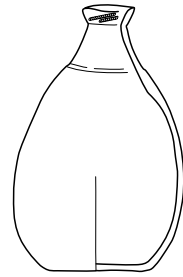
69層-1

図13 土器(4) 69層

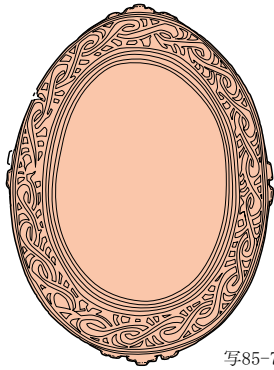
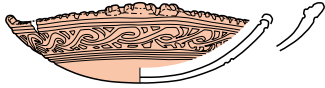




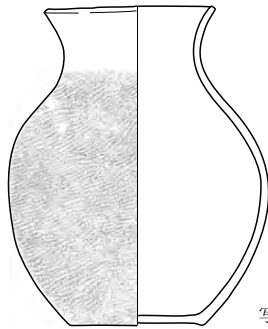
写85-13



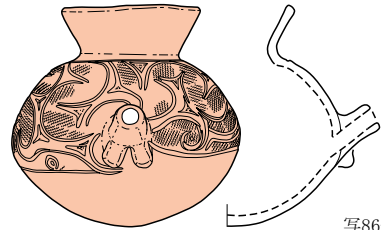
写85-15



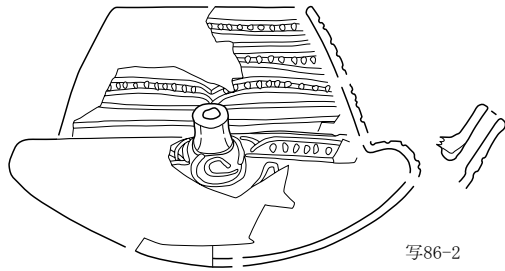
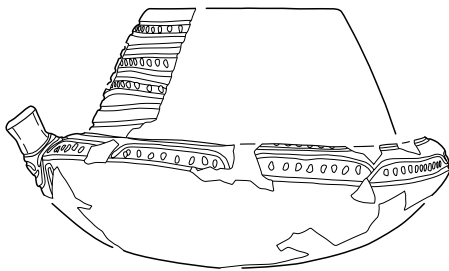
写85-7



写85-17

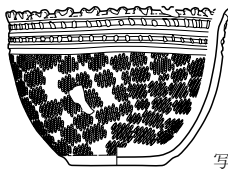


写86-3

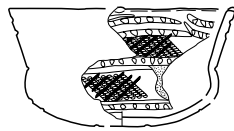


写86-2

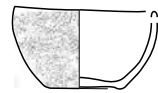
69層-2



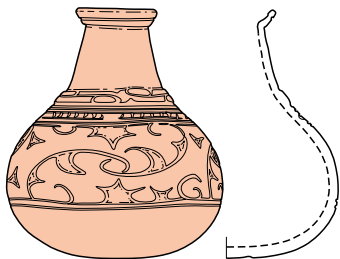
写86-7



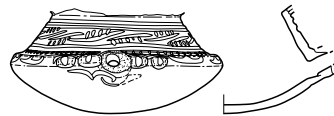
写87-6



写87-10



写87-12



写87-17

76層

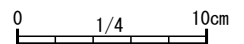
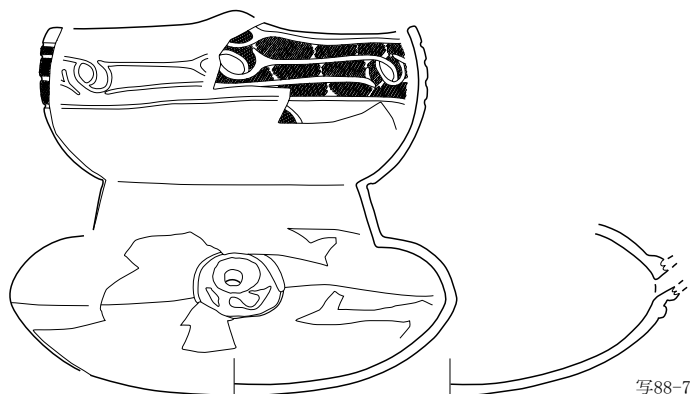
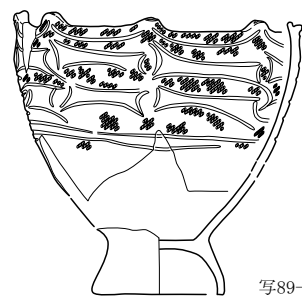


図14 土器(5) 69,76層



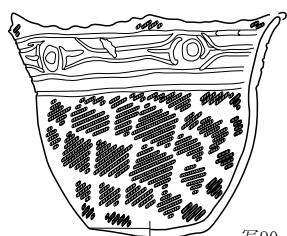
写88-7

78層



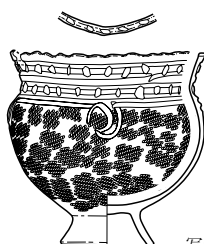
写89-20

82層



写90-9

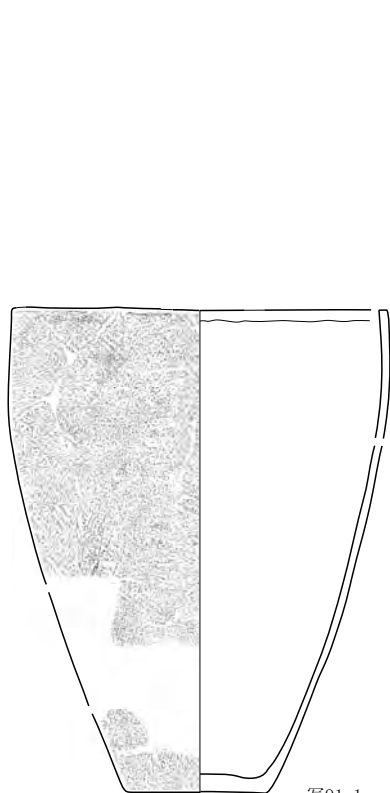
84層



写90-8

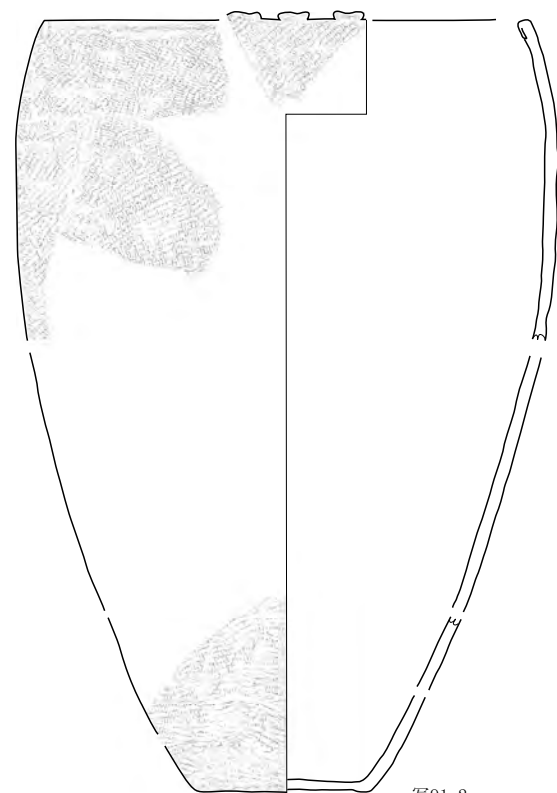


写90-16



写91-1

85層



写91-2

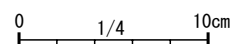
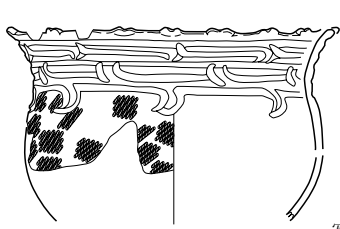
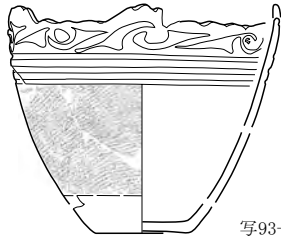


図15 土器(6) 78, 82, 84, 85層



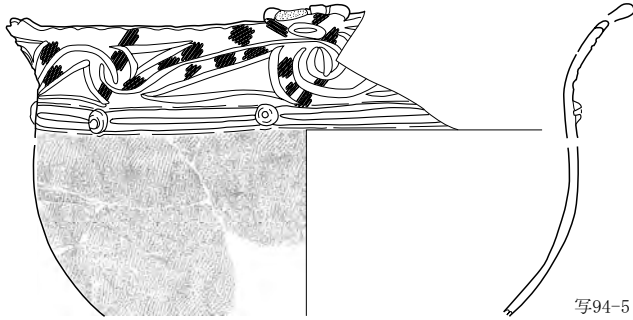
写93-14



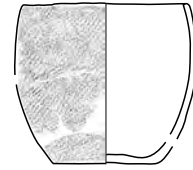
写93-8



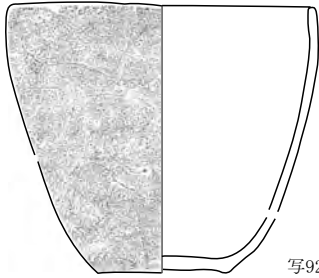
写94-2



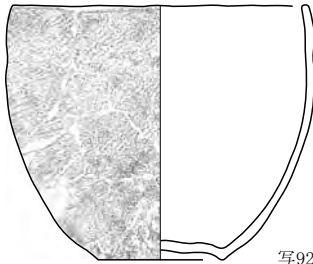
写94-5



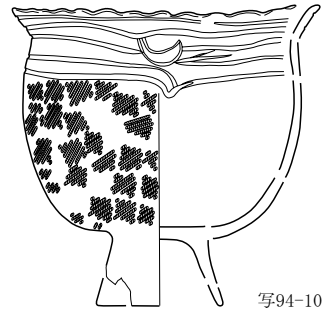
写92-10



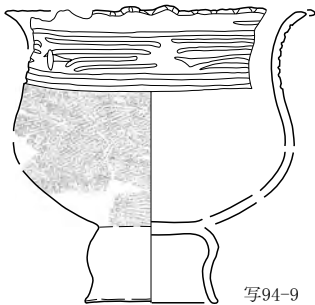
写92-11



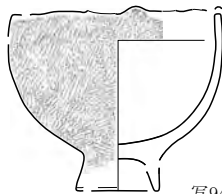
写92-15



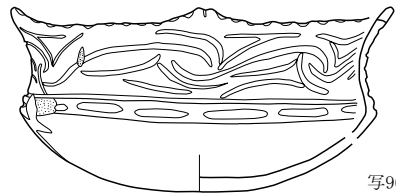
写94-10



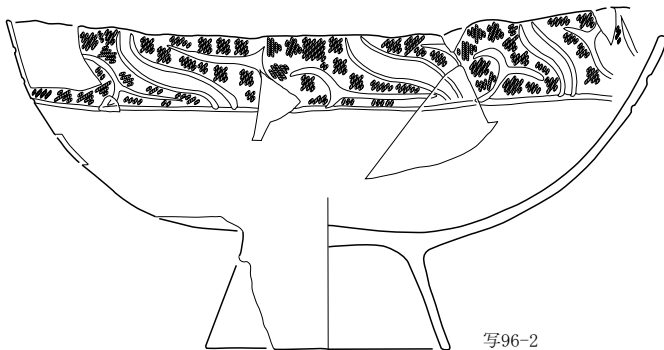
写94-9



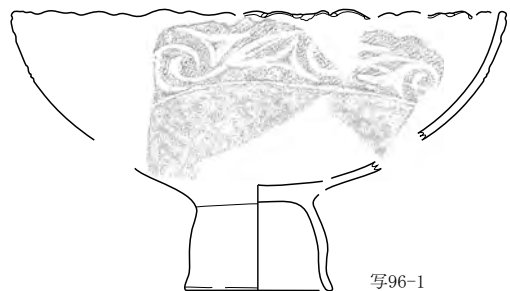
写94-8



写96-6



写96-2



写96-1

89層-1

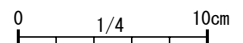


図16 土器(7) 89層

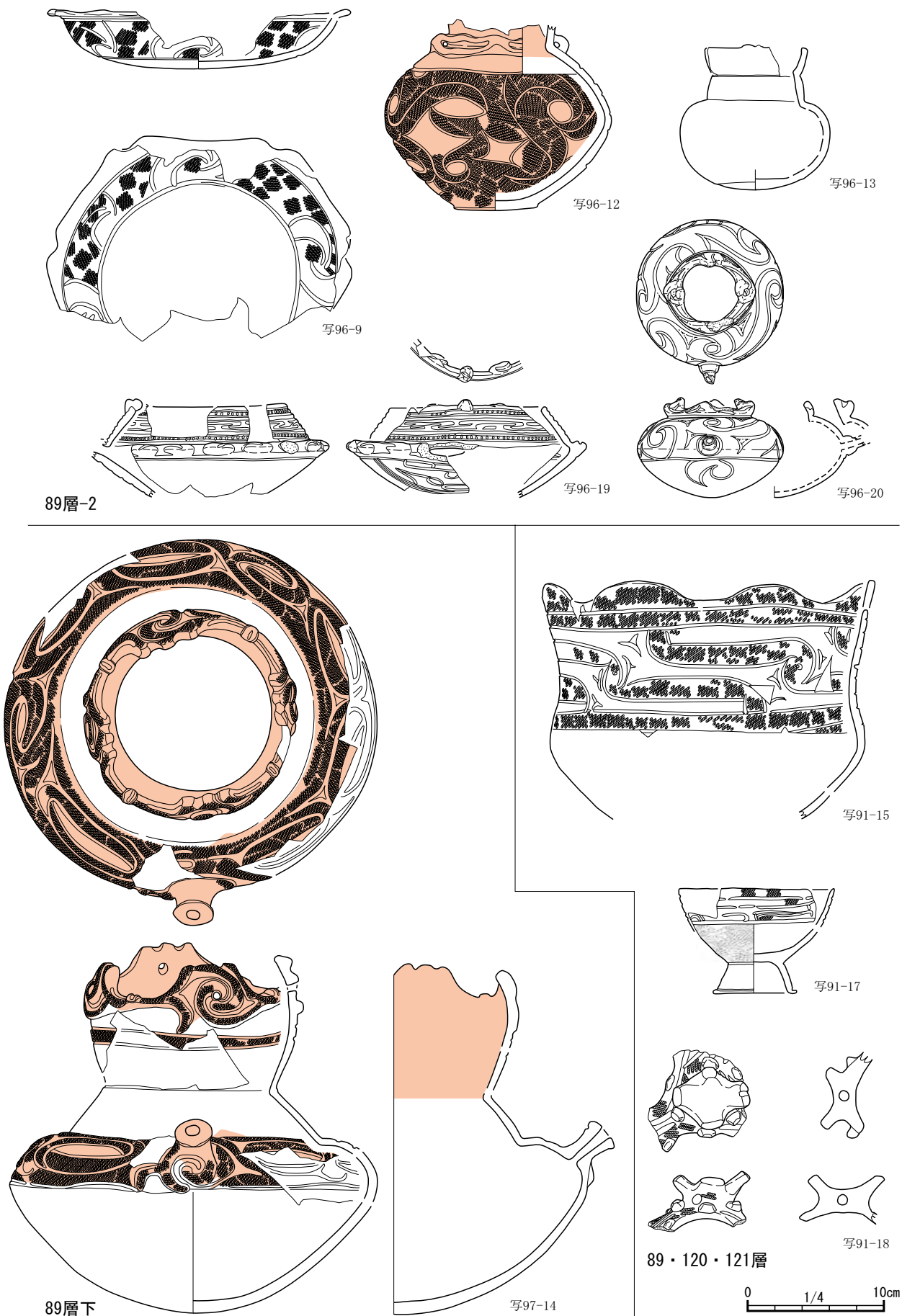


图17 土器(8) 89, 89下, 89・120・121層

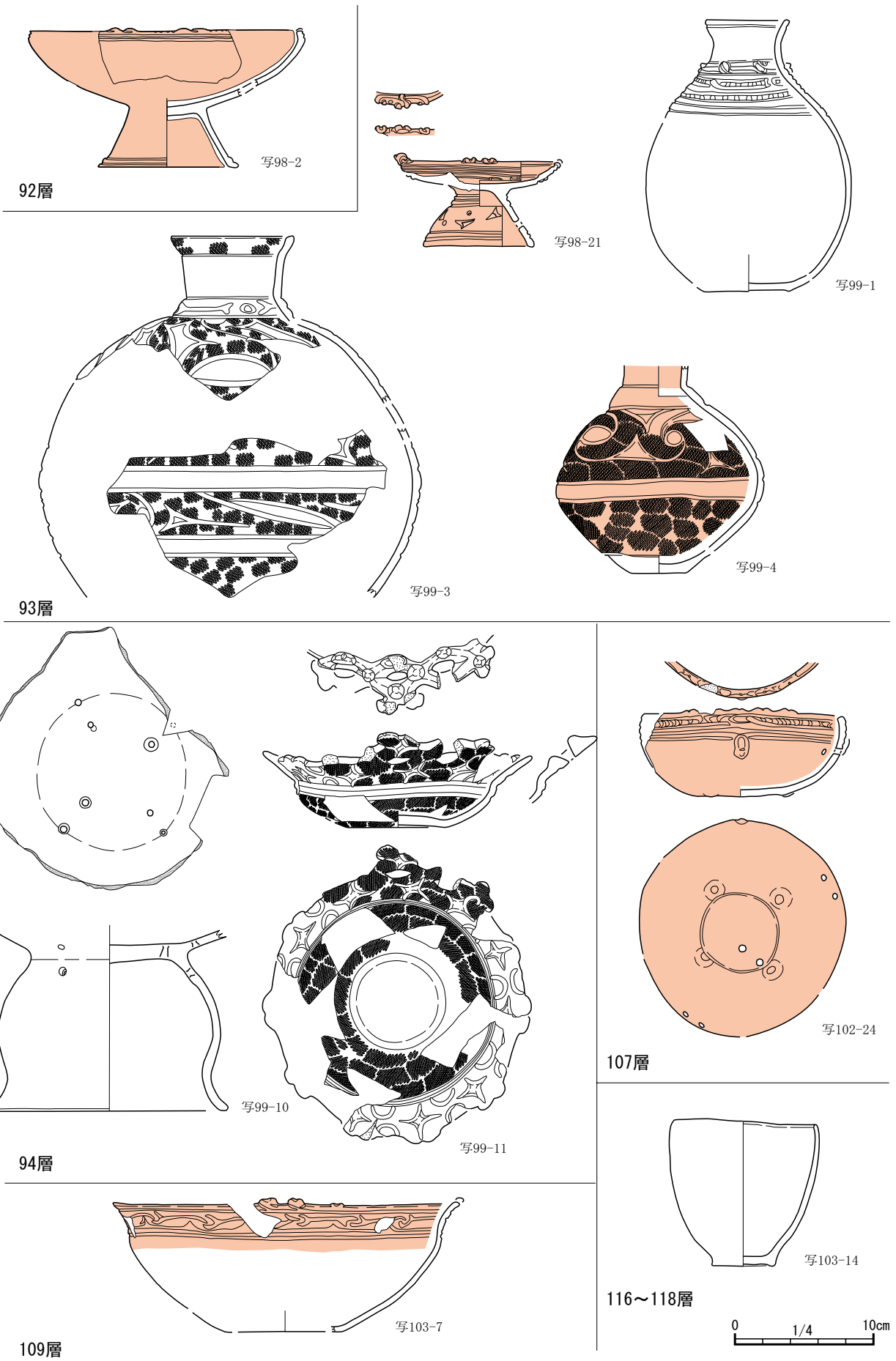


図18 土器(9) 92, 93, 94, 107, 109, 116~118層

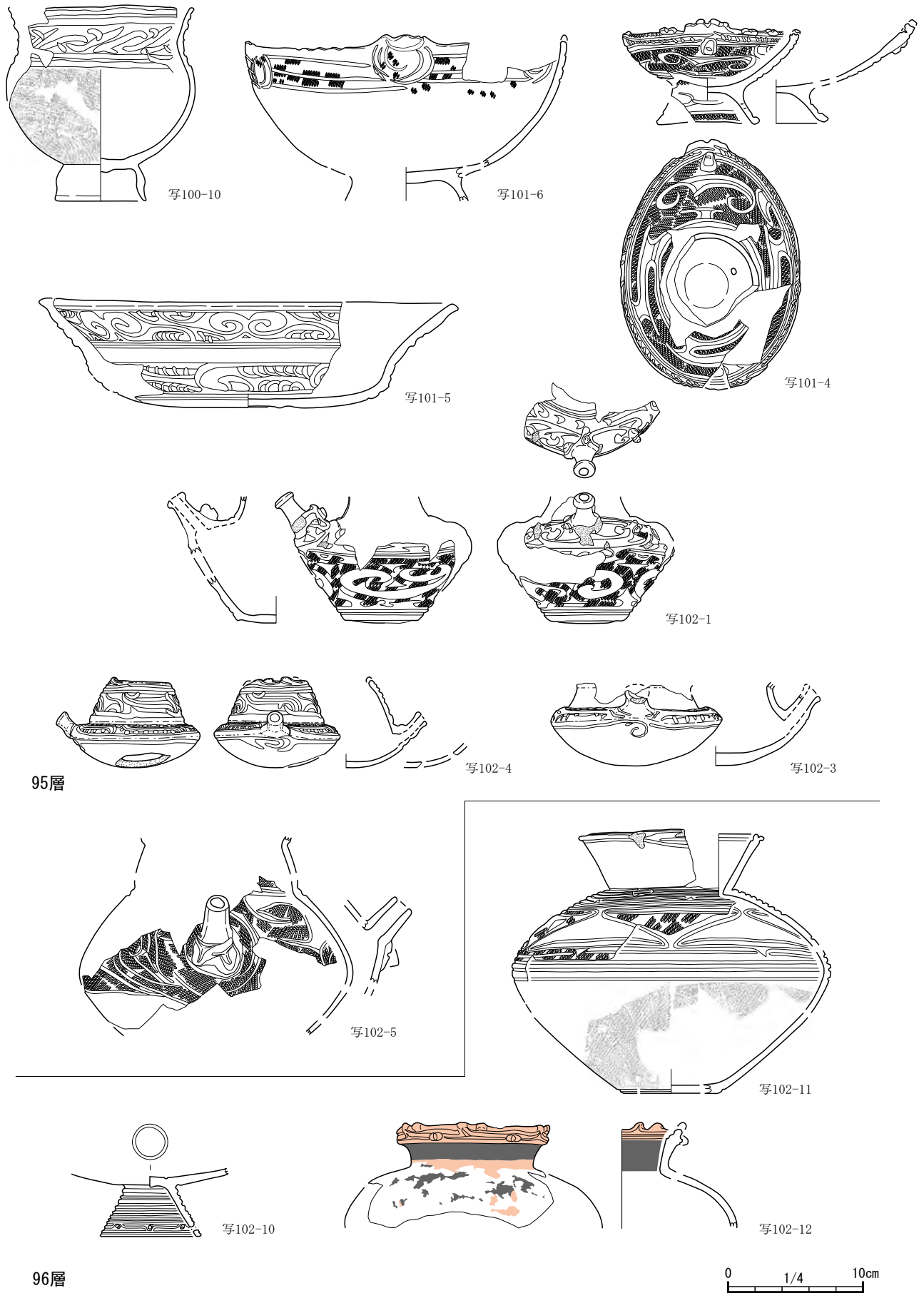


図19 土器 (10) 95, 96層



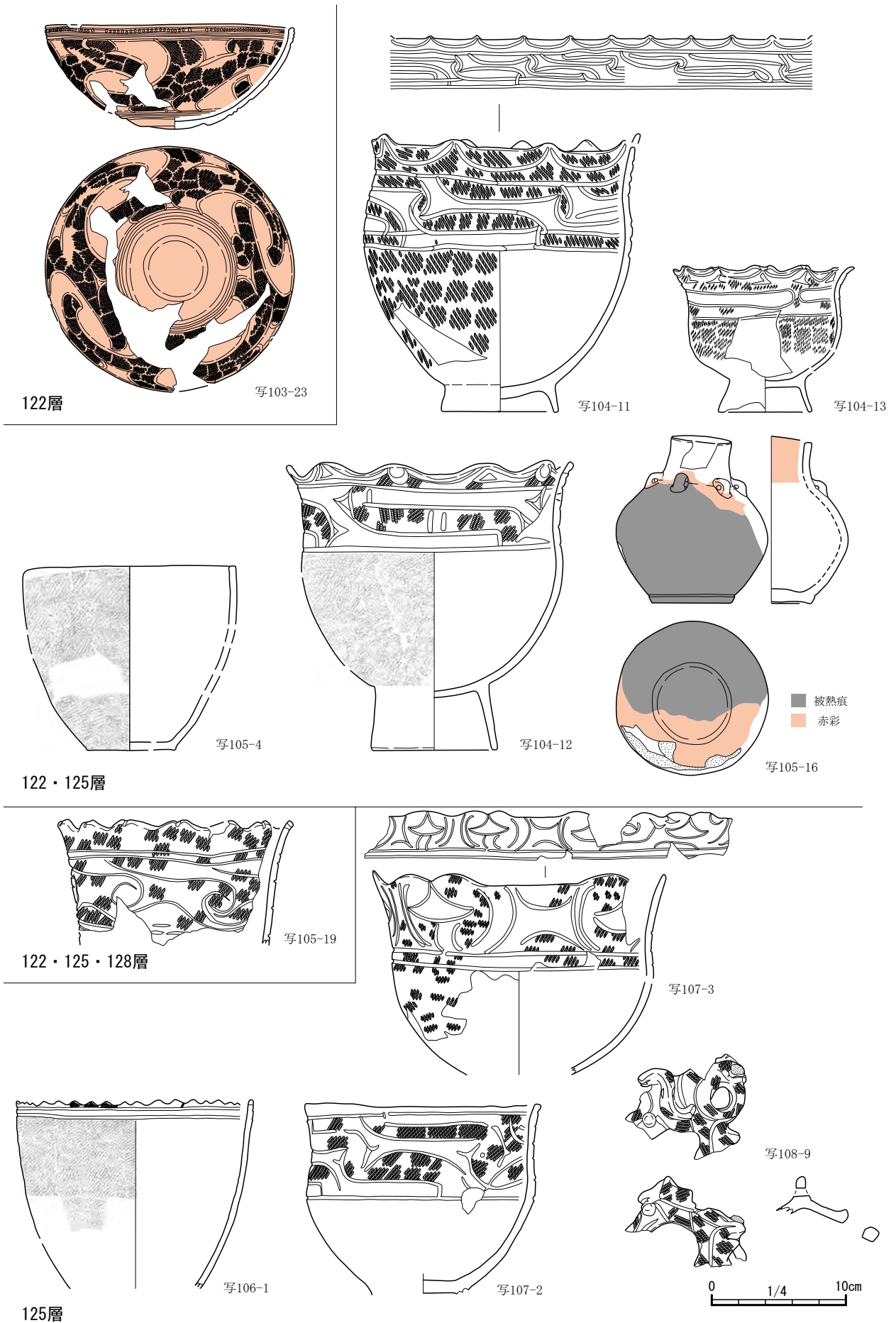
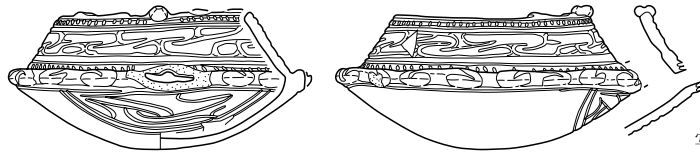
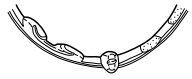
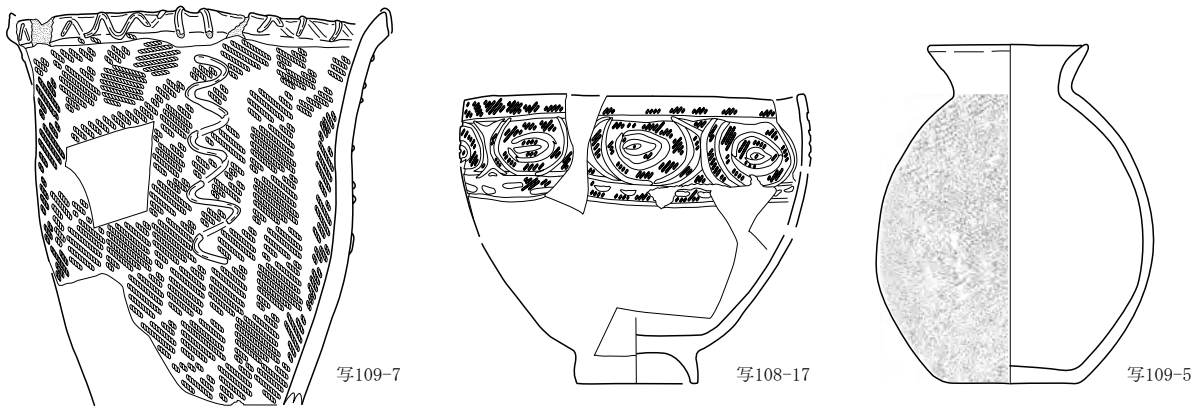


图20 土器 (11) 122, 122・125, 122・125・128, 125層



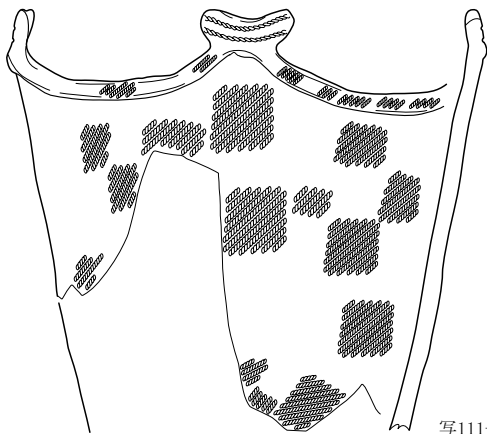
127層

写109-6



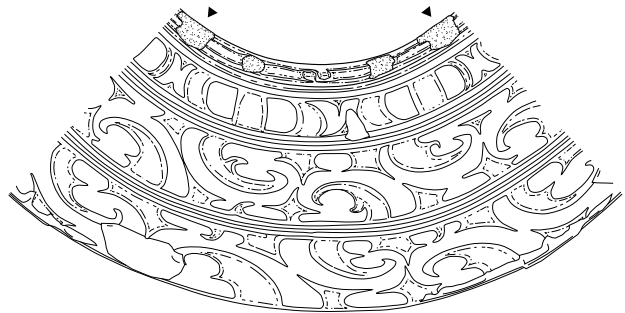
128層

写111-1

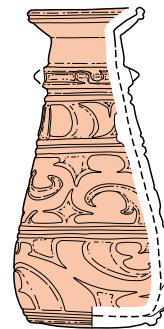


写111-12

129層



出土地点不明



写112-13

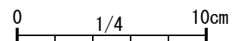


图21 土器 (12) 127, 128, 129層, 出土地点不明



### 3 土製品

北捨場からは、土偶36点・土製品2点・耳飾り11点・動物形土製品2点・有孔土製品2点・腕輪形土製品1点・棒状土製品1点・スプーン形土製品1点・土玉1点・土版2点・土冠1点・石剣状土製品1点・粘土塊61点・円盤状土製品53点・異形土製品1点・ミニチュア土器105点の281点が出土した。なお、掲載遺物のうち土偶3点(5、20、23)とミニチュア・小型土器2点(199、272)は、クラック地点出土である。

**土偶** (図22～25、図26-34～38・40) 土偶は36点が出土した。西捨場に次ぐ出土量である。24は中実の屈折像形土偶であり、24は股部分と思われる。1は顔面を表現しないいかり肩、21は表面を隆帯で裏面を沈線で施文し、体部の中心部に貫通孔がみられる。1はO脚の立脚形で下半部にパンツ状文様を施文し刺突を充填している。17は手づくね土偶であり、顔面を刺突で表現している。16は眉・鼻・目・口を粘土で貼り付け口部を貫通している。頬部には、円形文を施文し赤色顔料が前面に付着している。18は眉・鼻・目・口を粘土で貼り付け、横線で目を表現している。頭頂部は角状に表現している。

26・31が頭部から体部にかけて中空であり、腕部及び脚部は中実である。26は腕部・脚部すべて中空である。31は顔が円形で目・鼻・口を粘土で貼り付け、口部は貫通している。頬に円形の沈線を施文しており、16の土偶顔面の作りに類似している。断面を見ると前に突き出ていること、耳と顔が離れていること、顔の作りが大きいことから推定すると仮面付土偶と考えられる。32・33・34は遮光器土偶と呼称されるもので、楕円形の目の輪郭に横一線の沈線を施文している。32・33は頭頂部に王冠状の文様、34は王冠状を有していない。3点とも赤色顔料を塗布している。38は目が三角形で頬にU字形を施文しており、土偶の中では特異な様相を呈している。中実と中空の製作を比較すると中空は薄手の作りで焼成が良好なものが多い。

**土製品** (図26-39・43) 43は底面が楕円形で中空であり、全体の形状が不明である。下半部に粘土粒を貼り付けている。

**耳飾り** (図26-41、図27-44～53) 耳飾りは11点が出土した。41・44～49・51～53は滑車形・50は漏斗形を呈し、51・52は中心部に貫通孔がみられる。文様は48が放射状・49が弧線と刺突・52が三叉文を施文している。47・50は赤色顔料を塗布している。

**有孔土製品** (図27-57・60) 有孔土製品は2点出土した。60は円形で中央部に貫通孔があり表面に黒色付着物がみられる。

**動物形土製品** (図27-55・56) 動物形土製品は2点出土した。55は頭部で目・口を表しており、側面は鼻がとがっており「トリ」の可能性も考えられるⅡ図92-11に類似することから、香炉の頂部の可能性もある。56は先端部に鼻・目部を表現しているが動物(種不明)ではないかと考えられる。

**腕輪形土製品** (図27-58) 腕輪形土製品は1点出土した。薄手で湾曲した形態である。両端に円形の孔があり、表面には、くずれた三叉文・裏面に縄文を施文している。

**棒状土製品** (図27-59) 棒状土製品は1点出土した。59は両端部が欠損しており、下半部に突起がみられる。

**スプーン形土製品** (図27-61) スプーン形土製品は1点出土した。61は柄と体部上半が残存している。表面は無文で裏面に縄文を施文している。

**土版** (図27-62・63) 土版は2点出土した。62は周縁部を打ち欠いた菱形を呈し、63の裏面は剥落しているが表面に斜位の沈線を施文している。

**土冠** (図28-64) 土冠は1点出土した。64は三角形の一部が残存している。底面には溝状の沈線があり、どっしりしたとした形態である。表裏面には三叉入組文を施文している。

**石剣状土製品** (図28-65) 石剣状土製品は1点出土した。65は本来は棒状土製品の範疇に属するかもしれないが、形態が石剣に類似しているため新たに名称を付した。両端は欠損しており端部に二条の沈線を巡らしている。

**焼成粘土塊** (図28-66~96、図29) 焼成粘土塊は61点が出土した。大きさは2cmと小形なものから7cmの大形なものがあるが、小形なものが主体を占める。色調は明褐色の明るい色調をなす。全体的に凸凹のみられる不規則な形態が主体を占めるが、120・124のように表面が平坦なものもみられる。

**円盤状土製品** (図30) 円盤状土製品は53点(内1点は非掲載)が出土した。土器破片を用いて周辺を打ち欠いており、擦りも認められる。基本は円形の形態であり159は洋梨形であるがまれである。大きさは最少が2cm(140)・最大が9cm(160)であるが、4cm前後が主体を占める。土器破片は鉢・深鉢の体部破片を用いており、174・175は底部を用いている。127・128は中心部に円形の貫通孔、131は多条沈線、129・130は地文縄文に沈線の土器である。文様は縄文が主体を占め、スス状炭化物の付着が多い。

**異形土製品** (図26-42) 底辺が広がる無文のもので、全体の形状が不明なものである。

**ミニチュア・小形土器** (図31~36) ミニチュア・小形土器は105点出土した。器種は壺・台付鉢・鉢・浅鉢・注口が出土しており器種毎に記載する。

壺は下半部が張り出すものと体部が張り出す形態がある。体部上半と下半に横位の沈線を巡らして文様区画帯を構成し、198は三角形文と渦巻文を施文している。207は縄文のみを施文している。器表面には204が漆、198・206・209は赤色顔料を塗布している。台付鉢は、台部が高いもの214・215などがあり、214は円形及び三角形の透かし孔を215は弧線文を施文しているが、台部への施文は少ない。鉢は、底部から口縁にかけて立ち上がるもの197の形態などがある。口縁は平口縁が主体である。222・229などは器表面に沈線文を施している。注口281は、体部上半に注口を有する。器表面に横位の沈線と刺突列を施文している。

(成田)

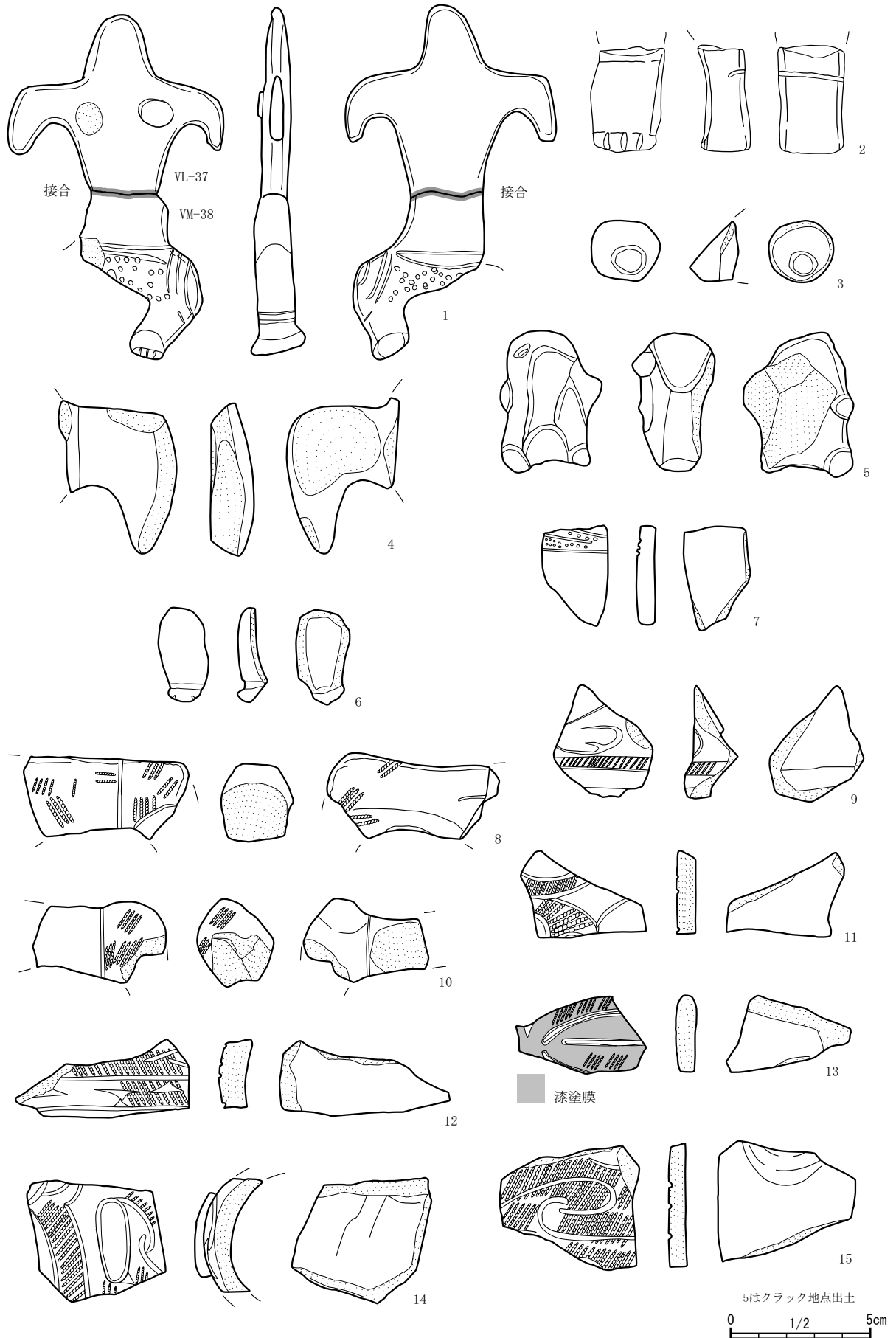


図22 土製品 (1)

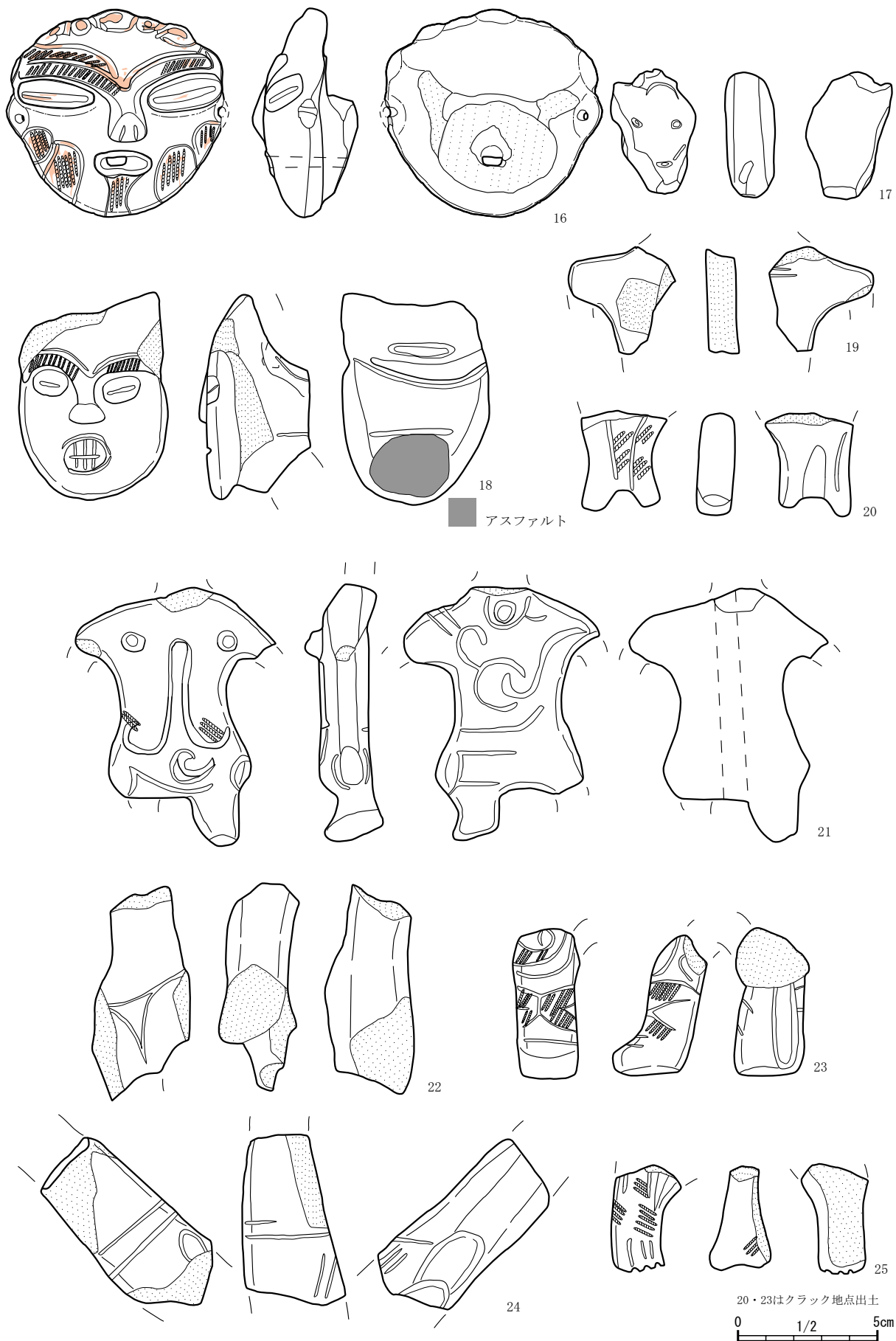


図23 土製品 (2)

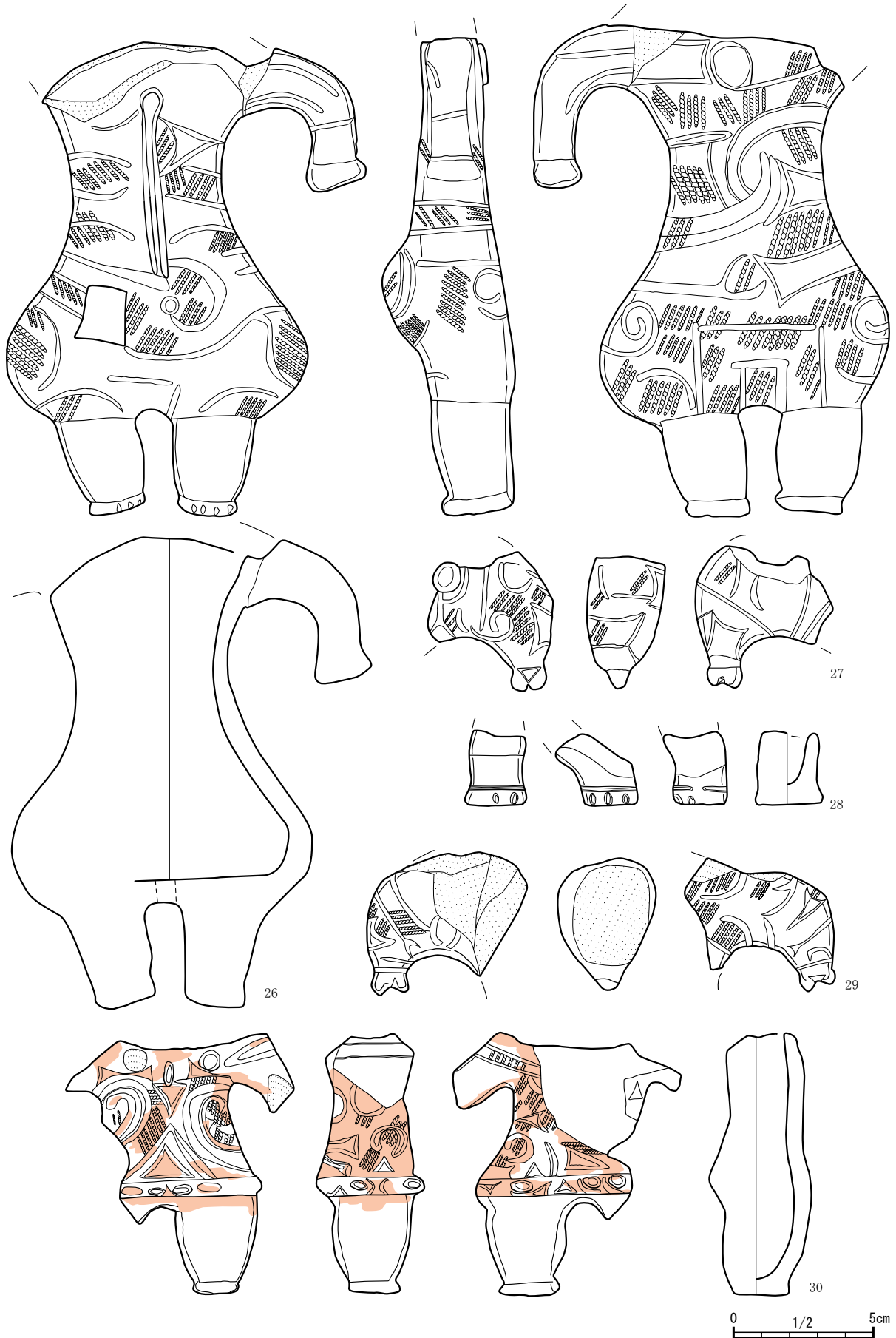


図24 土製品 (3)

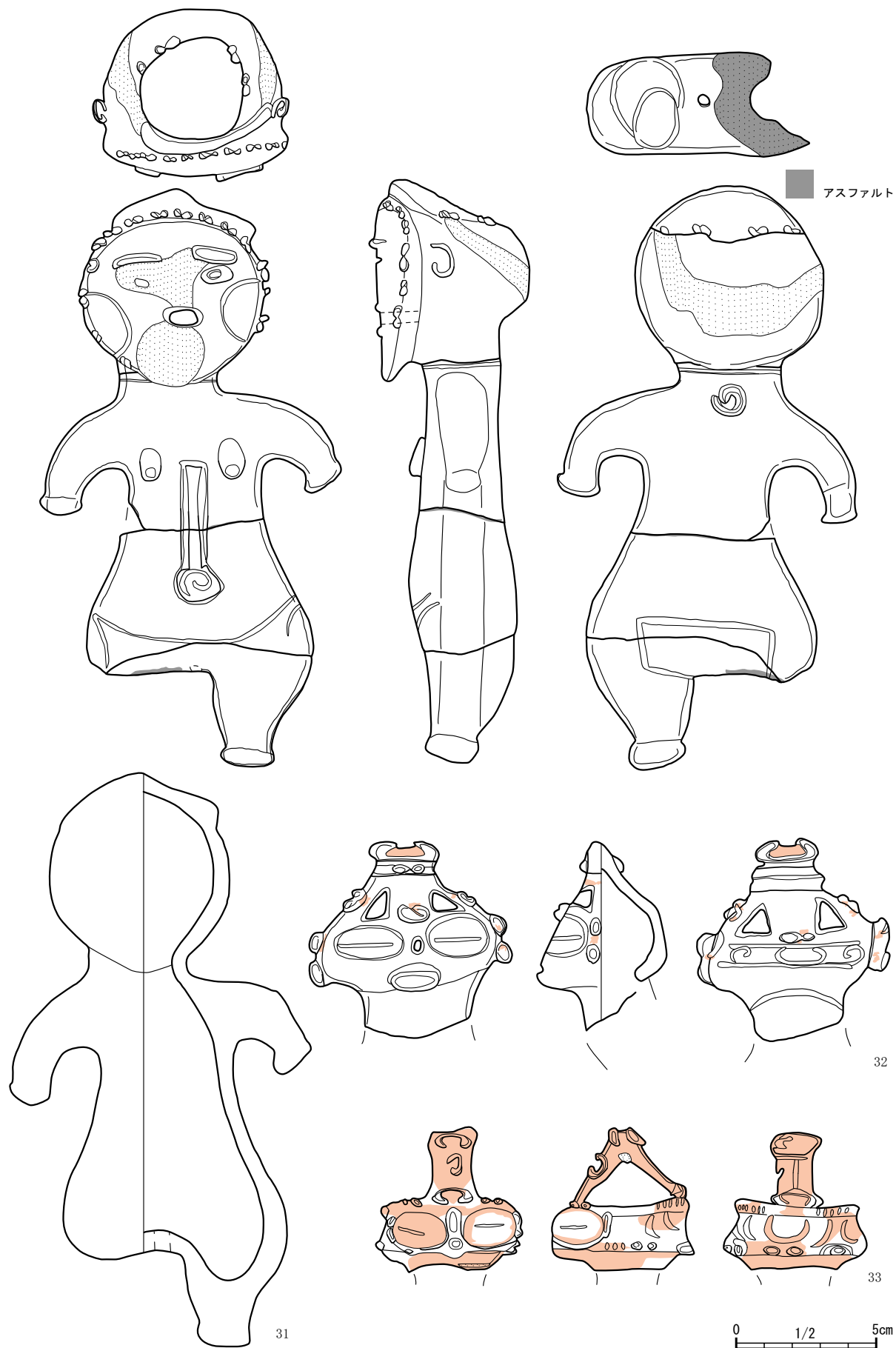


図25 土製品(4)

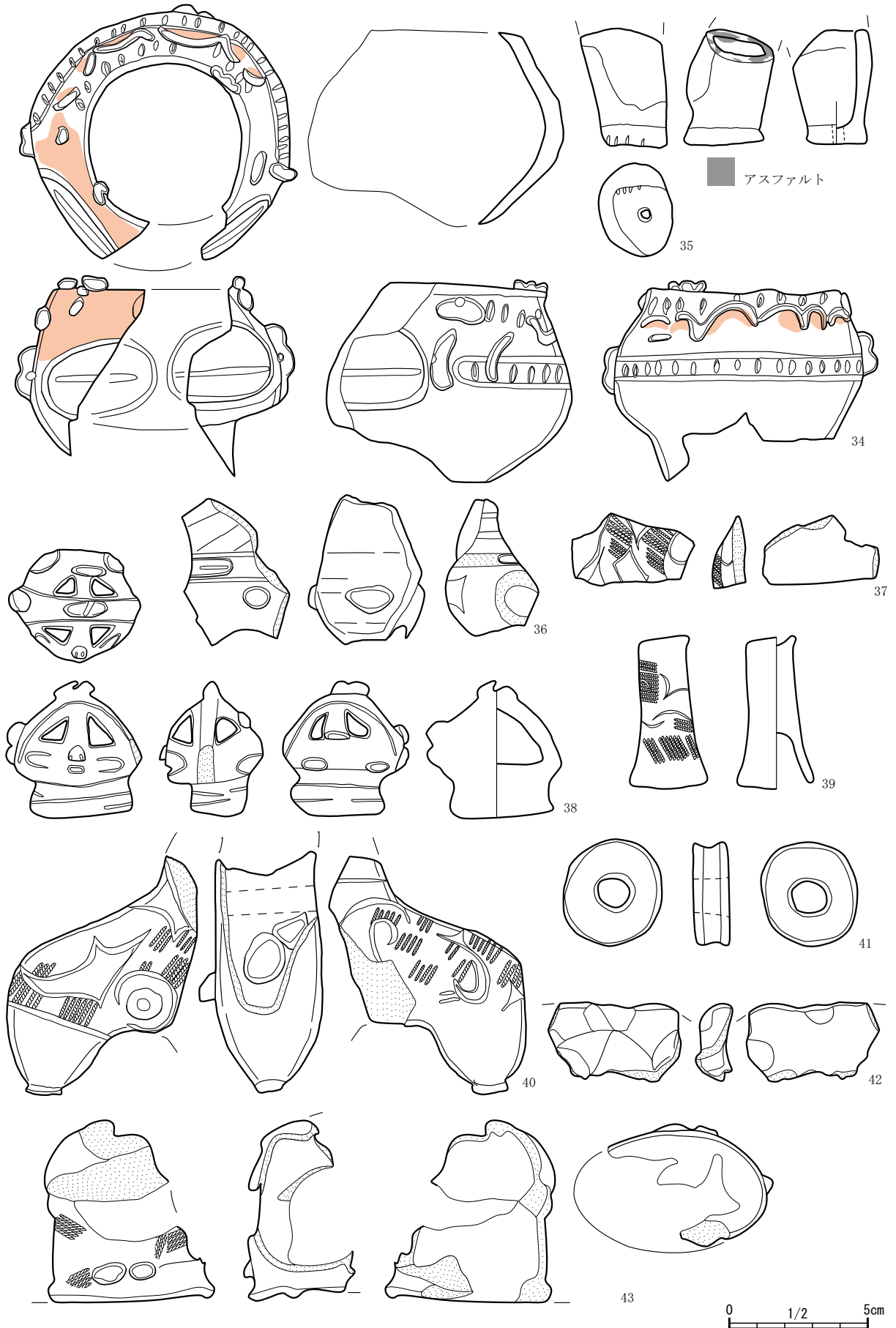


図26 土製品 (5)

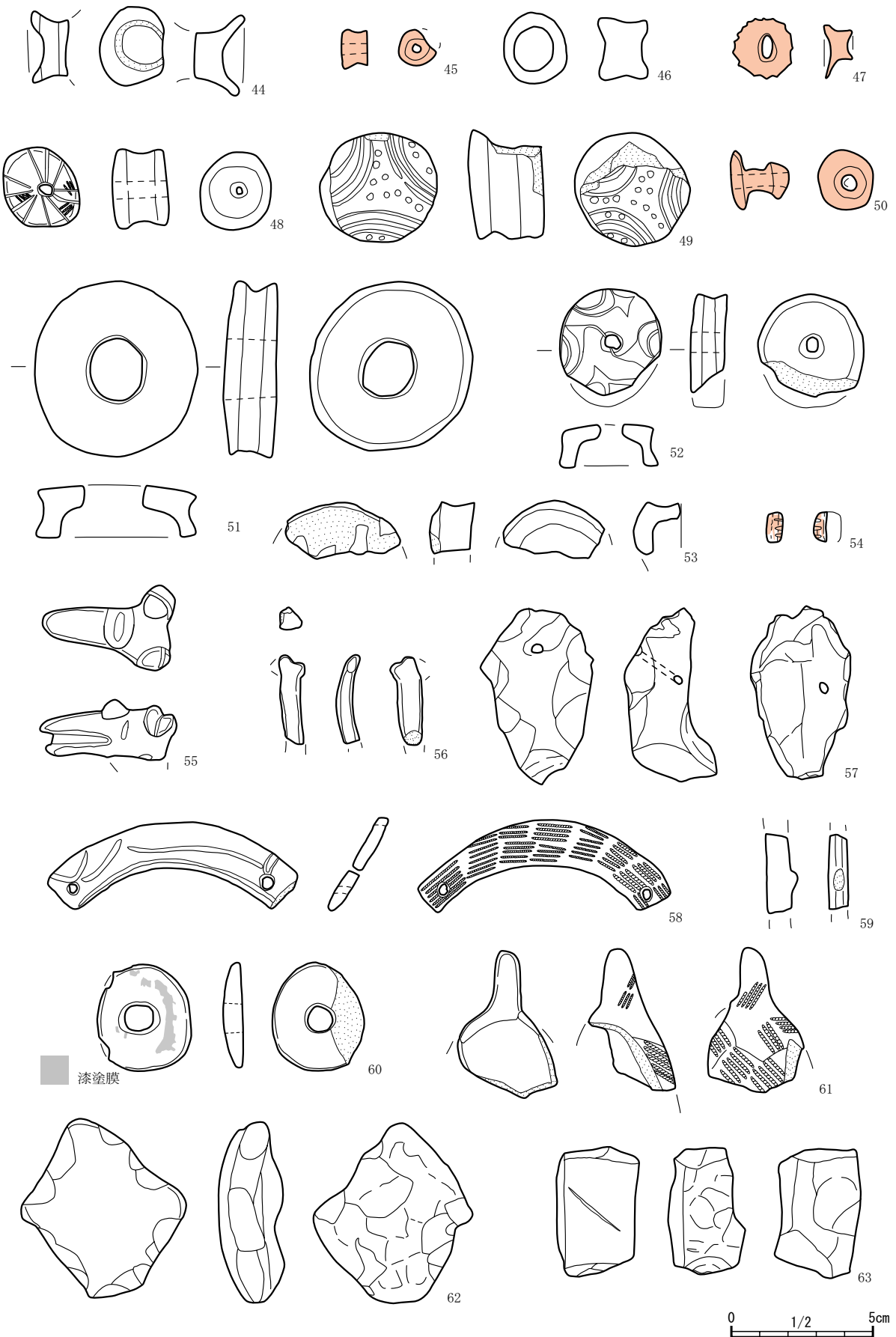


図27 土製品 (6)



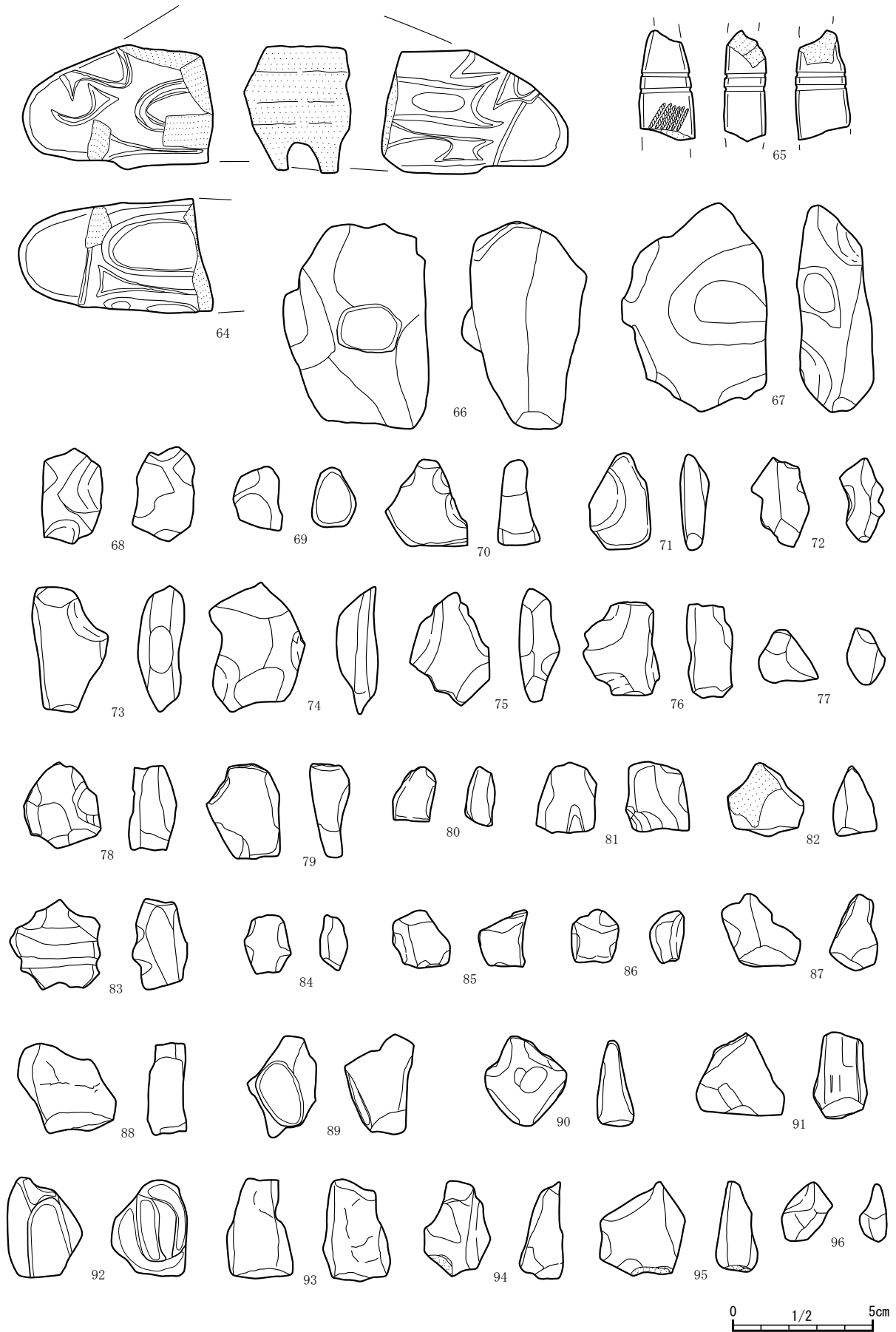


図28 土製品 (7)

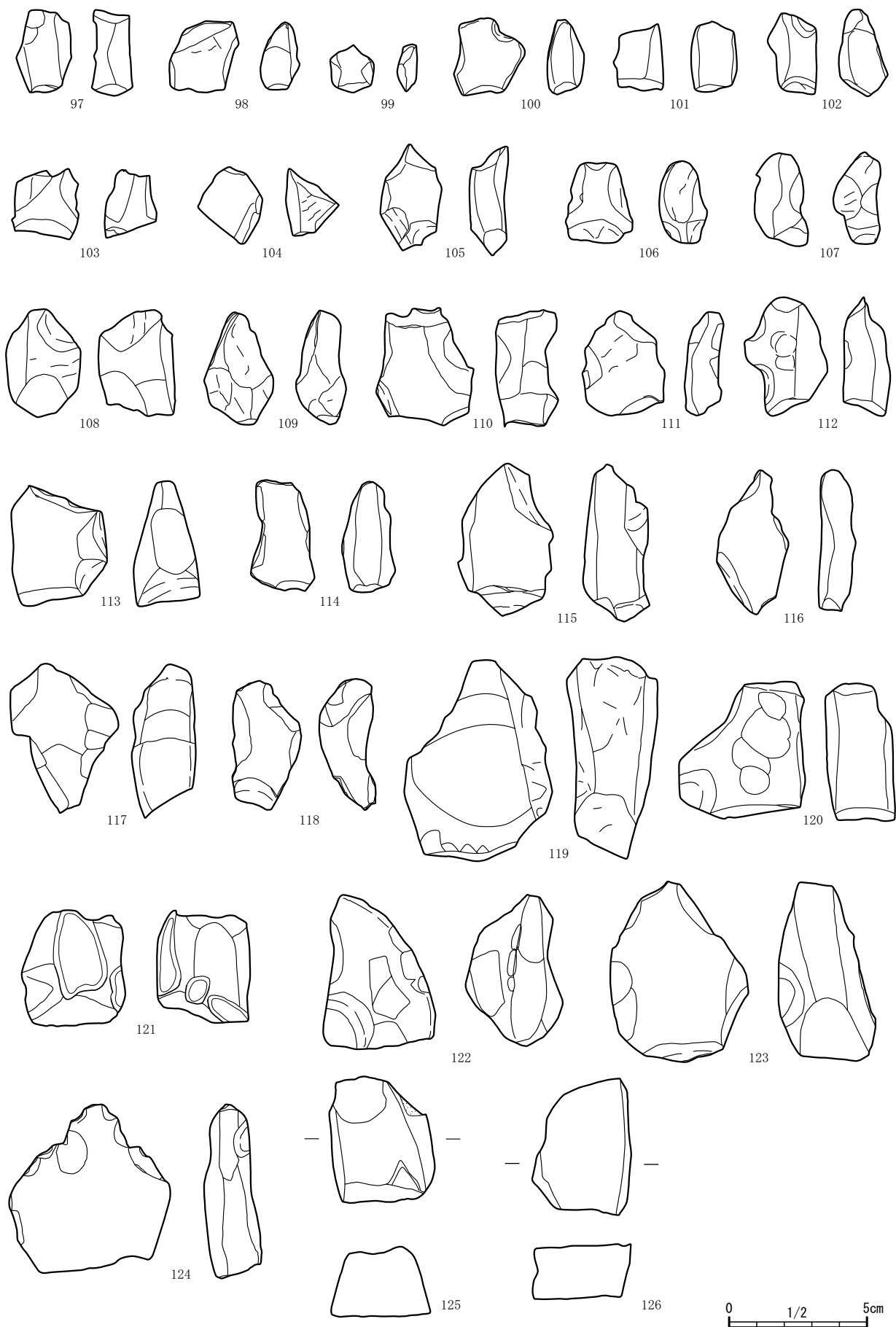


图29 土製品 (8)

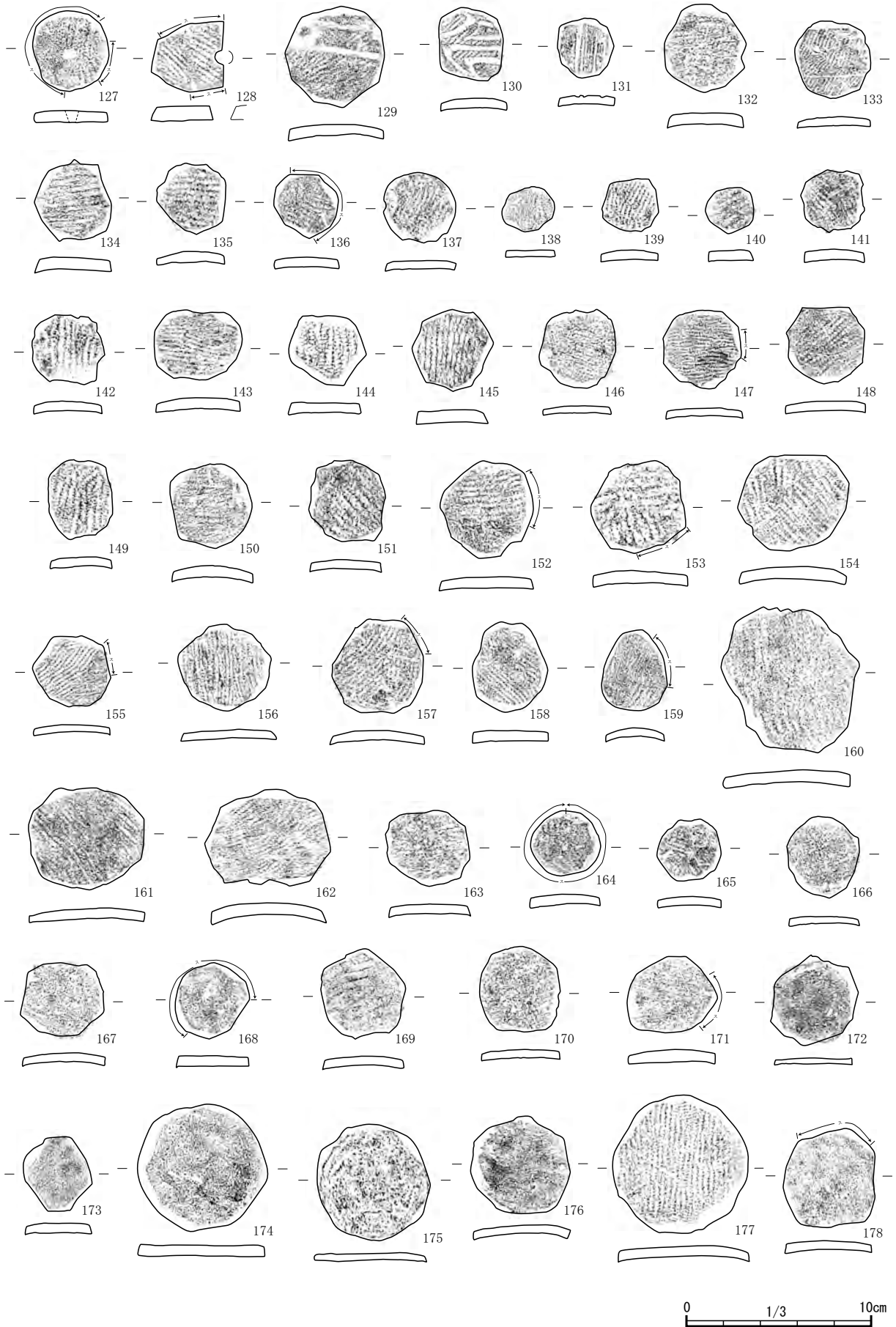
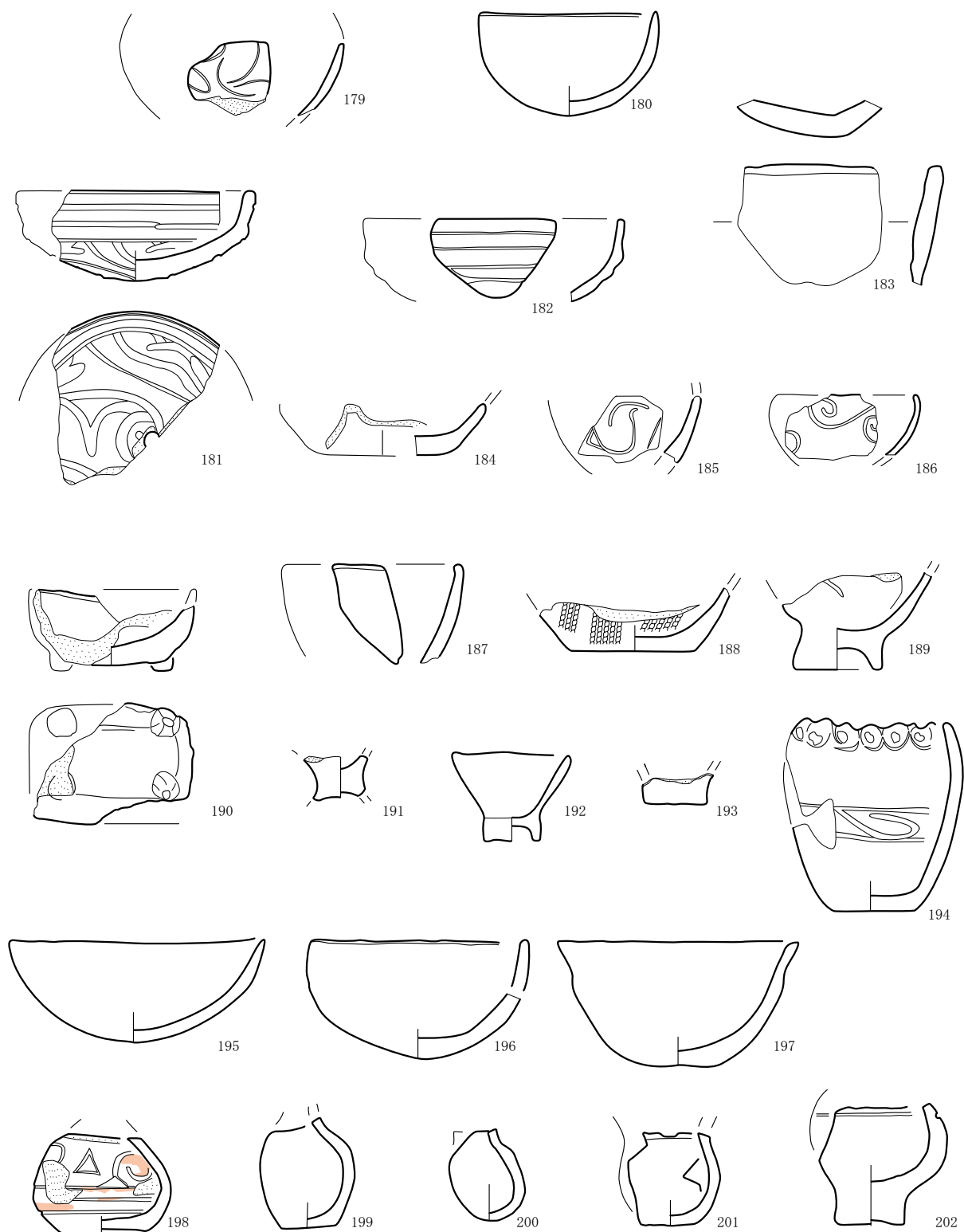


図30 土製品 (9)



199はクラック地点出土

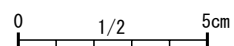


図31 土製品 (10)

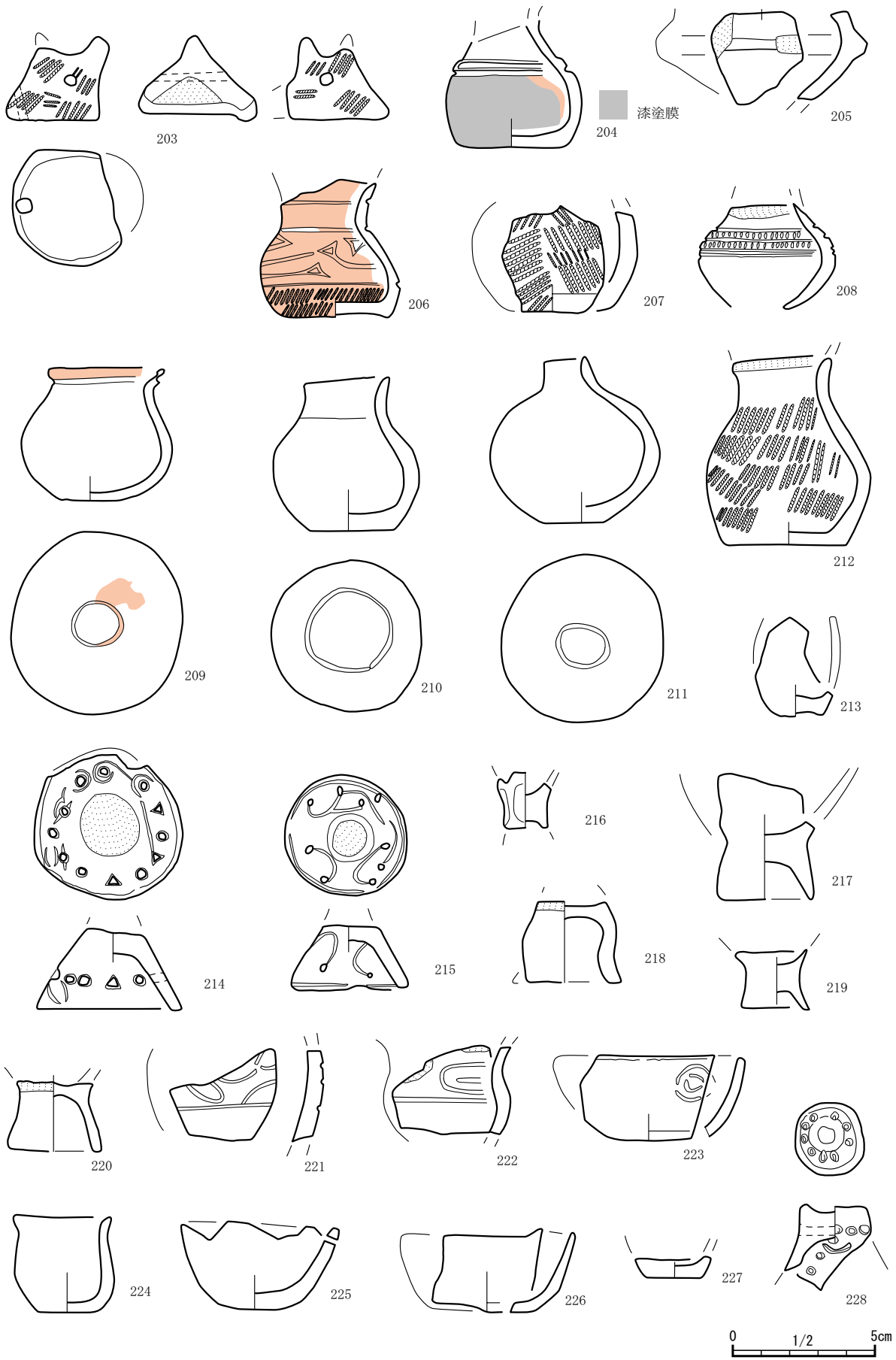


図32 土製品 (11)



図33 土製品 (12)



图34 土製品 (13)



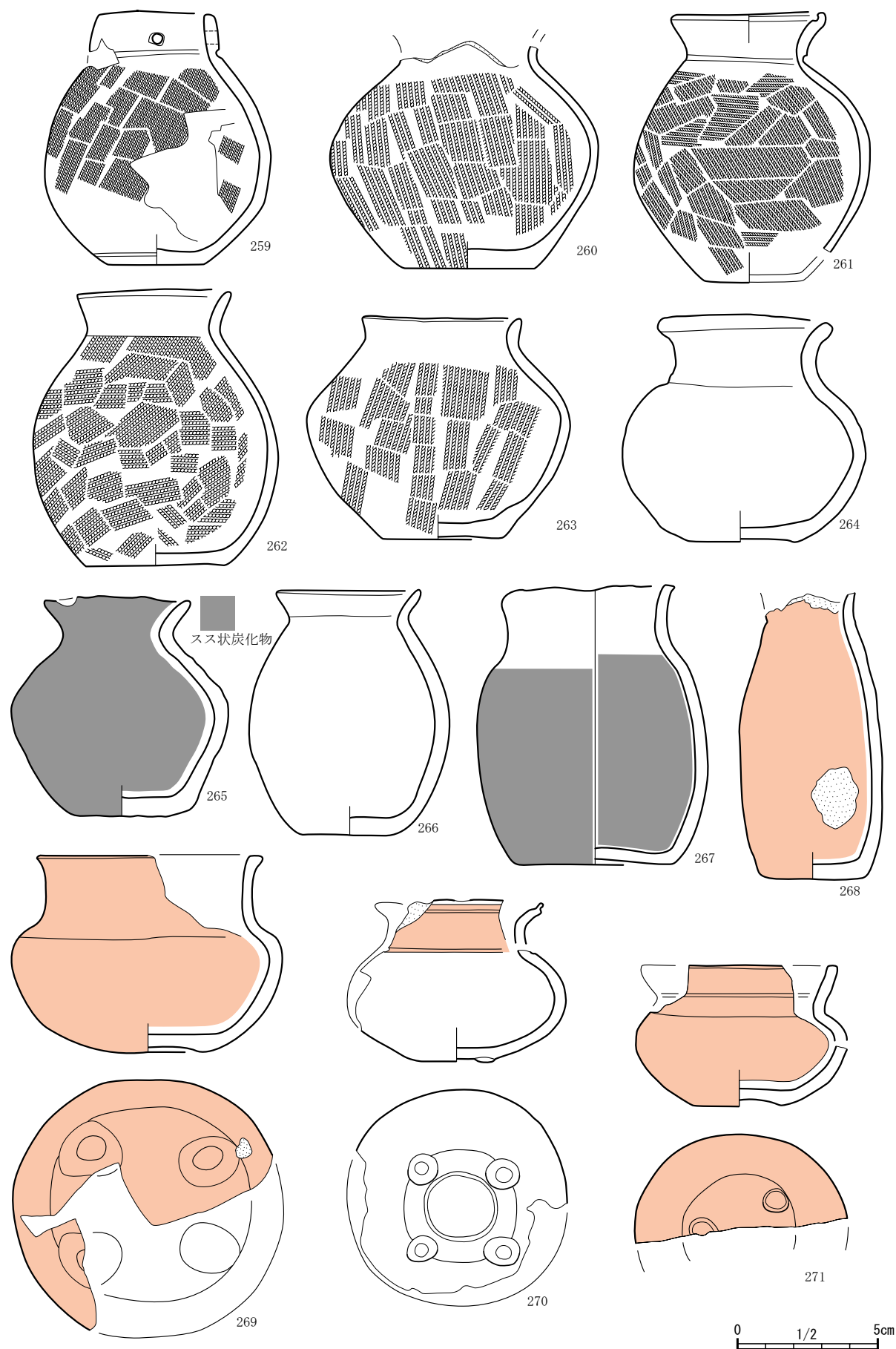


図35 土製品 (14)

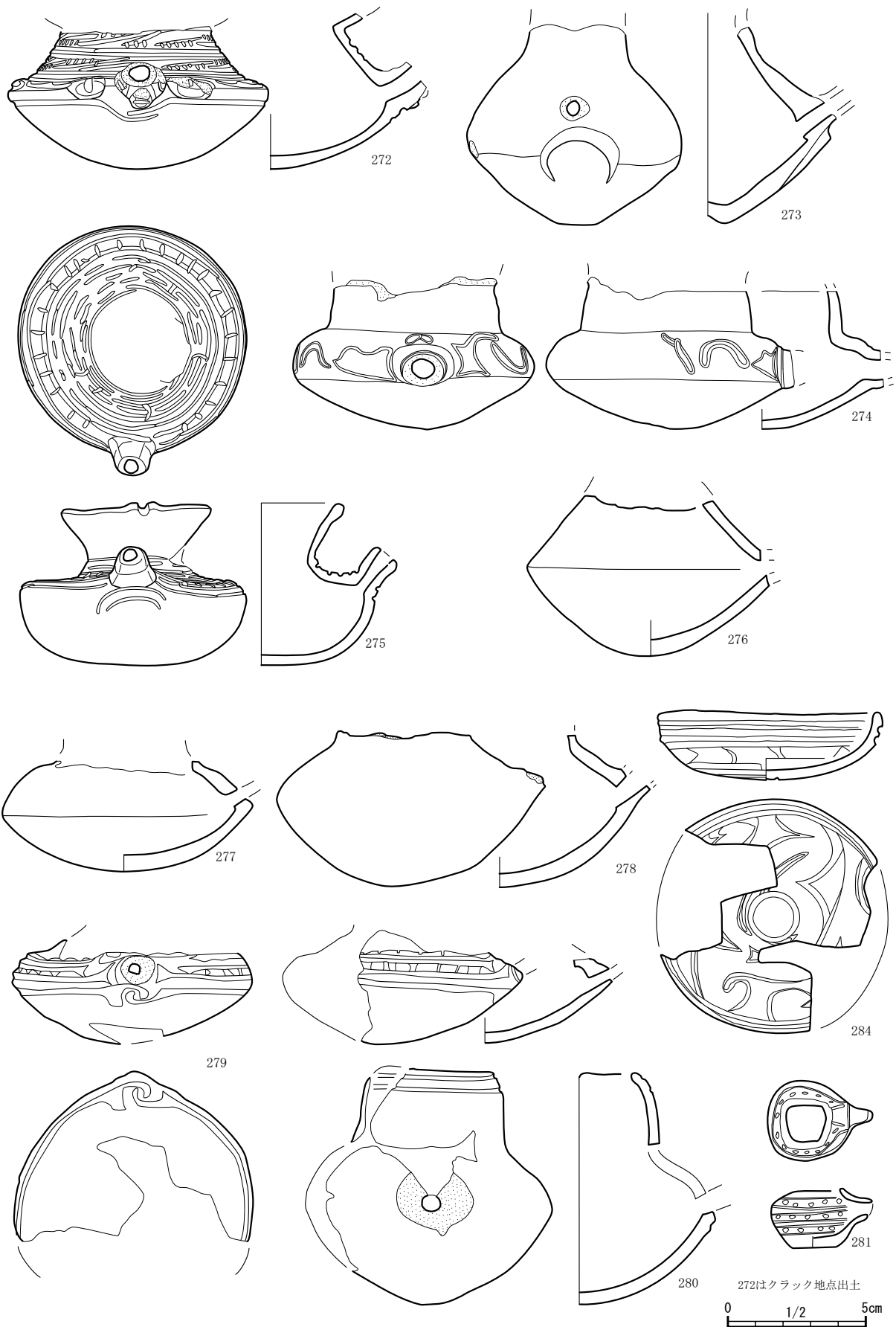


図36 土製品 (15)

## 4 石器

剥片石器や礫石器、石製円盤などの石製品は出土量が多く、写真掲載を基本とした。そのため、これらの種類の石器・石製品では写真図版により事実記載する。図化が進んだ磨製石斧等については、図を使用する。写真・図ともに、上層から下層に向かって掲載することを基本とした。その他報告に関する考え方や石器出土点数及び組成については、報告書Ⅷに掲載した。

## 【剥片石器】

**石鏃**（写真121-1～122-29）：ほとんどが珪質頁岩製であるが珪化が進んだ良質なものが多い。写121-94は長さ7.1cmと大形であり、石材の質も良い。全体的に有茎凸基鏃が多く、形状と大きさは多様性がある。茎の有無や長さ、鏃身から茎へとつながるマチの部分の張り出しの形などの変異はあっても写121-4～10・12～15・20～25・36～39・42・45～66・70～80・91～95など丁寧な加工で整った左右対称の形に特徴がある。そのため、写121-16・28・96・97など左右非対称の物は未製品の可能性がある。写121-68・69、写122-1・2・7・22は幅が狭く石錐の可能性がある。写122-8は淡い緑色の珪質頁岩製であるが肉眼的に類似する石材は弘前市南部の直線距離で約20km離れた沢部(2)遺跡で多数出土している。石核や剥片を含む石器群が得られており、石器製作が行われている。この石材の分布範囲は不明であるが、一定の距離の離れた場所から搬入された可能性がある。写122-24は無茎で右側の脚部を欠失しているが、左側の脚部でみると屈曲がある異形の石鏃である。なお、先端が摩耗し石錐への転用が考えられるものは本類に含め、その旨を観察表に記載した。

**石錐・石筥ほか**（写真122-30～124-16）：写122-30～123-35は石錐である。写122-49は石筥、59は石鏃の可能性がある。61はアスファルトが付着している。31・72、123-16はY字形、写122-54・75・78はT字形の石錐であり、写122-79・123-7・25は、その中間的な形である。特に写122-79では上に向いた左側に、つまみの作り出しが明瞭である。写123-36～124-12は石筥で、写124-13～16は両面調整石器である。

**石匙**（写124-17～128-13、写128-15～130-27）：つまみ部の位置と形状、加工の度合い等の変化が大きい。また、つまみ部を複数持つなどデザインを優先させているように思われるものは異形石器との区別が難しい（写真124-25・31・128-29）。つまみ部は写126-3・16のように2つに分かれるもの、他には写127-2～3のように、つまみ部とは言えないものの突起を作り出したものがある。横型の三角形の石匙では厚くアスファルトが付着しているものがあるが、基本となる横方向に加えて縦方向にも付着するものがある（写真125-7・130-20）。アスファルトについては、つまみ部のみならず、一側縁に付着するものがある（写真125-34・126-24）。写129-33は刃部に付着している。写125-22は板状の玉髓の原石に刃部を設けた石匙である。表面は凹凸を持つが、縄文時代晩期では五所川原市千苺(1)遺跡（青森県教委1995）でも同様の玉髓の板状原石が石匙に使用されている。写129-21、130-9は石筥の可能性がある。写128-5・17・20、130-3は、つまみ部と刃部の作り出しが弱く、石匙未製品や削器の可能性がある。写130-21・25は、つまみ部以外の加工が少ないものであるが、アスファルトが付着している。写真130-27は石匙のつまみ部あるいは石錐の破片の可能性がある。

**搔器・削器**（写真130-28～132-17、132-19～133-14・16）：写131-7・132-31は搔器とした。写130-34は自然の孔がある。

**両極石器・異形石器ほか**：写真133-17~20は両極石器である。同21~25・28は二次加工剥片である。同26は三脚石器状で27・29・30とともに異形石器とした。同31は中央の抉り部分から上下が点対称となっている。同32の上下は線対称であり、両者も異形石器とした。写134-1は、上下を接合した長さは25.6cmで重量は551.6gである。中央の抉りの部分から上下は概ね線対称となっており異形石器とした。同2~5は突起と抉りの作出から異形石器とした。同6~14は微細剥片である。

**石核・剥片・原石・石核転用敲石**（写128-14、写132-18、133-15、134-15~141-5）：石核は写134-19のように縁辺から求心的に剥離するものが多い。石核転用敲石は、石核の稜線や平坦面を基点として敲打痕が残るものである。写137-9のように両極打法による石核は敲打痕が残ることがあり区分は難しい。石器の変形を物語るものとして剥片・原石を敲石としたものを含めて本項で扱う。写135-10は大形の剥片を敲石に転用したものである。最後は敲打痕により中央部の両側縁が内側に窪む形状となっている。写140-1・6の石核は、最後に中央部の側縁が内側に窪む形状で作業が終了している。左右対称で上下も概ね対称となり異形石器に類似した形状で終了している。さらに小さな剥片を剥がしていくと異形石器とした写133-31・32と類似する形状となる。写138-12および写139-6は、玉髓製の敲石である。原石転用ではなく素材礫を敲石用として目的的に搬入した可能性もある。小形で敲打による対象物への衝撃をコントロールできる大きさと重量である。安山岩等の敲石と同様に1/3で掲載して、その石器組成に含めることよりも石核転用敲石に準じた扱いとする事を選択した。写139-8は、緑灰色の流紋岩の原石であり、写140-9の剥片と対応する。珪質頁岩の入手が容易な本遺跡でも少数ながら同質の剥片は出土している。写140-11~13・15~20は黒曜石の原石、石核、剥片である。13は深浦八森山群で、15は秋田県男鹿金ヶ崎群である。写141-5は珪質頁岩の大形原石で、長軸26.2cm、重さ9.18kgである。

（齋藤）

### 【石斧】

**打製石斧**（写真133,141,142、図44、49）：写141-6は、珪質頁岩製の分銅形に近い形状である。写141-7は、粗粒玄武岩製の、基部が欠損した打製石斧である。石材としては、磨製石斧になり得る。写142-1は、剥離と、側面の敲打で全体を整形している。安山岩製であり、磨製石斧の未製品の可能性がある。写133-32は珪質頁岩製の分銅形打製石斧である。刃部には剥離整形はなく、微小剥離痕が見られる。

これらの資料の刃部には土擦痕は確認できなかった。

**磨製石斧**（写真142,143、図44~49）：大形から小形磨製石斧まで出土し、大半は欠損している。小形磨製石斧は片刃が多い。石材は、緑色岩、緑色片岩、軟玉、滑石片岩、粗粒玄武岩、安山岩、凝灰岩などがある。

整形加工は敲打と研磨が主体的である。他の捨場などからは、緑色岩に擦切痕が確認できるが、北捨場では擦切痕を持つ磨製石斧は確認できなかった。写143-7は、珪質頁岩製であり、両面調整の剥離整形の後、表面全体に摩耗が見られるが、水性摩耗に近い特徴を持つ。そのため、整形によるものとは断定できないため、磨製石斧でない可能性もある。

接合資料としては、写142-8は、振替43層（捨P2上層）と振替57層（捨P3上層）出土同士が接合している。

欠損した後、再加工や敲石など他器種への転用例がある。写142-3は、刃部が欠損し、欠損部に敲打痕が見られる。写143-1は、刃部が欠損している。その欠損部に敲打痕が見られることから、敲石に転用されたと推定される。写143-2は、基部が欠損している。その欠損部に剥離や敲打痕が見られる。

(高橋)

#### 【礫石器】

磨面と敲打痕など複数の種類の使用痕を持つものも多いが、主体となる使用痕から概ね磨石、敲石、凹石、石皿の順に掲載した。磨石は花崗岩や安山岩などの硬質の石が多く、凝灰岩も使用される。大きさも大形から小形まで多様性がある。写144-22・146-3・11のように球形で全面が磨面のものは石製品の可能性がある。写150-12の裏面中央部は平面的であり、写真190に示したような半球状で底面が窪む石製品の未製品の可能性がある。

敲石とした写150-11は両側縁が抉りとなり、石錘の可能性がある。

凹石は、凝灰岩など軟質の石材のものが多い。欠損のあるものでは写157-18、158-19・23、160-20・21のように凹痕の部分で割れているものがある。

写161-8は左右と上部に敲打による抉りを作り出しており、石錘とした。同9はざらざらした器表面に磨面が形成される。同10は加工のある礫である。

石皿は、他の捨場との接合例を得ることができた。写172-2・3・6・7が西捨場のものと、同4・5が北東捨場のものと、同8がクラック地点のものとの接合品である。

写真173は自然礫である。1は全体形状が勾玉状で、上部に突起を持つ異形の礫である。同4・5・16はくびれ石で、6・7は珪化木である。同8は穿孔具による生痕化石が凹痕状となっている。写真161-7も同様の自然礫である。敲打痕の可能性のある部分があるが敲石あるいは石製品と認定することを保留した。写173-14・15は水晶の結晶である。

#### 【赤色顔料】

赤色顔料を採取するための自然礫及び加工残滓と考えられるものの一部を写真196の右下に掲載した。左端はVM-40グリッドの89層で9月2日～3日にわたり出土したもので、その右(中央)の5点は同グリッドの89層の8月29日の出土品である。軟質の泥岩であり垂角礫状の形や表面の状況が類似している。右下はVL-39グリッドの29層の1日分の出土品である。サイズが小さく角礫状であり、軟質のものは少ない。軟質部を取り除いた核のような形状のものがある。作業の残滓がまとめて廃棄された例と考えられる。

(齋藤)

## 5 石製品

### 【石棒類】

石棒類は写真174から177（図58～64）に掲載した。断面形状から、石棒、石剣、石刀に分類し（後藤1986など）、判断が付かない場合は石棒類とした。石棒・石剣は、棒状の形態が多く、石剣は扁平形態も含む。棒状形態の中には、長さが70cm近くになるものもある。柄尻は平坦面を持ち、先端は尖頭状を呈する。写176-3のような両頭の石棒もある。石刀は基本内反りか直刀である。写175-1は、完形の石刀である。三角形の柄頭に2条一組の沈線が2単位巡っている。柄部と刀身部の境に刃関は段を形成していないが、研磨で境はいくぶん明瞭になっている。写175-15は、長さが52cm程あり、断面形状から石剣と分類した。

大形石棒類が出土している。粘板岩以外の石材を素材とし、全面敲打で整形している。写177-2は、長さ41cmほどの安山岩製の大型品である。両端に頭部を作出した、両頭石棒である。全面を敲打で整形している。写177-5は、デイスイト製の石棒である。

石材は粘板岩が大半である。粘板岩の中には、堇青石、点紋粘板岩や凝灰質粘板岩が見られる。また凝灰岩製の石刀もあるが、これらは、粘板岩製に比べ、大形・厚手であり、加工も粗いといった特徴がある（写174-3など）。粘板岩製の模倣品の可能性もある。

製作技術は、剥離、敲打、研磨が主体である。写174-9は、先端部に赤彩の痕跡が僅かに見られる。

再加工を示す資料も数点確認されている。写174-4は、柄頭に沈線文が見られる堇青石製の内反りの石刀であり、刃先部が欠損している。欠損部に穿孔が3個見られる。写175-9は、石棒先端部の断片である。擦切痕が見られ、たたき折られたと推定される。折り取り面に敲打整形を行い、再加工している。何かしらに転用したものと思われる。写176-5は、石棒の断片であり、沈線文の側が欠損しているが、破損面を研磨し、再加工している。

石棒類は大半が欠損しているが、接合によって完形品になったものもある。また、捨場間、層位間接合が数点確認されている。写174-8は、異なる層で出土した同士が接合した。写176-12は、長さが69cm程ある石剣である。柄部が北捨場の振替84層（捨H層）から、先端が西捨場から出土している。写175-11は、石剣胴部の断片である。西捨場出土の破片と接合している。写175-15は、セクション9の上層部で出土したものが接合している。柄部と刀身部の境に沈線文、柄部先端に穿孔が施されている。写177-1は、石棒の先端部である。先端部が北捨場の振替122・125層（捨U層）から、胴部がクラック地区の下層から出土している。写177-3は、北捨場内の層位間接合している。写177-4は、長さが66cm程ある石剣であり、3分割されており、内1片は西捨場から出土している。

石棒類は、柄頭が素文と文様をもつものがある。写174-5は、柄頭に平行沈線と山形の沈線文が見られる。写174-4、写175-1は、平行沈線文を持つ。棒状の石棒・石剣類には、柄部と刀身部の刃関に、2本の沈線で区画された内側に敲打帯を施すものが多い。中には、写176-5のような、2本沈線間にX字の沈線文が施文されている。写176-12は、2条一組の沈線間に、楕円の沈線文が見られる。また先端部に沈線が施されるものもある。

（高橋）



### 【岩版】

形態は端部が丸みを持つ楕円形（図65-4・5）と端部が平坦な方形を呈する。

文様は図65-4が表面に眉・目・口を表し中心部に正中線を施文し左右に渦巻文を施文、裏面は入組文を施文している。図65-5は正面に正中線の左右に弧状文、裏面に入組文、図65-2は縦位に入組文を施文し断面にアスファルトを塗布している。図65-1、66-3は中心部に正中線、図66-2・4は表裏面に縦・横位の擦痕を施文している。時期は図65-4が大洞BC式、図65-2が大洞C<sub>1</sub>式、図65-5が大洞C<sub>2</sub>式と考えられる。

（成田）

### 【石製円盤】

扁平な楕円磔・円磔、板状磔を素材とし、敲打・剥離・研磨等の整形により円形・楕円形、または3角形から8角形に加工した板状のものを含めて石製円盤とした。写真180～186にアスファルト痕や石皿破片からの転用がわかるものを中心に掲載した。剥離が一打によるものについては、偶発剥離なのか不明なものがある。石製円盤として編集したものの敲石や自然磔の方が妥当と考え直したのものがある。そのため、写180-21・写183-21を敲石に、写184-9を石皿に写181-15を自然磔とした。器種別数量については報告書Ⅷで補正する。

石製円盤は、敲打で成形加工されるものが多いため、円磔の側面を使用した敲石と形状が類似する。側面の成形には両面からの挟み打ち（観察表の備考欄で両極打法による加工を「両極加工」と略し、縦両極加工とした両極打法か不明なものも縦剥離としている。正面や裏面に側面から入る剥離・剥落は横剥離とした）が多用される。両側縁からの両極打法で加工されたものがあり、両端に対向する凹みを持つものは、石錘とも類似する。石材は流紋岩や花崗岩などの硬質のものから凝灰岩やシルト岩などの軟質のものまで多様である。加工は剥離で不整六角形等に粗く成形したもの、円形等を意識して丁寧な剥離を加えて形を整えたもの、さらに側面を敲打したもの、側面や両面の一部を研磨したもの、全面研磨したものと多様である。大きさについても多様性があり、アスファルトが付着するものや線刻を持つものがある。複数の性格を異にするものを一括していると感じるが、器種の明確な定義ができないため類型化ができない。また、器種として明確な定義ができないため、未製品の定義ができない。欠損のあるものについても、1/2以上残るものは、再加工素材としての変形の範囲内、あるいは変形が加えられていく過程にあるとすれば欠損品と認定するのは躊躇される。そのため、集合写真を使いながら、可能な限り出土品を掲載することとした。北捨場は出土点数が1000点を超え、属性の整理など統計処理に向く数量である。そのため写真192～196に数十点ずつ円1～36までの集合写真をおき、観察表に他の捨場では割愛した石材と長さ・幅・厚さを掲載した。類似した形状の自然磔の一部を写真196の円37で集合写真として示した。それらは、そのまま使用された可能性とともに素材磔の可能性もある。

アスファルトは、写180-30や写181-29・31のように段差を持つ部分にも付着している。少なくとも、それらについては硬質物との接着を目的としたものではない。

研磨加工で整形されたものは、使用石材は岩版と共通する灰白色の凝灰岩・シルト岩製のものが主体である。基本的にアスファルトは付着しない。

写真181-23は上面と右側縁に、同41は左上と下の側面に磔面が残っている。全周を加工した物ば

かりではなく、礫面の一部を残すものは多い。写182-24のように側面を敲打したものは少ない。平面形においても側面の剥離と対応する5~8角形のものも多く、側面の敲打加工と対応する円形・楕円形のものはいくつかある。

石製円盤の素材として多用される相馬安山岩については、報告書Ⅱではデイサイトから抽出しなかった。板状であり遺跡内で石皿の素材として使用されているが、その破片を石製円盤としたものもある。特筆される石製円盤素材として写183-8の黄鉄鉱石がある。

#### 【その他石製品】

写141-8は、中央部に抉りがあり、平場地区の独鈷石（報告書Ⅳ 図161-3）と石材と大きさが類似する。未研磨であることも共通する。抉りの作り出しは弱いものの独鈷石と考えたい。

写174-1は石冠である。石冠には変形行為の可能性のある凹痕を持つ物があるが、本品には認められない。

線刻礫を写178-5と写真179に置いた。写179-1は、両面に線刻がある。正面側は直線状であるが、裏面は下部に、弧状の線と直線が描かれている。写真188・189には類例の少ない石製品も掲載した。写188-1・2は三角形の自然礫に部分的な研磨あるいは擦れが認められる。3は、横に隆帯を作り出し、表面を研磨し、赤漆を塗布した石製品から剥落した小破片である。珪質頁岩を素材としている。5は、チャートの石の折れ面にアスファルトの付着したものである。類例の少ないものであり、石製品の扱ひとした。6・7はマンガンノジュールであり、6には穿孔がなされている。8は全面が研磨されている板状の石製品であるが、上部に対向する抉りを作り出している。9は、両面穿孔の石製品であるが正面には太く短い線刻がある。10は、石棒あるいは独鈷石と関連する意匠の石製品である。11・12は礫石器から石製品への変形を思わせるものである。11は磨石の裏面に稜が際だつような平坦面を作り出している。平坦面には、さらに線刻・擦痕が確認できる。12は下に一對の突起のある自然礫を使用した凹石である。突起部分と両面に研磨もしくは擦れが確認できる。下の突起を脚部として人体と見立てれば、凹痕は二次的な変形行為の結果である可能性もある。そのため、凹石の頁ではなく写真と図を石製品の部分に掲載した。

写189-3は手を握った時の拳の形状を意識したと考えられる石製品である。写189-4、写真190、写真191-1~5は、半球状で底面が窪む石製品と、その関連資料である。写189-4、写190-6、写191-5は底面が平坦であるが、変異の一つと考えたい。写190-4は敲打により大きな凹みを作り出しているが裏面側が大きく剥落している。写191-9（図72-1）は裏面が剥落しており、剥落部分にさらに敲打痕が加えられるものである。皿状の石製品の未製品の可能性がある。

写真191-6~11は、皿状の石製品である。

（齋藤）

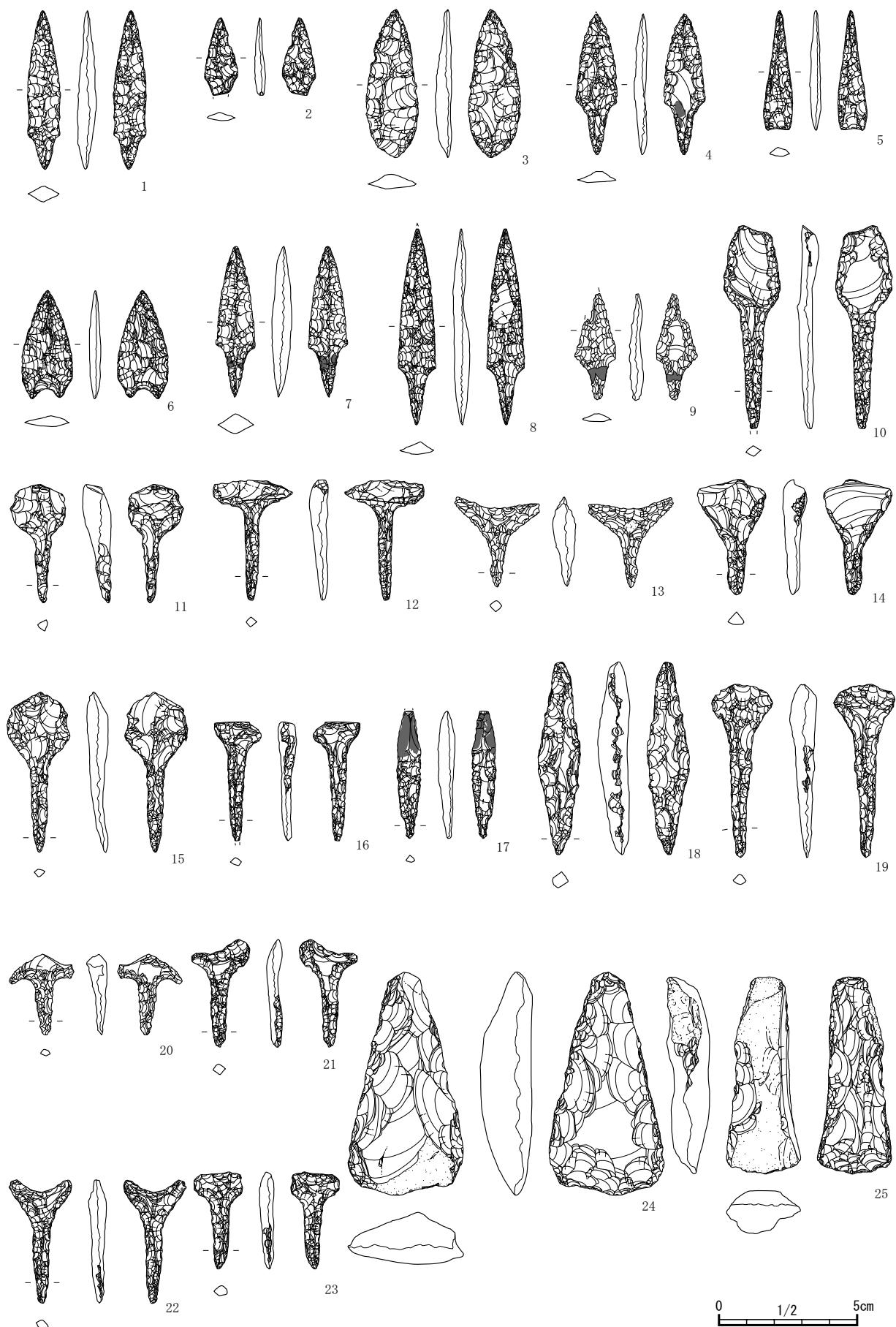


図37 石器・石製品 (1)

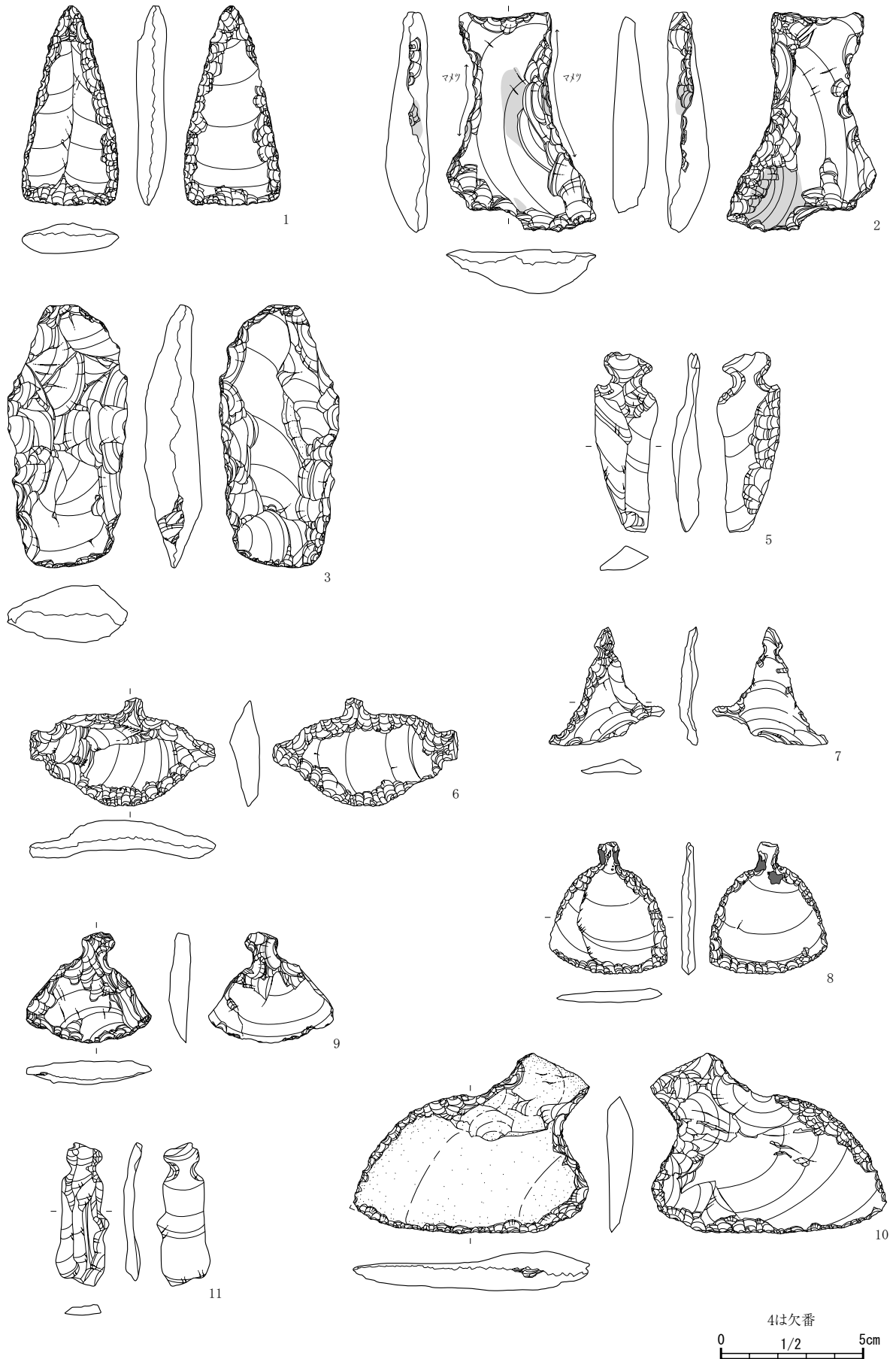


図38 石器・石製品 (2)

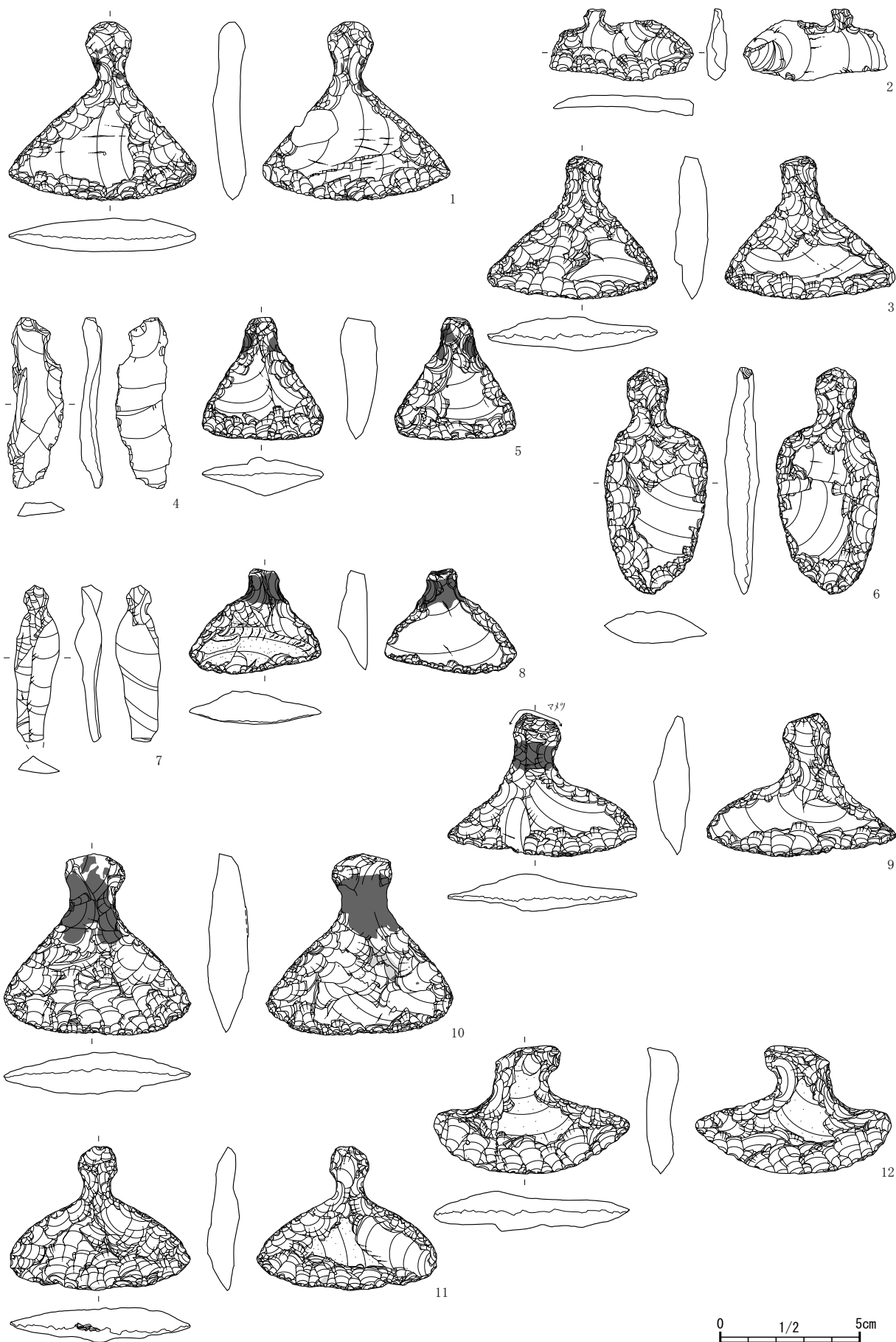


図39 石器・石製品 (3)



図40 石器・石製品(4)





図41 石器・石製品 (5)



図42 石器・石製品(6)

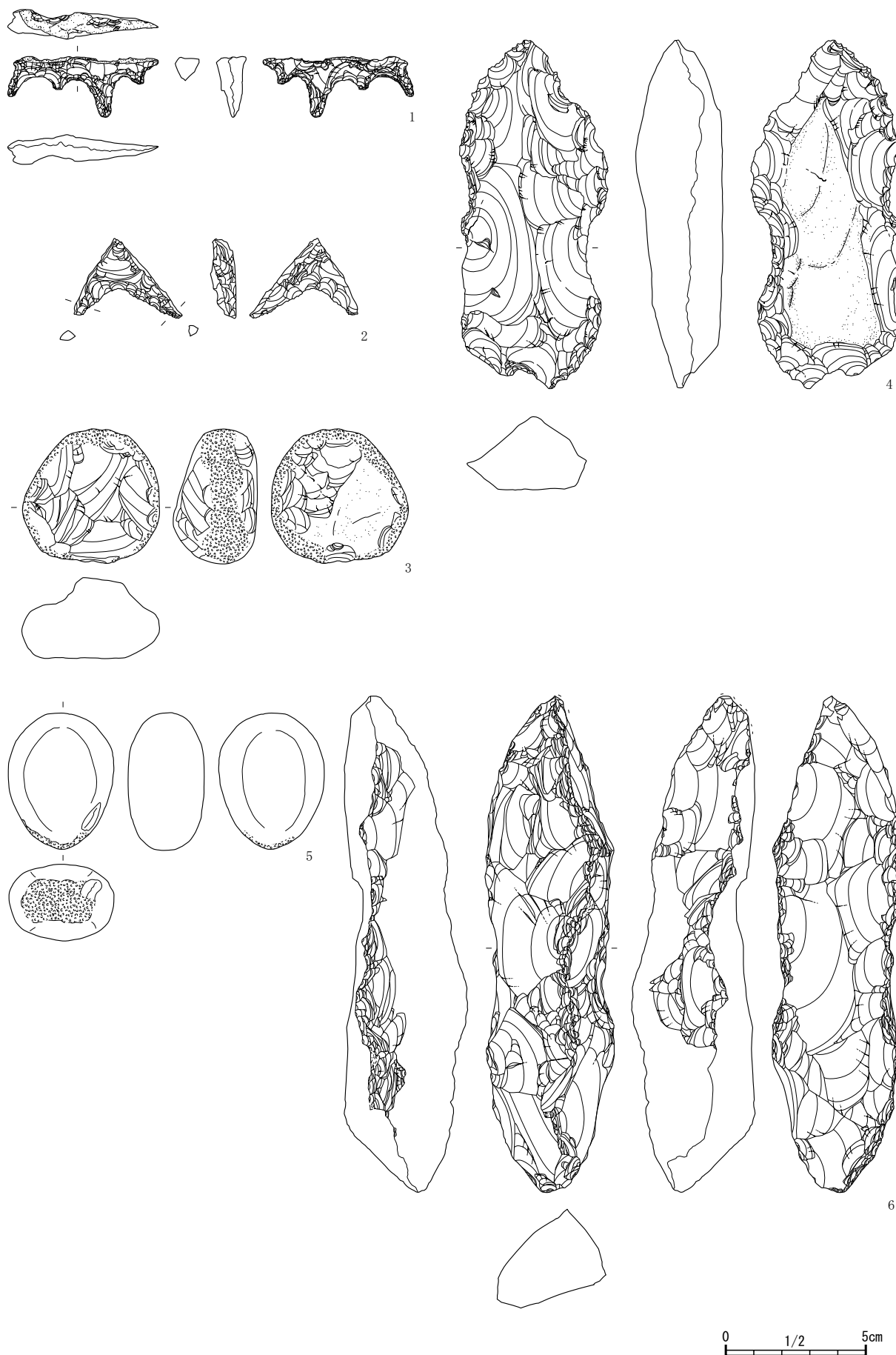


図43 石器・石製品(7)

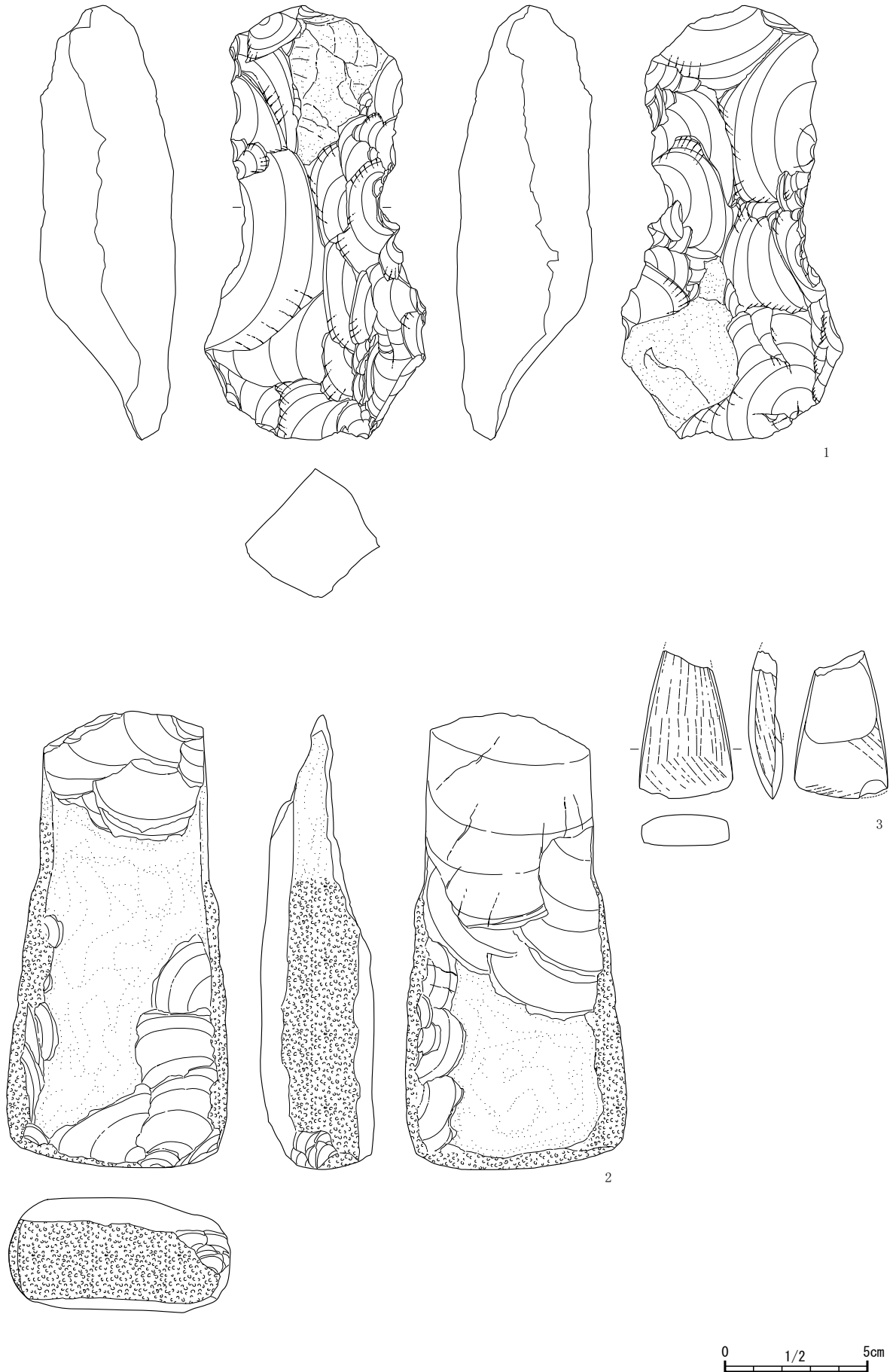


図44 石器・石製品(8)

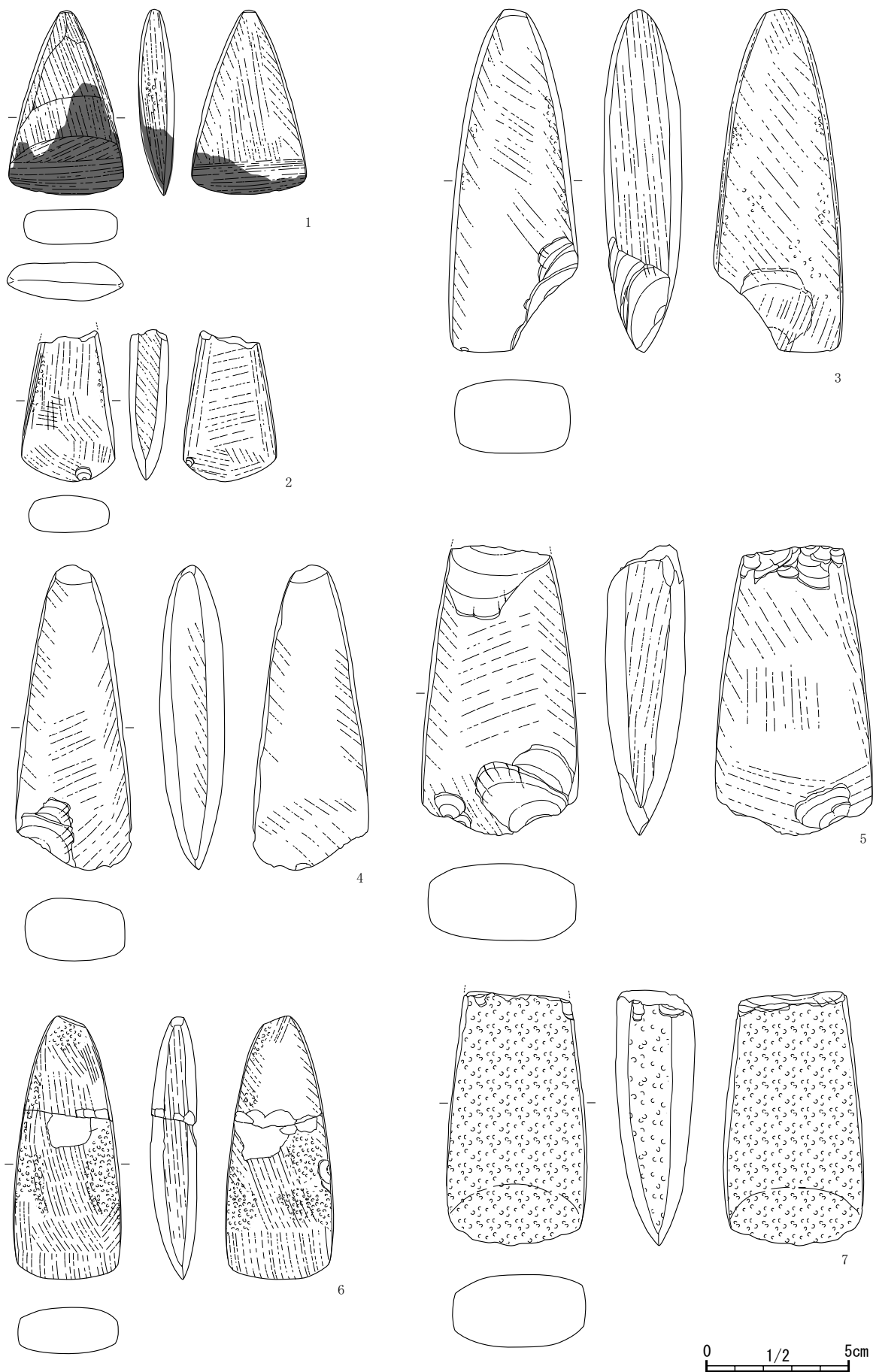


図45 石器・石製品 (9)

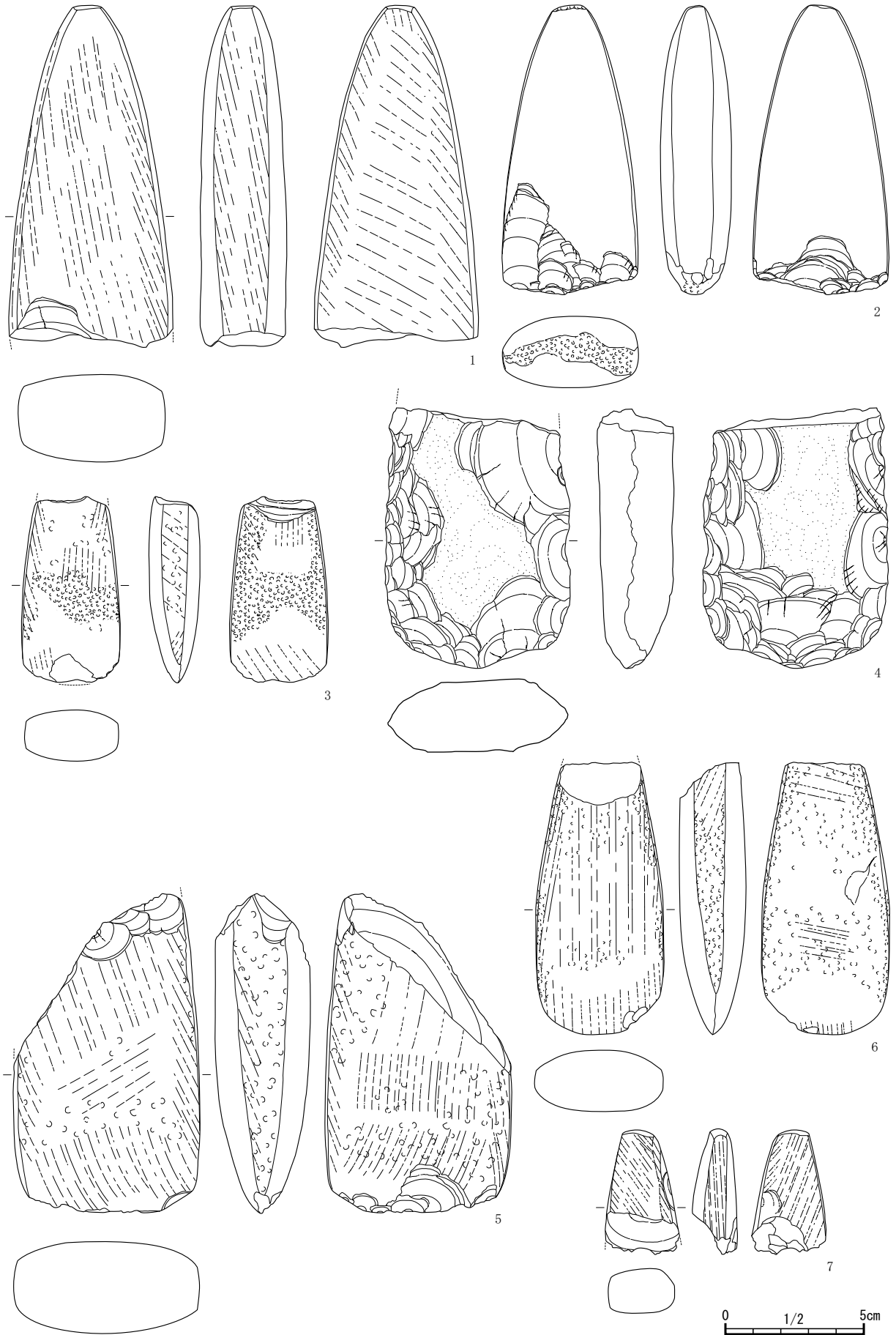


図46 石器・石製品 (10)



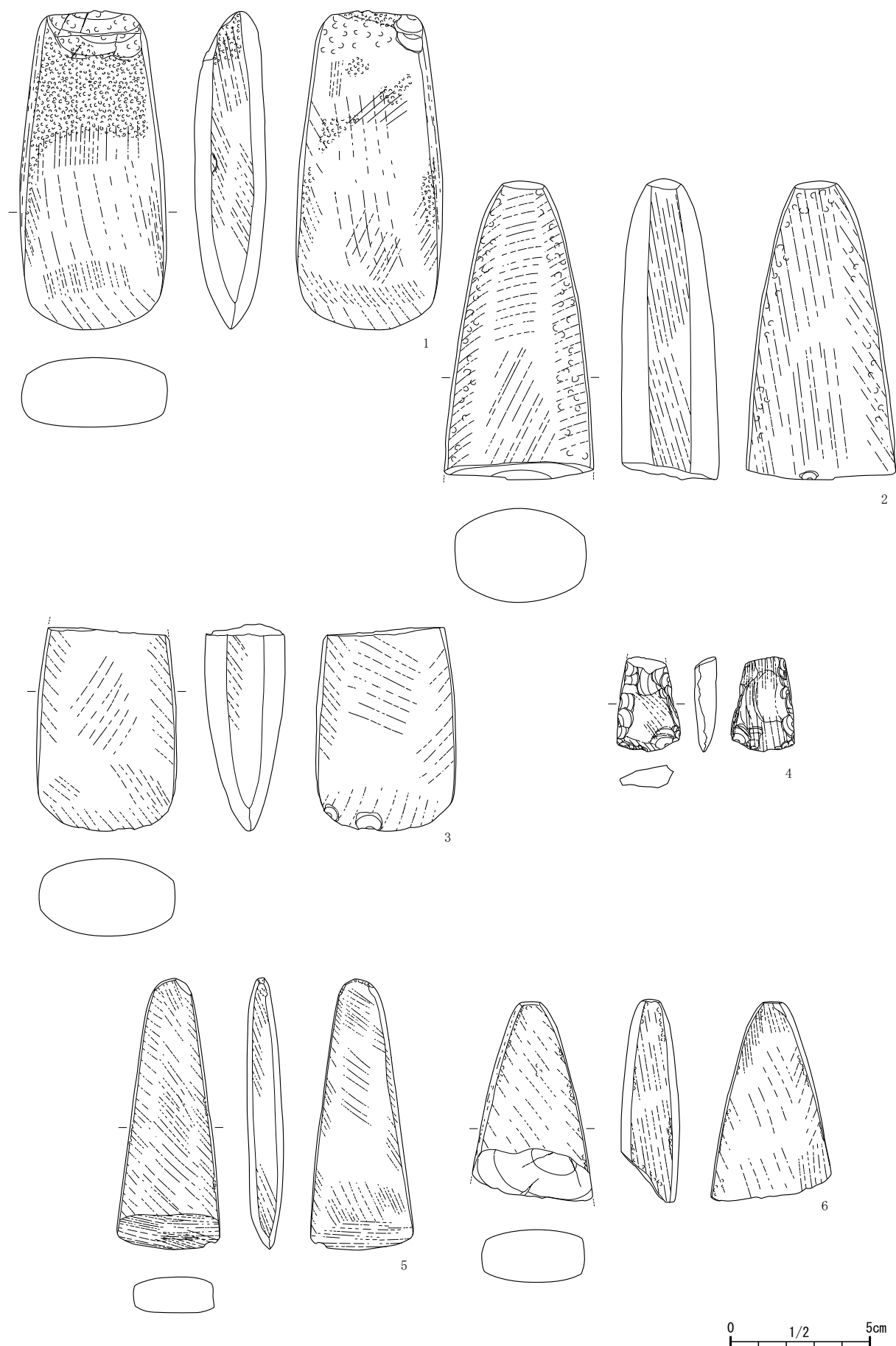


図47 石器・石製品 (11)

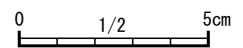
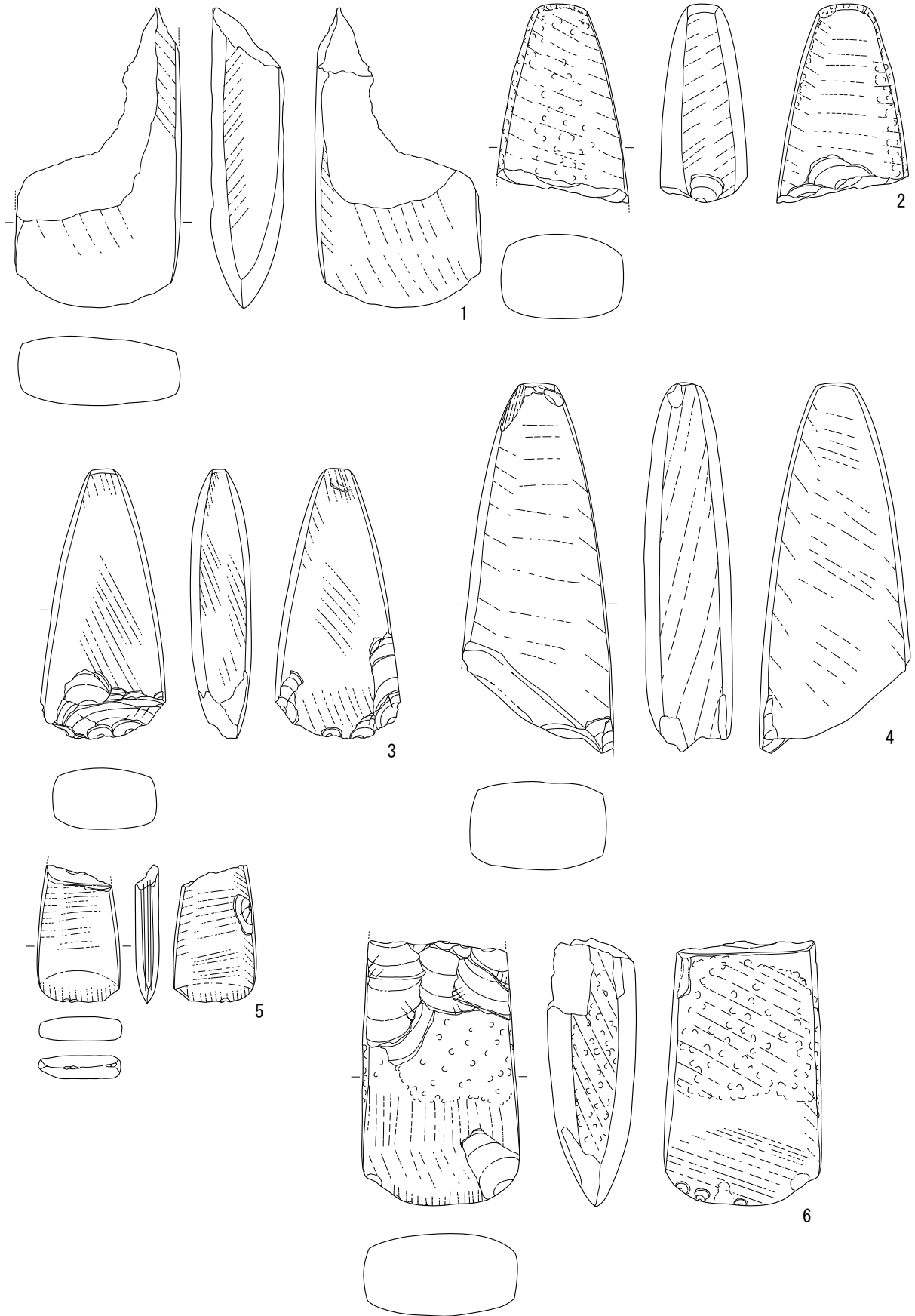
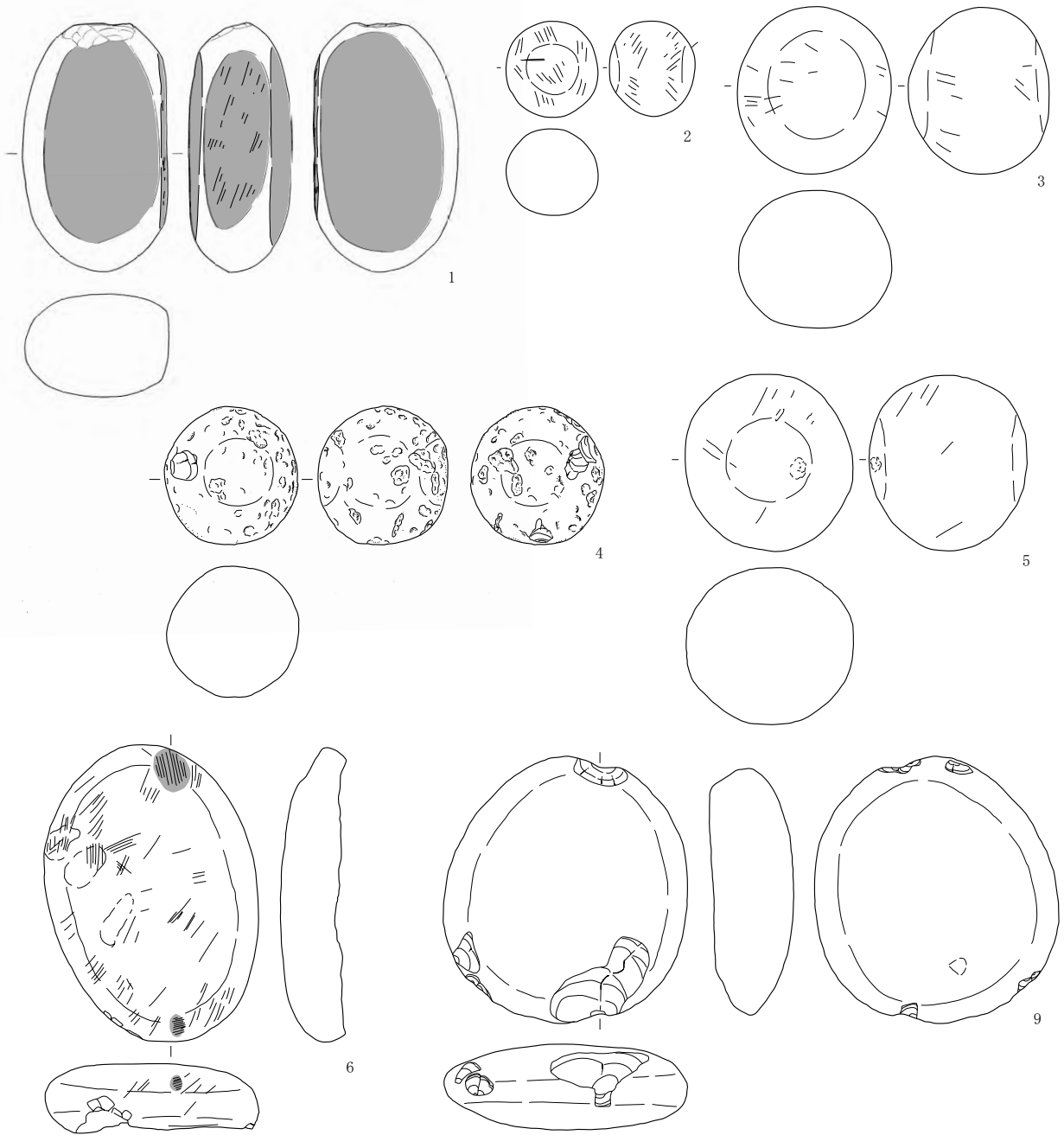


図48 石器・石製品 (12)



図49 石器・石製品 (13)



7・8は欠番

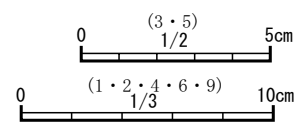


図50 石器・石製品 (14)



図51 石器・石製品 (15)

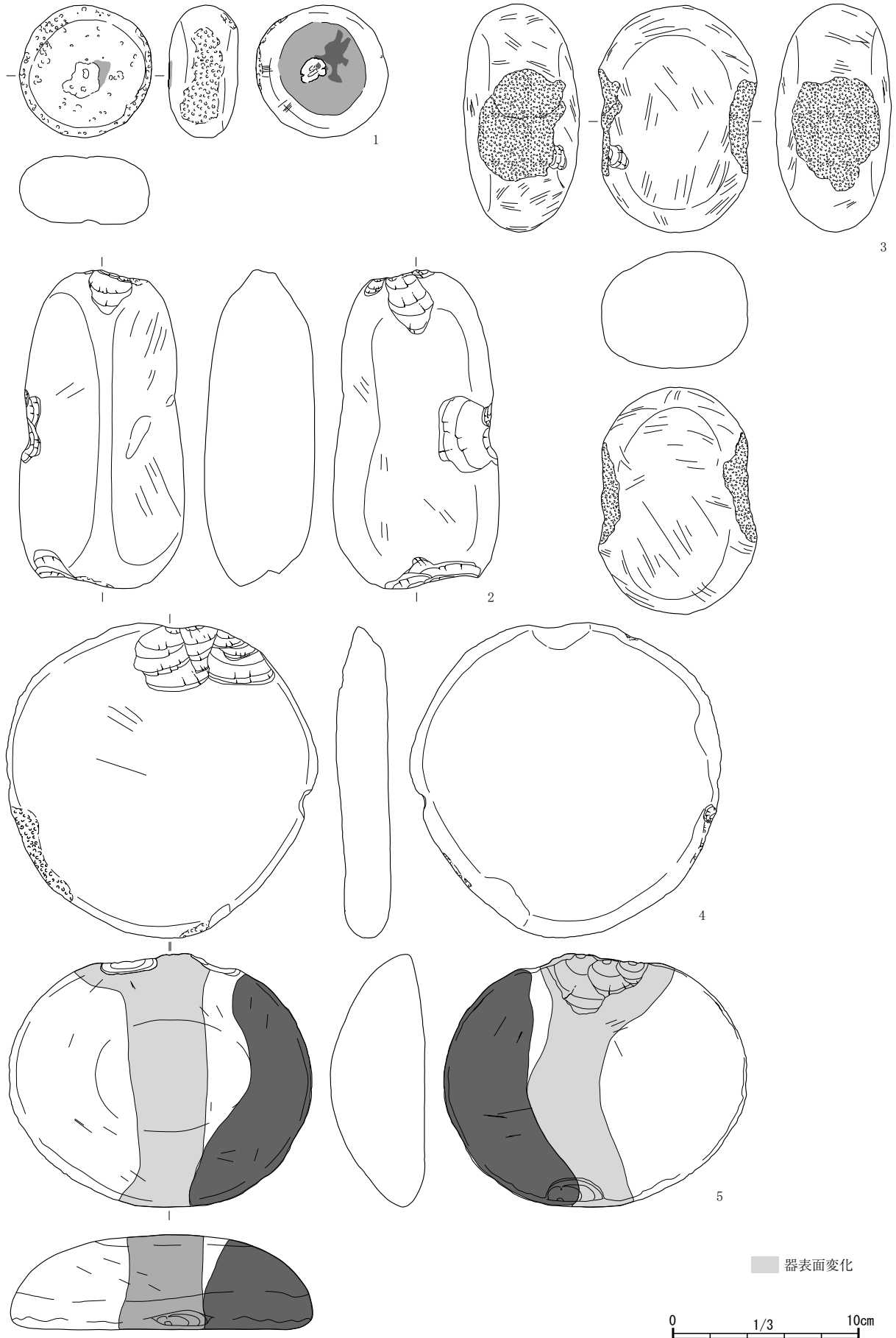


図52 石器・石製品 (16)



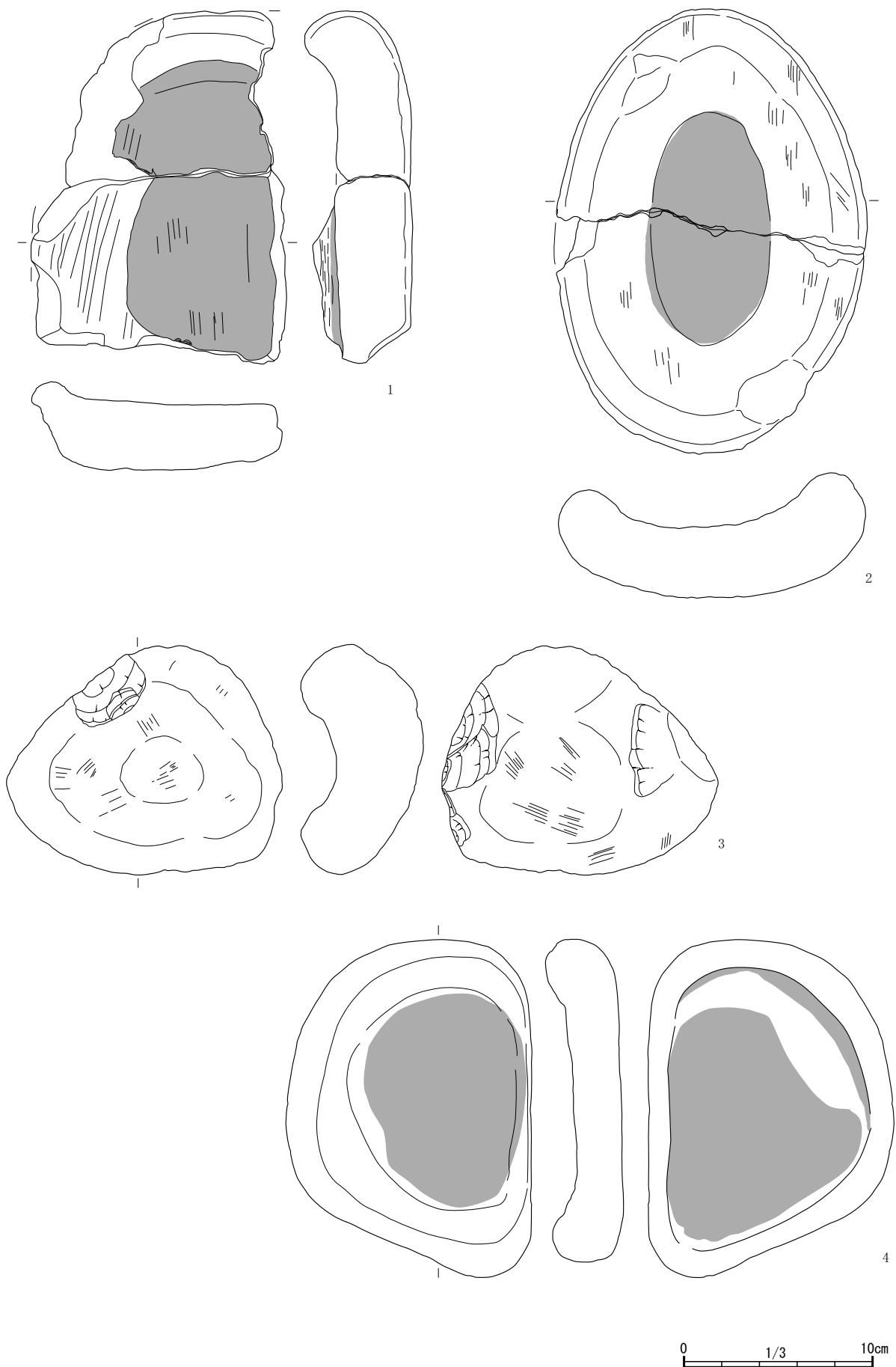


図53 石器・石製品 (17)

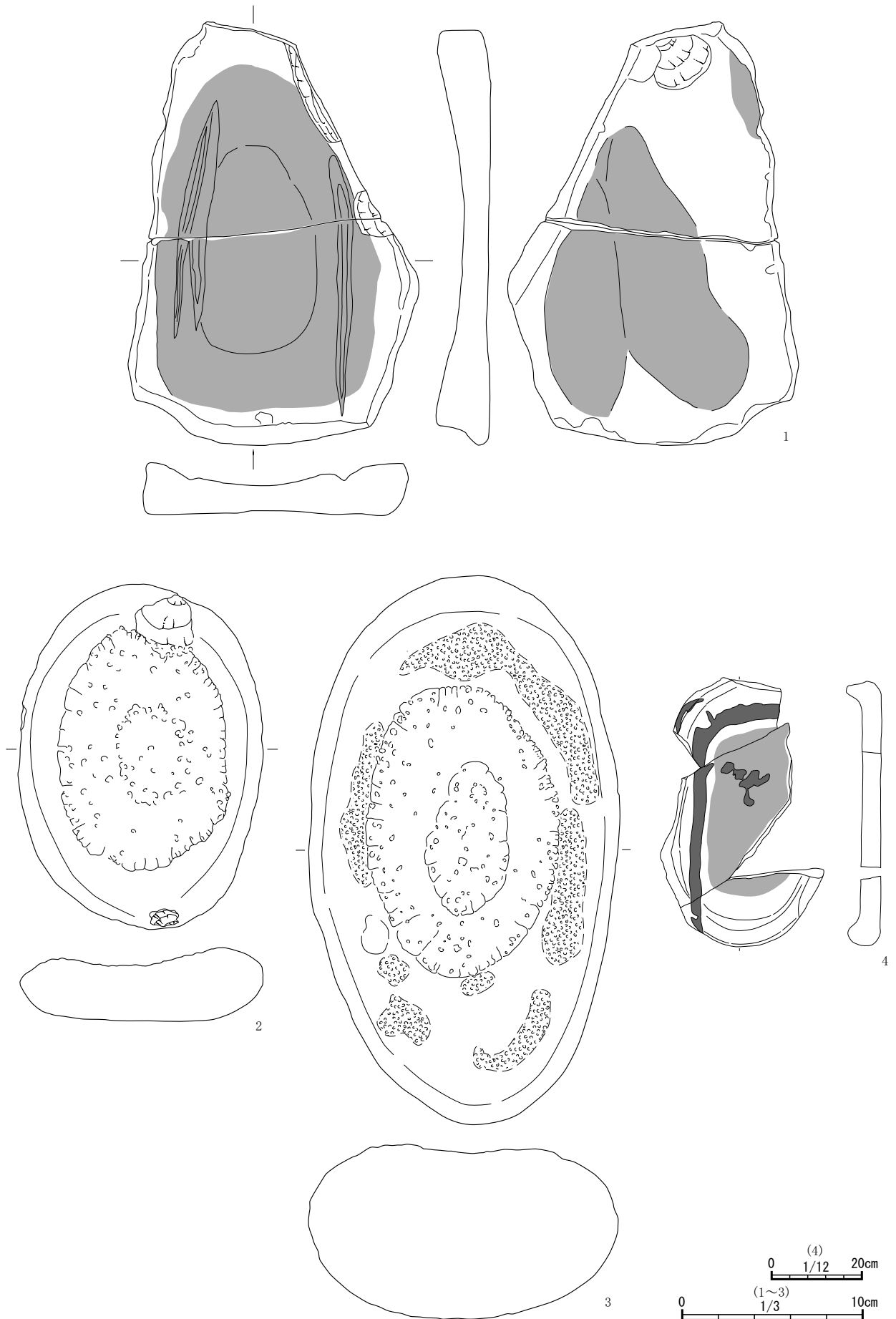


図54 石器・石製品 (18)

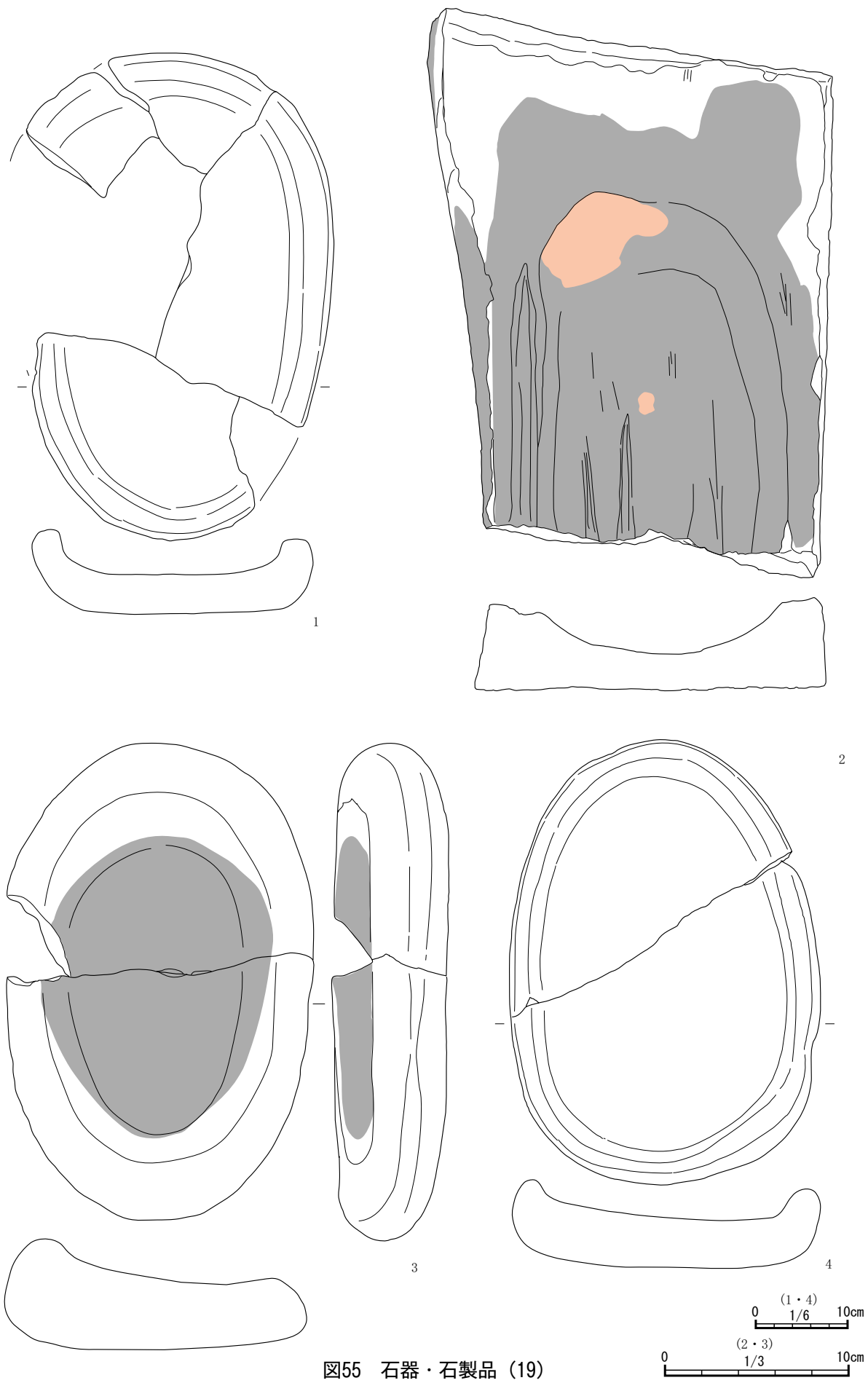


図55 石器・石製品 (19)

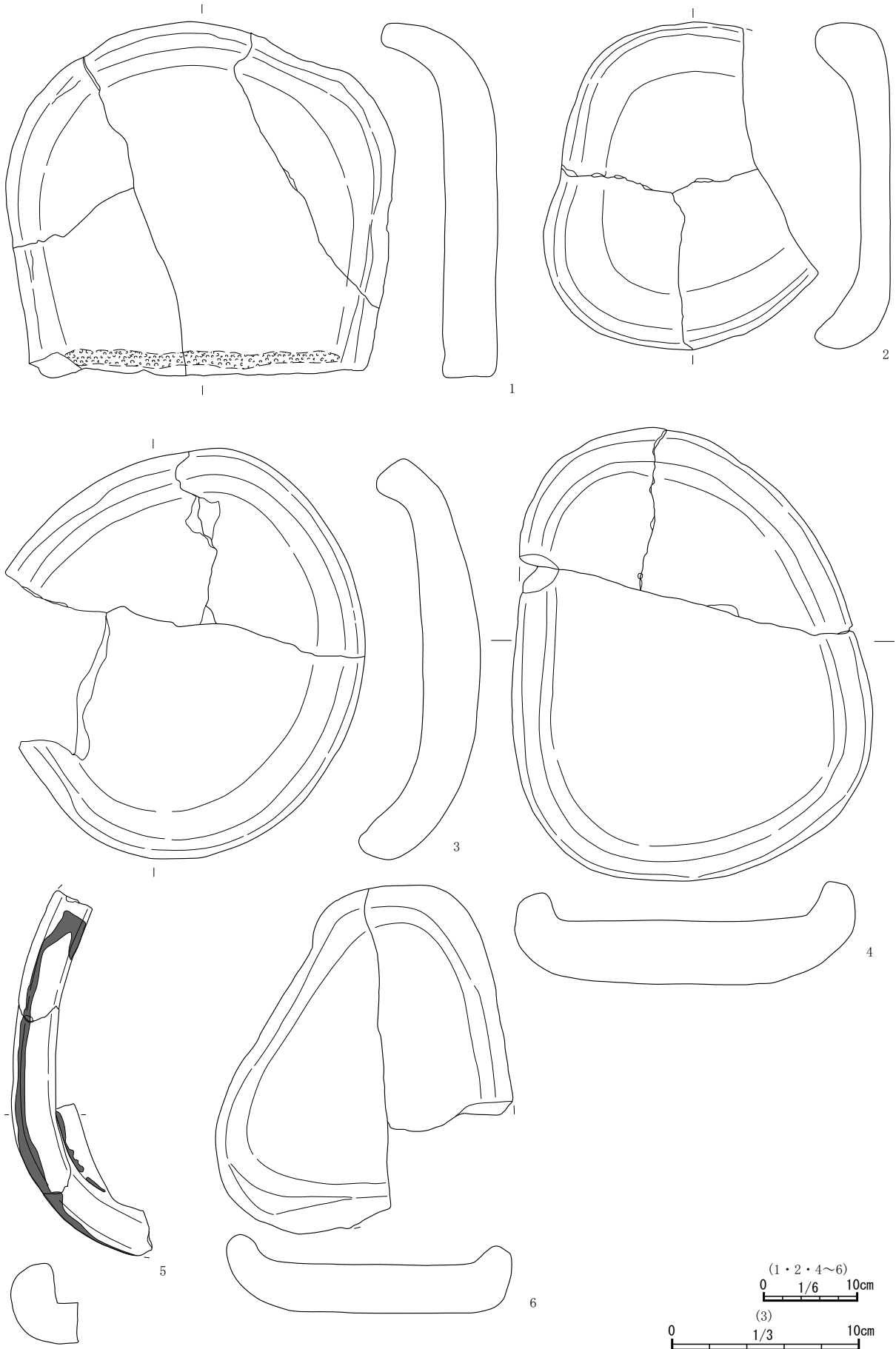


図56 石器・石製品 (20)

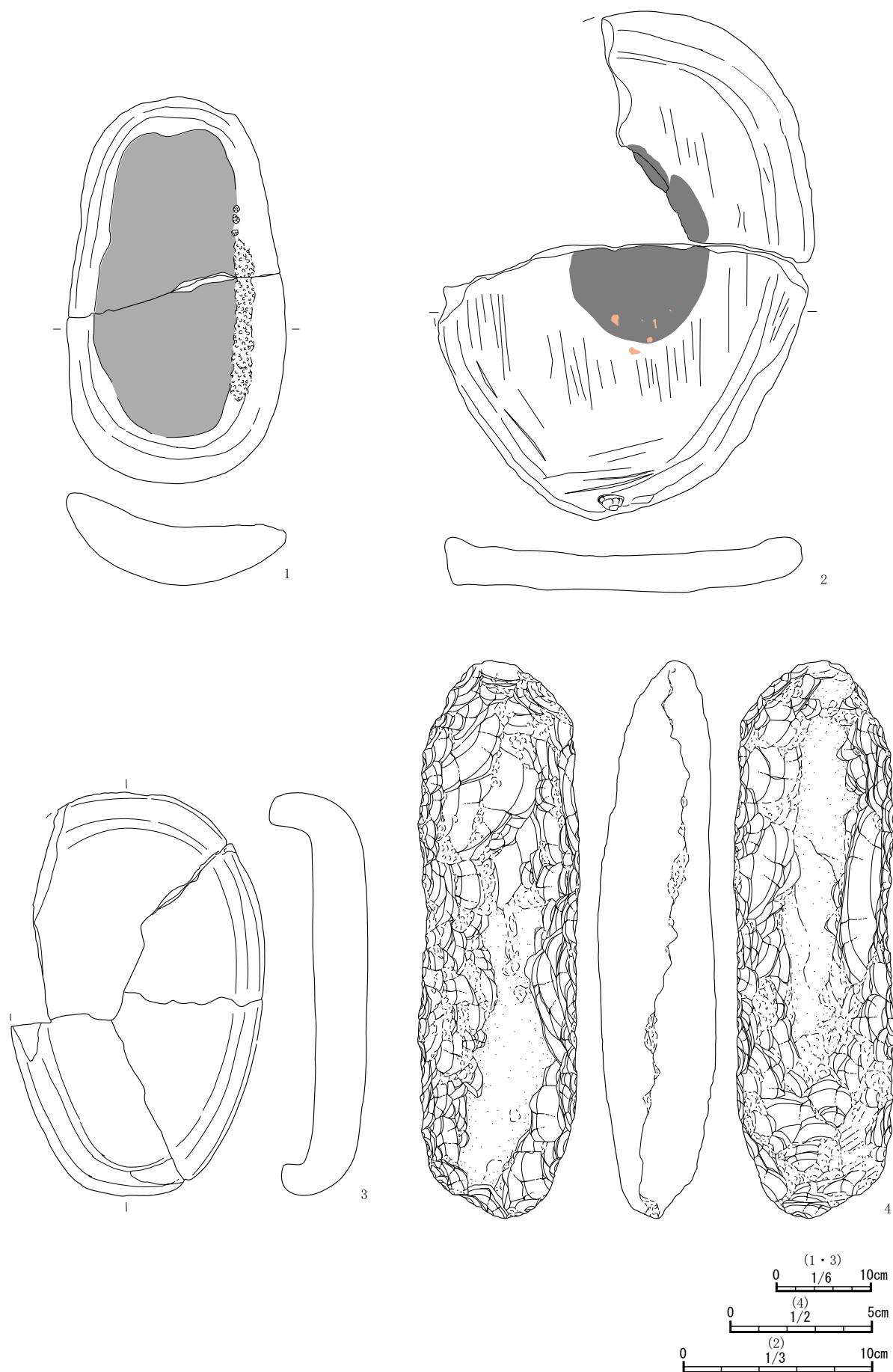


図57 石器・石製品 (21)

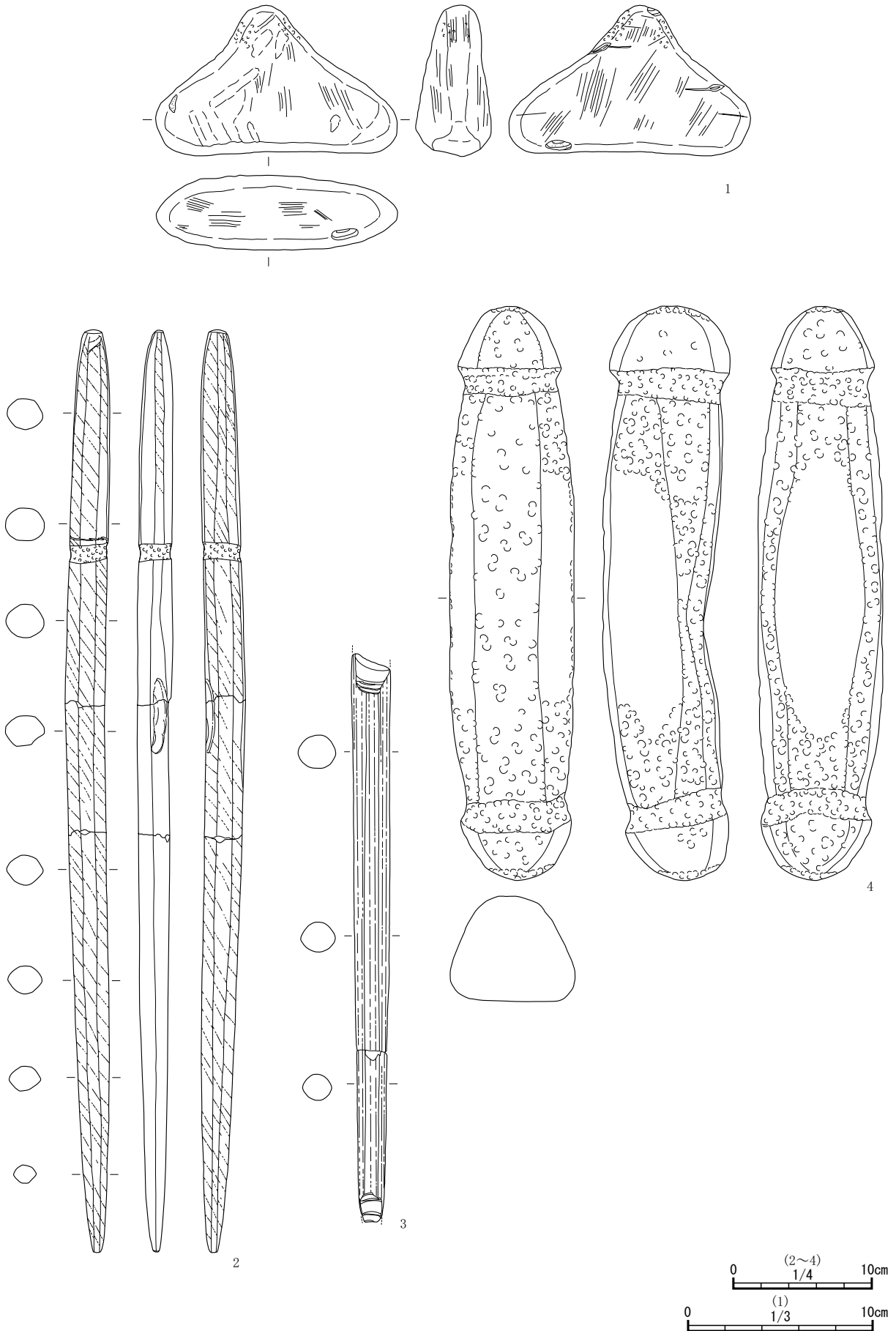


図58 石器・石製品 (22)



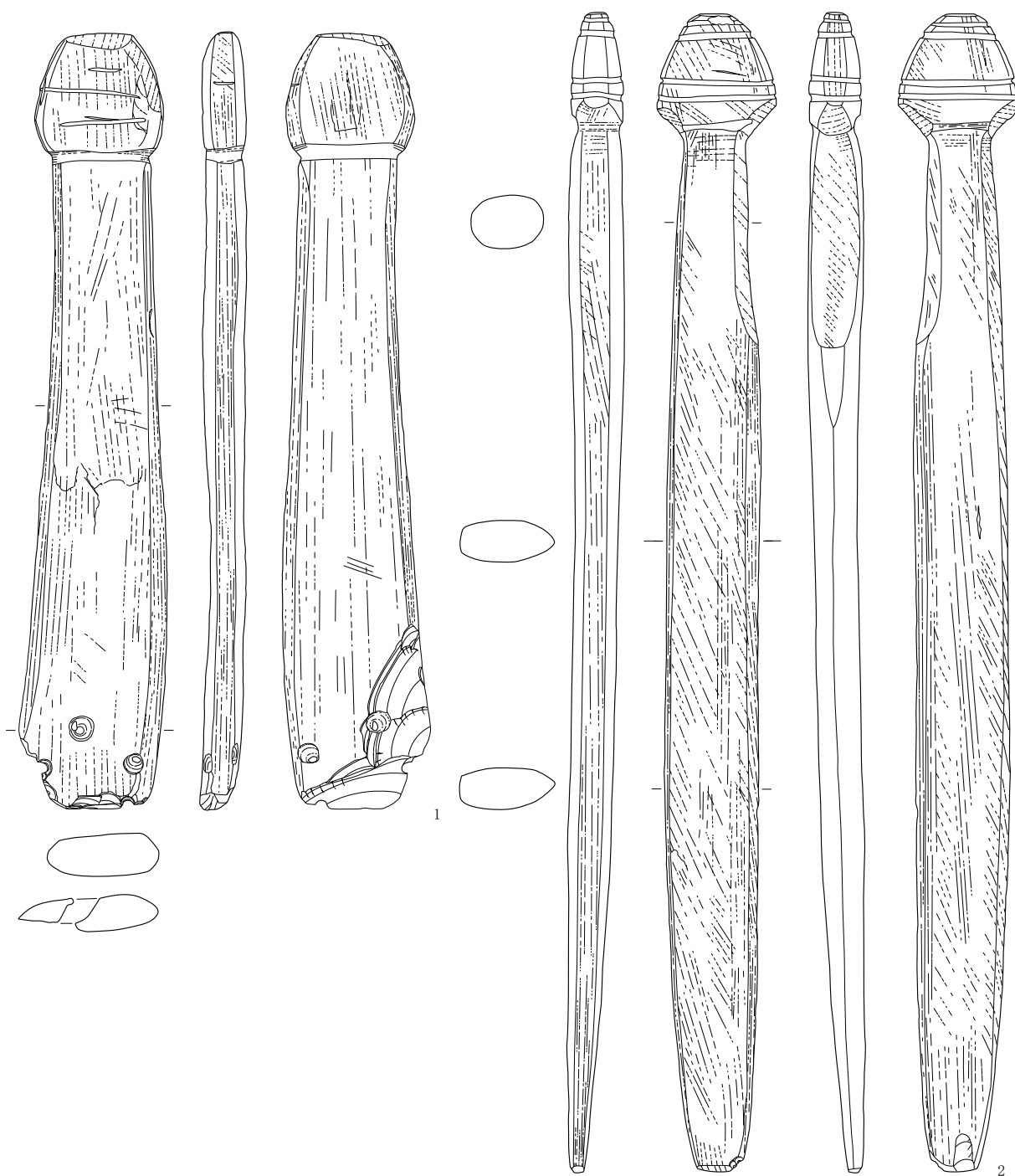


図59 石器・石製品 (23)

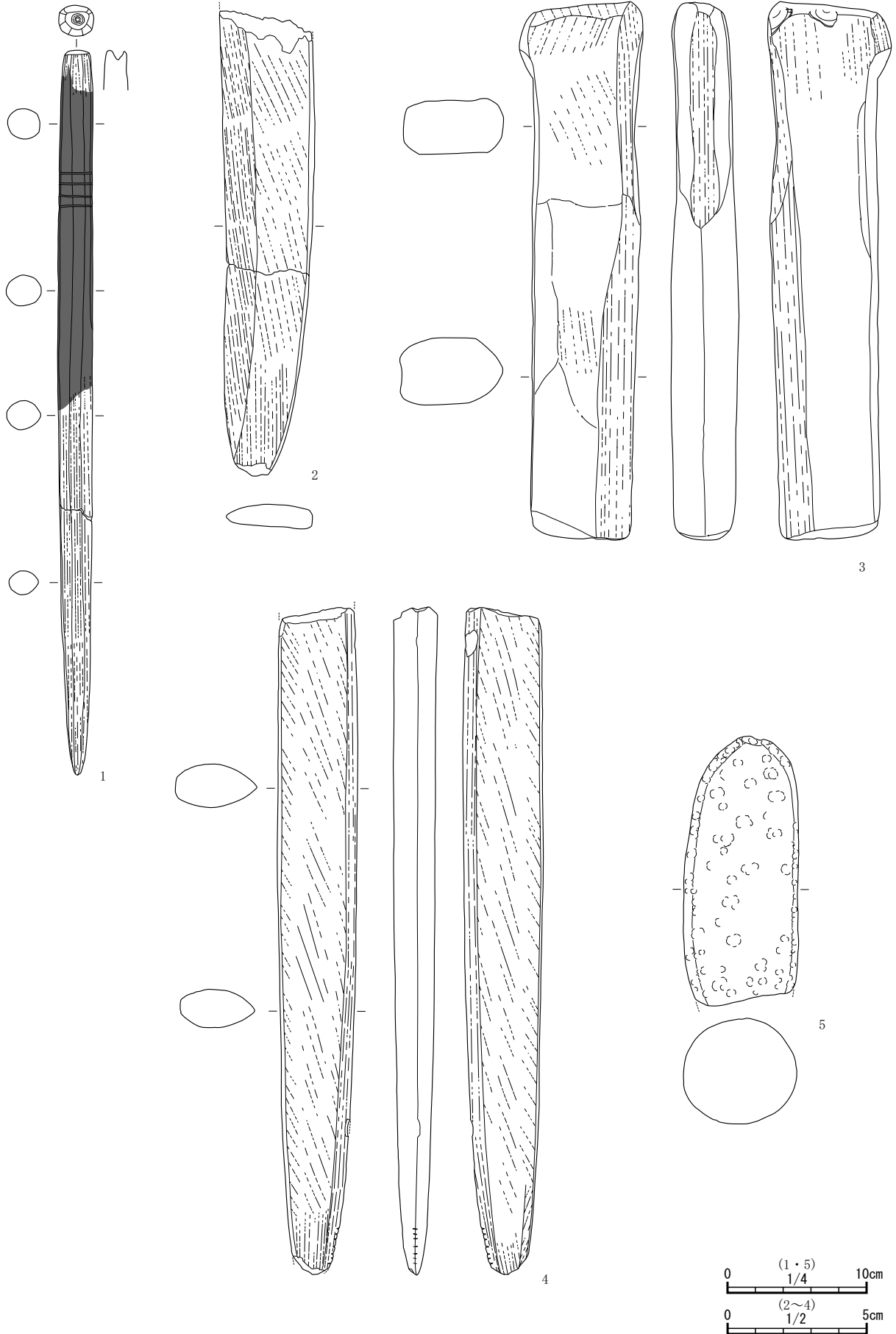


図60 石器・石製品 (24)

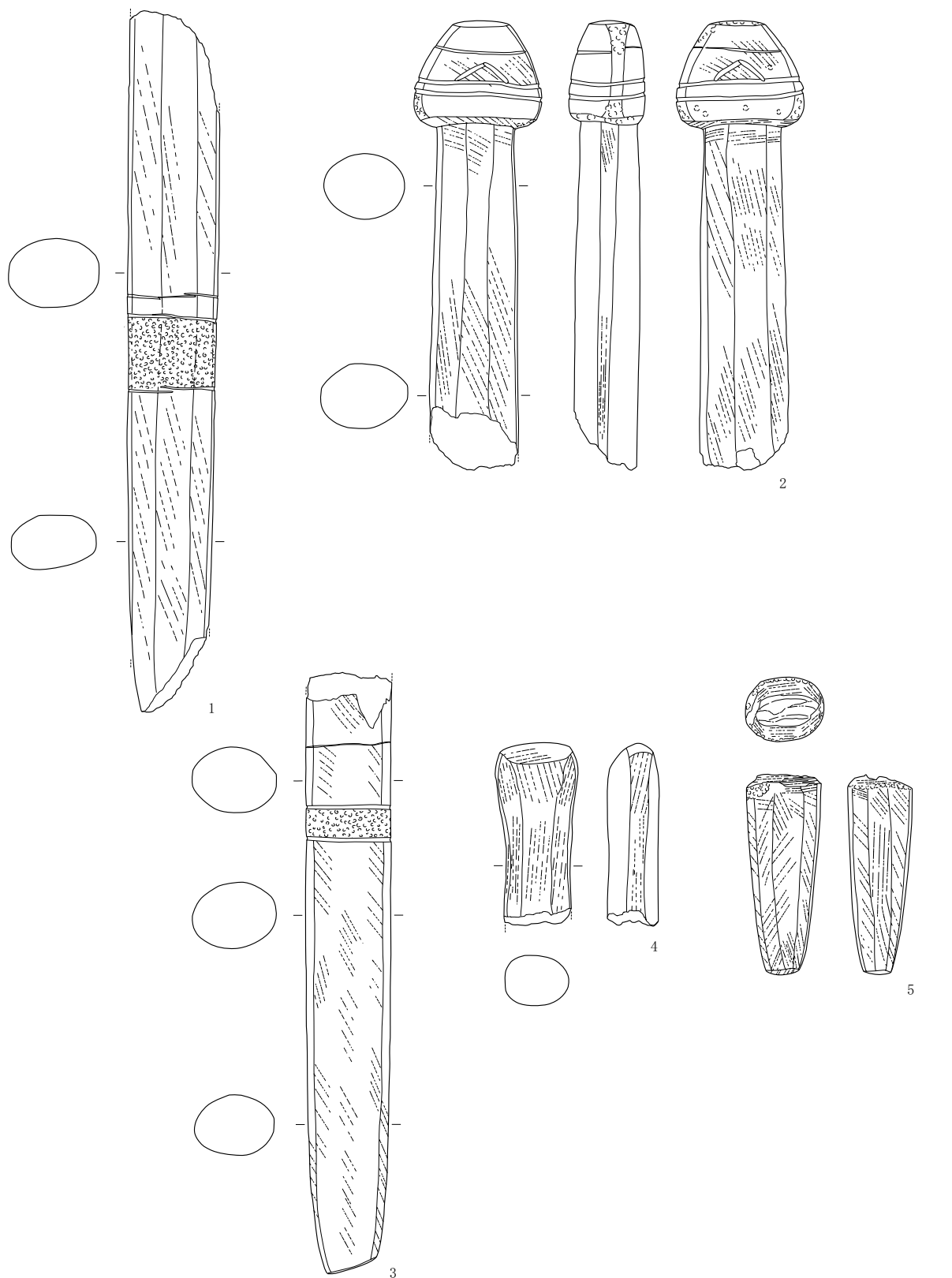


図61 石器・石製品 (25)

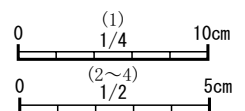
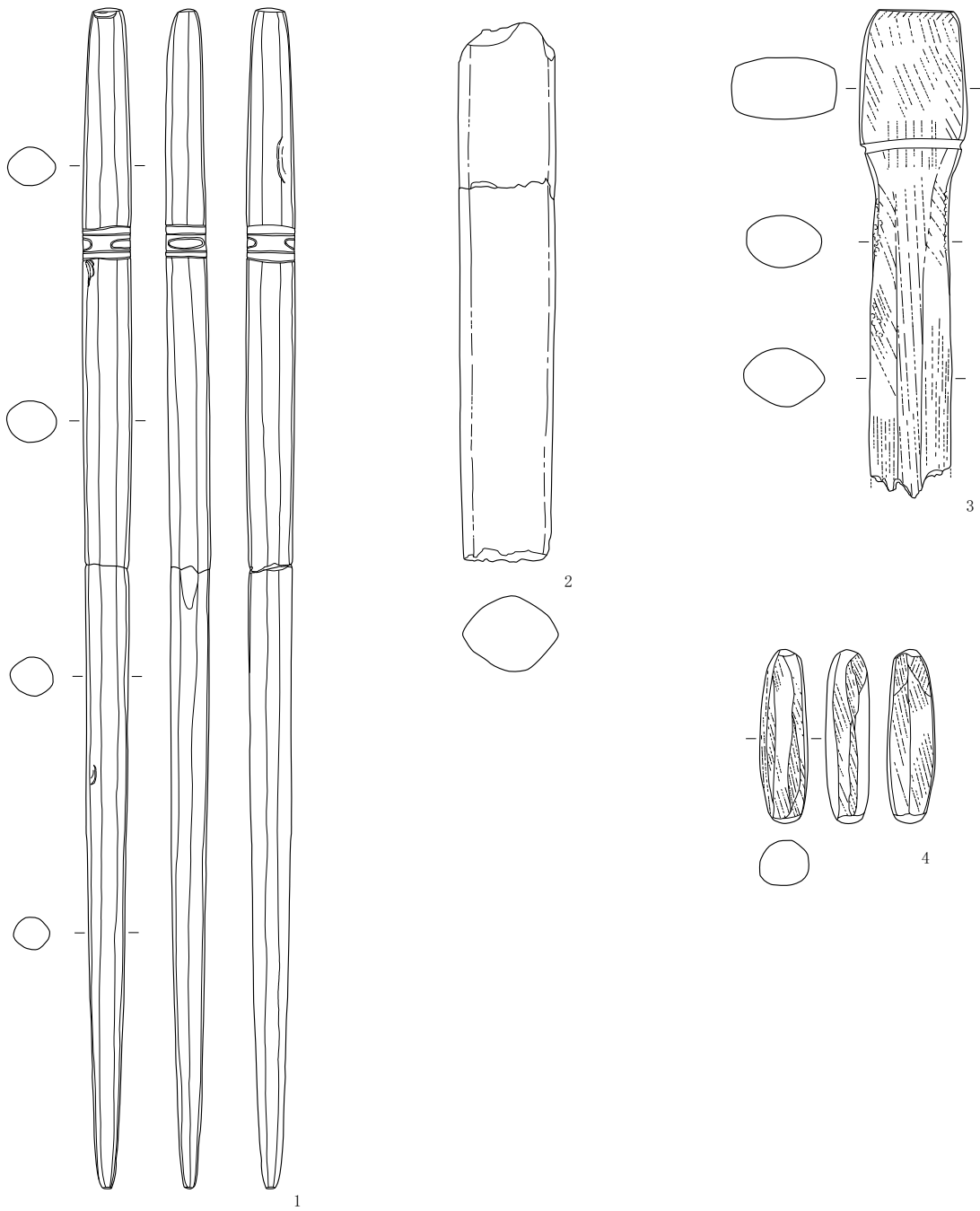


図62 石器・石製品 (26)

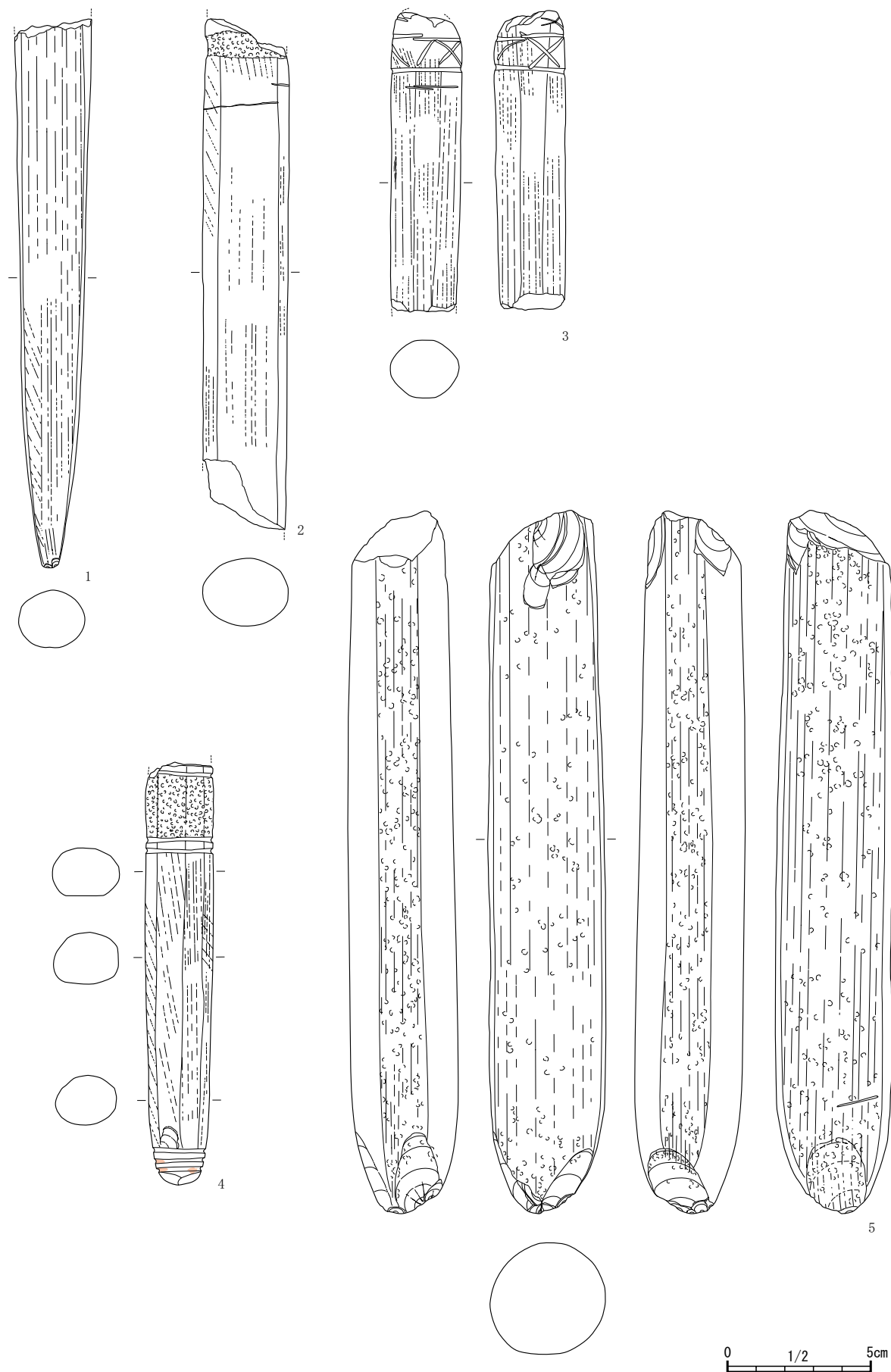


図63 石器・石製品 (27)

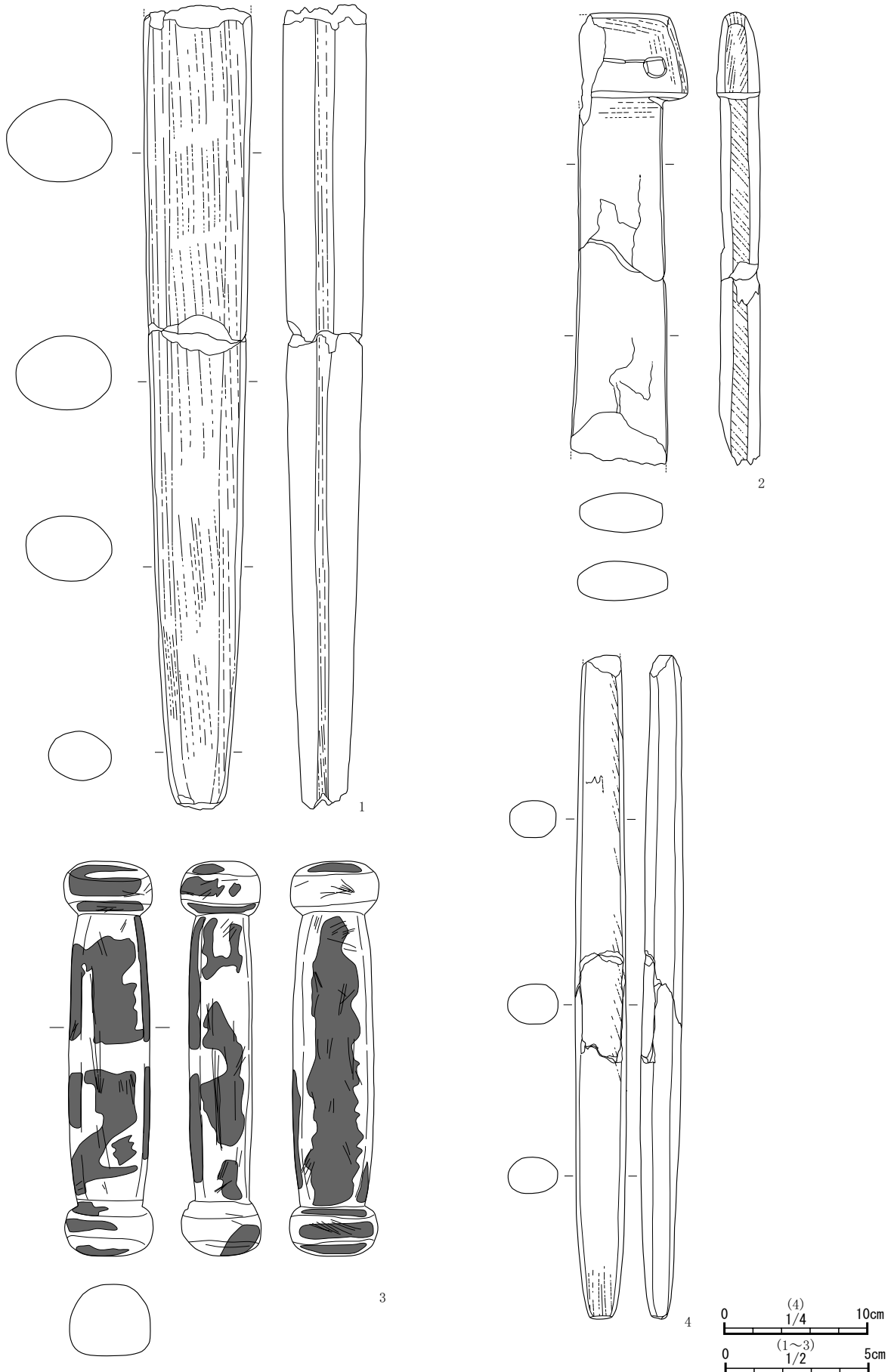


図64 石器・石製品 (28)

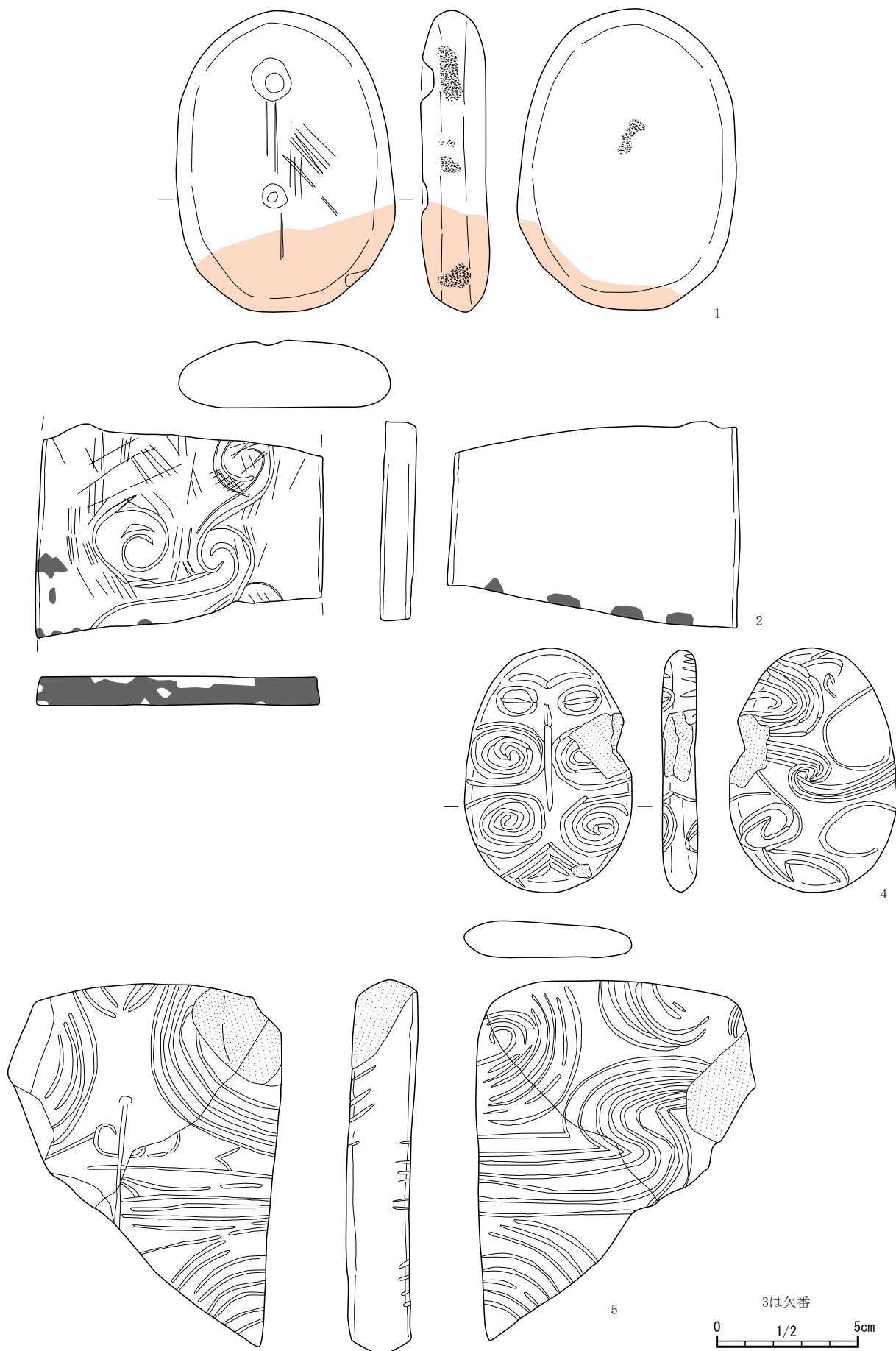


図65 石器・石製品 (29)



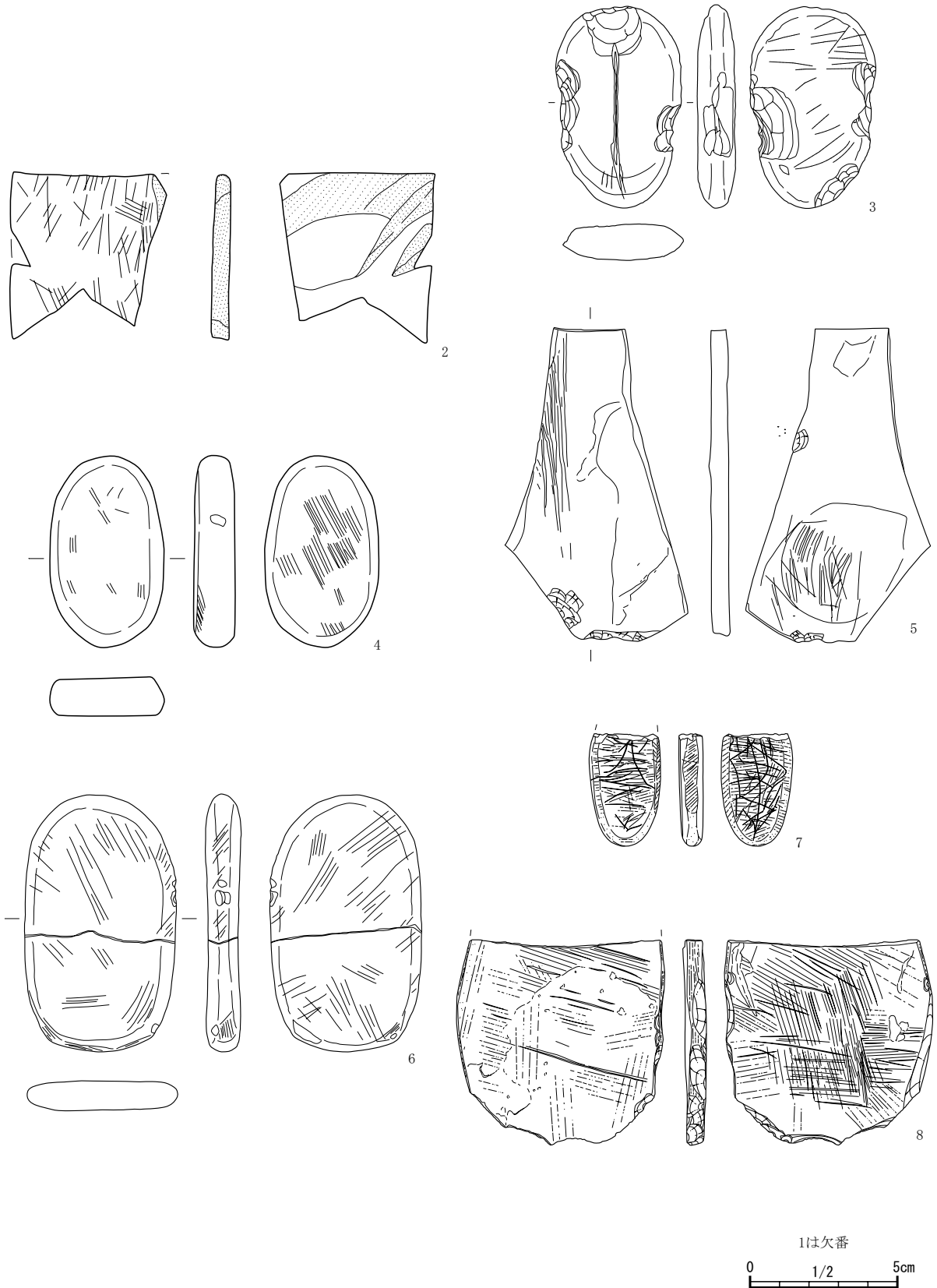


図66 石器・石製品 (30)

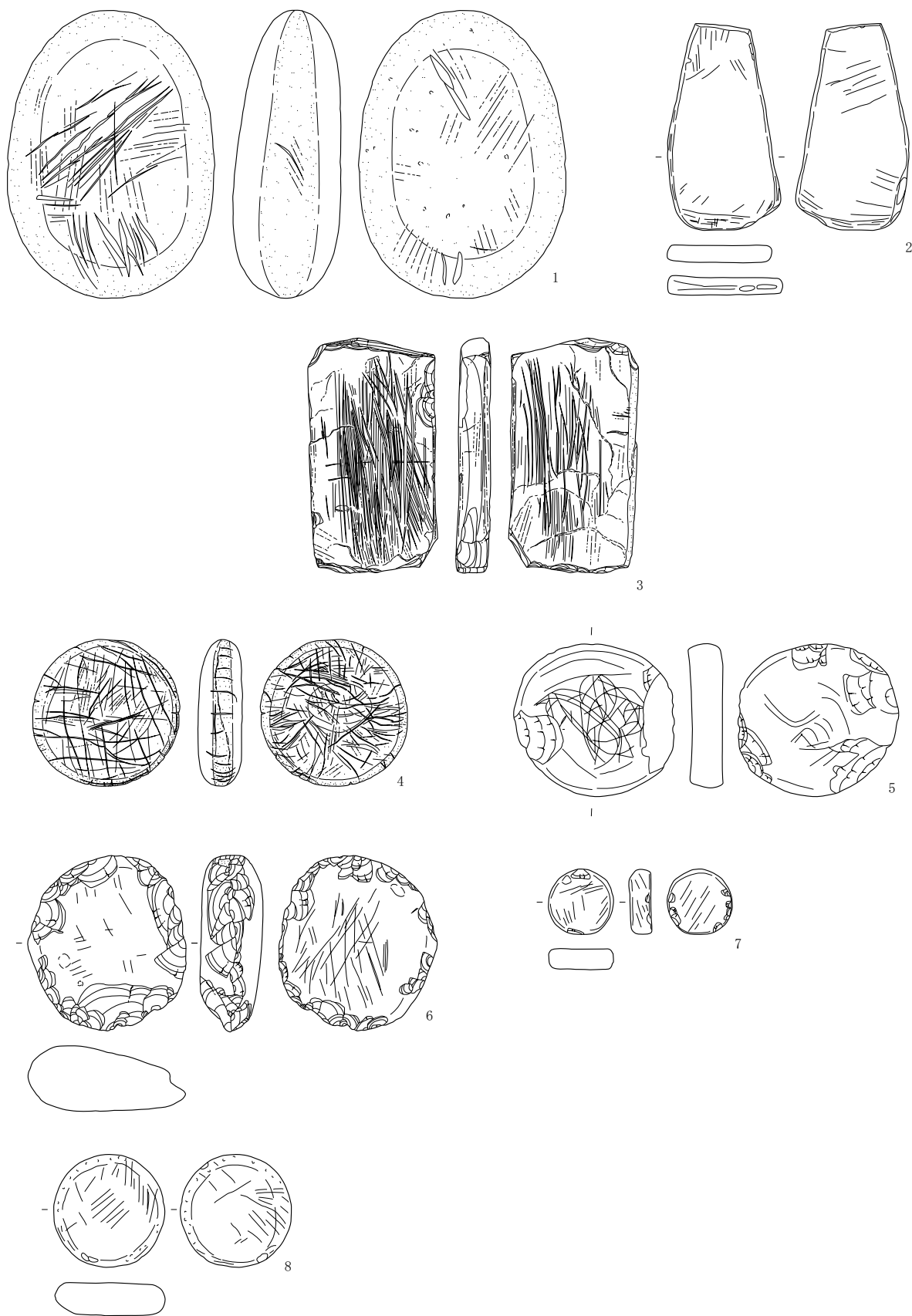


図67 石器・石製品 (31)

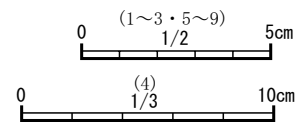
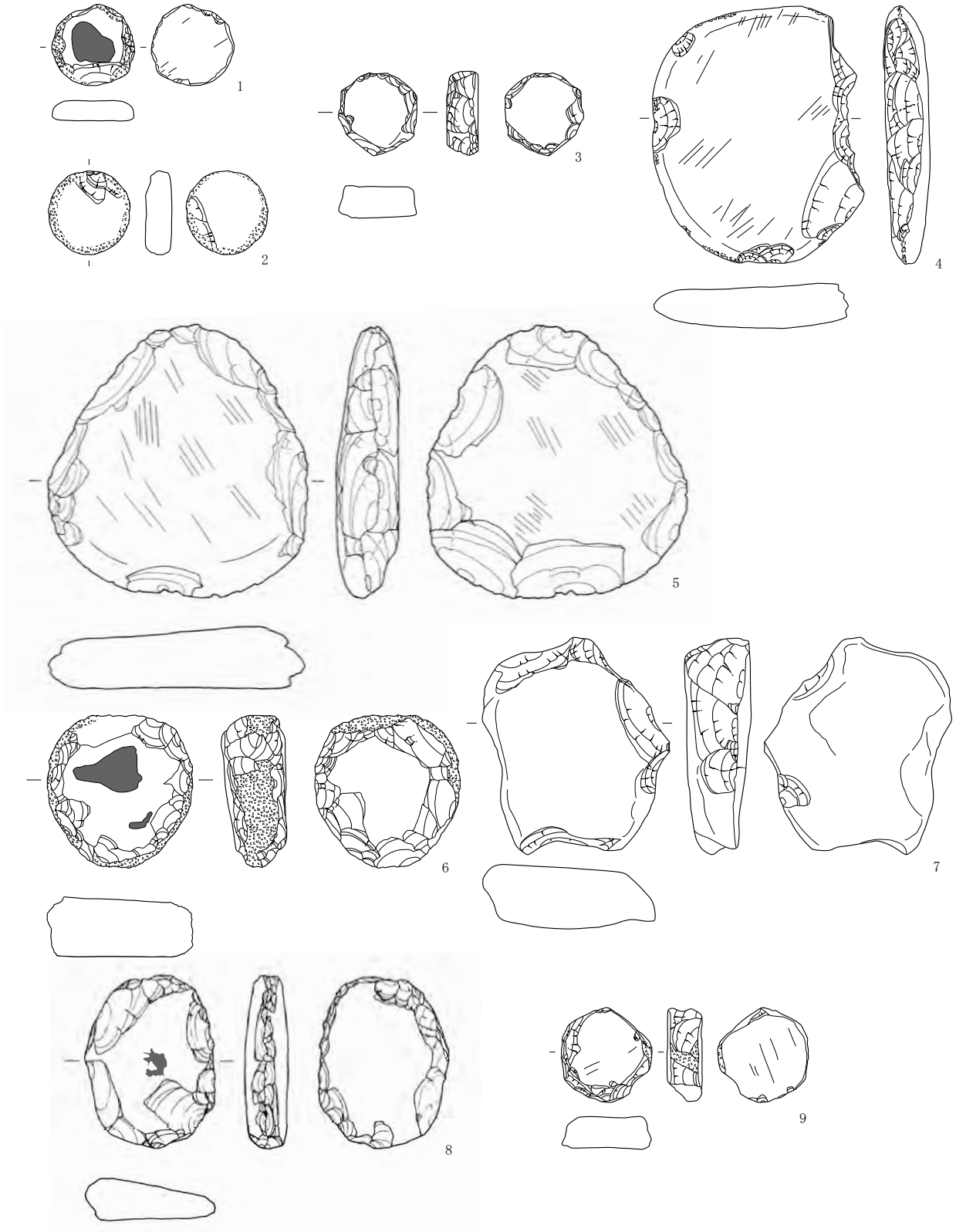


図68 石器・石製品 (32)

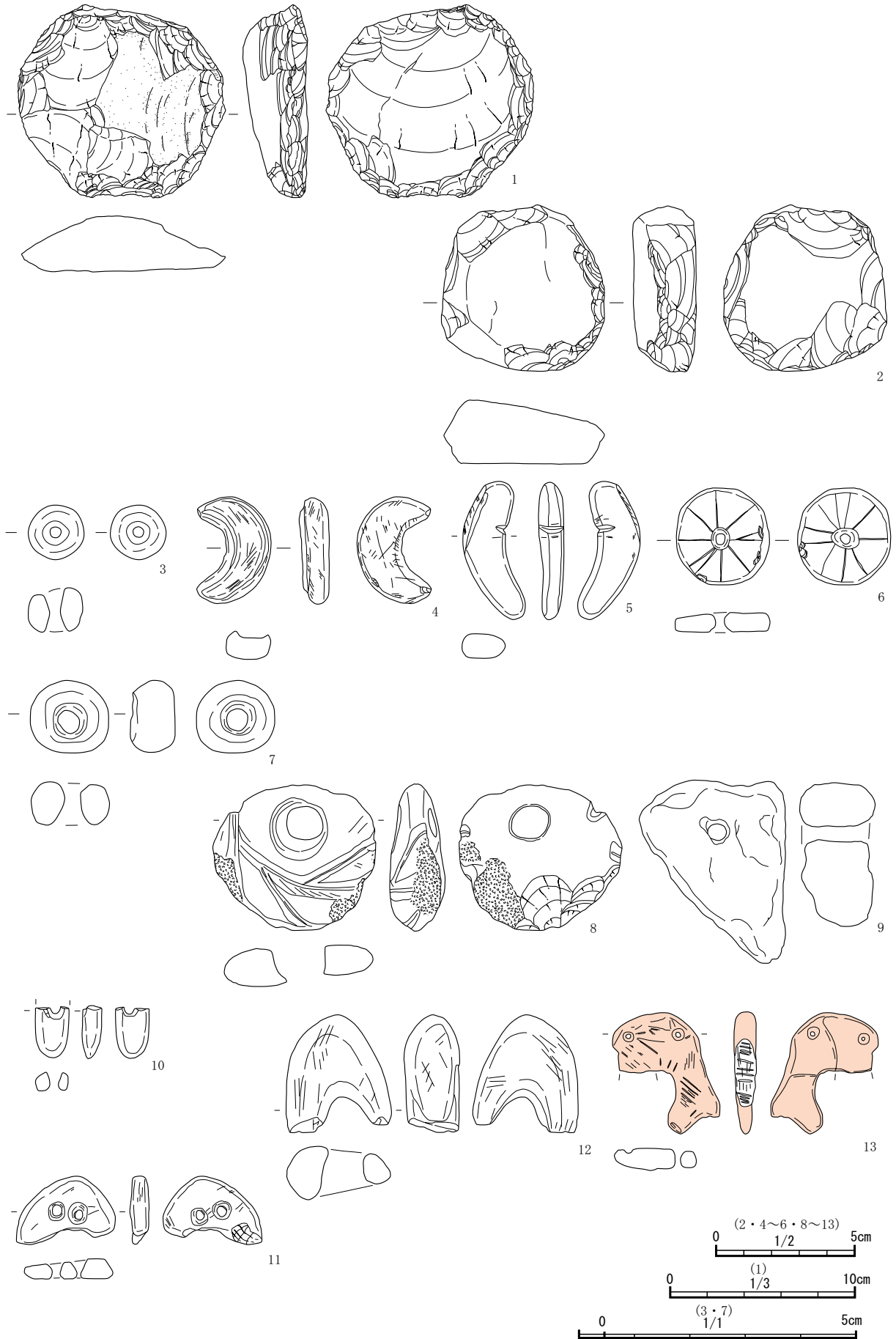


図69 石器・石製品 (33)



図70 石器・石製品 (34)

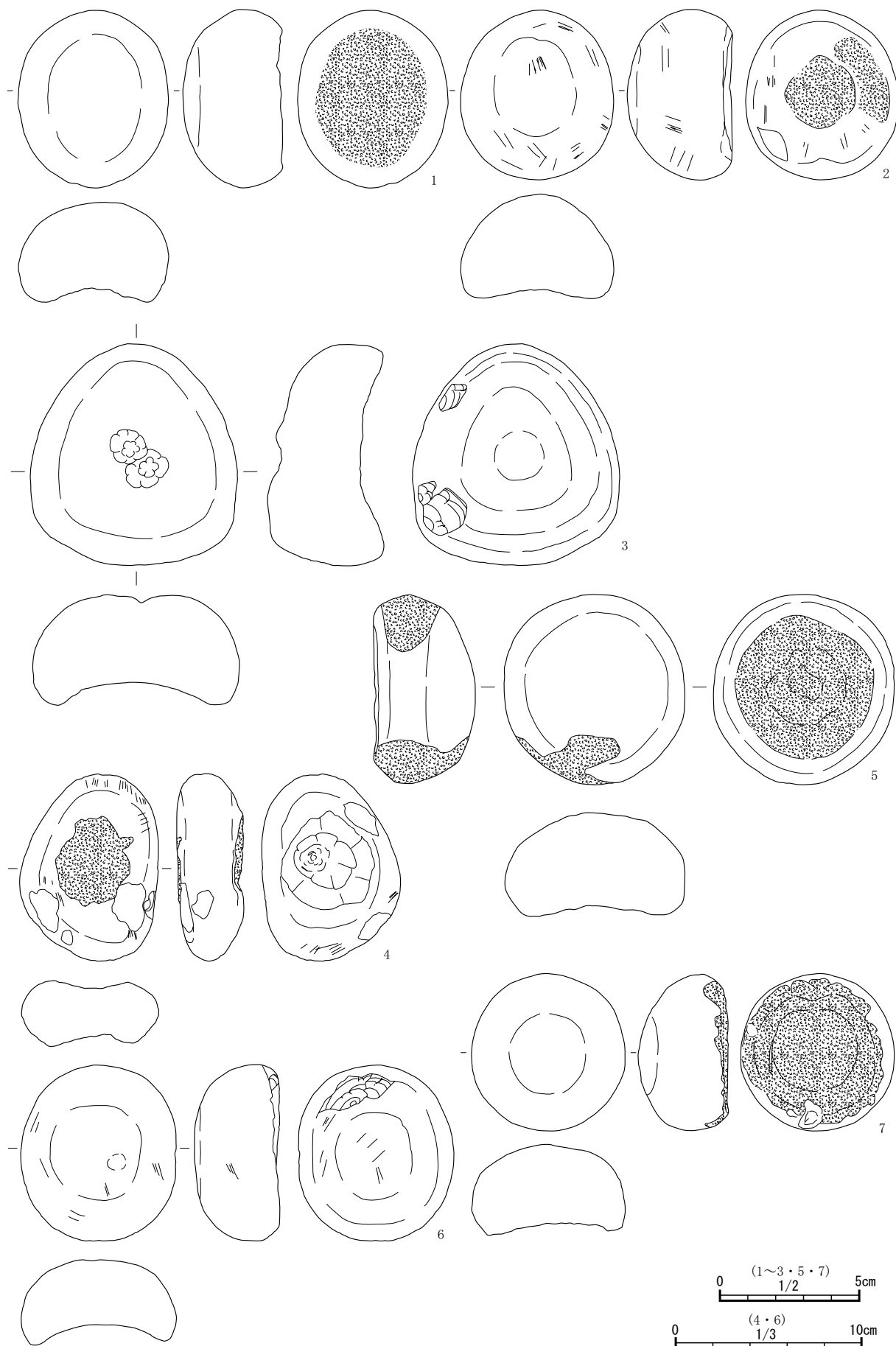


図71 石器・石製品 (35)

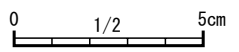
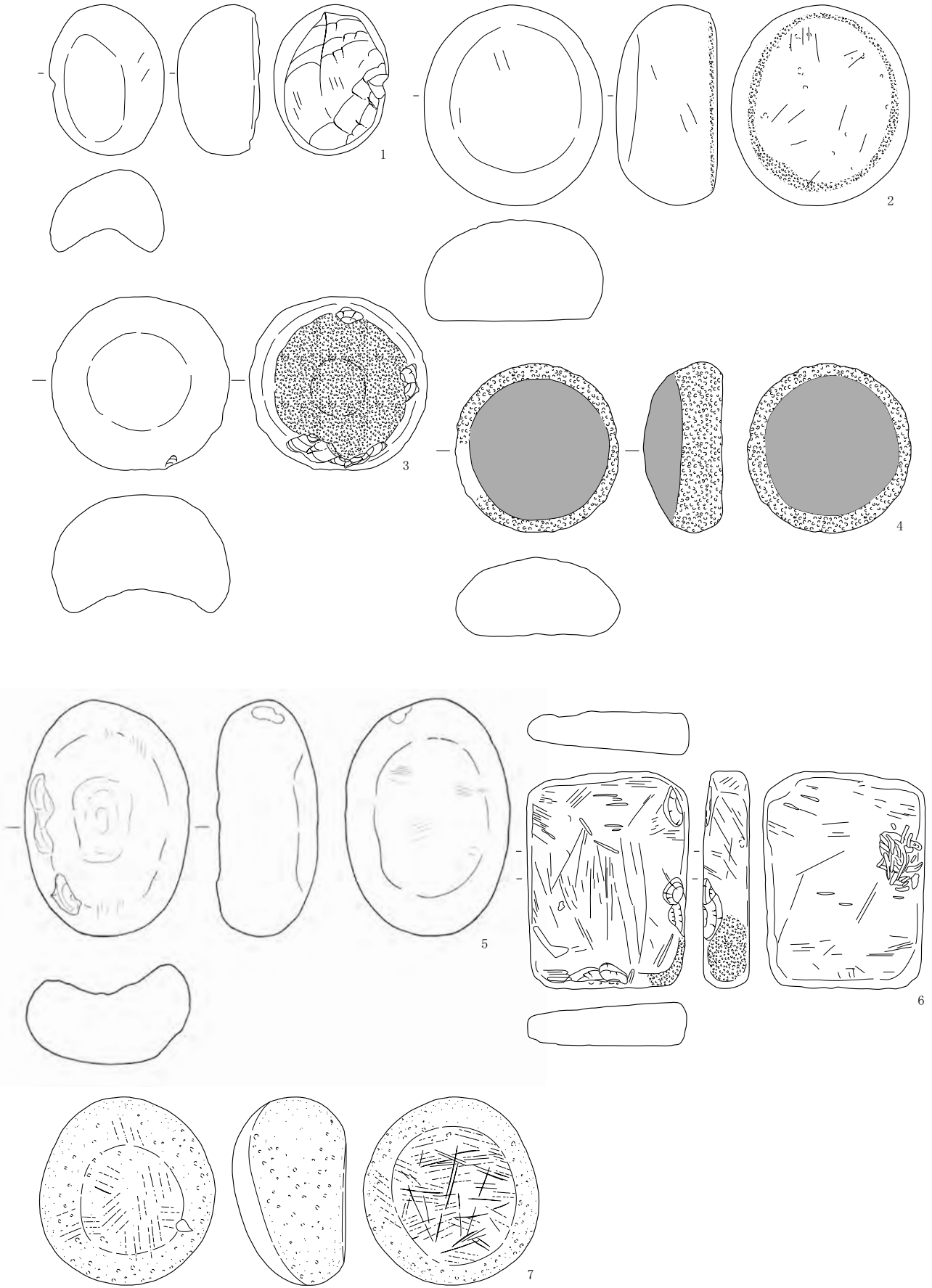


図72 石器・石製品 (36)





図73 石器・石製品 (37)

## 6 その他の遺物（植物製品・骨角器）

## 【植物製品】（写真197）

グリッドVM-39、振替31層(炭a層)から、植物の繊維を編んだものや、撚り紐が出土している。炭化物層から出土しており、焼かれた製品が、炭等とともに廃棄されたと思われる。

写真197-1(植15-3)は、シナノキ属の樹皮素材であり、3本撚りである(写真197)。

写真197-2(植16)は、ヒノキ科根材であり、網紐製品(もじり材)の断片と思われる。写真197-3(植16)は、笹類の茎の網組縄布である。

詳細は報告書Ⅷ(第580集)を参照されたい。

## 【骨角器】（図74、写真図版198）

グリッドVM-38、振替20層(捨B2層)から、カモシカの角芯部が出土している。全体は白くなっているため、火を受けたと考えられる。角芯の先端部分に擦切痕(写真198、拡大写真)が見られ、何かしらの加工が行われた。

(高橋)



図74 骨角器

## 第3章 まとめ

### 1 北捨場の堆積について

#### (1) 検討するセクションの選択

北捨場では、厚さ2m近くの遺物包含層が形成されている。堆積層の内容は、地点、層の上下などで変異があり、その形成には様々な要因が絡んでいた。ここでは、北捨場の主要なセクションであるセクション9,10,11における遺物・堆積層データを元に、北捨場の形成過程などについてまとめる。

セクション9は北捨場の西側に位置し、平場地区にある第1号盛土遺構(M1)との関係が押さえられるセクションである。セクション10は北捨場の中央部分に位置するセクションである。セクション11は北捨場の中央を東西に走るセクションであり、緩斜面と急斜面の境にある。そして、セクション9と10に連続しているので、両者の関係を捉えるのに必要なセクションである。

この3本は、調査の際に、幅約2m近くのベルトを残して掘り進めたので、セクションの堆積層に従って遺物を取り上げており、比較的他の層からの混入が少ない部分である。

#### (2) 各セクションの内容

〔セクション9〕後期後葉から晩期後葉の遺物が出土している。出土土器から各層の下限時期を比定すると、図75のとおりである(表1～3参照)。堆積層は、晩期後半とそれ以前に大別できる。その大別の中で、上下層における時期の逆転が部分的に見られる。地山は、斜面上方は礫層であるが(写真4-2など)、下は礫混じりの粘土層になる(写真7-1など)。

Sec9-1で第1号盛土遺構の堆積層が連続する。層の詳細は、報告書Ⅲ(第565集)を参照してもらうとして、簡単に推定時期を示すと、10層は、第22層に相当し、晩期後半段階の層である。11層は、第23層に相当し、晩期前半段階の層である。

晩期後半の堆積層は、緩斜面と急斜面の2つの部分に分かれる。急斜面部は、堆積層に礫が多く含まれるが、子細に観察すると、かならずしも均一ではなく、堆積層の斜面下側に多く含まれている(振替97層のようにそれで分層した場合もある)。特に、地形の変換点部分、Sec9-3一带、振替96層・振替97層辺りに多く礫が堆積し、そこから北側には礫の混入が散漫になる。晩期前半の層と比較して、層厚が薄く、細かな単位の堆積層が重複している。

比重の異なるものが上から一緒に投げられた際に、より重いものが下にたまる。晩期後半の堆積層に含まれている礫の混入状況は、斜面上側から、礫まじりの土砂が投棄されたことに起因していると思われる。

緩斜面側の振替8・76層などは、厚い層が堆積し、礫は含まれているが、急斜面側のように多量には含まれない。比較的均質な黒褐色土が堆積することから、急斜面からの自然流入と推定される。

後期後葉～晩期前半の堆積層は、振替101層あたりに礫が多く含まれるが、他は上層ほど含まれない。振替101層あたりは、地山が礫層なので、それらが混入したものと思われる。

後期後葉～晩期前半の堆積層は、後期後葉～晩期前半の土器が比較的良好な状態で混在する傾向が看取される一方、礫や地山塊の混入が少ない。このことから、後期後葉～晩期前半には土砂廃棄はほとんど行われず、遺物の廃棄が主体であったと推定され、晩期後半と比較して1つの層の堆積の時期幅が長いと想定される。層の堆積要因は、上からの遺物投棄および土砂の自然流入が想定されるが、その場での廃棄の可能性もある。

〔セクション10〕最下層で中期の土器が出土しているが、基本は晩期前葉から後葉の遺物が出土している(図75)。晩期後葉とそれ以前に大別でき、その大別の中で上下層における時期の逆転が見られる。地山は、斜面上の方もシルト質層であるが(写真10-1など)、下は礫混じりの粘土層になる(写真16-1など)。最下層(振替129層)は地山への漸移層である。無遺物層に近いが、捨Q層あたりは晩期5期の遺物が出土している。調査時に晩期後半の土器を確認していない上、遺物も多く出土したわけではないので、混入の可能性はある。

晩期中葉～後葉(晩期4～5期)では、セクション9同様に比較的細かな単位の堆積層が急斜面側に堆積し、緩斜面側は、厚い堆積層が見られる。中に見られる含有物など層相も類似しており、基本同じ成因で形成されたと思われる。セクション9のような礫の集積したような堆積層は確認できなかったが、振替28層辺りに一部礫が集中する部分がある。また、分厚い炭化物層(振替28・31層)が確認できるのもおよそこの時期である。

晩期中葉(晩期3期)は、急斜面側に堆積しており、やはり細かな単位の堆積層で形成されている。振替121層あたりを境に上層では礫の含有が多く見られるが、下層ではそれほど礫の含有は少ない。上層よりも黒褐色の色調が強く、特に振替89層以下、炭化物を多く含む層が堆積しており、本来はかなり有機質の遺物も含まれていた可能性がある。

晩期前葉(晩期1・2期)は、明確な範囲は捉えられなかったが、緩斜面と急斜面の境界付近に集中する。セクション11の振替93層一帯であり、調査時に遺物が多量にまとまって検出された地点である。SQ37が形成されたのもこの辺りである。晩期後半段階の堆積層のように礫は多量に含まれておらず、礫の分布に有意性はない。

振替89層は、斜面上方では晩期3期、下方では晩期2期が出土していることから、層界は判然としないものの、本来は別の堆積層であった可能性もある。この堆積層は、黒色度が強く、炭化物を多く含んでいる。振替89層の捨J層部分では、下層に晩期1b期が集中して出土している。ただこの辺りの層は時期の逆転が見られる。あるいは堆積層を更に細分できた可能性もある。

晩期前葉の層は、まとまって検出できた地点が限定されること、転石など上から投棄されたような痕跡がないこと、遺構が形成されることなどから、近くに、晩期前葉の生活面があったと思われる、その場で土砂・遺物などを廃棄していたと考えられる。一方で、形成される遺構は土坑を伴わない配石遺構が1基のみであり、生活面としての明瞭な痕跡が検出されなかったことや、堆積状況がセクション9の後期後葉～晩期前半に類似することから、堆積要因は、上方からの遺物投棄および土砂の自然流入の可能性もある。

〔セクション11〕晩期前葉から後葉の遺物が出土している(図75)。

晩期前葉は、振替93層に晩期2期の遺物が集中する地点が確認できた。ただ振替109層との関係で時期が逆転しており、堆積層が把握しきれなかった可能性もある。

晩期後半の堆積層は、西側へ傾斜している(写真20など)。多量の礫を含む層である。

礫の含有率が非常に高いこと、層の堆積の傾斜から、上方からの投棄した土砂などは、この部分にたまりやすかったため、礫などが集中したものと考えられる。

### (3) 堆積層のまとめ

【堆積層の特徴】後期後葉～晩期前葉(晩期1・2期)は、セクション10のSec10-3、緩斜面と急斜面

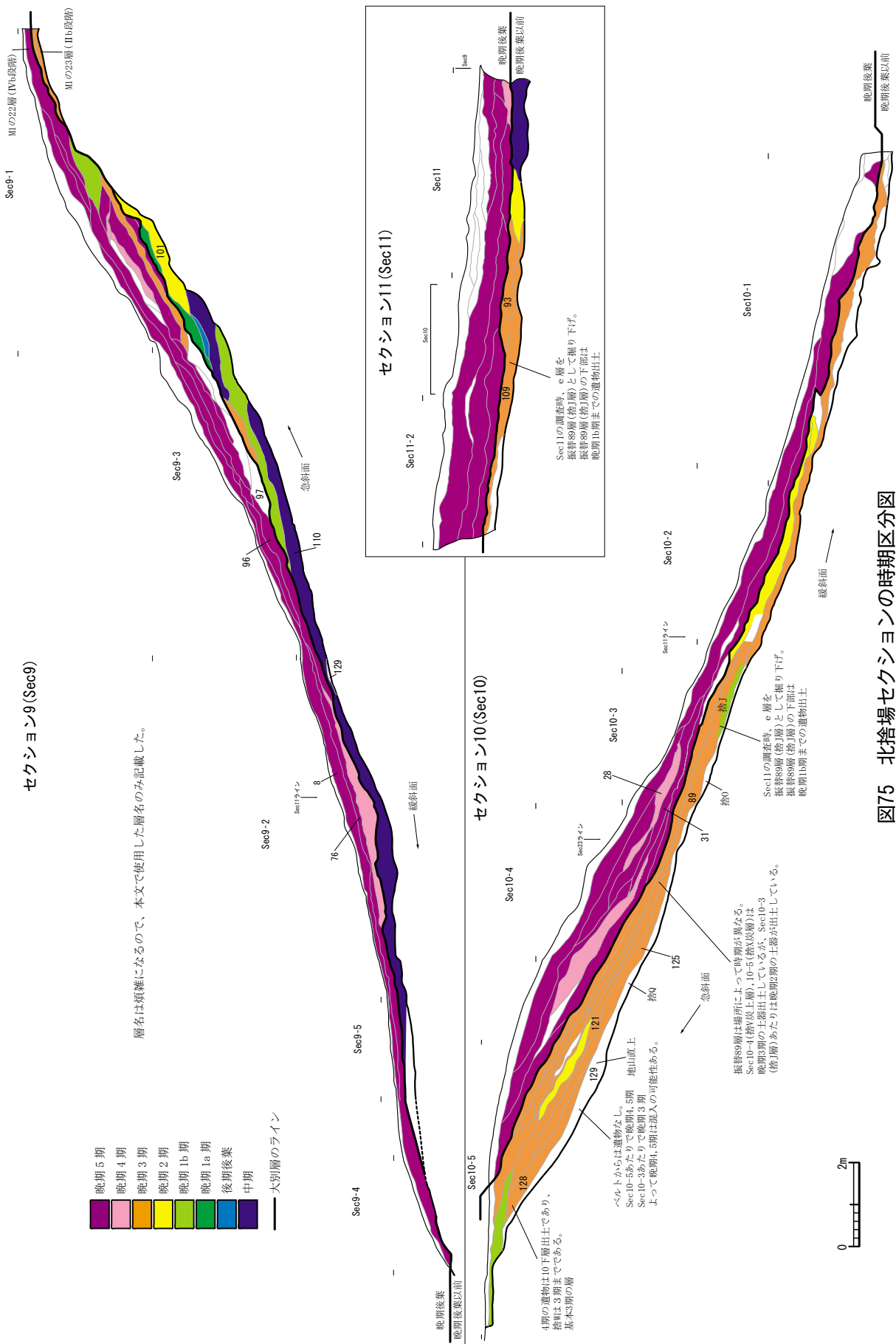


図75 北捨場セクションの時期区分図

の境目辺りに分布し、あまり全体に広がらない。遺構の形成もこの段階である。上から遺物などを投棄したというよりは、その場で廃棄した様な状況である。一方、堆積の分布がクラック地点の隣接域であることから、後期後葉～晩期前葉にかけて活発に利用されるクラック地点からの流れを汲んでいと捉えることもでき、層の堆積要因は上からの遺物廃棄と土砂の自然流入と解釈することも可能である。

晩期中葉(晩期3期)は、やはりセクション10にのみ集中した堆積が見られる。主に急斜面側に分布している。位置的に上の平場地区からの投棄と考えられる。

晩期前葉と中葉の堆積層、特に下層ほど炭化物などを含む黒褐色の層であるため、有機質遺物も併せて廃棄された可能性がある一方、該期は土砂廃棄が活発でなかったとも推定されることから、緩斜面は草木が繁茂できる環境であり、土壌の様相はそれに起因する可能性も指摘される。

晩期後半(晩期4～5期)は、全体に礫を多量に含む堆積層である。礫の入り込み方は一様ではなく、同一層内でもより斜面下側に礫が集中し、緩斜面と急斜面の境あたりに礫が集中している様相が見受けられる。セクション10に礫だまりが少ないのは、西側に堆積層が傾斜しており、セクション11あたりからセクション9にかけて、廃棄した土砂が流れていったためと思われる。言い換えれば、晩期前半段階で、北捨場の中央の方が、西側よりも堆積層が厚く堆積していたと思われる。

斜面上側は堆積層の単位が小さく、重複しているが、北側の緩斜面側は、厚い堆積層が覆っている。急斜面側は急激に堆積し、緩斜面側はゆっくりと堆積したと思われる。

【時期と画期】上記の観察所見から判断すると、堆積の大きな画期は、晩期前半と後半の段階、晩期3期と4期の間と考えられる。この段階は、北捨場の南側、台地の平場に展開する集落において、居住域の地点の変更、墓域の移転、盛土遺構の形成など、川原平(1)遺跡の集落構造における大幅な変革期でもある(報告書Ⅳ 第576集、報告書Ⅷ 第580集参照)。こうした変化が北捨場の形成過程に大きく影響を与えたと考えられる。

晩期前葉は、比較的狭い範囲において、その場で土砂や遺物などが廃棄される。後期後葉から晩期前葉においては、川原平(1)遺跡周辺地域では、川原平(4)遺跡A区、E区のような低位段丘上にも建物跡が構築されている。北捨場地区においても、何らかの人間活動が行われた可能性があるものの、状況は判然としない。

次に晩期後半には、集落の構造が変化し、川原平(4)遺跡に集団墓が形成される。また、台地の中心にあらたに居住域を形成し始める。そしてその近隣に盛土を形成するなど、晩期前半期とは異なる居住空間の利用という現象が見られる。特に集落は、地山が礫層の部分を選地している。晩期後葉段階の堆積層に礫が多量に含まれていることは、居住域の変化に伴い、大規模な整地作業が行われた結果、そして幾度かの住居の建て替えなどを含めた結果、多量の土砂が北捨場に廃棄されたと考えられる。分厚い炭の層から、時には生活廃棄物の投棄や、建物跡の建て替えにともなう整地という行為も含まれていたかもしれない。

【まとめ】北捨場の堆積層は時期に応じた堆積層の形成過程の違いが見られ、それが集落の構造変化と関連している可能性が高い。現状ではこうした基礎データを提示することにとどめるが、最終的には西捨場、北東捨場、東捨場、南捨場といった、中～大規模な捨場の層相の比較や、集落構造の変化と密接に関連づけて、さらに深化させた議論が必要であろう。(高橋・岩井)

## 2 遺物について

・北捨場出土の石棒類について(図76)

【石刀】 完形の石刀(写175-1)が炭b層から出土している。炭b層は、上下層に分かれるが、この石刀が出土した段階では、まだ分離が確認されていなかった。しかし検出状況から、炭b層の上層側(振替28層)と思われる。

形態は、柄頭が扁平な三角形で、沈線2条が一組で、2単位施されている。柄と刀身境の刃関は段を形成していないが、比較的明瞭である。刀身は直刀である。野村崇(1978)は、石刀をAからCの3つに分類した。川原平(1)遺跡のこの石刀は、形状的に亀ヶ岡遺跡出土の資料が類似するが、柄頭の形状が異なる。柄頭の形状に近いのは、青森県黒石市石名坂遺跡出土のものであるが、沈線の本数が異なるなど、差異が見受けられる。野村のいうB型に近いが、B型は柄頭が、台形もしくは長方形であるので、川原平(1)遺跡出土の石刀と形状が異なる。また、石刀類の全国集成を行った後藤信祐(1986)の分類に拠れば、同種柄頭を持つ石刀は、札苺型と九年橋型に分類できる。九年橋型は、柄頭に文様を持つものはほとんどなく、沈線を1、2条巡らす程度である。刃関は意識されず、柄部と刀身部の区分は不明瞭といった特徴を有する。札苺型の場合、柄頭部は長方形に近い形状で、彫刻的文様を持つものが多く、刃関が明瞭で、内反りの形状が多いと言った特徴を持つ。そのため、全体的な特徴から、川原平(1)遺跡の資料は九年橋型石刀に相当すると考えられる。

この型式の石刀の時期は、晩期後半と推定されるので、北捨場の出土層位(晩期4期)と齟齬はない。

なお、石刀の中には、在地で採取できる凝灰岩で、粘板岩製石刀を模した形態の石刀が出土している(写174-3)。粘板岩製石刀の希少性が、模倣品を作らせたのであろうか。この両者の関係の意味は今後の課題である。

【再加工】 石棒類に再加工の痕跡が見られる。振替15層から出土した石刀(写174-4)は、刀身の刃先が欠損しており、残存している部分から推定すると内反りの石刀である。欠損部に穿孔が3か所確認されている。破損したものをつなぎとめるための穿孔であろう。

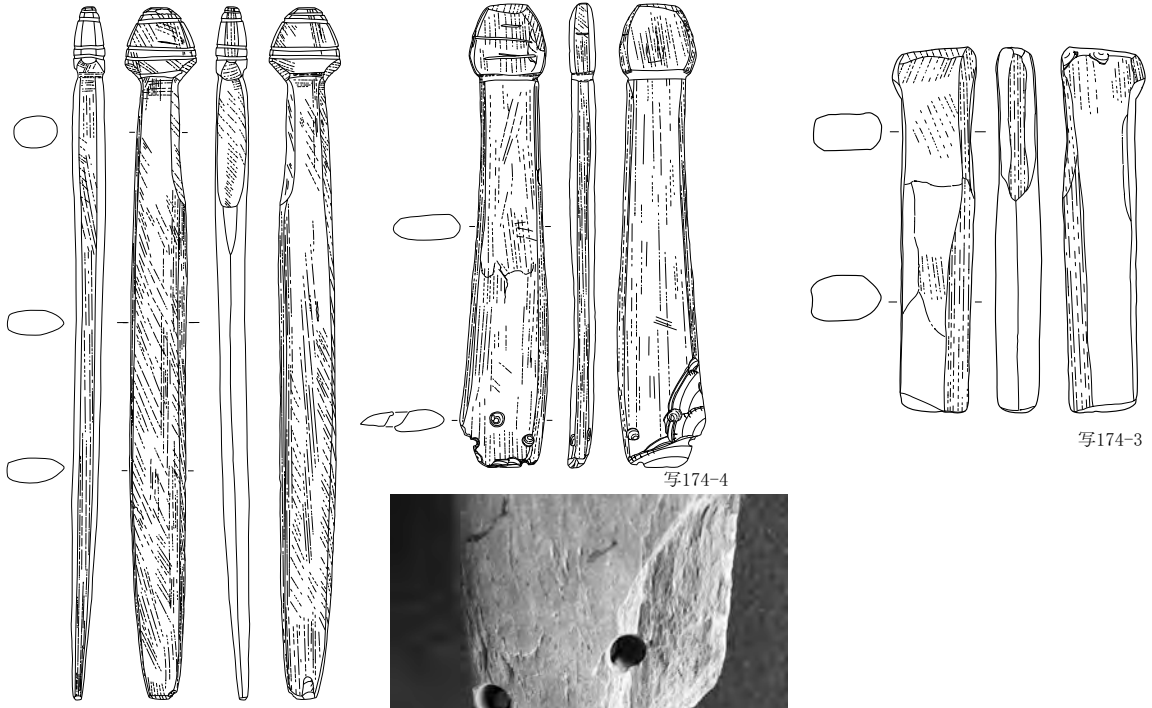
振替68層から出土した石棒(写175-9)は、先端部に擦切痕が見られる。全周に擦切を入れて、叩き折ったものと思われる。擦切痕を持つ石棒類は、報告書Ⅳ(第576集)の第3号盛土遺構や、報告書Ⅴ(第577集)の東延長からも出土している。こうした再加工などの痕跡が認められるが、粘板岩を用いた再加工品は北捨場では確認されていない。

【接合】 川原平(1)遺跡の石棒類は、破損品がほとんどである。藤村東男(1985)は、岩手県北上市九年橋遺跡の石棒類を検討したところ、完形品がないこと、推定される残存部から長さを推定し、3片以上に分割され、そして接合状況がほとんどないことから、破損されることが目的で製作されていると推定した。

川原平(1)遺跡の石棒類も出土したままでは破損品のみがほとんどである。しかし捨場間接合によって完形になる石棒が数本確認できた。図76の下端3本は、その代表例である。40cmを超える長さであり、柄と刀身を境に敲打帯、文様を持つなどの特徴から、熊登型石剣(後藤1986)などの縄文時代晩期前半に属すると推定される型式が主体である。晩期前半に多い型式であるが、出土層は晩期後半が多く、北捨場の晩期後半における廃棄活動と密接に関わっている可能性もあり、その原因の究明が待たれる。

(高橋)

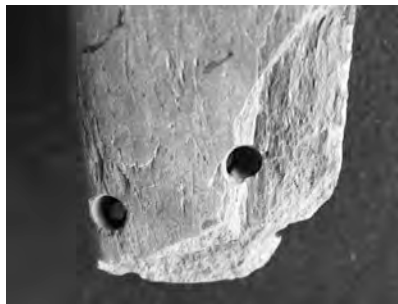




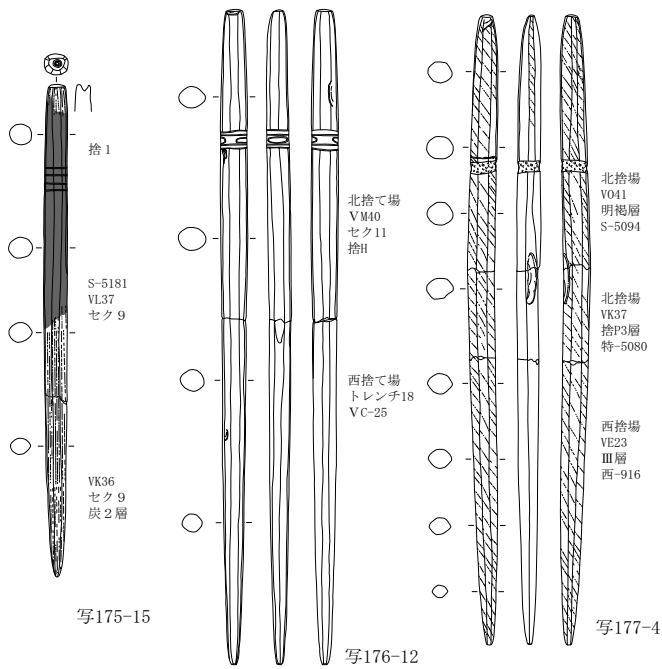
写175-1

写174-4

写174-3



写174-4の穿孔



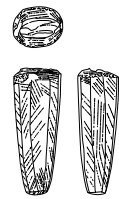
写175-15

写176-12

写177-4



写175-9の擦切痕



写175-9

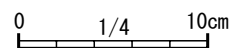


図76 北捨場出土の石棒・石刀・石剣

## 引用文献

- 青森県 2013 『青森県史』 資料編 考古2 縄文後期・晩期  
青森県教育委員会 1995 『千苺(1)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第174集  
青森県教育委員会 2006 『川原平(1)・(4)遺跡・大川添(2)遺跡・水上遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第409集  
青森県教育委員会 2014 『上新岡館・薬師遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第545集  
後藤信祐 1986 「縄文後晩期の刀剣形石製品の研究(上)」『考古学研究』第33巻第3号 31-60頁  
小林圭一 2010 『亀ヶ岡式土器成立期の研究-東北地方における縄文時代晩期前葉の土器形式-』  
関根達人 2005 「「十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器」に関する今日的見解」『葛西勲先生還暦記念論文集 北奥の考古学』  
七飯町教育委員会 1979 『峠下聖山遺跡』  
野村崇 1978 「北部日本における縄文時代晩期の石刀について」『北海道開拓記念館研究年報』第6号 27-45頁  
弘前大学人文学部日本考古学研究室 2005 『青森県東津軽郡平館村今津遺跡発掘調査報告書-津軽半島東沿岸部における  
亀ヶ岡文化の遺跡-』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告2  
弘前大学人文学部日本考古学研究室・弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター 2008  
『青森県三戸郡三戸町杉沢遺跡発掘調査報告書』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告6  
弘前大学人文学部日本考古学研究室・弘前大学人文学部附属亀ヶ岡文化研究センター 2012  
『下北半島における亀ヶ岡文化の研究』弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告8  
藤沼邦彦 1989 「亀ヶ岡式土器様式」『縄文土器大観4 後期 晩期 続縄文』小学館  
藤村東男 1985 「岩手県九年橋遺跡出土石剣類の損壊について」『古代』80号 241-257頁  
山内清男 1930 「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄文式土器の終末」『考古学』1-3 東京考古学会  
山内清男 1937 「縄紋土器型式の細別と大別」『先史考古学』1-1 先史考古学会  
山内清男 1964 「文様帯系統論」『日本原始美術 I 縄文式土器』講談社

表4 土器観察表(1)

写真 図版	番号	プレート など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	68 1	SQ37	VM41 (P-4)	東Ⅲ-1	69	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(32.0)	-	(36.0)	北-土器 5188
-	68 2	SQ37	VM41 (P-9)	東Ⅲ-1	69	鉢	後期8~ 晩期1a	平口縁。二山状台形突起(3単位残存、連続)。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ミガキ	炭化物(外面)	-	(15.0)	-	(8.4)	北-土器 5263
3	68 3	SQ37	VM41 (P-11)	東Ⅲ-1	69	壺	晩期1b	外面玉抱三又文(頸部)。沈線文。沈線で区画された無文帯。磨消縄文LR。縄文LR(体部下 半から底部)。底部凹底。	ナデ	赤彩(外面。内 面口縁部の み)。内面に 褐色付着物 (体部下半か ら底部)	-	-	4.6	(9.5)	北-土器 5115
-	69 1	-	VO44	I	1	深鉢か	晩期	外面縄文RL(底部)。底部平底。	ナデ	漆液(内面の み。靱れ口に 付着なし。暗 褐色。縮み散 りあり)	-	(8.2)	-	(2.3)	北-土器 5968
-	69 2	-	VK37	I相当	1相当	鉢	晩期4~5	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇刻目。外面・横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体 部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(20.0)	-	(7.5)	北-土器 5691
-	69 3	-	VL41	I	1	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面沈線間に相対する「ノ」字状文。縄文地施文。縄文LR (体部)。	ミガキ	褐色付着物 (内外面、特 に内面顕著)	-	(14.0)	-	(5.8)	北-土器 5659
-	69 4	-	VK39	I	1	浅鉢	晩期5	平口縁。口唇面取なし。外面工字文。文様帯地文なし。ナデ(体部)。	ナデ、沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(13.0)	-	(4.3)	北-土器 5449
-	69 5	-	VO40	I	1	浅鉢	晩期3	裝飾的な口縁。口唇内側肥厚。外面沈線間に彫去による雲形文。横位沈線2条(底部直上)。 磨消縄文LR。底部凹底。	ミガキ	-	-	(15.0)	3.0	4.3	北-土器 5566
-	69 6	711	VM40	a(I)	1	浅鉢か	晩期1b	平口縁。B突起(1単位残存。2側一組)。外面沈線間に入組三又文。横位沈線1条。文様帯地 文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(外面)	-	(19.0)	-	(2.7)	北-土器 5872
-	69 7	-	VK38	I	1	壺	晩期4~5	平口縁。突起並立2単位(2種斜交互(一山突起2側一組)口唇外側につく横位突起2側一組)。口 唇沈線。外面隆帯(連繫部突起状)。横位沈線2条(頸部と体部の境)。2条目の沈線内に2側一 組の突起か。地文なし。ミガキ(頸部)。	沈線2条(口 縁部)	-	(20.8)	-	(14.5)	-	北-土器 5680
-	69 8	-	VK37	I	1	壺	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇内削ぎ。外面横位沈線1条(頸部と体部の境)。ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。 台部横位沈線。工字文。地文なし。	ナデ	-	胎土小粒多い。 焼成不良	-	-	(13.2)	北-土器 5685
-	69 9	711	VM38	I	1	台	晩期5	台部横位沈線。工字文。地文なし。	ナデ	-	-	(4.4)	(2.7)	北-土器 5999	
-	69 10	-	VM37	SN-ab	6-7	鉢か	晩期4~5	外面横位沈線4条残存。縄文地施文。縄文RL(体部)。	ナデ	-	-	-	-	(4.6)	北-土器 5843
-	69 11	-	VN37	黒色	8	鉢か	晩期4~5	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(13.0)	-	(5.0)	北-土器 5961
-	69 12	719	VL37	I	8	台付鉢 か	晩期5	平口縁。突起(1単位残存)。口唇沈線。外面工字文。地文なし。	ミガキ。沈 線1条(口縁 部)	赤彩(内外面)	-	-	-	(2.0)	北-土器 5962
-	69 13	719	VJ36	10-2	9	深鉢	晩期5	平口縁。口唇面取(内削ぎ状)。沈線1条。肥厚(外、縄文LR)。外面横位沈線8条。3条目に 突起。4から6条目と5から7条目に縦位短沈線。3条目より下は縄文地施文。縄文LR(体部)。 文。縄文RL(体部)。	ミガキ	炭化物(内外 面)	-	14.8	(10.6)	北-土器 5326	
-	69 14	-	VK37	10-2 捨P1 捨P3中	9 43の上層 62	深鉢	晩期4~5	二山突起5から6単位(4単位残存)。口唇部分的に面取(平坦)。外面横位沈線3条。縄文地施 文。縄文RL(体部)。	ナデ、沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(24.0)	(8.0)	北-土器 5338	
-	69 15	-	VK37	10-2	9	深鉢	晩期4~5	外面横位沈線2条(底部直上)。縄文地施文。縄文LR。底部平底。	ナデ	炭化物(内面)	-	-	(6.6)	(3.2)	北-土器 6165
-	69 16	-	VK37	10-2	9	深鉢	晩期	外面ナデ(底部)。底部平底、中央に磨痕残存。	ナデ	-	-	-	7.8	(3.0)	北-土器 6134
-	69 17	-	VK37	10-2	9	鉢	晩期4~5	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線3条(3条目は突起部分で透切れる)。突起(2側一組、 片側の突起頂部刻目1本、もう一方の突起頂部の刻目は3条目の横位沈線に連繫する箇所あ り)。1・2条目は地文なし。3条目は縄文地施文。縄文RL(体部)。	ナデ、沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(11.4)	-	(6.2)	北-土器 6014

表4 土器観察表(2)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	69	18	-	VK37	10-2	9	鉢	晩期4-5	平口縁。口唇縦文。外面沈線で区画された縄文。横位沈線4条。3・4条目は頸部突起に分歧。眼縁状隆帯(隆帯上に突起)。沈線文。工字文。口縁部は地文なし。体部は縄文地施文。縄文LR。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(17.0)	-	(6.7)	北-土器 6184
-	69	19	-	VK37	10-2	9	壺	晩期4-5	外面工字文。横位沈線。縄文地施文(LR)。	ナデ	-	-	-	-	北-土器 6105	
-	69	20	ㄗ10	VM39	b	10	鉢か	晩期4-5	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取(平耳)。外面横位沈線3条(3条目は突起部分で途切れる)。突起(2個一組)。上部に縦位の短沈線。口唇突起とは対応しない。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内面)	-	(14.0)	(5.0)	北-土器 5643	
-	69	21	ㄗ11	VM38	SN-c	10	鉢か	晩期4-5	平口縁。一山突起(水突起)4単位。大突起間に小突起各3単位。口唇沈線。外面沈線文。刺突列2条。文様帯地文なし。	不明。沈線2条(口縁部)	炭化物(内外面。内面に厚く付着)	加写87-9と同一	(19.0)	(3.8)	北-土器 6057	
-	69	22	ㄗ11	VM38	SN-c	10	鉢	晩期4	平口縁。口唇面取なし。刻目。外面横位沈線3条。2条目は片側の突起頂部に分歧。3条目は突起部分で途切れる。突起(2個一組。5から6単位か。3単位残存)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	16.4	(6.5)	北-土器 5574	
-	69	23	ㄗ11	VM38	SN-c	10	注口	後期後葉 ~ 晩期前葉	外面沈線文。突起。	ナデ	アスファルト(注口穿孔部に充填)	-	-	-	北-土器 6038	
-	69	24	-	VL39	捺A.G抜根	11(抜根)	深鉢	晩期	平口縁。二山突起1単位。口唇面取(内削ぎ状)。外面縄文RL。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(32.0)	(25.8)	北-土器 5405	
-	69	25	ㄗ24	VL38	捺A上	11	浅鉢か	晩期5	平口縁。突起(1単位残存)。口唇沈線。内側肥厚。外面横位沈線5条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	-	-	(17.6)	(3.4)	北-土器 5838	
-	69	26	ㄗ10	VL39	捺G上	11	台付鉢 か	晩期5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇沈線。外面横位沈線6条残存(1条目に突起、4条目に縦位短沈線)。地文なし。	ミガキ。沈線2条(口縁部)	赤彩(内外面)	-	(14.0)	(5.0)	北-土器 6024	
-	69	27	ㄗ10	VL39	捺G上	11	台付鉢	晩期5	外面横位沈線7条残存(1から5条目に縦位の短沈線)。縄文地施文。縄文RL。底部台。	ミガキ	-	-	-	(4.2)	北-土器 5956	
-	69	28	-	VL38	捺A(捺B)層	14	台付鉢 か	晩期5	平口縁。突起(1単位残存)。口唇刻目(口唇外側)。外面横位沈線。工字文。地文なし。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(外面)	-	(11.0)	(2.7)	北-土器 6233	
10	69	29	ㄗ10	VL39	捺G上	11	台付鉢	晩期5	平口縁。二山突起単位。口唇面取なし。外面横位沈線3条(中央の沈線上に2個一組の突起4単位、口唇突起間に配置)。縄文地施文。ナデ(口縁部)。縄文LR(体部)。底部-右。右部:沈線文。工字文。刻目。端部突起(2箇所残存)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	16.7	9.5	北-土器 5131	
-	69	30	ㄗ10	VL39	捺F	11	鉢	晩期5	平口縁。突起(2個一組。1単位残存)。口唇刻目(斜位)。外面工字文。突起(1箇所残存)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	不明。沈線1条(口縁部)	炭化物(内面厚く付着)	-	(15.1)	(5.0)	北-土器 5711	
-	69	31	ㄗ10	VL39	捺G上	11	台付鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条(3条目は突起部分で途切れる)。突起(1箇所残存。2個一組。片側の突起に刻目)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(18.0)	(7.6)	北-土器 6025	
-	69	32	ㄗ10	VL39	捺F	11	鉢か	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条。3条目は突起部分で途切れる。突起(2個一組。片側の突起に刻目)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(21.4)	(4.0)	北-土器 6476	
-	69	33	ㄗ10	VL39	捺F	11	鉢か	晩期4	平口縁。口唇面取なし。刻目。外面横位沈線4条。突起(1箇所残存。横長。頂部押正)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(19.6)	(7.8)	北-土器 5667	
-	69	34	-	VM40	捺F	11	鉢	晩期1b	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線2条。入組文。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(外面)	-	(22.0)	(8.7)	北-土器 6032	
-	70	1	-	VL38	捺B.B2	ㄗ12の11~ 25	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取(内削ぎ状)。外面横位沈線3条。縄文地施文。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(29.0)	(8.3)	北-土器 5624	
-	70	2	-	VL38	捺B.B2	ㄗ12の11~ 25	深鉢	後期後葉 ~ 晩期	平口縁。口唇面取(内削ぎ状)。外面縄文RL。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(27.0)	(17.4)	北-土器 5825	
-	70	3	-	VL37	捺B.B2	ㄗ12の11~ 25	台付鉢 か	晩期5	平口縁。一山突起2単位残存。口唇沈線(口唇突起頂部で途切れる)。外面横位沈線4条。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	口唇突起部に 括弧状の 沈線文。沈 線1条	炭化物(内外面)	-	(20.0)	(4.8)	北-土器 5640	

表4 土器観察表 (3)

写真 図版	番号	印 など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	70	4	-	VL38	捨B2	皿	晩期3	装飾的な口縁。口唇・内側肥厚。外面2条の沈線間に雲形文(沈線。簡略化)。磨消縄文LR。	ミガキ、沈線1条(体部と底部の境)	-	-	(13.4)	(7.2)	3.3	北-土器 5696
-	70	5	-	VL40	捨G	鉢	晩期4-5	平口縁か。口唇・沈線。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	13.0	-	(7.2)	北-土器 6336
-	70	6	-	VL40 (P-5332)	捨G	鉢	晩期4	平口縁。口唇・刻目。外面横位沈線3条。突起4単位(2個一組)。文様帯地文なし。縄文LR(体部から底部)。底部平底。	ナデ	炭化物(内外面)	-	12.2	3.8	8.5	北-土器 5209
-	70	7	-	VL40	捨G	鉢	晩期3	装飾的な口縁。突起(1単位残存)。口唇・外側肥厚。外面雲形文か。	ミガキ、沈線1条(口縁部)	-	-	(13.0)	-	(5.5)	北-土器 5470
-	70	8	-	VL40	捨G	台付鉢	晩期3	外面・沈線間に刻目列。突起(頂部部に2個残存。1個は頂部に刻目)。彫去による雲形文。横位沈線2条。沈線文(C文字)。横位沈線1条。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	(4.8)	(4.8)	北-土器 5470-2-3
10	70	9	-	VK40	捨G	鉢	晩期	小波状口縁。(粗雑、低平)。口唇・面取なし。外面・ナデ。外面器面調整粗く凸凹顕著。底部平底。	ケズリ	炭化物(内外面)	-	(14.8)	(5.9)	(13.3)	北-土器 5426
-	70	10	-	VK40	捨G	鉢か	後期7-4か	平口縁。口唇・面取(平坦)。外面・沈線間に刺突列(竹管状)。文様帯地文なし。縄文LR(口縁部)。	摩滅	-	-	(26.4)	-	(4.6)	北-土器 5556
-	70	11	-	VK40 (P-5560)	捨G	壺	晩期後半か	平口縁。口唇・面取なし。外面・横位沈線1条(頸部と体部の境)。ナデ・縄文LR(体部から底部)。底部平底。	沈線1条(口縁部)。ナデ、肩部内面ユビオサエ	-	-	(12.0)	10.3	26.3	北-土器 5199
-	70	12	-	VL40 (P-5334)	捨G	壺	晩期前葉~中葉	平口縁。口唇・面取なし。外面・ナデ(口縁部)。縄文LR(体部から底部)。底部平底。	ナデ	-	-	(8.0)	6.6	(17.0)	北-土器 5158
-	70	13	-	VL40 (P-5333) VL40 (P-5383) VL39 セク10 VK39	捨L 捨G下 捨G5	壺	後期後葉~晩期	外面・縄文LR。	ナデ	-	-	-	-	(21.0)	北-土器 6585
-	70	14	-	VL40	捨G	不明	晩期	外面・ナデ。張り出し1箇所(内面押圧)。	ナデ	-	-	-	-	(2.5)	北-土器 6281
-	70	15	-	VM38	捨B	深鉢	晩期5	平口縁。突起(欠損)。口唇・面取(内削ぎ状)。沈線。外面・口唇形状に沿った沈線4条(地文なし)。横位沈線7条。4条目に低平な突起2個(突起面側は深く凹む)。縄文LR(体部下半部)。	ナデ(口縁部に面取時の粘土の段あり)	炭化物(内外面)	-	(30.0)	-	(16.2)	北-土器 5564
-	70	16	-	VL38	捨B	深鉢	晩期5	平口縁。口唇・面取なし。外面・横位沈線8条。3条目の沈線に突起(2個一組)。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(20.8)	-	(13.0)	北-土器 6381
-	70	17	-	VL38	捨B	台付鉢	晩期4-5	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇・面取なし。外面・横位沈線2条。1条目の沈線に突起。文様帯地文なし。縄文LR(口縁部、体部から底部)。	ミガキ、沈線1条(口縁部)	-	-	(12.0)	-	(7.0)	北-土器 6408
-	70	18	-	VL37	捨8相当	深鉢	晩期5	平口縁。口唇・面取なし。外面・横位沈線8条。4条目に突起。6条目は縦位の短沈線により工字文状に途切れる。縄文LR(部分削ぎ・ナデ消し)。縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(25.0)	-	(8.5)	北-土器 5621
-	70	19	79	VM37	捨8	台付浅鉢か	晩期5	平口縁。口唇・面取なし。外面・横位沈線7条。3条目に突起(2個一組、片側の突起剥離)。6条目に縦位の短沈線。地文なし。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(14.0)	-	(4.0)	北-土器 5721
-	70	20	79	VL37	炭4	深鉢か	晩期5	平口縁。口唇・面取なし。外面・横位沈線9条。3条目に突起(2個一組か)。縄文LR(体部)。	ナデ、沈線1条(口縁部)	炭化物(内面)	-	(18.6)	-	(7.3)	北-土器 6456
-	70	21	79	VK37	炭4	鉢か	晩期4-5	平口縁。二山突起か(1単位残存)。口唇・外削ぎ。刻目。外面・横位沈線2条。口縁部地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ、沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(12.6)	-	(8.6)	北-土器 6314
-	71	1	-	VM39	捨A	深鉢か	晩期5	口唇・面取なし。外面・横位沈線5条(3条目に突起)。地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	胎土小礫多い	(15.6)	-	(5.0)	北-土器 5793

表4 土器観察表(4)

図版	写真 図版	番号	トノ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	71	2	-	VL39	捨A	14	深鉢か	晩期5	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線5条(組)。3条目に2個一組の突起。縄文地施文。縄文RL(体部)。	不明	炭化物(内外 面)。内面厚く 付着。	-	(130)	-	(6.0)	北-土器 5785
-	71	3	-	VK39	捨A	14	台付鉢 か	晩期5	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線3条(2,3条目に突起)。工字文。地文なし(横位沈線3 条(口縁部分)。縄文地施文(工字文部分)。縄文RL(口縁部、体部下半)。	ナデ、沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(220)	-	(6.5)	北-土器 5329
-	71	4	-	VK39	捨A	14	浅鉢か	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線2条(沈線間に刻目4本)。突起(1箇所残存、2個一組)。 文様帯地文なし。	ナデ、口縁 部に凹線状 の段	-	(140)	-	(2.2)	北-土器 6207	
-	71	5	先行N	VK39	捨A	14	台付鉢	晩期2-3	外面:縄文RL(体部)。台部:沈線文。透かし孔。地文なし。	ミガキ	炭化物(内外 面)	-	-	-	(8.1)	北-土器 6570
-	71	6	-	VJ39	捨A	14	鉢か	晩期1bか	平口縁。突起(1単位残存、2個一組)。外面:横位沈線1条。短沈線刻2条。磨消縄文RLか。	ナデ	-	-	(16.2)	-	(4.3)	北-土器 6161
-	71	7	-	VL39	捨A	14	鉢か	後期後葉 ~晩期	外面:縄文RL(体部から底部)。	ナデ	漆液(内面 のみ。褐色で薄 い膜状の縮み あり)	-	-	-	(6.5)	北-土器 5765
-	71	8	-	VJ39	捨A	14	鉢か	後期7-4	平口縁。二山突起(1単位残存)。外面:隆帯(口縁突起の凹部)。貼瘤。沈線間に刻目列2条。 縄文RL(口縁部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(21.8)	-	(5.3)	北-土器 6535
-	71	9	-	VK39	捨A	14	壺	晩期中葉 ~後葉	平口縁。口唇面取(外削ぎ状)。外面:ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。底部:平底。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(7.3)	-	(12.5)	北-土器 5334
-	71	10	-	VL39 (P-5994)	捨A	14	壺	晩期4-5	外面:ナデ(口縁部)。縄文RL(体部から底部)。底部:平底。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	-	6.6	(14.1)	北-土器 5120
-	71	11	-	VL39	捨A	14	注口か	晩期5	VI写75-20と同一個体。	-	-	-	(12.4)	-	(4.5)	北-土器 6483
-	71	12	-	VK39	捨A	14	香炉か	晩期	外面:透かし孔。隆帯。突起(縦位のB字状)。文様帯地文なし。	ナデ	-	-	-	-	(2.0)	北-土器 6182
-	71	13	-	VL38	捨A下、捨B	15	壺	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面:ナデ(口縁部)、縄文RL(体部から底部)。底部:平底(凹底状)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(6.0)	5.5	12.0	北-土器 5155
-	71	14	-	VL38 (P-5886)	捨h	15	壺	晩期4-5	外面:ナデ(口縁部)。縄文RL(体部から底部)。外面:調整粗粒なため器面の凸凹残存。底部:平 底。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	-	6.4	(12.5)	北-土器 5049
-	71	15	479	VK36	炭1	16	壺	晩期4-5	突起(2種類交互(二山突起/2個一組の横長突起)。各2単位残存)。口唇面取なし。外面:隆帯 (隆帯に突起)。文様帯地文なし。	ナデ、沈 線2条(1条目 は口縁突起 に棘状に分 枝)	-	-	(12.8)	-	(3.7)	北-土器 6068
-	71	16	479	VL37	捨6	17	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線2条。縄文地施文。縄文RL(体部)。最上段の粘土紐接 合痕残存	ナデ	炭化物(内外 面)。	胎土小礫多い	(100)	-	(9.5)	北-土器 5766
-	71	17	479	VL37	捨6	17	台付 浅鉢か	晩期5	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線7条(3条目に突起。5条目に縦位短沈線)。地文なし。 ミガキ(体部)。	ナデ	赤彩(内外 面)	-	(120)	-	(3.8)	北-土器 5782
-	71	18	-	VL36	捨6	17	深鉢	晩期	平口縁。二山突起1単位。口唇面取(平坦)。外面:縄文RL。	ミガキ	炭化物(外面)	-	(300)	-	(14.5)	北-土器 5404
-	71	19	-	VL37	捨B捨8相 当	18相当	壺	晩期5	外面:沈線文(彫去状)。文様帯地文なし。	ナデ	-	-	-	-	(2.5)	北-土器 5622
-	71	20	-	VM38 (P-5469)	捨B2捨B4 (直上)	19-25	台付鉢 か	晩期5	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線3条。眼帯状隆帯1条。隆帯に突起(2個一組と1個単独 あり)。横位沈線。工字文。縄文地施文。縄文RL(体部下半)。	ナデ、沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(13.8)	-	(6.7)	北-土器 5625
-	71	21	-	VL37	捨B2相当	20相当	浅鉢か	晩期4	外面:沈線文。磨消縄文RL。	ミガキ	-	-	-	-	(3.8)	北-土器 5645
-	71	22	479	VL37	捨1	23	深鉢か	晩期5	平口縁。口唇刻目(口唇外側)。外面:突起。横位沈線1条(突起で透切れる)。刻目列。横位沈 線4条。3条目の沈線は突起で透切れる。突起(2個一組)。地文なし。	ミガキ	炭化物(内外 面)	-	(22.8)	-	(3.8)	北-土器 6430

表4 土器観察表 (5)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	71	23	ㄱ79	VL37	捨1	23	浅鉢	晩期5	口縁形状不明。外面:横位沈線1条。矢羽状文。横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ。	ナデ。沈線(突起)内側。口縁と体部の境に凹線状の段。	赤彩(内外面)	-	(26.0)	-	(4.7)	北-土器 5435
-	71	24	-	VL37	捨1.9相当	23-96相当	台付 浅鉢	晩期5	平口縁。B突起1単位残存(2個一組)。口唇:面取(平里)。外面:横位沈線2条。1条目の沈線に2個一組の突起(3箇所残存)。工字文。文様帯地文なし。ミガキ、ナデ(体部から台部)。底:台。	ナデ	赤彩(内外面とも口縁と台部に残存)	「VL37 B8層相当 振替18相当」で同一個体出土	31.0	(13.0)	14.6	北-土器 5414
-	71	25	-	VK35	SN-B 22-2 1号盛土22-2層	22-2層	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条。ミガキ。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(10.2)	2.8	4.5	北-土器 5333
-	71	26	-	VK35	SN-B 22層 1号盛土22層	22層	皿	晩期3	平口縁。口唇:面取なし。外面:沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。沈線文。横位沈線2条。磨消縄文LR。ミガキ(体部下半)。	ミガキ	-	-	18.4	-	(5.0)	5284
-	71	27	M11ㄱ75	VK36	11層	1号盛土23層	鉢	晩期1aか	平口縁。口唇:面取(平里)。刻目。外面:沈線文(粗線)。縄文地施文(LR)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(15.0)	-	(6.0)	6295
-	71	28	-	VK35:36	11層	1号盛土23層	皿	晩期4	平口縁。口唇:沈線。内側肥厚。外面:横位沈線2条。沈線による雲形文。横位沈線3条(底部直上)。磨消縄文LR。底部:平底。	ナデ、ミガキ。沈線1条(口縁部)	褐色膜状附着物(内外面。赤彩)	-	(29.2)	(16.0)	(3.7)	北-土器 5432
-	71	29	ㄱ79	VJ36	10層	24	台付鉢 か	晩期5	平口縁。口唇:面取なし。外面:工字文。横位沈線。地文なし。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	赤彩(内外面)	-	(18.4)	-	(3.1)	北-土器 6499
-	71	30	-	VJ38	10層	24	鉢	晩期2	外面:横位沈線1条。沈線間に刻目列1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	-	(4.0)	6353
-	71	31	-	VJ37	10層	24	片口鉢	晩期4か	片口。口唇:刻目。外面:横位沈線2条。縄文地施文(LR)。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	-	(5.2)	6357
-	71	32	-	VL39	捨DE	26-29	深鉢	晩期	平口縁。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条(浅く粗線)。縄文地施文。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(17.8)	-	(8.5)	北-土器 5729
-	71	33	-	VL39	捨DE	26-29	台付鉢 か	晩期4	平口縁。口唇:面取なし。刻目。外面:横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(14.0)	-	(5.3)	北-土器 5651
-	72	1	ㄱ710	VL39	捨G下	25	深鉢	晩期4-5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条。条痕(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(25.6)	-	(13.2)	6508
-	72	2	ㄱ710	VL39	捨G下	25	深鉢	晩期4-5	平口縁。外面:横位沈線3条。肩部に突起(1箇所残存。2個一組)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(32.0)	-	(14.9)	北-土器 6523
-	72	3	ㄱ710	VL39	捨G下	25	台付鉢 か	晩期5	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇:沈線。外面:横位沈線7条。2条目に突起、3、4条目間に縦位の短沈線。地文なし。	ミガキ	-	-	(16.2)	-	(4.3)	6510
-	72	4	ㄱ724	VL38	捨B3	25	鉢か	晩期4-5	平口縁。二山突起(2単位残存)。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条。2条目は突起片側に分枝。3条目は突起で透切れる。突起(2個一組。肩部に1箇所残存)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(17.6)	-	(6.5)	北-土器 6491
-	72	5	ㄱ710	VL39	捨G下	25	鉢	晩期4	平口縁。口唇:刻目。外面:横位沈線3条。突起(2個一組、突起周囲に沈線、突起片側に頂部刻目1本)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。	炭化物(内外面)	-	(22.6)	-	(5.0)	北-土器 5434
-	72	6	-	VM38	捨B3	25	鉢か	晩期	外面:縄文RL(体部から底部)。底部:平底。	ナデ	炭化物(外面)。漆膜(内面の薄み。黒色で薄い膜状。部分的に塊状)	-	-	(5.4)	(2.7)	北-土器 5661
-	72	7	ㄱ710	VL39	捨G下	25	壺	晩期5	平口縁。突起(1単位残存、2個一組か)。口唇:沈線。外面:矢羽状文。地文なし。	ナデ。沈線1条(口縁部)	-	-	(10.6)	-	(4.1)	北-土器 6512
-	72	8	ㄱ710	VL39	捨G下	25	壺	晩期4	外面:横位沈線1条。沈線による雲形文。横位沈線2条。磨消縄文LR。	ナデ	-	-	-	-	(2.4)	北-土器 6371
-	72	9	ㄱ710	VL39 VL40	捨G下 捨G・L	25 11・25・35	壺	晩期4-5	平口縁。口唇:刻目(外側)。沈線。外側肥厚。外面:横位沈線2条(頸部と体部の境)。ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	-	-	(20.0)	-	(10.4)	北-土器 5351

表4 土器観察表(6)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	72	10	-	VM39 (P-5302)	捨D	25~27	深鉢	晩期4-5	小波状口縁。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。最上段の粘土紐接合痕残存	炭化物(内外面)	-	(27.0)	-	(18.5)	北-土器 5742
-	72	11	-	VM38	捨D	25~27	深鉢	晩期	平口縁。口唇刻目。外面沈線文。ナデ(底部)。	ナデ	炭化物(外面)	胎土砂雜多い	(20.0)	(11.0)	(10.9)	北-土器 6486
-	72	12	-	VM39	捨D	25~27	鉢か	晩期5	平口縁。一山突起(2個一組)。口唇面取(平坦)。外面口縁突起下に抉り。横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(21.0)	-	(6.2)	北-土器 5663
-	72	13	-	VM39	捨D	25~27	鉢か	晩期5	平口縁。一山突起(1単位残存。2個一組)。口唇刻目(口唇外側、斜位の刻目)。外面横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	V字70-21と同一体。	(11.0)	-	(6.9)	北-土器 5672
10	72	14	-	VL39 (P-10038)	捨D	25~27	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条。突起4単位(2個一組、片側の突起のみ重部刻目)。底部扁平な高台。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	安定同位体分析試料⑤	(12.4)	5.1	8.0	北-土器 5116
-	72	15	-	VM39	捨D	25~27	鉢か	晩期1b	平口縁。口唇刻目。外面2条の沈線間に沈線文(相対する4重のC字文)。上下に対向する瓣状の抉り。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内面)	-	(17.0)	-	(4.5)	北-土器 5700
-	72	16	-	VM40 (P-5298)	炭b	28・29・31	台付 浅鉢	後期後葉	平口縁。突起(7単位残存、頂部押圧)。口唇内削ぎ。外面ナデ。底部台。台部横位沈線1条。	ナデ	-	-	16.7	8.0	8.5	北-土器 5011
-	72	17	-	VL39	炭b	28・29・31	片口鉢	晩期4	片口。B突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線3条。突起(1箇所残存。2個一組)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	沈線1条(口縁部)。口縁突起の片側に瓣状に分枝	炭化物(内外面)	-	(22.4)	-	(6.4)	北-土器 5699
-	72	18	-	VM40	炭b 捨J	28・29・31 89	壺	晩期4	口縁形状不明。突起(欠損)。口唇面取なし。外面(口縁部)横位沈線2条(上位の沈線は突起の上を通る箇所と途切れる箇所あり)。突起3箇所(頂部刻目、横長)。外面(体部)沈線による雲形文。横位沈線3条。磨消縄文LR。ミガキ(口縁部)。	摩滅。沈線2条(口縁部)	-	(18.2)	-	(14.0)	北-土器 6473	
-	72	19	ㄗ710	VL39	炭b上	28	壺	晩期3-4	外面沈線による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	炭化物(外面)	-	-	-	(4.5)	北-土器 5666
-	72	20	ㄗ710	VM39	炭b下	31	鉢か	晩期5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇沈線(口縁突起の片側に瓣状に分枝)。外側肥厚。外面横位沈線4条。3-4条目間に突起剥離痕。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内面)	-	(13.4)	-	(4.5)	北-土器 5767
-	72	21	-	VM39	炭a	31	鉢か	晩期5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇沈線。外面横位沈線。突起(2個一組)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。口縁突起に瓣状に分枝	-	-	(14.0)	-	(4.2)	北-土器 6251
-	72	22	ㄗ710	VM39 (P-10006)	炭b下	31	壺	晩期中葉 ~後葉	平口縁。口唇面取なし。外面ナデ(口縁部)。縄文LR(体部から底部)。底部平底。	ナデ	黒色付着物 (内外面)	-	(6.4)	5.2	(11)	北-土器 5070
-	72	23	-	VM39	炭a	31	壺	晩期中葉	外面沈線間に刻目列2条。沈線文。沈線による三叉文。磨消縄文LRか。	ナデ	-	-	-	-	(4.3)	北-土器 5429
-	72	24	-	VL39	炭a	31	壺	晩期4-5	外面横位沈線3条。縄文LR(沈線より上に部分的に残存)。ミガキ(体部)。	摩滅	赤彩(外面)	-	-	-	(15.2)	北-土器 5399
-	73	1	ㄗ710	VL39	炭b中間	29	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。刻目。外面横位沈線3条。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.4)	-	(7.9)	北-土器 5498
-	73	2	ㄗ710	VL39	炭b中間	29	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取(平坦)。外面横位沈線3条。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(33.0)	-	(8.7)	北-土器 5824
-	73	3	ㄗ710	VL39	炭b中間	29	深鉢	晩期	突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面整形時の粘土紐接合痕残存。縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	(30.2)	-	(6.8)	北-土器 6048
-	73	4	-	VM39	捨E	29	深鉢	晩期	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(26.0)	-	(10.8)	北-土器 5499
-	73	5	-	VL39	捨E	29	鉢	晩期4-5	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇沈線。口縁外側に張り出し。外面横位沈線3条。突起(1箇所残存。横位のB字状)。文様帯地文なし。ミガキ(口縁部)。縄文LR(0段多条か。体部)。	沈線1条(口縁部)。口縁突起の片側に瓣状の抉り(突起内側)	炭化物(内外面)	V字74-5と同一体	(24.0)	-	(9.7)	北-土器 6215



表4 土器観察表 (7)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	73	6	7710	VL39	炭b中間	29	鉢	晩期5	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇刻目。沈線(突起頂部)。外面:ナデ(口縁部)。縄文RL(口縁部)。(体部)。	沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(19.0)	-	(7.0)	北-土器 6043
-	73	7	-	VM39	捨E	29	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面:横位沈線3条(3条目は突起部分に分枝、もしくは突起上部に垂下)。突起(2個一組)2箇所残存。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(20.4)	-	(8.0)	北-土器 6044
-	73	8	-	VL39	捨E	29	鉢	晩期4-5	平口縁。外面:横位沈線3条。突起(1箇所残存、2個一組)。支線帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(12.0)	-	(6.4)	北-土器 6168
-	73	9	7710	VL39	炭b中間	29	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面:横位沈線3条(3条目は突起部分で途切れる)。突起(1箇所残存、2個一組)。支線帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(11.4)	-	(5.7)	北-土器 6042
-	73	10	-	VL39	捨E	29	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面:横位沈線3条。沈線による雲形文。磨消縄文RL。	ナデ。沈線1条(口縁部)	-	-	(12.0)	-	(3.6)	北-土器 6172
-	73	11	-	VL39	捨E	29	浅鉢	晩期5	平口縁。一山突起(1単位残存。突起頂部削突)。口唇面取(平坦)。外側肥厚。外面:横位沈線(口縁部と底部直上は各3条)。口縁突起下に突起出守時の粘土の突脚が剥突状に残存(内外)。	ナデ。沈線1条(突起部分)	赤彩(内外面、暗褐色)	-	(19.2)	(6.6)	(5.5)	北-土器 5508
-	73	12	-	VL39	捨E	29	壺	晩期中葉 ~後葉	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線2条(頸部と体部の境)。突起4単位(1箇所削書、横位のB字状)。ミガキ、ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ。ユビオサエ(肩部)	-	11.8	-	(14.0)	北-土器 5251	
-	73	13	-	VM39	捨E	29	壺	晩期中葉 ~後葉	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:最上段粘土紐接合痕残存。ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	-	-	(14.6)	-	(5.0)	北-土器 5990
-	73	14	-	VL39	捨E	29	壺	晩期4	外面:沈線による雲形文。横位沈線3条。磨消縄文RL。ナデ(体部下半)。	ナデ。ユビオサエ	炭化物(外面)	-	-	-	-	北-土器 6178
-	73	15	7710	VK39	捨Ga	30	鉢小	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線3条。3条目に突起。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。最上段の粘土紐接合痕残存	炭化物(内外面)	胎土小礫含む	(8.0)	-	(7.0)	北-土器 5842
-	73	16	7710	VL39	捨L上	32	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面:横位沈線2条。立ち上がる大突起(付け根に小突起。側面と下部に沈線)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	不明。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面。内面厚く付着)	-	(16.0)	-	(5.0)	北-土器 5772
-	73	17	-	VL40	捨L	32~34	深鉢	晩期	平口縁。口唇部分的に面取。外面:ナデ、ケズリ。	ナデ	炭化物(内外面)	貫通孔2個一対	(24.6)	-	(9.3)	北-土器 5239
-	73	18	-	VL39 VL38-39	捨L相当 B6-K層	32~34相当 63	深鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面:整形時の粘土接合痕残存。ナデ。	ナデ	炭化物(外面)	-	(18.0)	-	(18.5)	北-土器 5317
-	73	19	-	VL40	捨L	32~34	鉢	晩期5	平口縁。突起推定4単位(2単位残存、2個一組)。口唇:沈線。外面:横位沈線3条(1条目に2個一組の突起4単位が)。3条目の横位沈線は縄文地施文。ミガキ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(12.0)	-	(6.1)	北-土器 6139
-	73	20	-	VL39	捨L相当	32~34相当	鉢小	後期7-4	波状口縁。波頂部に一山突起(突起頂部に凹削突、凹削小突起)。波底部に突起(突起に貼着)。口唇面取。刻目。外面:口縁形状に沿って沈線間に刻目列2条。貼着(横長、頂部刻目、波頂部に対応して上下2箇所)。入組文。沈線間に刻目列1条。磨消縄文RL。	ナデ	炭化物(外面)	胎土小礫多い	(27.4)	-	(6.9)	北-土器 5547
-	73	21	-	VL40	捨L	32~34	浅鉢	晩期5	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線3条。2条目に突起(2個一組)。文様帯地文なし。ミガキ。	ミガキ。横位沈線1条(口縁部)	赤彩(内外面)	-	(18.2)	-	(4.2)	北-土器 5605
-	73	22	-	VL39	捨L相当	32~34相当	浅鉢	晩期3	外面:沈線による雲形文。横位沈線1条。突起1箇所(2個一組)。横位沈線1条。底面に沈線による雲形文。磨消縄文RL。	ナデ	-	-	-	(4.9)	北-土器 6469	
10	73	23	-	VL40	捨L	32~34	注口	晩期4	外面:沈線文。隆帯(隆帯上刻目列、体部屈曲部から注口周囲)。磨消縄文RL。	ミガキ	赤彩(外面)	-	(9.2)	-	(7.0)	北-土器 5369
-	73	24	-	VL39	捨L相当	32~34相当	注口	晩期2-3	外面:沈線間に刻目列3条(1条目と2条目の間に縦位の2個一組の突起1箇所残存)。文様帯地文なし。	ナデ	-	-	-	(3.5)	北-土器 5701	
-	73	25	-	VM38	捨B5	34	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇内削ぎ。外面:ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.2)	-	(9.5)	北-土器 6280
-	73	26	7724	VL38	炭g 捨Y1	34 40	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇部分的に面取(平坦)。外面:横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(32.0)	-	(18.3)	北-土器 5407
-	73	27	7710	VL39	捨L下	34	深鉢	晩期	平口縁。口唇刻目。外面:縄文RL。	ナデ	炭化物(内外面)	胎土小礫多い。 発泡土器。	(25.0)	-	(9.2)	北-土器 5575
-	73	28	7724	VL38	炭g	34	鉢	晩期前葉	平口縁。突起(1単位残存、2個一組)。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線1条。ナデ(口縁部)。	ナデ	炭化物(内面)	-	(8.6)	-	(5.4)	北-土器 6209
-	73	29	-	VM38	捨B5	34	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面:横位沈線3条。立ち上がる大突起(側面に沈線)。突起(肩部に2箇所)。支線帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(22.0)	-	(6.4)	北-土器 6352

表4 土器観察表(8)

図版	写真 図版	番号	シボ など	グリップ (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	73	30	㇗24	VL38	炭g	34	浅鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面沈線で区画された無文帯。眼鏡状隆帯(連繫部突起、隆帯上縄文LR)。沈線で区画された無文。縄文LR(口縁部、体部下半)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	赤彩(外面)	-	(190)	-	-	北-土器 6213
-	73	31	㇗10	VL39	捨L下	34	浅鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目(口唇外側)。沈線。肥厚(内側、肥厚部刻目)。外面横位沈線2条。沈線文。(底部直上)。横位沈線2条。縄文地施文(LR)。底部平底。	ナデ	-	-	(100)	(60)	2.5	北-土器 5938
-	73	32	㇗10	VL39 VK39	捨L下 捨AG(抜根)層	34 ㇗10の11~ 25(抜根)	皿か	晩期4	外面沈線による雲形文。横位沈線3条(底部直上)。磨消縄文RL。底部平底。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	128	(2.9)	北-土器 5482
-	74	1	-	VM39	捨K	34-63	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇外側削ぎ。外面横位沈線3条。縄文地施文。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(280)	-	(5.9)	北-土器 5870
-	74	2	-	VM39	捨K	34-63	深鉢か	晩期	外面条痕文。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	-	-	北-土器 5943
-	74	3	-	VM38	捨K	34-63	深鉢か	後期後葉 ~晩期	外面縄文RL(体部)。ナデ(底部)。底部平底。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	-	-	北-土器 5851
-	74	4	-	VL39	捨K	34-63	鉢か	晩期中葉	平口縁。口唇刻目。外面沈線文(浅く横位に十数条)。文様帯地文なし。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(200)	-	(5.5)	北-土器 5658
-	74	5	-	VM39	捨K	34-63	鉢か	晩期4-5	平口縁。口唇沈線。口唇外側に限り出し。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。ミガキ(口縁部)。縄文RL(0段多条か。体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	W73-5と同一個体	(210)	(6.2)	北-土器 5780	
10	74	6	-	VM39	捨K	34-63	台付鉢	晩期4	小波状口縁。突起。口唇面取(内削ぎ状)。沈線。外面立ち上がる突起(付け根に小突起、側面に沈線)。沈線文。横位沈線2条。縄文LR(体部)。底部台。台部沈線文、透かし孔。端部肥厚。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(118)	6.5	北-土器 5750	
-	74	7	-	VM39	捨K	34-63	鉢	晩期3	B突起(2単位残存)。口唇刻目。外面横位沈線4条(上位2条の沈線に上下交互に4個一組の刺突列)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。横位沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(168)	-	(4.3)	北-土器 5572
-	74	8	-	VM39	捨K	34-63	台付鉢	晩期2	平口縁。B突起(5単位残存)。口唇面取(外削ぎ状)。刻目。外面沈線間に刻目列。横位沈線1条。沈線文。横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部下半から底部)。ミガキ(台部)。台部三又文(交互に4単位)。透かし孔。端部肥厚(肥厚部縄文)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	「VM39 指B5層 振替34」で同一個体出土	(180)	(9.0)	北-土器 5745	
-	74	9	-	VM38	捨K	34-63	鉢	晩期2-3	平口縁。B突起(4単位残存)。口唇面取(内削ぎ状)。外面口縁突起に刺突。横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(168)	(8.6)	北-土器 5571	
-	74	10	-	VM38	捨K	34-63	鉢	晩期2	小波状口縁。外面沈線文(口縁部底部から逆「ノ」字状に垂下)。沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(84)	(6.2)	北-土器 5726	
-	74	11	-	VM39	捨K	34-63	鉢か	晩期1b	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇刻目。外面2条の沈線間に沈線文。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(130)	(2.5)	北-土器 6485	
-	74	12	-	VL39	捨K	34-63	鉢	後期7-4	平口縁。一山突起(1単位残存、3個一組か)。口唇刻目。外面2条の沈線間に刻目列2条。入組文。沈線間に刻目列2条。磨消縄文LR。ナデ(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(188)	(10.0)	北-土器 5757	
-	74	13	-	VL39	捨K	34-63	皿	晩期4	平口縁。口唇沈線。内側肥厚。外面横位沈線2条。彫去による雲形文。横位沈線3条(底部直上)。磨消縄文LR。底部平底。	ナデ。沈線1条(口縁部) 底面に凹線状の痕	褐色膜状附着物(内外面)	-	(160)	(11.0)	北-土器 6116	
-	74	14	先行ト	VL38	捨B5,B6	34-63-89	鉢	晩期2-3 か	平口縁。口唇刻目。外面ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ	黒褐色附着物(内外面)	-	(102)	(6.7)	北-土器 5424	
-	74	15	先行ト	VL38	捨B5,B6	34-63-89	鉢	晩期4	平口縁。口唇面取なし。刻目。外面横位沈線3条(2条目は突起片側に分枝。3条目は突起部分で途切れる)。突起(2個一組。肩部に2箇所残存)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	漆液容器。被熱分的、縮み跡あり。内面眼状	-	(170)	(6.0)	北-土器 5504	
-	74	16	-	VL37	捨B5,B6	34-63-89	鉢	晩期1a	平口縁。突起(2個類交互(二山状台形突起(一山突起))。口唇面取(平坦)。外面沈線文(突起下。ノ字状)。沈線間に短沈線列1条。入組文。沈線による三又文(入組文に接続)。沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。ナデ(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(216)	(12.5)	北-土器 6141	
-	74	17	-	VL37	捨B5,B6の中間	34と63の中間	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条。沈線文。突起(2個一組)。口縁部は地文なし。体部は縄文地施文(LR)。	ナデ	炭化物(内外面)	W73-102-15と同一個体	(180)	(4.5)	北-土器 6256	

表4 土器観察表 (9)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	74	18	-	VL37	捨B5,B6の 中間	34と63の中 間	台付鉢 か	後期後葉 ～晩期	外面:ナデ。底部台。	ナデ	漆膜(内面の み。暗褐色。 割れ口に附着 なし。比較的 なめらかな膜 状)	-	-	-	(1.5)	北-土器 6262
-	74	19	-	VL37	捨B5,B6の 中間	34と63の中 間	浅鉢	晩期5か	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇:面取(平坦)。沈線。外面:三角形の抉り(口縁突下)。 横位沈線3条。文様帯地文なし。ナデ。	ナデ	黒褐膜状附着 物(内外面。 部分的に赤色 顔料残存)	-	(20.8)	-	(4.5)	北-土器 6403
-	74	20	-	VL39	捨K,N平行	㉗17の34~ 89平行	鉢か	晩期3	外面彫去による雲形文。横位沈線2条(底部直上)。磨消縄文LR。底部凹底。	ミガキ	-	-	4.6	(2.8)	北-土器 5433	
-	74	21	-	VL39 (P- 10120)	捨K,N平行	㉗17の34~ 89平行	浅鉢か	晩期3	裝飾的な口縁。口唇:内側肥厚(肥厚部刻目)。外面2条の沈線間に刻目列(刻目列は連続せず 部分的に途切れる。それに対応して下の横位沈線も途切れる)。横位沈線1条。沈線による雲 形文。磨消縄文LR。	ミガキ	褐色膜状附着 物(内外面。 赤彩)	-	(25.6)	(4.5)	北-土器 6372	
-	74	22	-	VL39	捨K,N平行	㉗17の34~ 89平行	壺	晩期2~3	平口縁。突起推定1単位(B突起か)。口唇:面取なし。肥厚(内、外)。外面:ミガキ。底部凹底。	ミガキ。沈 線1条(口縁 部)	赤彩(内外面)	-	9.2	4.0	6.2	北-土器 6074
-	74	23	-	VL39	炭e	37	台付鉢 か	晩期4~5	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇:面取なし。外面:立ち上がる大突起(口縁部と一体化。付け 根に小突起。側面に沈線)。横位沈線1条(肩部)。横位沈線1条。沈線文。横位沈線2条。縄文 地施文。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(18.0)	(9.1)	北-土器 6436	
-	74	24	-	VL39	炭e	37	片口鉢	晩期2	片口。口唇:刻目。外面刻目。横位沈線1条。半圓状文。横位沈線2条。ナデ。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	-	(4.1)	北-土器 6355	
-	74	25	-	VL39	炭e	37	台	後期後葉 ～晩期	台部:沈線間に刻目列2条。端部肥厚(刻目列1条)。文様帯地文なし。	ナデ	-	異系統か	-	(9.2)	北-土器 6346	
-	74	26	-	VL39	炭e	37	壺	晩期4~5	平口縁。突起推定2単位(2単位残存。2個一組)。口唇:面取(平坦)。外側肥厚。外面:横位沈線 1条(底部直上)。ミガキ(口縁部)。縄文LR(体部)。ナデ(底部)。横位沈線2条。底部平底。	ミガキ(口縁 部)、ナデ (体部)	炭化物(外面)	-	7.6	(4.6)	北-土器 5505	
-	74	27	-	VK39	捨M/P	38-39	深鉢か	晩期	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇:面取(平坦)。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内面)	-	(17.2)	(8.4)	北-土器 5982	
-	74	28	-	VL39	捨M/P	38-39	鉢か	晩期4~5	平口縁。口唇:刻目(口唇外側)。沈線。外面:横位沈線3条(肩部)。文様帯地文なし。ナデ(口 縁部)。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(20.2)	(5.5)	北-土器 6005	
-	74	29	-	VL39	捨M/P	38-39	鉢	晩期4	平口縁。口唇:刻目。外面:横位沈線3条。突起(2個一組。肩部に1単位残存)。文様帯地文なし。 縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(18.0)	(3.5)	北-土器 5996	
10	74	30	-	VK39 (P-5933)	捨M/P	38-39	台付鉢	晩期4	平口縁。口唇:刻目。外面:横位沈線3条(口縁部)。立ち上がる大突起(両側に横位B字状の突 起。側面に沈線)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。底部台。右部:沈線文。透かし孔。	ケズリのち ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	16.0	(6.6)	北-土器 5123	
-	74	31	-	VI39	捨M/P	38-39	鉢か	後期7-4	平口縁。貼箔状突起(2単位残存)。口唇:面取(平坦)。外面:沈線間に刻目列2条。入組文。磨 消縄文LR。	ナデ	-	-	(19.4)	(6.6)	北-土器 5981	
-	74	32	㉗24	VL38	捨Y1	40	鉢か	晩期5	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇:面取(平坦)。外面:工字文。横位沈線8単位残存。3条目 に突起。地文なし。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(6.4)	(4.8)	北-土器 5890	
-	74	33	㉗24	VL38	捨Y2	41	鉢	晩期4~5	平口縁。口唇:面取(平坦)。外面:横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ(内面調 整粗織)	炭化物(内面)	-	(22.0)	5.4	北-土器 5989	
-	74	34	㉗24	VL38	捨Y2	41	鉢	晩期4	平口縁。口唇:刻目。外面:横位沈線4条。4条目は突起部分で途切れる。突起(2個一組が1対)。 沈線文(突起間を繋ぐ弧線文)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面、内面厚く 附着)	-	(19.0)	(7.2)	北-土器 5697	
-	75	1	-	VK39	捨M	35-36	深鉢	晩期5	平口縁。口唇:面取(平坦)。外面:横位沈線9条。3から5条目に縦位の短沈線。文様帯地文なし。 縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内面 厚く附着。外 面)	-	(23.0)	(7.4)	北-土器 6422	
-	75	2	-	VK37	捨M	35-36	深鉢	晩期4~5	平口縁。口唇:面取(平坦)。外面:横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(外面)	-	(38.0)	(7.5)	北-土器 6326	
-	75	3	-	VK37	捨M黄	35-36	深鉢	晩期4~5	平口縁。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条。下位の沈線上に横長の突起(2個一組)。文様帯 地文なし。縄文LR(体部)。整形時の粘土粗接合痕残存。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(16.6)	(13.5)	北-土器 6384	
-	75	4	-	VK39	捨M	35-36	深鉢	晩期4~5	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇:面取(内側直上)。外面:横位沈線5条。3条目に突起(4単 位が2個一組)。1-2条目の沈線は地文なし。3条目の沈線は縄文地施文。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(21.2)	(11.2)	北-土器 6502	

表4 土器観察表 (10)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	75	5	-	VK39	捨M	35-36	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線4条(4条目に縦長突起)。1-3条目は地文なし。4条目は縄文地施文。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。	炭化物(内外面)	-	(23.2)	-	(5.7)	北-土器 5372
-	75	6	-	VK37	捨M	35-36	深鉢か	晩期	外面縄文RL。底部平底。	ナデ	赤色顔料付着(内面全面、外面部分的)	-	-	7.3	(7.1)	北-土器 5257
-	75	7	-	VL37	捨M	35-36	鉢	晩期5	平口縁。突起8単位(2種類交互(二山突起2個一組のB突起))。口唇面取なし。外面横位沈線7条。3条目に2個一組の突起4単位(口縁のB突起に対応)。5条目に縦位の短沈線。2条目より下は縄文地施文。縄文RL(体部下半)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。	炭化物(内外面)	12.4	-	(6.6)	北-土器 5289	
-	75	8	-	VL37	捨M(根)	35-36	鉢か	晩期5	平口縁。突起(頂部刻目1本)。口唇面取なし。外面口縁形状に沿った沈線3条。横位沈線7条残存。地文なし。	ナデ	-	(14.0)	-	(5.0)	北-土器 6173	
-	75	9	-	VL37	捨M	35-36	台付鉢か	晩期5	外面横位沈線8条。6、7条目に2個一組の突起。突起間に縦位の短沈線。地文なし。	ミガキ。底面に凹形沈線	赤彩(外面)	-	-	7.2	(4.7)	北-土器 6077
-	75	10	-	VK39	捨M	35-36	台付鉢	晩期5	平口縁。B突起か(1単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線1条(突起2個一組)。工字文。文様帯地文なし。ミガキ(体部下半)。底部台。台部工字文。	ミガキ。沈線1条(口縁部)。底面に凹線上の段	赤彩(内外面)	-	(19.0)	(8.0)	北-土器 5154	
10	75	11	-	VL38 (P-5559)	捨M	35-36	台付鉢	晩期5	平口縁。一山突起4単位(頂部刻目)。口唇沈線。内側凹厚。外面突起(口唇外側推定16個)。工字文。横位沈線。1条目の沈線に2個一組の突起(4単位、口縁突起の間に配置)。文様帯地文なし。ミガキ(体部下半から底部)。底部台。台部透かし孔で工字文を表現。	ミガキ	赤彩(内外面、台部内面)	21.1	7.3	13.0	北-土器 5244	
-	75	12	-	VL39	捨M	35-36	台付鉢	晩期5	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線7条(2条目に突起列、4-5条目に縦位短沈線)。文様帯地文なし。ミガキ。底部台。台部工字文。端部外側に張り出す。	ミガキ。底面に凹線上の段	赤彩(内外面)	-	14.6	7.0	9.2	北-土器 5300
-	75	13	-	VK38 (P-5564)	捨M	35-36	台付鉢	晩期4-5	平口縁。突起推定4単位(2単位残存)(B突起(2単位残存)/一山突起(2単位))。口唇面取(内側刻目)。沈線1条。外面横位沈線1条(口縁部)。横位沈線2条(口縁部と体部の境。沈線間微盛線)。下の沈線に2個一組の突起4単位。立ち上がる大突起(口縁部と一体化)。縄文RL(体部)。底部台(欠損)。	ナデ	炭化物(内外面)	17.8	-	(8.0)	北-土器 5035	
-	75	14	-	VK37	捨M	35-36	台付浅鉢	晩期5	平口縁。突起推定4単位(2単位残存、2個一組)。口唇面取なし。外面工字文。横位沈線。突起(2個一組、1条目の沈線に4単位、口縁突起の間に配置)。文様帯地文なし。ミガキ。底部台。台部工字文。端部外側に張り出す。	ミガキ。沈線1条(口縁部)。底面に凹線状の段	-	(17.0)	(9.2)	9.0	北-土器 5262	
-	75	15	-	VL37.38	捨M2	35-36	浅鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線3条。3条目は突起で途切れる。突起(2個一組。突起間短沈線)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	赤彩(内外面)	-	(14.4)	-	(3.5)	北-土器 6468
-	75	16	-	VK39	捨M	35-36	浅鉢	晩期4-5	口唇形状不明。口唇面取なし。外面横位沈線2条。眼鏡状隆帯(隆帯上縄文LR)。沈線で区画された無文帯。横位沈線1条(底部直上)。ミガキ(口縁部)。縄文LR(体部下半)。底部平底。台部刺突列2条。端部突起(2個一組。4単位)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。底面に凹線状の段	赤彩(外面)	(19.6)	(6.0)	(5.8)	北-土器 6406	
-	75	17	-	VL37.38	捨M2	35-36	台	晩期	台部刺突列2条。端部突起(2個一組。4単位)。	ナデ	炭化物(台部内面)	-	-	(9.6)	(4.5)	北-土器 6431
-	75	18	-	VL38 (P-5399)	捨M(根)	35-36	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に刻目列。横位沈線1条。沈線による雲形文。横位沈線2条。磨消縄文RL。ナデ(体部下半から底部)。底部凹底。	ミガキ。彩文	赤彩(外面)	18.7	5.3	6.2	北-土器 5287	
-	75	19	-	VL37.38	捨M②	35-36	浅鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面ナデ。底部平底(丸みを帯びる)。	ナデ	-	(11.8)	5.0	5.2	北-土器 5316	
-	75	20	-	VL38	捨M	35-36	注口か	晩期4	平口縁。口唇面取なし。外面(口唇部)沈線間に長楕円形の隆帯(隆帯上刻目列)。ミガキ。外面(体部)沈線文。隆帯2条(隆帯上刻目列、突起(頂部押圧))。	ナデ	赤彩(外面)	VI号71-11と同一体	-	(5.8)	北-土器 5456	
-	75	21	-	VK38	捨M	35-36	注口か	後期後葉	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面ナデ。	ナデ	-	(9.6)	-	(5.0)	北-土器 6230	
-	75	22	-	VK38	捨M	35-36	不明	晩期5	外面工字文。眼鏡状隆帯。地文なし。ミガキ(体部)。	ナデ	-	-	-	(3.4)	北-土器 6160	
-	75	23	-	VL38	捨M	35-36	不明	晩期5か	外面隆沈線。突起(剝離)。文様帯地文なし。	ナデ	-	-	-	(1.0)	北-土器 6332	
-	75	24	4/24	VL38.39	捨Y3	42	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面面取時の粘土の段残存。縄文RL。	ナデ	炭化物(外面)	-	(25.6)	-	(22.7)	北-土器 5488

表4 土器観察表 (11)

図版	写真 図版	番号	シ ン タ ン ト など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	75	25	4724	VL38-39	捨Y3	42	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条(3条目は突起部分で途切れる)。突起(横長、頂部刻目)。文様帯地なし。縄文RL(体部)。	ミガキ。(口縁)縄1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(16.0)	-	(4.9)	北-土器 6035
-	75	26	4724	VL38-39	捨Y3 捨Z1	42 59	皿	晩期4	平口縁。突起(4単位(2単位残存)。口唇面取(平坦)。口唇外側に刻目(押圧状)。沈線。内側肥厚。外面横位沈線2条。沈線による雲形文。磨消縄文RL。	ミガキ。(口縁)縄1条(口縁部)。隆帯1条(隆帯と縄文RL。底部と体部の境)	赤彩(内外面)	-	(23.4)	-	(4.7)	北-土器 5550
-	76	1	-	VK37	捨P1	43の上層	深鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面縄文RL。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(24.0)	-	(23.4)	北-土器 5166
-	76	2	-	VK37	捨P1	43の上層	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取(平坦)。外面横位沈線3条。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(27.6)	-	(16.8)	北-土器 5339
-	76	3	-	VK37	捨P1	43の上層	深鉢	晩期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文RL。	ナデ	-	発泡土器	(19.8)	-	(7.0)	北-土器 6318
-	76	4	-	VK37	捨P1	43の上層	鉢	晩期4-5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇面取(内側き状)。刻目。沈線。外面側突列1条。横位沈線4条。地なし。ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(10.0)	-	(4.5)	北-土器 6423
-	76	5	-	VK37	捨P1	43の上層	鉢	晩期4-5	平口縁。二山突起(3単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線3条。突起(3単位残存、2個一組)。文様帯地なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	17.2	-	(7.4)	北-土器 5387
10	76	6	-	VK37	捨P1	43の上層	鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線3条。彫去による雲形文。横位沈線2条。磨消縄文RL。	ナデ	炭化物(内外面)	-	15.3	-	(12.2)	北-土器 5416
10	76	7	-	VL38	捨P1	43の上層	片口鉢	晩期2-4	片口。口唇刻目。外面横位沈線1条。縄文RL。底部平底。	ナデ	炭化物(内外面。片口下はふきこぼれ頭著)	-	15.0	(5.5)	(11.7)	北-土器 5124
10	76	8	-	VK37	捨P1	43の上層	皿	晩期4	平口縁。4単位か(1単位残存)。口唇沈線(沈線から外側に派生する短沈線)。外面横位沈線2条。沈線による雲形文。刻目。横位沈線2条。磨消縄文RL。底面ケズリのちミガキ。底部平底。	ナデ	-	(16.0)	(9.7)	4.6	北-土器 5122	
-	76	9	-	VK38	捨P2	43-44	深鉢	晩期中葉 か	平口縁。口唇刻目(押圧状)。外面横位沈線2条(粗線)。文様帯地なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	貫通孔1個	(22.0)	-	(20.8)	北-土器 6339
-	76	10	-	VL37	捨P2	43-44	深鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面最上段の粘土紐接合痕残存。ナデ(器面調整粗雑なため粘土紐の凸凹残存)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(26.0)	-	(9.7)	北-土器 5507
-	76	11	-	VK38	捨P2	43-44	深鉢	中期後葉	平口縁。口唇刻目(押圧状)。肥厚(内、外)。ナデ。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(34.6)	-	(6.6)	北-土器 6418
-	76	12	-	VL38	捨P2	43-44	深鉢か	晩期	外面縄文RL(体部から底部)。底部平底。	ナデ	赤色付着物(内面頭著。外底面にも付着)	-	-	8.8	(3.6)	北-土器 5532
-	76	13	-	VL37	捨P2	43-44	鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面縄文(磨滅により原体不明)。調整粗雑で凸凹頭著。	ナデ	炭化物(内外面)	-	11.4	-	(7.1)	北-土器 6075
-	76	14	-	VK39	捨P2	43-44	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に刻目列1条。沈線文。横位沈線2条(底部直上)。磨消縄文RL。ミガキ(体部下)。器面磨滅。底部凹底。	磨滅	赤彩(内外面)	-	18.4	4.1	5.5	北-土器 6254
10	76	15	-	VK39 (P-5831)	捨P2	43-44	皿	晩期4	平口縁。二山突起4単位。口唇刻目(口唇外側)。沈線。内側肥厚。外面2条の沈線間に沈線による雲形文。横位沈線2条(底部直上)。磨消縄文RL。底部平底。	ナデ	-	(26.6)	(14.2)	5.9	北-土器 5409	
-	76	16	-	VK39	捨P2	43-44	壺	晩期2か	平口縁。口唇面取(平坦)。外面磨滅(口縁部から体部上半)。縄文RL(体部下半から底部)。底部丸底。	ナデ	-	(8.4)	丸底	5.7	北-土器 6304	
-	76	17	先行ト	VL38	捨P2	43-44	台	晩期2か	台部透かし孔。胎帯。胎帯上刻目列。突起。端部肥厚(刻目列)。	ナデ	-	-	(8.8)	(3.8)	北-土器 6104	
-	76	18	479	VK36	捨1a	45	鉢	晩期1b	小波状口縁。外面横位沈線5条。沈線文。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(22.0)	-	(6.5)	北-土器 6519

表4 土器観察表 (12)

図版	写真 図版	番号	シマ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	76	19	79	VK36	捨1a	45	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(平厚)。外面沈線文(八組文)。袈形による三又文。横位沈線1条。縄文地文(LR)。ミガキ(体部)。	ナデ	黒色膜状付着物(内面)	-	(32.0)	-	(5.0)	北-土器 6275
-	76	20	79	VK36	捨2	46	鉢か	晩期4	平口縁。口唇面取なし。刻目。外面横位沈線3条。突起(2個一組。1個残存)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(11.0)	-	(4.7)	北-土器 5637
-	76	21	-	VK36	捨3	47	鉢	晩期4	平口縁。一山突起推定4単位(2単位残存)。口唇刻目(口唇外側)。外面横位沈線3条(口縁部と体部の境)。ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(8.6)	-	(6.5)	北-土器 5570
-	76	22	-	VK36	捨3	47	鉢か	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条。突起。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面。内面厚く付着)	-	(17.0)	-	(6.0)	北-土器 5888
-	76	23	-	VK36	捨3	47	台付鉢 か	晩期4	平口縁。突起(2単位残存)。口唇面取(平厚)。刻目(口唇外側)。外面沈線内に刻目列1条。横位沈線2条。立ち上がる大突起(付け根に小突起、上部欠損)。横位沈線1条(底部直上)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(16.6)	-	(8.3)	北-土器 5496
-	76	24	-	VK36	捨3	47	台付 浅鉢か	晩期4	平口縁。口唇面取なし。刻目。外面横位沈線4条。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(13.6)	-	4.3	北-土器 5565
-	76	25	79	VK36 (P-5923)	捨3	47	壺	晩期4	平口縁。口唇面取なし。刻目(斜位)。外側肥厚。外面横位沈線1条(頸部と体部の境)。ナデ(口縁部)。縄文RL(体部から底部)。底部低平な高台。	ナデ。沈線1条(口縁部)	-	頸部から底部にかけてのヒビに黒色付着物(アスファルトか)	9.3	6.1	14.1	北-土器 5038
-	77	1	-	VK37	捨P	4715の 43以下	深鉢か	晩期4-5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇面取(外側き状)。外面沈線文(口縁突起部分)。横位沈線2条。縄文地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	-	-	(29.4)	-	(6.5)	北-土器 6446
-	77	2	-	VK37	捨P	4715の 43以下	深鉢	晩期4-5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇面取(平厚)。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(27.8)	-	(12.0)	北-土器 6080
-	77	3	-	VK37 (P-5422)	捨P	4715の 43以下	深鉢	後期後葉 ~晩期	外面縄文RL(体部から底部)。底部高台割離。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	-	(11.5)	北-土器 5207
-	77	4	-	VK37	捨P	4715の 43以下	鉢か	晩期4-5	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇沈線。外面刻目列2条。横位沈線2条。突起(横長、頂部刻目)。口縁部地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面。内面厚く付着)	-	(22.0)	-	(4.5)	北-土器 6444
-	77	5	-	VK37	捨P	4715の 43以下	鉢	晩期3	平口縁。B突起(連続)。口唇刻目。外面刻目列(10個程度を1単位とし、両端の刻目は他より大きい)。刻目列の下に横位沈線(刻目の単位に対応して透切れる)。突起(側面に沈線)。横位沈線2条(突起部で透切れる)。彫去による雲形文。横位沈線3条。磨消縄文LR。縄文LR(体部下半)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(11.0)	-	(7.3)	北-土器 5542
-	77	6	-	VK37	捨P	4715の 43以下	台	晩期4	台部沈線文。端部肥厚(肥厚部縄文RL)。地文なし。	ナデ	-	-	-	(10.6)	-	北-土器 6410
-	77	7	先行N	VK38	捨P相当	4715の 43以下相当	鉢	晩期1b	平口縁。口唇面取(外側き状)。一山突起3単位残存。外面三又文。三又文と弧線文に囲まれた内側に田形刺突(口縁突起に対応)。玉抱三又文(平行線化、口縁突起には対応しない)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.0)	-	(9.5)	北-土器 5417
-	77	8	-	VL37-38	捨P	4715の 43以下	浅鉢	晩期5	平口縁。一山突起(2単位残存)。口唇面取なし。外面ナデ(口縁部)。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(13.6)	-	(4.1)	北-土器 5558
10	77	9	-	VK37 (P-5929)	捨P	4715の 43以下	浅鉢	晩期前葉 ~中葉	平口縁。口唇面取なし。外面ミガキ、ナデ。底部丸底。	ナデ	-	-	(13.2)	丸底	(6.0)	北-土器 5165
-	77	10	-	VK38 (P-5571)	捨P	4715の 43以下	皿	晩期3	装飾的な口縁。口唇内側肥厚。刻目(肥厚部)。外面ミガキ、ナデ。底部丸底。	ミガキ	-	-	16.0	-	(4.4)	北-土器 5275
-	77	11	-	VL37-38	捨P	4715の 43以下	皿	晩期4	平口縁。突起推定4単位(一山突起の側面にB突起、3単位残存。頂部横位沈線)。口唇刻目(外側)。連続する縄状の袈形を伴う沈線。内側肥厚。外面2条の沈線間に沈線による雲形文。磨消縄文LR。底部平底。沈線1条。	ナデ。藍帯(体部と底部の境、1条)	-	27.4	16.6	7.0	北-土器 5342	
-	77	12	先行N	VK38	捨P相当	4715の 43以下相当	壺	晩期中葉	外面横位沈線1条。LR、RL非結束羽状縄文。	ナデ	-	-	-	-	(5.0)	北-土器 6463
-	77	13	79	VK36	炭2	50	鉢	晩期	平口縁。口唇面取(平厚)。外面縄文RL。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(21.6)	-	(16.9)	北-土器 5421
-	77	14	79	VK36	炭2	50	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	貫通孔1個	(17.2)	-	(6.3)	北-土器 6419
-	77	15	79	VK36	炭2	50	浅鉢か	晩期3	装飾的な口縁。口唇肥厚(内、外)。外面横位沈線2条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ナデ	-	胎土白色砂粒多い。	(19.8)	-	(3.6)	北-土器 6029

表4 土器観察表 (13)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	77	16	ㄗ9	VK36	炭2	50	皿	晩期4	裝飾的な口縁。一山突起推定4単位。外面2条の沈線間に沈線による雲形文。磨消細文LR。器面薄減。底部平底。彫去状の円形の沈線。	ナデ。ミガキ。体部に隆帯状の段縁部。	-	-	(20.2)	(13.0)	6.0	北-土器 5234
-	77	17	ㄗ9	VL37	炭5	51	深鉢か	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。沈線の上に突起(頂部刻目1本、横長)。文様帯地文なし。柔真(体部)。	ナデ。横位沈線1条(口縁部)。	炭化物(内外面)	-	(5.8)	-	(3.6)	北-土器 5761
-	77	18	ㄗ9	VL37	炭5	51	鉢	晩期4-5	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取(内削ぎ状)。内側肥厚。外面横位沈線3条(大突起部分で途切れる)。立ち上がる大突起(口縁部と一体化。側面に沈線。付け根同間と突起下に2個一組の小突起)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.0)	-	(8.5)	北-土器 5639
-	77	19	-	VL37	捨5相当 炭5層	51・56	台付鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条。立ち上がる大突起(付け根に小突起、側面に沈線)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	14.8	-	(8.0)	北-土器 5394
-	78	1	ㄗ9	VL37	捨7	52-97	深鉢	晩期	小波状口縁。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(20.0)	-	(12.9)	北-土器 6376
-	78	2	ㄗ9	VL37 VL37	捨7 捨6	52-97 17	浅鉢	晩期4-5	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線2条。眼鏡状隆帯(上の隆帯のみ縄文LR施文)。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部下半)。横位沈線1条(底部直上)。底部凹底。	ミガキ。沈線1条(口縁部)。底面に凹線状の段	赤彩(内外面)	-	(16.9)	6.0	6.2	北-土器 5318
-	78	3	-	VL37	捨7	52-97	浅鉢か	晩期5	平口縁。口唇刻目。外面工字文。横位沈線。突起(1箇所残存、2個一組)。文様帯地文なし。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	-	-	(12.0)	-	(2.2)	北-土器 5539
-	78	4	-	VM37	捨7相当	52-97相当	浅鉢か	晩期5	口縁形状不明。二山突起。外面横位沈線5条。短沈線(縦位)。突起(肩部に1箇所。頂部刻目)。文様帯地文なし。ナデ(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。側面に棘状に分枝)	炭化物(内外面)	-	(10.0)	-	(4.2)	北-土器 5844
-	78	5	ㄗ9	VL37	捨7	52-97	壺	晩期4-5	外面沈線文。工字文。縄文地施文。縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	胎土分析033 聖山Ⅱ式	-	-	-	北-土器 6167
-	78	6	-	VL36 (P-5361)	捨4.5相当	54-56相当	深鉢	晩期4-5	平口縁。口唇刻目(口唇外側)。外面横位沈線2条。縄文RL(口縁部から体部)。	ナデ	炭化物(内外面。内面厚く付着)。	-	(19.6)	-	(17.2)	北-土器 5827
-	78	7	-	VL36 (P-3003361)	捨4.5相当	54-56相当	鉢	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。内側肥厚。外面ナデ(口縁部)。縄文LR(口縁から底部)。磨減。底部平底。	ナデ、ケズ	炭化物(内外面)	胎土砂粒多い	(30.5)	(10.0)	(30.0)	北-土器 6569
-	78	8	-	VK35	捨4	54	深鉢か	晩期5	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線。突起(2個一組)。工字文。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(13.4)	-	(7.0)	北-土器 6227
-	78	9	-	VL36	捨4	54	深鉢か	晩期	平口縁。突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線1条。刺突列2条(爪形)。縄文地施文(LR)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(16.8)	-	(4.3)	北-土器 6458
-	78	10	ㄗ9	VK36	捨4	54	深鉢	後期後葉 ~晩期	外面縄文LR。	ナデ	赤色顔料付着(内面のみ)	赤色顔料容器か	-	-	(5.3)	北-土器 6450
-	78	11	-	VL35	捨4	54	鉢	晩期4	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。立ち上がる大突起(付け根同間)に小突起。上部欠損)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(12.0)	-	(5.6)	北-土器 5727
-	78	12	-	VK35	捨4Ca層	54	鉢か	晩期3-4	平口縁。口唇沈線。外側肥厚。外面沈線間に刻目列1条。沈線文。	ナデ	-	-	(11.0)	-	(2.3)	北-土器 5717
-	78	13	-	VL35.36	捨4Ca層	54	鉢か	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	口縁部が強く内湾する	(8.4)	-	(6.7)	北-土器 5664
-	78	14	-	VK36	捨4	54	鉢か	後期後葉	外面沈線文。貼牆(円形。頂部に刺突まなは刻目)。円形刺突列。磨消細文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	-	(10.0)	北-土器 6488
11	78	15	-	VL36	捨4	54	台付鉢 か	晩期4	平口縁。二山突起(2単位残存)。口唇面取(平坦)。沈線。外面横位沈線3条(大突起部分でせり上がり途切れる)。立ち上がる大突起(口縁部と一体化。頂部に刻目3本。隆帯1周(隆帯上刻目列)。側面に沈線。付け根に2個一組の小突起。小突起頂部に刻目各1本)。大突起下に2個一組の小突起。縄文RL(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。口縁突起内側に棘状に分枝)	炭化物(内外面)	-	(16.0)	-	(8.7)	北-土器 6086

表4 土器観察表 (14)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No	
-	78	16	-	VK36	捨4	54	台	晩期	外面縄文LR(体部下半から底部)。底部台。	ナア	漆膜(内面の み割れ口の付 着なし。黒色。 縮み皺なし。 なめらかな膜 状)	-	-	-	(2.6)	北-土器 6543	
-	78	17	-	VK36	捨4	54	浅鉢	晩期3	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇面取(内側ギ状)。外面:横位沈線1条。突起(1箇所残存。2 個一組)。沈線間に沈線による雲形文。横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部下半から底 部)。底部凹底。	ミガキ	-	(16.8)	5.4	6.7	北-土器 5509		
-	78	18	-	VK36	捨4	54	皿	晩期4	平口縁。口唇:刻目(外面)。沈線(口縁形状に沿って縦状に分枝)。外面:横位沈線2条。沈線に よる雲形文。横位沈線3条。磨消縄文LR。底部平底。	ミガキ	-	-	11.8	(2.4)	5476	北-土器 5476	
-	78	19	-	VK35 VK36	捨4Ca層 捨4層	54	皿	晩期4	裝飾的な口縁。一山突起推定4単位残存。頂部横位沈線。口唇:内側肥厚。外面:横位 沈線1条。沈線間に沈線による雲形文。横位沈線2条(底部直上)。磨消縄文LR。底部平底。	ナア	褐色膜状付着 物(内外面)	貫通孔2個1対、 2箇所	26.4	17.8	(4.4)	5374	北-土器 5374
11	78	20	479	VL36 VL37	捨4 炭3	54 55	浅鉢	晩期3	裝飾的な口縁。口唇:肥厚(内側)。沈線間に刻目列)。外面:3条の沈線間に彫去による雲形文。 磨消縄文LR。底部凹底。	ミガキ(沈線 間に刻目列) 赤彩	褐色膜状付着 物(内外面)	-	(24.6)	(4.0)	(12.3)	北-土器 5427	
-	78	21	-	VL36	捨4Ca層	54	鉢か	晩期1aか	外面:沈線文。磨消縄文LR。張り出し状の脚1単位残存。	ナア。張り 出し部内面 押柱	-	IV写140-18に類 似	-	-	(2.4)	北-土器 5677	
-	78	22	-	VL35	捨4	54	深鉢	中期後葉	外面:沈線文。縄文地施文(LR)。	ナア	炭化物(外面)	-	-	-	(5.9)	北-土器 6467	
-	79	1	-	VK37	炭3相当	55相当	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇:面取(平柱)。外面:2条の沈線間に彫去による雲形文。磨消縄文LR。ミガキ(体 部下半から底部)。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(16.2)	(5.2)	5.3	北-土器 5224	
-	79	2	-	VK37	炭3相当 捨P3 10層相当	55相当 127 24	皿	晩期3	裝飾的な口縁。口唇:内側肥厚。外面:2条の沈線間に彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	赤彩(内外面)	「VL37 捨5相 当(振替56)炭5 (振替51)」で 同一個体出土	(23.8)	-	(5.8)	北-土器 5215	
11	79	3	-	VK37	炭3相当 10層相当	55相当 24相当	皿	晩期3	平口縁。口唇:面取(平柱)。沈線。外面:横位沈線2条。ミガキ。底部凹底。	ミガキ	内外面褐色付 着物(漆か)	-	13.5	2.9	4.5	北-土器 5208	
-	79	4	479	VK36 (P-5969)	炭3	55	注口	後期8	平口縁。口唇:面取(平柱)。外面:ナア。注口基部に貼膚(2個)。底部高台。	ナア	-	-	5.0	2.0	11.5	北-土器 5029	
-	79	5	-	VL35	捨5相当	56相当	台付鉢 か	晩期5	外面:横位沈線6条。3条目に突起(1箇所残存)。文様帯地文なし。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(15.8)	-	(3.0)	北-土器 5487	
-	79	6	-	VL35	捨5相当	56相当	鉢	晩期4	平口縁。口唇:面取(平柱)。刻目(口唇外側)。外面:沈線内に刻目列1条。横位沈線2条。突起1 単位か(2個一組、肩部に1箇所)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナア、ミガ キ。沈線1条 (口縁部)	-	-	(19.0)	(6.0)	北-土器 5486		
-	79	7	-	VL35	捨5相当	56相当	鉢	晩期4-5	平口縁。二山突起(2単位残存)。口唇:面取なし。外面:横位沈線3条(3条目は突起部分で途切 れる)。突起(2個一組、口縁突起とは対応しない)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナア。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(14.6)	-	(5.2)	北-土器 5728	
-	79	8	-	VK37	捨5相当	56相当	鉢か	晩期1a	小波状口縁か。外面:入組文。沈線文。脚突(口縁波頂部下)。隆沈線。隆帯。文様帯地文なし。	ナア	炭化物(内外 面)	-	(34.0)	-	(7.0)	北-土器 5649	
11	79	9	-	VK39 (P-5750)	捨P3上	57	深鉢	晩期	平口縁。口唇:面取なし。外面:縄文LR。底部平底。	ナア	炭化物(内外 面)	貫通孔1個	(18.0)	(7.0)	15.4	北-土器 5203	
-	79	10	-	VK39 (P-5752)	捨P3上	57	深鉢	晩期	突起1単位(3個一組、中央はB突起、両側は横長突起)。口唇:部分的に面取(内側ギ状)。外面: 突起1単位(口縁突起に対応)。縄文LR。	ナア。ミガ キ。最上段 の粘土継接 合痕残存	炭化物(外面)	貫通孔2個1対	24.5	-	(19.8)	北-土器 5195	
-	79	11	-	VK37 VK38	捨P3上 捨P3中下	57 62-127	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇:面取なし。外面:縄文LR。(結節、横位凹縁、推定7段、残存6段)。	ナア、ミガ キ	炭化物(内外 面)	-	(32.0)	-	(31.8)	北-土器 5197	
-	79	12	-	VK39 (P-5749)	捨P3上	57	深鉢	後期後葉 ~晩期前 葉	外面:縄文LR(体部)。ナア(底部)。底部:低平な高台。	ナア	炭化物(内外 面)	-	-	7.2	(17.5)	北-土器 5156	
11	79	13	-	VK37	捨P3上 捨P1	57 43の上層	深鉢	晩期	平口縁。B突起推定1単位(2個一組)。口唇:面取なし。外面:整形時の粘土接合痕残存。	ナア、ケズ リ	炭化物(外面)	-	(30.4)	-	(27.0)	北-土器 5146	



表4 土器観察表 (15)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
11	80	1	-	VK37	捨P3上 捨P1	57 43の上層	鉢	晩期中葉	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線2条(地文なし)。LR/RL非結束羽状縄文。底部平底。	ナデ	炭化物(内外 面)	「VL37 B4 相当層 振替 60-63-89相当」 「VK37 捨P3 上層 振替57」 で同一個体出土	(11.8)	(5.6)	(10.2)	北-土器 5478
-	80	2	-	VK37	捨P3上	57	鉢	晩期3-4	平口縁。B突起(2単位残存。低平)。口唇面取なし。外面横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文RL(体部から底部)。底部平底。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	ミニチュア小 型土器	(11.0)	(4.4)	6.5	北-土器 5551
-	80	3	-	VK39	捨P3上 底	57 50	鉢	晩期3	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文RL。底部凹底。	ナデ、ミガキ	炭化物(内外 面)	貫通孔2箇対、 2箇所	19.6	(8.0)	11.4	北-土器 5186
11	80	4	-	VK39	捨P3上	57	台付鉢	晩期3	平口縁。B突起19単位残存。口唇刻目。外面横位沈線4条(上位3条の沈線間に上下交互に3個一組の刺突列)。横位沈線1条(体部と台部の境)。突起(肩部に1箇所、突起上から側面にかけて逆S字状沈線)。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。底部台。台部ミガキ。底部肥厚(肥厚部縄文RL)。肩部突起1単位(肩部突起に対応して配置、B字状)。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	-	-	20.4	8.8	18.9	北-土器 5129
-	80	5	-	VK39	捨P3上	57	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。地文なし。ミガキ。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(15.6)	3.2	5.5	北-土器 5526
-	80	6	-	VK39 (P-5780)	捨P3上	57	浅鉢	晩期2	平口縁。突起1単位(3個一組。中央は豆粒状で頂部刻目2本、片側は横長で頂部刻目2本、もう一方は丸形)。口唇面取なし。外面2条の沈線間に羊歯状文(粗縄)。2条の沈線間に短沈線列。文様帯地文なし。ミガキ。底部丸底。	ミガキ。沈 線1条。隆帯 (突起内側、 突起を繋ぐ 上向きの弧 線)	-	-	23.5	丸底	8.0	北-土器 5182
11	80	7	-	VK39	捨P3上	57	浅鉢	晩期2-3	外面沈線間に羊歯状文(斜位沈線の下のみに刺突)。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	-	-	(20.0)	-	(3.5)	北-土器 5370
-	80	8	-	VK39	捨P3上	57	台付 浅鉢	晩期3	表飾的な口縁。外面沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。縄文LR(体部)。横位沈線1条(体部と台部の境)。ミガキ(台部)。底部台。台部透かし孔。3又文。肩部に沈線で区画された縄文帯。	ミガキ。沈 線1条(口縁 部)	-	-	12.0	(7.0)	5.6	北-土器 5371
11	80	9	-	VK39	捨P3上	57	台	晩期2-3	台部隆帯。突起(横長。頂部刻目)。沈線間に刻目列。底部肥厚。ミガキ。	ミガキ	炭化物(外面)	-	-	(8.6)	(6.0)	北-土器 6573
-	80	10	-	VK38 (P- 10017)	捨P3上	57	壺	晩期3	平口縁。B突起1単位(2個一組)。口唇面取なし。外面横位沈線2条。突起1単位(縦位のB字状)。ミガキ(口縁部)。縄文RL(体部から底部)。底部凹底。	ミガキ(口縁 部)、ナデ (体部)	-	-	7.8	5.3	11.1	北-土器 5072
11	80	11	-	VK39 (P-5751)	捨P3上	57	壺	晩期3	外面隆帯2条。隆帯間に突起4単位(B字状。横位と縦位交互)。横位沈線4条(頸部と体部の境)。3条の沈線間に沈線による雲形文。ミガキ(頸部、体部下半から底部)。底部凹底。	ナデ	赤彩(外面、 内面口縁部の み)	塗膜分析№9	-	2.4	15.7	北-土器 5225
-	80	12	4724	VL38-39	捨Z2	58	鉢	晩期前葉 ~中葉	平口縁。口唇面取なし。外面沈線内に刻目列1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ(粘土紐 接合痕残存)	炭化物(外面)	-	(6.0)	-	(4.4)	北-土器 5957
-	80	13	4724	VL38-39	捨Z2	58	鉢	晩期4	小波状口縁。口唇面取なし。外面沈線内に刻目列1条。横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(14.0)	-	(4.5)	北-土器 5552
-	80	14	4724 4710	VL38-39 VL39	捨Z2 捨V底下	58 125	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面刺突列1条。横位沈線1条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	赤彩(内外面)	貫通孔1個。 胎土雲母	(22.0)	-	(5.9)	北-土器 5858
-	80	15	4724	VL38-39	捨Z2	58	皿	晩期4	平口縁。口唇面取(平坦)。刻目列。肥厚(内、外)。外面2条の沈線間に沈線による雲形文。磨消縄文RL。底部平底。	ナデ。隆帯 (体部と底 部の境。隆 帯上に沈線1 条)	-	-	22.6	13.2	5.2	北-土器 5748
-	80	16	4724	VL38-39	捨Z1	59	鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面ナデ。器面調整粗雑なため凹凸顕著。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(13.6)	-	(6.5)	北-土器 5573
-	80	17	4724	VL38-39 VL38	捨Z1 包含層	59	鉢	晩期4小	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ミガキ	炭化物(内外 面)	-	12.4	-	(8.2)	北-土器 6053
-	80	18	4724	VL38-39	捨Z1	59	鉢	晩期4	平口縁。口唇面取なし。刻目(口唇外側)。外面横位沈線2条。突起(肩部に1箇所。縦長(頂部刻目1本))。文様帯地文なし。縄文RL(体部)。	ナデ。横位 沈線1条(口 縁部)	炭化物(内外 面)	-	(15.2)	-	(4.6)	北-土器 5555
-	80	19	4724	VL38-39	捨Z1	59	鉢小	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線4条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ケズリ	炭化物(内外 面)	-	(7.4)	-	(4.3)	北-土器 6119
-	81	1	-	VK38	捨P3	57・62・127	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	(30.6)	-	(22.6)	北-土器 5330

表4 土器観察表 (16)

図版	写真 図版	番号	シロ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
12	81	2	-	VK37	捨P3	57-62・127	浅鉢	晩期3	平口縁。突起(正面)に突起1単位(両側に唇形的突起)とB突起交互に各3単位。口唇沈線。外面:横位沈線2条。突起(横位のB字状、口唇状突起に対応)。彫去による雲形文。文様帯地文なし。ミガキ。底部:平底、張り出し状の胸車単位(内面押圧)。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	182	4.7	8.3	北-土器 5247
-	81	3	-	VK37	捨P3	57-62・127	鉢	晩期1b	平口縁。B突起(連線)。外面:沈線文(口縁形状に沿った連線する上向き)の弧線文。口唇突起に対応して三角形文。沈線間に短沈線列1条。入組3文文。沈線間に短沈線列1条。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(15.6)	-	(8.1)	北-土器 6480
-	81	4	-	VK37	捨P3	57-62・127	鉢	晩期1b	小波状口縁。突起(1単位)残り、2個(一組)。口唇面取なし。外面:横位沈線文(2個一組の円文、中心に刺突。口唇突起に対応)。横位沈線5条。3条目の横位沈線は円文に連繫。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	器壁薄い	(18.0)	-	(5.4)	北-土器 6176
-	81	5	先行ト	VL38	捨P3	57-62・127	鉢小	晩期1aか	平口縁。口唇面取(平相)。外面:横位沈線2条。沈線文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.8)	-	(6.9)	北-土器 6448
12	81	6	-	VK37	捨P3 捨P2	57-62・127 43-44	鉢	晩期1a	小波状口縁。三山突起推定12単位(8単位)残り。口唇面取(平相)。外面:入組文6単位か(口縁突起に対応)。沈線文(口縁突起1個おき)に上向き)の弧線文。横位沈線2条。磨消縄文LR。	ナデ、ミガキ	炭化物(内外面)	貫通孔2個1対	24.5	-	(6.4)	北-土器 5363
-	81	7	先行ト	VL38	捨P3	57-62・127	鉢	晩期中葉	外面LR/RL非結束羽状縄文。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	-	(4.5)	北-土器 6152
-	81	8	-	VK37	捨P3	57-62・127	鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面:縄文RL(最上段の粘土紐接合痕残り)。	ナデ、沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(15.2)	-	(7.8)	北-土器 6046
-	81	9	-	VK38	捨P3	57-62・127	鉢	不明	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線1条。縄文LR(口縁部から体部)。ナデ(口縁部)。	ナデ	-	焼成不良	(26.8)	-	(6.8)	北-土器 6289
-	81	10	-	VK38	捨P3	57-62・127	鉢	晩期	小波状口縁。外面:縄文RL。	ナデ	炭化物(内外面)	-	26.6	-	(14.4)	北-土器 5406
-	81	11	先行ト	VK38 VL38	捨P3 捨P2	57-62・127 43-44	皿	晩期3	裝飾的な口縁。B突起(5単位)残り。口唇:刻目。内面:肥厚。外面2条の沈線間に彫去による雲形文。磨消縄文LR。底部:平底(高台状)。	ナデ、ミガキ、沈線2条(口縁部と底部の境)。	-	「VL38 捨P層 振替4715の43層 以下」で同一個 体出土	(28.6)	(13.0)	6.9	北-土器 5243
-	81	12	-	VK37 (P-5599)	捨P3	57-62・127	壺	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面:隆帯2条。隆帯間突起3単位(横位のB字状2単位、縦位のB字状1単位)。横位沈線2条(彫去状)。ミガキ。底部:凹底。	ナデ、沈線1条(口縁部)	赤彩(外面、内面)口縁部のみ	-	(3.5)	1.9	11.3	北-土器 5084
-	81	13	-	VL38	捨P3	57-62・127	壺小	後期後葉 (晩期前葉)	外面:ミガキ(体部から台部)。底部:高台。	ナデ	漆膜(内面)帯 赤褐色の濃い 膜状。外面:高 台内面に部分 的に付着。暗 赤褐色。細み 歌あり)	-	-	4.7	(3.3)	北-土器 5438
-	81	14	-	VK37	捨P3	57-62・127	注口	後期後葉	外面:沈線文(横位に連結する上向き)の弧線文。弧線文連繫部に2重の円文。外面の円文は弧線文に接線。円文の中心に貼瘤(頂部削突多数。1個残り、2個欠損)。横位に連繫する下向きの弧線文。文様帯地文なし。ナデ。	ナデ(粘土紐接合痕残り)	-	-	-	(7.2)	北-土器 5459	
12	81	15	-	VL38	捨P3	57-62・127	注口	後期7-4	口縁形状不明。外面:沈線文。貼瘤(頂部刻目1本)。磨消縄文LR。磨減(口縁部)。ミガキ(体部から底部)。注口基部に彫らみ(二袋状)。底部:高台(欠損)。	ナデ	赤彩(外面)	-	(9.0)	-	18.1	北-土器 5147
-	81	16	-	VK37	捨P3	57-62・127	深鉢	中期後葉	平口縁。口唇隆帯貼付により外面に肥厚(肥厚部縄文押圧、粘土紐貼付)。外面:沈線文。縄文地文。縄文LR。	ミガキ	-	(32.0)	-	(6.2)	北-土器 6228	
-	81	17	-	VK38	捨P3	57-62・127	鉢	大木7bか	VI号112-10と同一個体。	-	-	-	(11.0)	-	(4.6)	北-土器 6572
-	82	1	-	VM38 (P-5482)	捨B4	60-63・89	鉢	晩期5	平口縁。突起8単位(2種類交互(二山突起/粒状突起))。口唇:沈線、刻目(口唇外面)。外面:工字文。横位沈線(1条目の沈線は口唇突起に分枝)。2から3条目間に突起(2個一組、1箇所の口縁突起)。剥落痕3箇所)。4から5条目間に縦位短沈線。縄文地文。縄文LR(体部下)。底部:平底。	ナデ、沈線1条(口縁部、口縁突起に分枝)	炭化物(内外面)	-	(18.5)	(5.0)	11.5	北-土器 5204
-	82	2	-	VM38	捨B4	60-63・89	浅鉢	晩期2-3	平口縁。口唇面取なし。外面:ナデ(口縁部)。縄文RL(体部から底部)。底部:平底。	ナデ	炭化物(内面)	-	(13.0)	5.4	5.5	北-土器 5440
12	82	3	-	VM38	捨B4 捨B2	60-63・89 19-20	壺	晩期4-5	平口縁。突起1単位か(両側に小突起を伴う一山突起)。口唇:沈線。外面:ミガキ。底部:平底。	ナデ	-	(7.6)	(5.6)	18.6	北-土器 5139	

表4 土器観察表 (17)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	82	4	-	VM38	捨B4	60・63・89	壺	晩期4-5	平口縁。二山突起4単位。外面:口縁突起下に突起(2個一組)。口縁突起間に小突起(単位、間隔不明)。ミガキ。	ナデ。沈線3条(口縁部)。1条目の沈線は片側の口縁突起に棘状に分枝。	赤彩(外面、内面)口縁部のみ	-	12.8	-	(9.3)	北-土器 5386
-	82	5	-	VK37 (P-5897)	捨P3中	62	深鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面:ナデ。底部低平な高台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	9.0	6.0	13.3	北-土器 5037
-	82	6	-	VK39	捨P3中	62	深鉢	晩期	平口縁。一山突起1単位(3個一組)。口唇面取なし。外面:ナデ、ケズリ後細文LR(外面調整粗織)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(17.4)	-	(18.3)	北-土器 5194
-	82	7	-	VK39	捨P3中	62	深鉢	晩期	平口縁。B突起1単位(1単位残存、2個以上一組)。口唇面取(平坦)。外面:縄文RL。	ナデ。口縁突起内面に隆帯と突起。	炭化物(外面)	「VK39 P3上層 振替57」「V L38 P3層 振替57以下」で同一個体出土。	(27.8)	-	(11.3)	北-土器 5408
12	82	8	-	VK39	捨P3中 捨P3下	62 127	鉢	晩期3	平口縁。B突起1単位(2個一組)。口唇面取なし。内側肥厚。外面:横位沈線2条。ミガキ。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	11.8	5.2	7.3	北-土器 5229
-	82	9	-	VK37	捨P3中 捨P3	62 57・62・127	壺	晩期3	平口縁。突起1単位(大突起1個、内側にB突起各2個)。口唇面取なし。外面2条の沈線間に刻目列1条(刻目列6単位)。彫去による雲形文。横位沈線2条。沈線間に刻目列1条。横位沈線2条。突起(縦位に2個一組)。彫去による雲形文。磨消細文LR。	ミガキ(口縁部)、ナデ(体部)。沈線1条(口縁部)	黒色膜状付着物(外面)口縁部、褐色膜状付着物(外面)口縁部から体部(内面)、赤色付着物(内面体部)	-	(10.3)	-	(7.8)	北-土器 6229
-	82	10	-	VL37	B6	63・89	深鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面:整形時の粘土合痕残存。細文LR(口縁部の一部のみ)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(21.0)	-	(16.7)	北-土器 5157
-	82	11	-	VM38	捨B6	63・89	鉢	晩期2	平口縁。口唇刻目。外面:短沈線列1条(口縁部)。2条の沈線間に短沈線列1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	口縁部に口唇刻目時の段残存	炭化物(内外面)	-	(10.0)	-	(3.9)	北-土器 5611
-	82	12	-	VL37	捨B6	63・89	鉢か	晩期2-4	平口縁。口唇刻目。外面:横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	不明	漆膜(内外面とも黒褐色で縮み縮頭着。漆液容器内面厚く付着。割れ口にも付着)。	漆液容器	(7.4)	-	(3.1)	北-土器 5484
-	82	13	-	VM38	捨B6	63・89	鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取なし。外面:ナデ。	ナデ	炭化物(内外面。内面厚く付着)	-	9.2	-	(5.1)	北-土器 5485
-	82	14	-	VL37	B6	63・89	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面:沈線文(入組文、入組部を抱える平行沈線化した三叉文)。横位沈線1条。縄文LR(体部)。ナデ(体部)。	ナデ	-	-	(28.0)	-	(5.0)	北-土器 5877
-	82	15	-	VM38	捨B6	63・89	注口	晩期1b	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線1条。沈線文。沈線による三叉文(頸部)。文様帯地文なし。ミガキ。	ナデ	-	-	(4.6)	-	(4.1)	北-土器 5703
-	82	16	-	VM38	捨B6	63・89	不明	晩期前葉	外面:沈線文。眼縁状隆帯(隆帯上に横位のB字非突起)。透かし孔。突起(横位のB字状)。底部石。台部:沈線文。透かし孔。端部肥厚(肥厚部沈線1条)。	ナデ	炭化物(内外面)	貫通孔1個 VI写88-19と同一個体	-	(11.0)	-	北-土器 5874
-	82	17	7710	VK39	捨Cb	65	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面:横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	貫通孔1個	(25.0)	-	(4.1)	北-土器 5883
-	82	18	7710	VK39	捨Cb	65	鉢	晩期2か	VI写86-14と同一個体。	ナデ	-	-	(17.2)	-	(5.2)	北-土器 5883
12	82	19	-	VK40 (P-5562)	捨S	66	片口鉢	晩期中葉	片口。口唇刻目。外面:横位沈線2条。部分的に縄文地施文。縄文RL(体部から底部)。底部:平底。	ナデ	炭化物(内外面)厚く付着。ふきこぼれか)	-	17.3	6.0	12.8	北-土器 5132

表4 土器観察表 (18)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	82	20	ㄗ710	VM39	捨S1	66	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に刻目列。2条の沈線間に彫去による雲形文。磨消縄文LR。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(19.0)	(5.0)	6.3	北-土器 5294
-	82	21	-	VM40 (P-5578)	捨S	66	壺	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条(頸部と体部の境)。横位沈線2条(体部)。突起1単位(欠損)。ミガキ。底部凹底。	ナデ	赤彩(外面、内面口縁部のみ)	-	4.1	3.2	11.0	北-土器 5014
-	82	22	-	VM41	捨S	66	注口	晩期1a	平口縁。口唇部分的に面取(平田)。外面ミガキ。注口基部に彫らみ(一袋状)。底部丸底。	ナデ	-	-	(7.0)	丸底	6.8	北-土器 5687
-	83	1	ㄗ711	VM40 (P-5507) VM40 VM40	d e b	63 78 10	深鉢	晩期2	平口縁。B突起(連続)。口唇面取(外削き状)。外面沈線間に半歯状文。沈線間に刻目列1条。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	互写99-13と同 一物体	(23.8)	-	(17.5)	北-土器 5181
-	83	2	ㄗ717	VM39 (P-5502)	捨K下	63	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条(3条目は突起部分で途切れる)。突起(1箇所)残存。2箇所一組。片側の突起上部に横位の短沈線。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(10.0)	-	(4.7)	北-土器 5604
-	83	3	ㄗ710	VM39	捨H上	63	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内面)	-	(20.8)	-	(4.3)	北-土器 6149
-	83	4	ㄗ717	VM39	捨K下	63	鉢	晩期3	平口縁。B突起(3単位)残存。連続)。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外)	-	(15.6)	-	(5.5)	北-土器 5920
-	83	5	ㄗ710	VM39	捨H上	63	鉢	晩期2-3	平口縁。突起(連続)。外面沈線文。沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。沈線間に刻目列1条。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(12.0)	-	(4.0)	北-土器 6373
-	83	6	ㄗ711	VM39	SN-e	63	鉢	晩期2-3	平口縁。突起(連続)。1箇所のみ三山の中央が高い突起。口唇面取(内削き状)。刻目(口唇外側)。外面刻目列(数個一組。口縁突起下の刻目は下端が延びて横位沈線となる)。3条の沈線間に半歯状文。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(19.8)	-	(4.3)	北-土器 5497
-	83	7	ㄗ710	VM39	捨H上	63	鉢	晩期2	平口縁。B突起2単位残存。口唇面取なし。外面口縁部に沈線文(連続する弧線文)と突起推定単位(3単位)残存。頸部に横位沈線3条(沈線間に上下交互に紋面一組の突起文と、2箇所一組の突起。突起は口縁突起に対応して配置)。沈線文。縦位沈線3条(沈線間に刺突列)。磨消縄文LR。ミガキ(口縁部、頸部)。	ミガキ	-	(12.5)	-	(5.4)	北-土器 6367	
-	83	8	ㄗ710	VM40	d	63	鉢	晩期2	平口縁。B突起(1単位)残存。外面口縁形状に対応した刺突列。刺突の下端は横位沈線に接続。沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.0)	-	(9.4)	北-土器 6379
-	83	9	ㄗ710	VM40	d	63	鉢小	晩期1b	平口縁。B突起推定9単位。口唇面取なし。外面横位沈線3から4条目(粗雑)。沈線文(口縁部部から2条目の沈線にかけて連続する逆「J」字状)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	調整時の沈線状態のキズ顯著	炭化物(内外面)	互写83-10と同 一物体	16.0	-	(14.0)	北-土器 5267
-	83	10	ㄗ710	VM40	d	63	鉢	晩期1b	VI写83-9と同一物体。	-	-	-	(16.8)	-	(9.0)	北-土器 5259
-	83	11	ㄗ711	VM40 (P-5505) VM40	d e	63 78	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(外削き状)。外面平行線化した三又文(推定4単位、末端が円文状に渦巻く。円文内に凹形刺突)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	21.0	-	(10.0)	北-土器 5222
-	83	12	ㄗ711	VM39	d	63	鉢小	晩期1b~2	平口縁。口唇面取なし。外面刻目による三又文。沈線文。文様帯地文なし。	ナデ	赤彩(内外面)	-	(12.4)	-	(5.0)	北-土器 6464
-	83	13	ㄗ711	VM40	d	63	鉢	晩期1b	平口縁。B突起(1単位)残存。3箇所一組)。外面沈線文(口唇突起を区切る弧線文)。横位沈線1条。沈線文。刻目による三又文。横位沈線2条。文様帯地文なし。	ミガキ	-	(28.0)	-	-	北-土器 6532	
-	83	14	ㄗ711	VM39	d	63	鉢	晩期1b	平口縁。二山突起(1単位)残存。口唇面取。外面横位沈線1条。横位に連続する三又文。文様帯地文なし。ナデ(体部)。	ナデ。粘土紐接線痕	炭化物(内外面、厚く付着)	-	(20.0)	-	(6.5)	北-土器 6307
-	83	15	ㄗ711 ㄗ710	VM40 (P-5505) VL-39	d 捨HF	63 83	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取。外面沈線文(渦巻文)。沈線による三又文(渦巻文を抱える)。沈線間に短沈線列1条。沈線文。沈線による三又文(渦巻文を抱える)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	-	-	(13.8)	-	(5.9)	北-土器 6534
-	83	16	ㄗ711	VM40 (P-5506)	d	63	鉢	晩期1b	外面横位沈線1条(底部直上)。縄文LR(体部下半)。ナデ(底部)。底部低平な高台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	6.3	(7.2)	北-土器 5087

表4 土器観察表 (19)

写真 図版	番号	シロ など	グリップ 取上番号	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	83	17	7411	VM40	d	鉢か	後期7-4 か	平口縁。突起(2単位)残存、2種相交(一山突起/貼瘤状突起)。口唇面取(平坦)。外面:口縁形状に沿った横位沈線2条。貼瘤。磨消縄文LR。	ナデ	-	-	(16.0)	-	(3.5)	北-土器 6526
-	83	18	-	VL38.39	捨B6捨K	鉢	後期後葉 ~晩期	外面縄文LR。	ナデ	破損部にアス ファルト付着 (補修痕)	-	-	(9.5)	北-土器 6471	
-	83	19	7417	VM39 (P-5502)	捨K下	鉢	晩期	平口縁。B突起(1単位)残存。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	胎土小礫多い	(32.4)	-	(15.3)	北-土器 5740
-	83	20	7411	VM40 (P-5505)	d	鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:条痕。調整粗雑なため器面凸凹残存。	ナデ。最上 段粘土継接 合痕残存	炭化物(外面)	-	(35.4)	-	(14.5)	北-土器 6435
-	83	21	-	VM39 (P-5398)	ハハ3層	台付鉢	晩期5	平口縁。B突起(2単位)残存。口唇内削ぎ。沈線。外面:横位沈線3条。突起4単位(2面一組)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。底部台(欠損)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(10.5)	-	(7.5)	北-土器 5013
-	83	22	-	VL38.39	捨B6捨K	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取(内削ぎ状)。外面:横位沈線2条。ミガキ。底部凹底。張り出し状の脚(1単位)残存)。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	13.8	(3.0)	(4.2)	北-土器 5313
-	83	23	7411	VM39	d	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線2条。地文なし。ミガキ。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(11.6)	-	(3.1)	北-土器 6514
-	83	24	-	VM39	ハハ3層	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取(外削ぎ状)。外面:2条の沈線間に沈線による雲形文。文様帯地文なし。ミガキ(体部)。	ナデ	[VN39 ベルト 2層 振替10]で 同一個体出土	-	(18.0)	-	(4.0)	北-土器 5428
-	83	25	-	VM39	ハハ3層	浅鉢か	晩期3	裝飾的な口縁。口唇内側厚。外面:口縁形状に対応した刺突列(軸状)。下端は横位沈線に接 続。横位沈線3条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	-	-	(26.0)	-	(4.7)	北-土器 5620
12	83	26	7411	VM39	d	浅鉢	晩期2	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線2条。文様帯地文なし。ナデ(体部下半から底部)。	ナデ	-	-	(21.2)	(6.5)	5.8	北-土器 6243
-	83	27	-	VM39 (P-5385)	捨K下	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。二山突起1単位。外面:横位沈線1条(口縁突起部分で棘状となる)。沈線文(入組 ミガキ)。	ナデ、ミガ キ	-	-	19.2	-	(7.2)	北-土器 5746
-	83	28	7411	VM40 (P-5508)	d	台付 浅鉢	晩期1b	小波状口縁。B突起1単位(2面一組)。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線1条。沈線間に入組文5 単位残存。縄文地施文(LR)。ミガキ(体部)。	ミガキ	-	-	(28.2)	-	(10.0)	北-土器 5365
-	83	29	7410	VL39	捨H上	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。外面:三又文。入組文。文様帯地文なし。ミガキ(体部)。	ミガキ	炭化物(内面)	-	(26.2)	-	(6.5)	北-土器 6369
-	83	30	7417	VM39	捨K下	浅鉢	後期7-4 ~晩期1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:ミガキ。底部高台。	ナデ	-	-	(18.2)	6.3	7.0	北-土器 6503
-	83	31	7411	VM39	d	皿	晩期3	平口縁。一山突起(2単位)残存。口唇面取なし。外面:横位沈線2条。地文なし。ナデ。底部: 凹底。	ナデ	赤彩(内外面)	-	-	3.8	(4.5)	北-土器 6454
-	83	32	7417	VM39	捨K下	台	晩期2-3	外面:横位沈線2条。三又文と透かし孔各4単位。地文なし。底部肥厚(肥厚部縄文LR)。	ナデ	-	-	-	9.2	(4.7)	北-土器 6350
-	84	1	7417	VM39	捨K下	壺	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線1条。ミガキ。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(16.8)	-	(5.2)	北-土器 5657
-	84	2	7417	VM39	捨K下	壺	晩期2か	平口縁。口唇面取なし。内側肥厚。外面:突起(2箇所)残存。縦位のB字状)。隆帯。沈線間に 刺突列。	ナデ	赤彩(外面、 内面口縁部の み)	-	3.2	-	(4.4)	北-土器 6524
-	84	3	7411	VM38	SN-e	壺	晩期2	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線1条。横位隆帯間に縦位隆帯6単位(縦位隆帯間沈線 文)。羊歯状文。	ナデ。沈線1 条(口縁部) み	赤彩(外面、 内面口縁部の み)	-	(2.6)	-	(4.5)	北-土器 5716
-	84	4	7410	VM40	d	壺	晩期中葉	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線1条(頸部と体部の境)。ナデ(口縁部)。縄文(体部)。 沈線1条(口縁部)。	ミガキ(口縁 部)、ナデ (体部)。沈 線1条(口縁 部)	-	-	8.8	-	8.6	北-土器 5392
-	84	5	7411	VM40 (P-5607)	d	壺	晩期2	平口縁。口唇面取(平坦)。突起。外面:沈線間に羊歯状文(口縁部、頸部)。縄文(体部)。文様帯 地文なし。ミガキ。	ミガキ(口 縁部から頸 部、エビオ サエ)	赤彩(外面、 内面口縁部の み)	-	(10.2)	-	(6.6)	北-土器 5380
-	84	6	-	VL38.39	捨B6捨K	注口	晩期3	外面:雲形文(彫去、注口下)、体部屈曲に裝飾的な突起。磨消縄文LR。注口:先端肥厚(注口周 間に隆帯、B字状の突起4単位)。	ミガキ	赤彩(外面、 内面口縁部の み)	-	-	-	-	北-土器 5799

表4 土器観察表 (20)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリップ (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
12	84	7	-	VL39	捨K下	63	注口	後期8	外面:沈線文(入組文)。磨消縄文LR。ナデ(体部から底部)。注口基部に膨らみ(二袋状か。上面に押圧)。膨らみの外側に隆帯。底部高凸。	ナデ	-	-	1.8	(11.9)	北-土器 5751	
-	84	8	-	VL41	捨C	68	台付 浅鉢	晩期1b	平口縁。突起(3単位残存)。突起形状3種類(B突起/山突起/側面に刻目のある一山突起か)。口唇部分的に面取(平坦)。外面:浅い沈線文。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(外面)	V字96-3と同一 個体。V字96-3 には沈線文が認 められない	(11.2)	-	(5.0)	北-土器 5694
-	84	9	-	VM41	東Ⅲ-1	69	深鉢	後期後葉 ~晩期	外面:沈線文。縄文(LR、R付加条)。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	(11.0)	北-土器 6400	
-	84	10	-	VM41	東Ⅲ-1	69	深鉢か	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面:縄文LR(口縁)。	ナデ	炭化物(内外 面)	胎土砂礫多い。 発泡土器	(15.6)	-	(7.9)	北-土器 6398
13	84	11	-	VN44	東Ⅲ-1	69	台付鉢	晩期2~3	平口縁。三刃状の袈りによりB突起(連続)。口唇面取なし。外面:沈線間に退化した羊歯状文。横位沈線1条。沈線文(体部上半)。横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部下半)。	ミガキ	炭化物(外面)	-	12.5	(10.1)	北-土器 5308	
-	84	12	-	VN44 (P-5816)	東Ⅲ-1	69	鉢	晩期2	平口縁。突起(5単位残存)。口唇:刻目。外面:刻目列1条。沈線間に羊歯状文(粗雑)。縄文LR(体部から底部)。底部凹底。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(14.4)	5.4	13.8	北-土器 5350
-	84	13	-	VN44	東Ⅲ-1	69	鉢	晩期2~3	平口縁。B突起(8単位残存)。外面:横位沈線(末端は口縁突起の中心に連繫し、もう一方の末端は隣接する口縁突起に鋭角に連繫。沈線の上に口縁形状に対応する副突列)。沈線間に羊歯状文。突起(肩部に1箇所、B字状)。横位沈線1条(突起部分で途切れる)。文様帯地文なし。縄文LR(体部下半)。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	17.8	(11.3)	北-土器 5311	
13	84	14	-	VN41 (P-5773772 303584)	東Ⅲ-1	69	鉢か	晩期1b	平口縁。B突起(連続)。口唇:面取(平坦)。外面:沈線文(平行線化した入組三叉文)。文様帯地文なし(ミガキ)。縄文LR(体部)。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外 面)	-	(26.0)	-	(19.6)	北-土器 5161
-	84	15	-	VN44 (P-5816)	東Ⅲ-1	69	鉢	晩期2	平口縁。B突起(8単位残存)。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条。1条目の沈線は部分的に口縁突起片側に分枝。羊歯状文。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(16.2)	-	(10.2)	北-土器 6127
-	84	16	-	VO44	東Ⅲ-1	69	鉢	晩期1b	小波状口縁。突起(3単位残存)。口唇:面取なし。外面:沈線文(入組文)。沈線間に短沈線列1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(13.2)	-	(5.9)	北-土器 6201
-	84	17	-	VN44 (P-5788)	東Ⅲ-1	69	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇:面取なし。外面:沈線間に入組文状の三叉文6単位。横位沈線2条。文様帯地文なし。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外 面)	-	(18.5)	-	(5.5)	北-土器 5270
-	84	18	-	VM41	東Ⅲ-1	69	鉢か	晩期1b	小波状口縁。外面:沈線文(口縁波底部に連繫する渦巻文、横位に連繫する上向きの弧線文)。沈線間に短沈線列1条。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(22.0)	-	(9.7)	北-土器 6125
-	84	19	-	VM41	東Ⅲ-1	69	台付鉢 か	晩期1a~ 1b	平口縁。口唇:面取なし。外面:沈線文(二重もしくは一重の円形文)。縄文LR(口縁から底部)。底部台か。	ミガキ	-	-	(10.4)	-	(5.0)	北-土器 6188
-	84	20	-	VM41 (P- 10114)	東Ⅲ-1 (SQ37F)	69	鉢	晩期1a	小波状口縁。台形突起(1単位残存。頂部刻目本)。口唇:面取なし。外面:沈線文(口縁突起の空所に三叉文、沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外 面)	貫通孔1個	(24.0)	-	(7.8)	北-土器 5860
-	84	21	-	VM41	東Ⅲ-1	69	鉢か	晩期1a	小波状口縁。口唇:面取なし。外面:沈線文(連繫する上向きの弧線文、口縁形状には対応しない。弧線文2に対し、三叉文1が配される)。入組文5単位(各単位の幅は一定しない)。入組文の空所に三叉文、沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(外面)	-	(24.5)	-	(14.7)	北-土器 5150
13	84	22	-	VL41	東Ⅲ-1	69	鉢	晩期1a	平口縁。一山突起(8単位残存。頂部刻目1本)。口唇:面取(平坦)。外面:口縁形状に沿った上向きの弧線文。横位沈線1条。入組文(沈線浅く、ひきなおし痕跡あり)。横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部下半)。底部台。台部指頭痕。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(19.7)	(7.6)	(19.5)	北-土器 5121
13	85	1	-	VN44 (P-5843)	東Ⅲ-1	69	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇:面取なし。外面:2条の沈線間に刻目列1条。刻目は部分的に途切れ、下の沈線も対応する箇所を途切れる)。横位沈線1条。彫去による雲形文。横位沈線2条(底部直上)。磨消縄文LR。ミガキ(底部)。底部平底。	ミガキ	-	-	15.5	4.3	6.7	北-土器 5057
13	85	2	-	VN44	東Ⅲ-1	69	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇:面取なし。外面:横位沈線5条。2から3条目間に刻目列(十数個一組、10単位か)。彫去による雲形文。横位沈線3条。磨消縄文LR。ナデ(底部)。底部凹底か。	ナデ	-	-	20.1	5.4	(7.9)	北-土器 5228
-	85	3	-	VN44 (P-5841)	東Ⅲ-1	69	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇:面取(平坦)。外面:横位沈線2条。ミガキ。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(18.4)	(5.0)	6.1	北-土器 5419
13	85	4	-	VN44 (P-5782)	東Ⅲ-1	69	浅鉢	晩期3	裝飾的な口縁。口唇内側厚。肥厚部に刻目、B突起。外面:刻目(口縁突起下に4から5個一組)。横位沈線3条。彫去による雲形文。横位沈線2条。磨消縄文LR。底部凹底。	ミガキ	赤彩(外面口 縁部沈線内に 若干残存)	-	33.9	7.0	10.5	北-土器 5151
13	85	5	-	VN44	東Ⅲ-1	69	浅鉢	晩期2	平口縁。一山突起(1単位一組)。口唇:面取なし。外面:沈線間に短沈線列4条(1条目は部分的に短沈線が施されない)。文様帯地文なし。ナデ(体部から底部)。底部低平な高台(底部は丸みを帯びる)。	ナデ	-	-	(12.0)	8.2	5.1	北-土器 5307

表4 土器観察表 (21)

図版	写真 図版	番号	シマ など	グリップ (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	85	6	-	VM44 (P-5842)	東Ⅲ-1	69	鉢	晩期2	平口縁。口唇面取なし。外面、ミガキ。底部丸底。張り出し状の脚4単位(内面押圧)。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(86)	丸底	6.0	北-土器 5315
14	85	7	-	VM44 (P-5896)	東Ⅲ-1	69	皿	晩期2	平口縁。B突起非定1単位(2個残存)。口唇面取なし。刻目。外面、横位沈線2条。羊歯状文。文様帯地文なし。ミガキ、ナデ(口唇部)から底部。底平丸底。	ナデ、ミガキ(口縁部)	赤彩(内外面)	平面滴形	135~ 180	丸底	4.3	北-土器 5094
-	85	8	-	VM44 (P-5787)	東Ⅲ-1	69	浅鉢	晩期2	平口縁。口唇面取(平坦)。外面沈線間に刻目列3条。横位沈線1条。文様帯地文なし。細文LRLR(体部)。沈線で区画された無文帯(底部)。底平丸底。	ナデ、ミガキ	-	-	(230)	7.2	9.7	北-土器 5305
-	85	9	-	VM44	東Ⅲ-1	69	浅鉢	晩期2	平口縁。B突起非定1単位(2個残存)。口唇面取なし。外面、横位沈線2条。文様帯地文なし。横位沈線1条。底平丸底。	ミガキ	-	-	9.3	-	(5.0)	北-土器 6492
-	85	10	-	VM41	東Ⅲ-1	69	皿小	晩期2	平口縁。B突起非定1単位(2個残存)。口唇面取なし。外面、横位沈線1条。羊歯状文。文様帯地文なし。ミガキ(体部)。	横位沈線1条(口縁突起に分枝)。沈線文。横位沈線1条。	赤彩(内外面)	-	(16.8)	-	(4.4)	北-土器 6100
-	85	11	-	VM41 (P-10052)	東Ⅲ-1	69	浅鉢	晩期1b	平口縁。口唇面取なし。3個一組の刻目を突出(4から5単位)。外面三又文と上向きに弧線交互に連続(弧線は口縁突起に対応)。沈線間に入組三又文。文様帯地文なし。細文LRLR(体部)。ミガキ(底部)。底平丸底。	ナデ	-	(13.6)	丸底	6.9	北-土器 5357	
-	85	12	-	VM44 (P-5841)	東Ⅲ-1	69	皿	晩期3	平口縁。B突起4単位(3単位残存、2個一組)。口唇面取(平坦)。内側厚。外面、横位沈線1条(沈線下に部分的に刻目。4個一組。5単位残存)。沈線文(彫去)。文様帯地文なし。ミガキ。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(19.4)	-	(4.0)	北-土器 5525
14	85	13	-	VM42 (P-5574)	東Ⅲ-1	69	壺	晩期2	平口縁。口唇面取(外削き状)。外面沈線間に刻目列(口縁部)。2条の沈線間に羊歯状文(体部上半)。文様帯地文なし。ミガキ(頸部、体部下半)。	ミガキ(口縁部)、ナデ(頸部から体部)	赤彩(外面、内面は口縁から体部上半)	-	(10.2)	-	(6.3)	北-土器 5445
-	85	14	-	VM41	東Ⅲ-1	69	壺	晩期2	平口縁。口唇面取(平坦)。外面(口縁部)沈線間に羊歯状文。横位沈線2条。外面(体部)沈線間に羊歯状文。横位沈線2条。底部凹底。張り出し状の脚4単位(内面押圧)。	ミガキ	赤彩(外面、内面は口縁から体部上半)	-	(9.4)	3.1	7.8	北-土器 5412
14	85	15	-	VM44 (P-5748)	東Ⅲ-1	69	壺	晩期1b~ 2	平口縁。口唇面取なし。外側厚。外面細文LRLR(口縁部)。ミガキ(頸部から底部)。底平丸底。	ナデ	-	-	2.8	5.1	14.1	北-土器 5019
-	85	16	-	VM41 (P-10047)	東Ⅲ-1	69	壺	晩期1a~ 1b	平口縁。口唇面取なし。外面突起5単位(横位に貫通孔)。ナデ(口縁部)。細文LRLR(体部から底部)。底高台。	ナデ	炭化物(外面)	-	6.7	7.0	19.3	北-土器 5002
14	85	17	-	VM41 (P-10032)	東Ⅲ-1	69	壺	晩期前葉	平口縁。口唇面取(外削き状)。外面、ナデ(口縁部)。細文LRLR(体部から底部)。底高台。	ナデ	炭化物(外面、内面は口縁から体部上半)	外面黒斑(二次被熱のほつきりした証拠はないが外面に部分的にスチス付着)	8.9	7.0	17.0	北-土器 5040
-	86	1	-	VM41 (P-5871)	東Ⅲ-1	69	注口	晩期2	平口縁。口唇面取(平坦)。外面(口縁部)沈線間に刻目列2条。横位沈線2条。無文帯。横位沈線2条。沈線間に刻目列2条。横位沈線1条。外面(体部)沈線間に刻目列2条。横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ(体部下半から底部)。底平丸底。	ナデ	炭化物(外面、内面は口縁から体部上半)	-	(12.0)	丸底	(15.5)	北-土器 5162
14	86	2	-	VM41 (P-5870)	東Ⅲ-1	69	注口	晩期2	平口縁。B突起1単位(数個一組。注口部に対応)。口唇面取(平坦)。外面(口縁部)沈線間に刻目列。横位沈線。外面(体部)沈線間に刻目列に連続した相反する弧線文。弧線文内に刺突列。文様帯地文なし。ミガキ。底部丸底。	ナデ	炭化物(外面、内面は口縁から体部上半)	口縁部片と体部片に接点なし	10.4	丸底	14.8	北-土器 5560
14	86	3	-	VL41 (P-10136)	東Ⅲ-1	69	注口	晩期1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面、横位沈線1条。入組文の空間に三又文。沈線文(円形、中心に刺突)。横位沈線1条。唇消細文LRLR。ナデ(口縁部、体部下半から底部)。注口基部に膨らみ(二袋状)。底部丸底。	ナデ	赤彩(外面)	-	7.4	丸底	11.7	北-土器 5031
-	86	4	-	VM41 (P-10110)	東Ⅲ-1 (SQ37f)	69	注口	晩期1a	外面注口下に沈線文(渦巻状)。ミガキ。底部丸底。	ナデ	黒色(外面)	-	-	丸底	(6.3)	北-土器 5065
-	86	5	-	VM37	明褐色	76	深鉢	晩期5	平口縁。口唇面取なし。外面、横位沈線8条。3条目に突起1箇所残存。条痕地施文。条痕(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(20.0)	-	(9.1)	北-土器 6026
-	86	6	-	VM39	明褐色	76	深鉢小	晩期4~5	平口縁。口唇面取(平坦)。外面、横位沈線3条。文様帯地文なし。細文LRLR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(33.6)	-	(8.8)	北-土器 6489
14	86	7	-	VM40 (P-5230)	明褐色	76	鉢	晩期2	平口縁。B突起(連続)。口唇面取(外削き状)。外面沈線間に刻目列2条。横位沈線1条。文様帯地文なし。細文LRLR(体部から底部)。底平丸底(高台状に削り出し)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	11.3~ 11.8	4.9~ 5.1	8.4	北-土器 5008

表4 土器観察表 (22)

写真 図版	番号	トナ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	86	8	-	VO40	76	鉢	晩期2	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇刻目。口唇面取なし。外面沈線間に刻目列。突起(肩部)に1箇所。頂部刻目。横位沈線1条。沈線文。磨消縄文LR(粗雑)。縄文LR(体部)下半から底部。底部平底。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	-	-	(14.0)	(4.6)	6.8	北-土器 6479
-	86	9	-	VO38	76	鉢か	晩期2	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇刻目。外面沈線文(口縁突起を繋ぐ)。沈線文上に刻目列。横位沈線1条。羊歯状文。横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(17.2)	-	(8.8)	北-土器 5735
-	86	10	-	VO40	76	鉢	晩期2-3	平口縁。口唇刻目(刻目1つおき)に弧線文を配置し、B突起とする。外面横位沈線2条。羊歯状文。横位沈線3条。突起(肩部)に1箇所。最下位の沈線が突起を上下に分断。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	11.2	-	(8.4)	北-土器 5389
-	86	11	-	VP40	76	鉢	晩期2	平口縁。口唇刻目。外面沈線文(連続する弧線文)。刻目列(2から4個一組、上端は弧線文に接続)。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(14.0)	-	(7.0)	北-土器 6425
-	86	12	-	VO40	76	鉢	晩期2	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇面取なし。刻目。外面沈線文(口縁突起を繋ぐ)。末端は口縁突起の中心に連続し、もう一方の末端は隣接する口縁突起に斜角に連続。沈線の上に数個一組の刻目列。横位沈線1条。2条の沈線間に刻目列(刻目は数個一組。刻目の単位に対応し、刻目下の横位沈線が途切れる)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.2)	-	(6.7)	北-土器 5702
-	86	13	-	VO40 (P-5255)	76	鉢	晩期2	平口縁。突起(3単位残存、3個一組か)。口唇刻目。外面沈線文(口縁突起頂部で連続する上向きの弧線文)。横位沈線1条。羊歯状文。横位沈線2条。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(17.2)	-	(7.5)	北-土器 5835
-	86	14	-	VO40	76	鉢	晩期2か	平口縁。突起(4単位残存)。口唇面取なし。外面刻目列1条。沈線間に沈線文。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(17.2)	-	(6.4)	北-土器 5830
-	86	15	-	VP40	76	鉢か	晩期2	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇刻目。外面沈線間に刻目列2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(12.8)	-	(4.9)	北-土器 5444
-	86	16	-	VN40	76	浅鉢か	晩期2	平口縁。裝飾的なB突起。口唇面取なし。外面沈線間に刻目列2条。文様帯地文なし。	ナデ。突起内側に隆帯、突起	-	-	(28.0)	-	(2.8)	北-土器 6033
-	86	17	-	VO41	76	鉢か	晩期2	平口縁。口唇面取なし。刻目。外面沈線間に羊歯状文。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.2)	-	(2.8)	北-土器 6020
-	86	18	-	VO41	76	鉢か	晩期2か	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線1条。沈線文。横位沈線1条。文様帯地文なし。ナデ(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.0)	-	(3.6)	北-土器 5967
-	86	19	-	VN39	76	鉢か	晩期1bか	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条。沈線文。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(35.4)	-	(6.1)	北-土器 6574
-	86	20	-	VP42	76	鉢か	晩期1b	平口縁。B突起(3単位残存)。口唇面取(平坦)。外面沈線間に入組三又文。沈線文。横位沈線1条。磨消縄文LR。	ミガキ	-	-	(10.4)	-	(6.7)	北-土器 5686
-	86	21	-	VO40	76	鉢	晩期1bか	小波状口縁。二山突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面沈線文(弧線文、口縁突起に対応)。沈線間に刺突列3条。1-2条目は口縁突起部分でせり上がり途切れる。文様帯地文なし。縄文(原体不明、体部)。	ナデ	炭化物(内外面。外面に厚く付着)	-	(17.0)	-	(6.5)	北-土器 6062
-	86	22	-	VO43	76	台付鉢	晩期3-4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線1条。縄文LR。底部台。台部ナデ。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(8.0)	4.0	(6.9)	北-土器 5698
-	86	23	-	VP40	76	片口鉢	晩期2-4	片口(口縁縁状にながる)。口唇面取なし。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(8.0)	-	(2.5)	北-土器 6102
-	86	24	トナ	VN37 (P-5215)	76	台	後期後葉 晩期前葉	外面ナデ(台部)。底部台。	ナデ	炭化物(外面)。赤色顔料付着(台部内面)	-	-	10.4	4.2	北-土器 5007
-	86	25	-	VP40	76	片口鉢	晩期2-4	平口縁。B突起(6単位残存)。口唇面取なし。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面。外面厚く付着)	-	13.4	-	(8.5)	北-土器 6065
-	87	1	-	VO42	76	浅鉢	晩期3	平口縁。B突起(1単位(3個一組)。外面沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。沈線による雲形文。横位沈線3条(底部直上)。磨消縄文LR。底部円形の沈線(沈線内側に凹み)。	ミガキ。口縁突起内側に突起(頂部に円形刺突)と隆帯。沈線1条(口縁部)	-	-	18.6	3.5	北-土器 5480	
-	87	2	-	VP40 (P-5241)	76	浅鉢	晩期3	平口縁。突起(箇所(欠損)。口唇刻目。外面刻目列(口唇刻目から連続)。横位沈線3条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	褐色付着物(内面)	胎土。雲母含む	(34.0)	-	(7.7)	北-土器 5730



表4 土器観察表 (23)

写真 図版	番号	プレート など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	87	3	VO42	明褐色	76	浅鉢	晩期3	裝飾的な口縁。口唇内側肥厚。刻目(肥厚部)。外面3条の沈線間に彫去による雲形文。磨消縄文LR。底部凹底。	ミガキ	褐色膜状附着物(内外面。赤彩)	-	(17.8)	3.5	4.7	北-土器 5491
-	87	4	VP41	明褐色	76	浅鉢か	晩期3	裝飾的な口縁。外面沈線間に刻目列1条。沈線文。磨消縄文LR。	ミガキ	-	貫通孔1個	-	-	(3.2)	北-土器 6322
-	87	5	VO39	明褐色	76	浅鉢	晩期2	VI写103-4と同一個体。	ミガキ	-	-	(26.0)	-	(6.3)	北-土器 5562
14	87	6	VP41	明褐色	76	浅鉢	晩期2	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇面取なし。外面羊歯状文。沈線間に刺突列1条。縄文(附加条)。ミガキ(体部下半から底部)。底部凹形の沈線。	ミガキ	-	-	(12.0)	(3.1)	(6.3)	北-土器 6494
-	87	7	VO42	明褐色	76	浅鉢	晩期2	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。横位沈線2条(底部直上)。文様帯地文なし。縄文LR(体部から底部)。	ミガキ	-	平面楕円形か	(4.4) (13.0)	(2.8) (3.6)	(2.5)	北-土器 6021
-	87	8	VO42	明褐色	76	浅鉢	晩期2	平口縁。B突起(連綿)。口縁部が外側に張り出す(2箇所残存)。平面楕円形の短軸に対向か。その部分に隆帯による連綿する弧線文と穿孔1個。口唇面取なし。外面羊歯状文。沈線文(満卷文)。口縁部地文なし。体部細文地施文(LR)。	ミガキ。B突起内側に隆帯	-	平面楕円形か	-	-	(4.0)	北-土器 5502
-	87	9	VO43	明褐色	76	浅鉢か	晩期3か 後期後葉	平口縁。口唇面取なし。外面2条の沈線間に沈線文。磨消縄文LR。縄文LR(底部)。	ミガキ	-	-	(12.0)	-	(3.3)	北-土器 5855
14	87	10	VN40	明褐色	76	浅鉢	晩期前葉	平口縁。口唇面取なし。外面縄文LR。底部底平な高台。	ナデ	-	ミニチュア・小 稗土器	(7.5)	4.1	4.2	北-土器 5097
-	87	11	VN39	明褐色	76	壺	晩期5	外面隆帯(頸部1周、穿孔4箇所残存)。沈線。地文なし。ナデ(口縁部、体部下半)。	ナデ	-	砂粒多く軟質	-	-	(4.0)	北-土器 6386
14	87	12	VP41 (P-5221)	明褐色	76	壺	晩期2	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条(口縁部)。沈線間に刻目列1条(遊C字状、6から7間一組5単位)。横位沈線1条。沈線文。横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ(体部)。	ミガキ(口縁部)、ナデ(体部)	-	-	4.4	2.8	1.32	北-土器 5082
-	87	13	VP41	明褐色	76	壺	晩期2	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に刺突列1条。横位沈線1条。沈線文。横位沈線1条。縄文LR(体部下半から底部)。底部凹形の沈線。	ナデ	-	-	(9.2)	(2.5)	4.7	北-土器 6493
-	87	14	VN40	明褐色	76	壺	後期後葉 ~晩期	外面ナデ。底部丸底。	ナデ	-	-	-	丸底	(3.5)	北-土器 6324
-	87	15	VP41 (P-5224)	明褐色	76	壺	晩期1b~ 3	外面ミガキ(体部から底部)。器面剥離顕著。底部平底。	ナデ	赤彩(外面)	-	-	6.0	17.3	北-土器 5004
-	87	16	VP40	明褐色	76	注口	晩期2~3	外面沈線文。隆帯(体部屈曲部)。文様帯地文なし。ミガキ(体部から底部)。底部丸底。	ナデ	-	-	-	丸底	(5.2)	北-土器 6333
14	87	17	VP40 (P-5248)	明褐色	76	注口	晩期2	外面横位沈線2条。沈線間に羊歯状文。沈線間に刻目列1条。体部屈曲部に沈線により連続する突起作出。注口内側に突起(頂部刻目)各2個。注口下に入組三又文。文様帯地文なし。ミガキ。底部丸底。	ナデ	-	-	-	丸底	(5.8)	北-土器 5052
-	87	18	VO42	明褐色	76	注口	晩期2	平口縁。突起(欠損)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線1条。羊歯状文(横位に連結し、入組文となる)。沈線間に刻目列1条。体部屈曲部に沈線。注口脇に横突起2個(頂部刻目本)。横位沈線1条。文様帯地文なし。ミガキ(体部から底部)。底部丸底。注口先端肥厚。基部に隆帯一周(隆帯上の上下左右に突起(左側の突起には欠損))。	ナデ	-	-	-	丸底	(4.7)	北-土器 5493
-	87	19	VN38 (P-5245) (特 -5018)	明褐色	76	注口	晩期1a	外面ミガキ、ナデ、ケズリ。底部丸底。	ナデ	-	-	-	丸底	(6.1)	北-土器 5067
-	87	20	プレート	明褐色	76	注口	後期後葉	外面貼瘤。隆帯。沈線。	ナデ	-	人面表現か	-	-	(4.0)	北-土器 6586
-	88	1	VN38	SN-d	77	鉢か	晩期5	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇面取(内側き状)。外面横位沈線7条残存。地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(14.0)	-	(3.5)	北-土器 5774
-	88	2	VN39	e	78	鉢	晩期2	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇刻目。外面沈線間に短沈線列1条。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。文様粗雑。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(14.0)	-	(3.7)	北-土器 5483
-	88	3	VN40	e	78	鉢か	晩期2	平口縁。突起(2単位残存、2種類交互(低平な二山突起/B突起))。口唇面取なし。外面横位沈線1条。沈線文(弧線文)。刺突列(刺突の下端は弧線文に接続)。沈線間に刺突列。横位沈線2条。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(15.4)	-	(4.5)	北-土器 6385
-	88	4	VN39 (P-5413)	べつ4層	78	台付 浅鉢か	晩期2	平口縁。口唇面取(内側き状)。内側肥厚。外面2条の沈線間に羊歯状文。沈線文。文様帯地文なし。底部右。台部沈線文(磨滅)。	ミガキ。沈線1条(台内面)	赤彩(内外面)	-	(14.4)	7.0	(5.5)	北-土器 5437

表4 土器観察表 (24)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリップ (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	88	5	ㄗ11	VM40	e	78	台付鉢 か	晩期1a~ 1b	小波状口縁。外面:横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ。 平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇:面取(平坦)。外面:横位沈線2条。沈線文。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。体部に沈線をナデ消した痕跡あり。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(14.8)	-	(6.4)	北-土器 6399
-	88	6	ㄗ11	VM40	e	78	鉢か	晩期1b	平口縁。突起1単位(弧線文3単位)。外面:沈線(弧線文3単位)。横位沈線(両端が三又状となり弧線文を囲む)。入組三又文(入組部運葉。5単位)。横位沈線化した三又文。ミガキ(口縁部下半から底部)。注口基部に膨らみ(上面に玉抱三又文)。底部丸底。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(23.2)	-	(7.0)	北-土器 6542
15	88	7	ㄗ11	VM39	e	78	注口	晩期1b	外面:縄文LR(体部から底部)。底部:平底(やや丸みを帯びる)。	ナデ	炭化物(内面) 質厚く付着	-	19.4	丸底	20.4	北-土器 5170
-	88	8	ㄗ11	VM40 (P-5510)	e下部	78下部	深鉢か	晩期	外面:縄文LR(体部から底部)。底部:高台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(9.0)	(7.0)	(6.0)	北-土器 5379
-	88	9	ㄗ11	VM40 (P-5515)	e下部	78下部	深鉢	後期後葉 ~ 晩期前葉	外面:縄文LR(体部から底部)。外面:面取(平坦)。入組文の空隙に扶りによる三又文。横位沈線2条。小波状口縁。口唇:面取なし。外面:入組文。扶りによる三又文。横位沈線2条。縄文LR(体部)。ミガキ(体部)。	ミガキ	-	29.8	-	7.8	北-土器 5190	
-	88	10	ㄗ11	VM40 (P-5511)	e下部	78下部	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。外面:沈線文(入組文)。扶りによる三又文。横位沈線1条。縄文LR(体部)。ミガキ(体部)。	ミガキ	-	(24.0)	-	(5.9)	北-土器 6171	
-	88	11	ㄗ11	VM40 (P-5514)	e下部	78下部	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。三山突起4単位(2単位残存)。口唇:面取(平坦)。外面:沈線文。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内面 厚く付着)	-	(23.0)	-	(6.0)	北-土器 5430
-	88	12	-	VM40	捨1ef	78-89・109	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇:刻目。外面:半齒状文(簡略化)。横位沈線2条。2条目は突起で途切れる。突起(肩部に1箇所)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(21.0)	-	(12.4)	北-土器 6509
-	88	13	ㄗ10	VK39	捨S2	79	鉢	晩期3	平口縁。口唇:面取(平坦)。外面:条線。	ナデ	炭化物(外面)	-	(28.2)	-	(19.0)	北-土器 6454
-	88	14	ㄗ10	VM39	捨HTF	83	深鉢	後期後葉 ~ 晩期	平口縁。B突起(5単位残存)。口唇:面取(外側ギタ)。外面:横位沈線1条。沈線間に半齒状文。沈線間に刻目列1条。横位沈線2条。文様帯地文なし。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外 面)	-	(18.4)	-	(7.0)	北-土器 5442
-	88	15	ㄗ10	VM39	捨HTF	83	鉢	晩期2	平口縁。B突起(連続)。口唇:面取(平坦)。外面:横位沈線1条。入組三又文。沈線文。磨消縄文LR(磨消部が一定ではなく、粗雑)。	ナデ	炭化物(内外 面)	貫通孔2個1対 (穴あけ直し痕 1個)	20.6	-	(5.7)	北-土器 5325
-	88	16	ㄗ10	VM39	捨HTF	83	鉢	晩期1b	平口縁。口唇:面取なし。外面:ミガキ。	ナデ	-	-	17.2	-	(4.7)	北-土器 5321
-	88	17	ㄗ10	VM39	捨HTF	83	浅鉢	晩期3	表飾的な口縁。口唇:内側肥厚(肥厚部刻目、B突起)。外面:横位沈線2条。形去による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	-	-	(22.0)	-	(3.2)	北-土器 6175
-	88	18	ㄗ10	VL39	捨HTF	83	浅鉢か	晩期3	VI写82-16と同一個体。	ナデ	-	-	-	-	-	北-土器 6547
-	88	19	ㄗ10	VL39	捨HTF	83	不明	晩期前葉	平口縁。口唇:面取なし。外面:沈線間に入組三又文(口縁部、地文なし)。沈線文。磨消縄文LR。ミガキ(体部下半から底部)。底部丸底。	ミガキ	貫通孔2個1対	-	17.2	丸底	6.7	北-土器 5322
-	88	20	ㄗ10	VM39	捨HTF	83	浅鉢	晩期1b	平口縁。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条。三又文(横位に連続)。三又文。横位沈線1条。文様帯地文なし。ナデ(体部)。	ナデ	-	-	(22.2)	-	(4.4)	北-土器 6293
-	88	21	ㄗ10	VM39	捨HTF	83	台付 浅鉢か	晩期1b	外面:沈線文。沈線で区画された無文帯1条。隆帯(体部と台部の境。突起4単位、横位沈線、沈線は突起を上下に分割)。磨消縄文LR。底部台。台部透かし孔。	ナデ	炭化物(内面)	-	-	-	(5.8)	北-土器 5366
-	89	1	-	VL40	捨V	ㄗ10の80層 以下	台付鉢 か	晩期1a~ 1b	小波状口縁。口唇:面取なし。外面:横位沈線1条。入組三又文(三又文は三角形状)。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外 面)	貫通孔1個	(16.4)	-	(7.2)	北-土器 5904
-	89	2	-	VL40	捨V	ㄗ10の80層 以下	鉢	晩期1b	漆脈(内面に 厚く付着。黒 褐色。部分的 に赤色顔料付 着。文泡あり)	不明	-	-	-	-	(2.5)	北-土器 5901
-	89	3	-	VL40	捨V	ㄗ10の80層 以下	不明	後期後葉 ~ 晩期	外面:ナデ。	不明	-	-	-	-	-	北-土器 6401
-	89	4	ㄗ10	VK39	捨S4	80	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇:面取なし。外面:刻目列(部分的に途切れる。下端は横位沈線に接線)。雲形文。磨消縄文LR。横位沈線2条。	ミガキ	-	-	(16.1)	-	(4.0)	北-土器 6359
-	89	5	ㄗ10	VK39	捨S4	80	壺	晩期1bか	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇:面取なし。外面:沈線間に短沈線列1条(口縁部と体部の境)。横位沈線1条。ミガキ(口縁部)。縄文LR(体部)。	ミガキ	-	-	(11.0)	-	(5.7)	北-土器 6359
-	89	6	ㄗ10	VK39	捨S3	81	深鉢	晩期	平口縁。突起1単位(1単位残存、4個以上一組)。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	(30.0)	-	(6.6)	北-土器 6407

表4 土器観察表 (25)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	89	7	ㄗ710	VK39	捨S3	81	浅鉢か	晩期3	平口縁。口唇面取なし。内側壁厚。外面横位沈線3条。ミガキ。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(20.2)	-	(3.8)	北-土器 6157
-	89	8	-	VL40	捨V下	82	鉢か	晩期1b	平口縁。一山突起(2単位残存、低平)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った弧線文)。沈線文(口縁突起に対応)。横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.4)	-	(7.9)	北-土器 5913
-	89	9	-	VL40	捨V下 捨V下 捨V下	82 125 以下	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ、ミガキ	炭化物(外面)	-	(28.6)	-	(11.9)	北-土器 5201
-	89	10	-	VL40	捨V	82	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	(38.4)	-	(12.3)	北-土器 5362
-	89	11	-	VL40	捨V下 捨V	82 83	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ	-	-	(45.0)	-	(16.4)	北-土器 5142
-	89	12	ㄗ710	VL39	捨V下	82	鉢	晩期2	平口縁。B突起分。口唇刻目。外面横位沈線2条。羊歯状文(粗雑)。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.0)	-	(7.8)	北-土器 5917
-	89	13	-	VL40	捨V下	82	鉢	晩期1a	平口縁。一山突起(2単位残存)。口唇部分的に面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った弧線文)。口縁突起下に沈線文(三角形)。沈線間に入組文(入組文内に縦位沈線)。入組文の空隙に三角文(2個)。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ、ミガキ	-	(13.4)	-	(9.5)	北-土器 5479	
-	89	14	-	VL40	捨V下	82	鉢か	晩期1a	波状口縁推定6から7単位(頂部刻目本)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った弧線文)。波頂部に対応する下向きの弧線文。横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(13.8)	-	(7.5)	北-土器 5454
-	89	15	-	VL40	捨V下	82	鉢	後期8	平口縁。一山突起(2単位残存)。口唇面取(平坦)。外面2条の沈線間に入組文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.0)	-	(9.8)	北-土器 5734
-	89	16	-	VL40	捨V下	82	鉢か	後期8~ 晩期1a	平口縁。二山突起。外面沈線で区画された無文帯2条、口縁部の無文帯は口縁突起下で途切れる。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(22.4)	-	(13.0)	北-土器 5911
-	89	17	-	VL39	捨V下	82	鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取なし。外面ナデ。	ナデ	漆膜(内面の み。暗赤褐色 から赤褐色。 顔料が混入し ていると思わ れる。細み穀 顔料(外面に 少量)	漆液容器	(6.2)	-	(5.6)	北-土器 5919
-	89	18	ㄗ710	VL39	捨V下	82	鉢	晩期3~4	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。立ち上がる大突起。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(11.0)	-	(4.2)	北-土器 5932
-	89	19	-	VL40	捨V下	82	鉢	晩期1a	小波状口縁。口唇面取なし。外面入組文(入組文内に縦位沈線、5単位、1単位ずつまじり)。沈線による三又文(入組文に接線)。沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR(部分的に縄文残存)。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	24.2	-	(19.0)	北-土器 5200
15	89	20	-	VL40	捨V下	82	台付鉢	後期8	平口縁。台形突起8単位(7単位残存、頂部円形突起)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った上向きの弧線文)。入組文(8単位、口縁突起に対応)。横位沈線2条(部分的に3条)。磨消縄文LR。ミガキ、ナデ(体部下半から台部)。底部台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	15.1	6.8	15.0	北-土器 5206
-	89	21	ㄗ710	VL39	捨V下	82	浅鉢	晩期3	装飾的な口縁。口唇内側壁厚。外面2条の沈線間に彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ナデ	赤彩(内外面)	-	(25.6)	-	(6.0)	北-土器 5908
-	89	22	ㄗ710	VL39	捨V下	82	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面刻目列1条。横位沈線2条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	摩滅	褐色付着物 (外面。赤彩)	-	(24.4)	-	(4.5)	北-土器 5756
-	89	23	-	VL40	捨V下	82	台付 浅鉢	晩期1b	小波状口縁。一山突起推定1単位(1単位残存)。口唇面取なし。外面ナデ。底部台。	ナデ	-	-	13.8	4.7	6.8	北-土器 5301
-	89	24	-	VL40 VK40	捨V下 捨V 捨V	82 129	注口か	後期8~ 晩期1a	平口縁。突起10単位(2種類交互(台形突起、頂部突起)、頂部円形突起ありとなし)。外面口縁端部帯貼付。口縁台形突起に対応して突出。隆帯上に三又文と縦位短沈線交互5単位、口縁突起に対応。文様帯地文なし。ミガキ、ナデ。	ナデ、ミガキ	-	9.6	-	(6.5)	北-土器 5233	
-	89	25	-	VL40	捨V下	82	注口か	後期後葉	平口縁。二山突起(1単位残存)。外面隆帯(貼附。縄文LR)。ナデ(頭部)。	ナデ	-	-	(10.4)	-	(3.3)	北-土器 5922
-	90	1	-	VL40 (P-5963) VL40	捨H 捨HF	84 83	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ、最上 段の粘土紐 接合痕残存	炭化物(外面)	-	(27.8)	-	(24.0)	北-土器 5352

表4 土器観察表 (26)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	90	2	-	VM40	捨H	84	深鉢	後期後葉 ～晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:条痕(横走後縦走)。	ナデ	-	-	(30.4)	-	(13.3)	北-土器 6368
-	90	3	-	VM40 (P-5337)	捨H	84	深鉢	後期後葉 ～晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:縄文LR。	ナデ、ケズ リ	炭化物(内外 面)	-	(26.4)	-	(26.0)	北-土器 5348
-	90	4	-	VM40 (P-5336)	捨H	84	深鉢か	後期後葉 ～晩期前葉	外面:縄文LR(体部から底部)。底部:高台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	-	7.5	(6.4)	北-土器 5103
-	90	5	-	VL40 (P-5964)	捨H	84	深鉢	晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:縄文LR。底部:低平な高台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	17.0	(9.2)	(15.5)	北-土器 5314
-	90	6	-	VM40	捨H	84	鉢か	晩期4-5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇:沈線。口唇外側に突起。外面:横位沈線3条。ミガキ(口縁部)。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内面)	-	(17.4)	-	(5.7)	北-土器 6404
-	90	7	-	VM40	捨H	84	鉢	晩期2	平口縁。口唇面取(内開き状)。刻目。沈線。外面:刻目列(5個一組。口縁形状に対応)。沈線間に羊歯状文。沈線間に刻目列1条。横位沈線2条。文様帯地文なし。羽状縄文LR(体部上半)。ナデ(体部下半)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	13.0	-	8.7	北-土器 5384
15	90	8	-	VM40 (P-5930)	捨H	84	台付鉢	晩期2	小波状口縁。口唇面取なし。外面:沈線間に刻目列2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	10.2~ 10.5	4.8	10.3	北-土器 5095
15	90	9	-	VL41 (P-5941)	捨H	84	鉢	晩期1b	小波状口縁。一山突起5単位。口唇面取なし。外面:横位沈線1条。魚眼三又文6単位。沈線文(上下に相反する弧線文。魚眼三又文と交互に配置)。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部から底部)。底部:平底(底部中央突出、ケズリ)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	14.2	6.5	11.8	北-土器 5141
-	90	10	-	VM40	捨H	84	台付鉢	晩期1b	小波状口縁。B突起から5単位(4単位残存)。外面:横位沈線2条。入組三又文。横位沈線6条(部分別)に3条目と4条目が連繫か。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ ミガキ	炭化物(内外 面)	-	18.4	-	(10.3)	北-土器 5327
-	90	11	-	VL40	捨H	84	鉢	晩期1b	平口縁。一山突起1単位。口唇面取なし。外面:沈線(口縁突起下に3重の弧線文)。横位沈線2条。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	13.1	-	(10.6)	北-土器 5179
-	90	12	-	VM40 (P-5335)	捨H	84	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(外開き状)。外面:横位沈線2条。沈線文(弧線文と横位沈線(両端三又文)交互)。横位沈線2条(文様帯下端の沈線「ノ」字状に垂下)。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	16.2	-	(13.2)	北-土器 5403
-	90	13	-	VM40 (P-5567)	捨H	84	台付鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面:沈線文。横位沈線2条。文様帯地文なし(文様帯内全面に縄文を磨消した痕跡あり)。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(22.6)	-	(14.4)	北-土器 6082
-	90	14	-	VM40 (P-5567、5568)	捨H	84	鉢	晩期1b	小波状口縁。外面:沈線文(上向き)の2重の弧線文。2条目の横位沈線に接線。横位沈線5条。3、4条目の沈線は弧線文で途切れる。3条目の沈線は弧線文と連結し三又状となる箇所あり。文様帯下端の横位沈線は「ノ」字状に垂下。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(16.2)	-	(14.1)	北-土器 6083
-	90	15	-	VM40	捨H(抜根)	84	鉢	晩期1b	小波状口縁。三山突起(1単位残存)。外面:口縁形状に沿った横位沈線1条。挟りによる三又文。沈線文(入組文)。横位沈線3条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(20.8)	-	(9.8)	北-土器 6019
15	90	16	-	VL41 (P-5938)	捨H	84	浅鉢	晩期前葉 ～中葉	口縁形状不明。突起か。外面:ナデ。底部:丸底(円形の低平な隆帯貼付)。	ナデ	黒色物質附着 (内外面)	-	-	2.8	(5.0)	北-土器 5297
-	90	17	-	VM40	捨H	84	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。外面:沈線文(入組文)。挟りによる三又文。横位沈線1条。文様帯粗雑。文様帯地文なし。ミガキ(体部)。	ナデ ミガキ	炭化物(内外 面)	-	(23.8)	-	(5.9)	北-土器 6309
-	90	18	-	VM40	捨H 捨F	84 11	台付皿	晩期1b	小波状口縁。三山突起(1単位残存)。外面:横位沈線1条。入組三又文。横位沈線2条。文様帯地文なし。ナデ(体部)。底部:丸底。	ナデ	褐色膜状附着 物(外面)、黒 色膜状附着物 (内外面)	-	(21.0)	-	(5.7)	北-土器 6079
-	90	19	-	VM40	捨H	84	壺	晩期2	外面:横位沈線1条。沈線間に刻目列(刻目数個一組。刻目の単位に対応して下の沈線途切れ)。沈線文。文様帯地文なし。	ナデ	赤彩(外面)	-	-	-	(1.2)	北-土器 6285
-	90	20	-	VL40	捨H	84	注口	晩期1b	外面:横位沈線1条。沈線文(注口周囲のみ)。文様帯地文なし。ミガキ。注口:先端肥厚。基部に膨らみ(二袋状)。膨らみ間に三又状の沈線。底部:丸底。	ナデ	-	-	-	-	(8.4)	北-土器 5232
-	90	21	-	VL41 (P-5940)	捨H	84	注口	晩期1a	平口縁。B突起1単位(注口に対応)。口唇面取なし。外面:ミガキ。注口:基部に弧線状の隆帯。底部:丸底。	ナデ	-	-	8.5	丸底	10.7	北-土器 5028
15	91	1	7/10	VK39 (P- 10104)	捨S5	85	深鉢	晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:ケズリのち縄文LR。底部:平底。	ナデ。最上 段の粘土紐 接合残存。 口縁に粘土 紐接合痕	炭化物(内外 面)	-	19.8	7.4	(25.6)	北-土器 5211

表4 土器観察表 (27)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
15	91	2	ㄗ710	VK39	捨S5	85	深鉢	晩期	平口縁。B突起1単位(3個一組)。口唇:面取(内削ぎ状)。外面:縄文LR(口縁部から底部)。ナデ(底部)。底部低平な高台。	ナデ(最上段の粘土紐接合部残存)	炭化物(外面)	-	(37.0)	9.3	(41.0)	北-土器 5335
-	91	3	ㄗ710	VK39	捨S5	85	浅鉢か	晩期3	裝飾的な口縁。口唇:内側肥厚(肥厚部刻目・B突起)。外面:縞状の刻目列(刻目下端は1条目の横位沈線に連続)。横位沈線3条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(34.8)	-	(3.0)	北-土器 6180
-	91	4	ㄗ710	VL39 VK39	捨V黄褐 捨S2	87 79	鉢	晩期2-3	平口縁。B突起(5単位残存)。口唇:面取(外削ぎ状)。外面:沈線間に刻目列1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	沈 ミガキ(口縁部)	炭化物(内面 厚く付着物付 着。外面)	-	(20.0)	-	(7.7)	北-土器 5770
-	91	5	ㄗ710	VL39	捨V黄褐	87	浅鉢	晩期3	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条。彫去による雲形文。文様帯地文なし。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(16.0)	-	(4.3)	北-土器 5752
-	91	6	ㄗ710	VL39	捨V黄褐	87	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇:面取なし。外面:沈線間に刻目列(刻目列は数十個一組。刻目列の単位に対応して、下の沈線が透切れる)。横位沈線2条。雲形文か(彫去)。磨消縄文LR。	ミガキ	赤彩(内外面) 、靑熱により 黒変	-	(22.5)	-	(3.9)	北-土器 5769
-	91	7	-	VL40	捨V炭	89・125	鉢	晩期2か	小波状口縁。外面:横位沈線1条。沈線文(入組文。横位短沈線か)。文様帯地文なし。	ミガキ。	炭化物(内外 面)	-	(15.8)	-	(5.0)	北-土器 5933
-	91	8	-	VL40	捨V炭	89・125	鉢	晩期1a	平口縁。一山突起推定6単位(4単位残存)。口唇:面取(平坦)。外面:2条の沈線間に入組文(組文)。粗雑な磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ、ミガキ	炭化物(内外 面)	-	(17.0)	-	(10.6)	北-土器 5282
-	91	9	-	VL40	捨V炭	89・125	浅鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇:面取なし。外面:沈線文(口縁小波状の波底部から垂下する「ノ」字状。横位に連続する弧線文(連繋部は上向き麻状の塊りとなる)。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	-	(19.2)	-	(6.7)	北-土器 5423	
-	91	10	-	VL40	捨V炭	89・125	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。口唇:面取(平坦)。外面:面取(平坦)。横位沈線1条。縄文地施文(LR)。	ミガキ	-	(30.0)	-	(7.0)	北-土器 5909	
-	91	11	-	VL40	捨V炭	89・125	注口	後期8~ 晩期1a	平口縁。口唇:部分的に面取(平坦)。外面:沈線文(注口周囲のみ)。磨消縄文LR。	ナデ	アスファルト (注口剥離部)	-	7.6	-	(7.6)	北-土器 5920
-	91	12	-	VL40	捨V炭	89・125	台か	晩期前葉 ~中葉	底面刻目。縄文地施文。縄文LR。	ナデ	-	-	-	-	-	北-土器 5902
-	91	13	-	VL41	捨X	89・120・121	鉢か	後期後葉 ~ 晩期前葉	外面刻目。縄文地施文。縄文LR。	ナデ	-	-	-	-	(3.4)	北-土器 6195
-	91	14	-	VL40	捨X	89・120・121	鉢か	晩期1b	平口縁。口唇:面取なし。外面:沈線間に入組文(部分的に入組三叉文)。縄文地施文(部分的に磨消縄文LR)。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	11.3	-	(8.5)	北-土器 5256
17	91	15	-	VK40 (P-5967)	捨X	89・120・121	鉢	晩期1a	平口縁。半円状突起7単位。口唇:面取。外面:入組文4単位(1単位間重び。口縁突起数と文様単位は不整合。入組部に凹形刺突)。入組文の空隙に挟りによる三叉文。磨消縄文LR。ナデ(体部下半部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	24.3	-	(17.5)	北-土器 5126
-	91	16	-	VL41 VL41 (P-1032/1035)	捨X 捨U	89・120・121 122・125	鉢	後期8	一山突起11単位(頂部刻目1本)。口唇:面取(平坦)。外面:短沈線列1条。横位沈線1条。入組文(8単位、各単位の幅は一定しない)。沈線間に短沈線列1条。各短沈線列に距離推定7単位(凹形、口縁部と頸部の貼附は対応しない)。口縁突起とは対応しない。処々剥落。剥落部分は短沈線列が透切れる。磨消縄文LR。ミガキ(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	23.5	-	(20.0)	北-土器 5167
17	91	17	-	VL41	捨X	89・120・121	台付 浅鉢	晩期1a~ 1b	平口縁。口唇:部分的に面取(平坦)。外面:沈線文。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。ナデ(台部)。	ナデ、ミガキ	-	(11.4)	6.0	7.7	北-土器 5258	
17	91	18	-	VL40	捨X	89・120・121	香炉	後期後葉	頂部突起4単位、貫通孔1個。外面(体部):突起。沈線。透かし孔。縄文地施文。縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	-	-	4.5	北-土器 6320
-	91	19	-	VK40	捨X	89・120・121	注口	晩期1a	外面:ミガキ。注口先端肥厚。基部に膨らみ(一袋状、上面押圧)。底部丸底。	ナデ	-	-	-	丸底	(8.5)	北-土器 5255
-	92	1	ㄗ710	VM39	捨J	89	深鉢	晩期	平口縁。口唇:面取。外面:縄文LR。底部平底。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	28.8	(7.8)	(32.0)	北-土器 5312
-	92	2	-	VM40	捨J	89	深鉢か	晩期	平口縁。口唇:部分的に面取(平坦)。外面:縄文LR。ナデ。器面調整粗雑。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(25.4)	-	(14.8)	北-土器 6297
-	92	3	-	VM40 (P-5401)	捨J	89	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇:面取(平坦)。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(33.0)	-	(23.7)	北-土器 5628

表4 土器観察表 (28)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリップ (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	92	4	ㄗ710	VK39	捨X炭	89	深鉢	晩期	平口縁。B突起推定1単位(1単位残存。2個一組)。口唇面取(平坦)。外面縄文R。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(24.0)	-	(15.8)	北-土器 6081
-	92	5	ㄗ710	VL39	捨J 捨V炭下層	89 125	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。突起(2単位残存。頂部刻目1本)。口唇面取(平坦)。外面条痕(格子状)。	ナデ	炭化物(内外面)	「VL38.39七 ク24捨B下層 振替89」「VL41 東皿-1層 振替 69」で同一個体 出土	(34.8)	-	(18.5)	北-土器 5385
-	92	6	-	VM40 (P-5609)	捨J	89	深鉢	晩期後半	平口縁。口唇面取(平坦)。外面横位沈線4条(口縁部に部分的に施文)。縄文地施文。縄文L R(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(30.8)	-	(20.7)	北-土器 5331
-	92	7	-	VM40 (P-5570)	捨J	89	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文L R(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(26.4)	-	(23.3)	北-土器 5328
-	92	8	-	VM40 (P-5626)	捨J	89	深鉢か	後期後葉 ~晩期前葉	外面縄文L R(体部)。ナデ(底部)。底部高台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	9.4	(8.4)	北-土器 5250
-	92	9	ㄗ710	VM39 (P- 10073)	捨J	89	深鉢	後期後葉 ~晩期前葉	外面縄文L R。底部高台。	ナデ、ケズ リ	赤色顔料付着 (内面。上端 朝れ口にも付 着)	-	-	6.6	(5.2)	北-土器 6076
16	92	10	ㄗ710	VM39 (P- 10042)	捨J	89	鉢	晩期	平口縁。口唇部分的に面取(平坦)。外面縄文L R。底部平底(凹底状)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(8.8)	5.4	8.5	北-土器 6078
16	92	11	-	VM40 (P-5627)	捨J	89	鉢	後期後葉 ~晩期前葉	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文L R。摩滅。底部低平な高台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.0)	6.9	14.4	北-土器 5295
-	92	12	-	VM40	捨J	89	鉢	晩期	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文L R。	ナデ	炭化物(内面)	-	(17.2)	-	(6.0)	北-土器 6133
-	92	13	-	VM40 (P-5400)	捨J	89	深鉢か	後期後葉 ~晩期前葉	外面縄文L R。底部高台。	ナデ	炭化物(内外面) 赤色顔料付着 (内面のみ)	-	-	6.0	5.0	北-土器 6515
-	92	14	-	VM40 (P-561328)	捨J	89	鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文L R。底部低平な高台。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外面)	-	(14.7)	(7.2)	14.5	北-土器 5280
16	92	15	-	VM39 (P-5394) VM39 VM38	捨N 捨O 捨D	89 129 26	鉢	後期後葉 ~晩期前葉	平口縁か。口唇面取(平坦)。外面縄文L R(体部上半)。ナデ(体部下半)。底部高台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	15.8	6.8	13.5	北-土器 5134
-	93	1	ㄗ710	VK39	捨X炭	89	鉢	晩期3	裝飾的な口縁。外面横位沈線3条(上位2条の沈線間に刻突列)。文様帯地文なし。縄文L R(体部)。	ナデ	-	-	(12.8)	-	(3.9)	北-土器 6258
-	93	2	-	VM38	捨B6下	89	鉢か	晩期3	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇刻目。外面口縁形状に沿った横位の沈線文(沈線端部は口縁突起中央付近に連繫。もう一方の端部は隣接する口縁突起と鈍角に連繫)。横位沈線3条。右下がりの二重沈線文の上下に刻目列。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文L R(体部)。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外面)	VF写112-3と同 一個体	(26.0)	-	(4.2)	北-土器 5642
-	93	3	ㄗ710	VK39	10上層	89	鉢	晩期2-3	小波状口縁。B突起(3単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線文(沈線端部は口縁突起間に刻目1本)。文様帯地文なし。縄文L R(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(18.6)	-	(8.0)	北-土器 5554
-	93	4	ㄗ710	VK39	10上層	89	鉢	晩期2	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線文(沈線は口縁突起間に刻目1本)。文様帯地文なし。縄文L R(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(20.8)	-	(8.0)	北-土器 5500
-	93	5	-	VM40 (P-5338)	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。三山突起推定1単位(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線文(粗雑)。沈線間に短沈線1条。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文L R(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(21.0)	-	(12.0)	北-土器 5320
-	93	6	ㄗ710	VM39	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。二山突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面2条の沈線間に入組文。文様帯地文なし。縄文L R(体部)。	ナデ。最上 段の粘土紐 接合痕残存	炭化物(外面)	-	21.6	-	9.8	北-土器 5361
-	93	7	-	VM40 (P-5579)	捨J	89	鉢	晩期1b	平口縁。二山形状突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線1条。沈線文(柵田形状と上下に相反する弧線文が交互)。沈線間に入組三叉文(下の沈線「ノ」字状に垂下1単位。口縁突起に対応して配置)。文様帯地文なし。縄文L R(体部)。	ナデ。最上 段の粘土紐 接合痕残存	炭化物(内外面)	-	13.4	-	(11.6)	北-土器 5291

表4 土器観察表 (29)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
16	93	8	-	VM40 (P-5586) VM41 VM44 (P-532-534)	捨J 東Ⅲ-1	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。一山突起5単位(3単位残存。頂部刻目2本)。口唇面取(平坦)。外面入組三又文(口縁突起と文様単位は対応しない)。横位沈線3条。文様帯地なし。縄文LR(体部)。ミガキ(底部)。底部凹底。 外面横位沈線1条。沈線間に刻目列1条。文様粗織。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(14.3)	5.0	12.1	北-土器 5296
-	93	9	-	VM39 (P-532-534)	捨N	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。外面横位沈線1条。沈線間に刻目列1条。文様粗織。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ミガキ	-	貫通孔1個	(16.4)	-	(6.3)	北-土器 5462
-	93	10	ㄗ710	VM39	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。外面横位沈線1条。文様帯地なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(外面)	-	(22.0)	-	-	北-土器 6441
-	93	11	-	VM40	捨J	89	鉢か	晩期1bか	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条。沈線文(横位に連繋する下向きの弧線文)。沈線間に刻目列1条。沈線文。横位沈線2条。文様粗織。縄文地施文(LR)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(12.4)	-	(7.9)	北-土器 6490
-	93	12	ㄗ710	VM39	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。外面横位沈線1条。沈線文(入組文)。縄文地施文。縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(15.0)	-	(6.5)	北-土器 5660
-	93	13	-	VM40 (P-5653)	捨J	89	深鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。波頂部に連繋する上向きの弧線文。沈線による三又文(波頂部に対応)。沈線間に短沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(21.8)	-	(13.4)	北-土器 6530
16	93	14	ㄗ710	VM39 (P-10025)	捨J	89	鉢	晩期1b	平口縁。B突起推定22単位(15単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線間に連繋する三又文2段(上下段で向きが異なる。下端の沈線「ノ」字状に垂下9単位)。文様帯地なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(17.6)	-	(10.2)	北-土器 5223
-	93	15	ㄗ710	VL39 (P-10148)	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。三山突起4単位(1単位のみ大きい)。口唇面取なし。外面2条の沈線間に入組三又文(単位不定、口縁突起には対応しない)。文様帯地なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	26.2	-	(10.0)	北-土器 5292
-	93	16	-	VM40 (P-5400)	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。突起1単位。口唇面取なし。外面横位沈線2条。入組文。三又文(伏り)。入組文に接線。沈線文(弧線文)。横位沈線2条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(17.8)	-	(8.3)	北-土器 5324
-	93	17	ㄗ710	VM39	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条。魚眼三又文推定7単位。沈線文(上下に相反する弧線文)。沈線間に短沈線1条。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面、外面にふきこぼれ痕)	-	20.0	-	(11.3)	北-土器 5210
-	93	18	-	VM38	捨B6下	89	鉢	晩期1bか	小波状口縁。台形突起4単位(2単位残存。頂部刻目1本)。外面横位沈線2条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	胎土軟質	(17.8)	-	(11.0)	北-土器 6478
-	93	19	-	VM40	捨J	89	台付鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。魚眼三又文。沈線文。横位沈線2条。文様帯地なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(17.0)	-	(9.8)	北-土器 5400
-	93	20	-	VL40	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面横位沈線文(口縁波底帯を繋ぐ二重の弧線文)。沈線間に刻目列1条。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(17.0)	-	(8.8)	北-土器 6287
-	94	1	ㄗ710	VM39	捨J 捨N	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。外面横位沈線文(2重の上向きの弧線文4単位)。横位沈線5条(文様帯下向きの沈線「ノ」字状に垂下、弧線文に対応して配置)。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	24.7	-	(17.4)	北-土器 5332
16	94	2	ㄗ710	VM39	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。二山状台形突起推定1単位(1単位残存)。外面横位沈線2条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ、ケズ	炭化物(内外面)	-	(17.4)	-	(13.4)	北-土器 5422-1.2
-	94	3	-	VM39	捨N	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。三山突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線文(口縁突起下に上向きの2重の弧線文。2条目の横位沈線に接線)。口縁形状に沿った横位沈線5条(文様帯下向きの沈線「ノ」字状に垂下。3-4条目の沈線は弧線文で透切れる)。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(23.0)	-	(8.8)	北-土器 6012
-	94	4	-	VM40	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(外側のみ)。外面横位沈線文(入組文。三角形文)。眼鏡状底帯1条(連繋部に竹管状突起)。文様帯地なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(外面)	-	(26.8)	-	(6.1)	北-土器 6121
16	94	5	ㄗ710	VM39 (P-10042)	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。天突起1単位(台形、頂部刻目3本)、小突起(3単位残存、B突起)。口唇面取なし。外面入組文10単位(口縁突起とは対応しない)。横位沈線2条(底帯間に突起10単位。入組文に対応。頂部円形突起)。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(33.4)	-	(16.5)	北-土器 5169
-	94	6	-	VM40 (P-5405)	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。台形突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線文(粗織)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(13.8)	-	(9.2)	北-土器 5473
-	94	7	-	VM40 (P-5544)	捨J	89	台付鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面横位沈線間に短沈線1条。縄文地施文。縄文LR(体部)。ナデ(台部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(15.2)	-	(11.0)	北-土器 5303
16	94	8	-	VM40 (P-5644)	捨J	89	台付鉢	晩期前葉	極めて弱い小波状口縁。二山突起1単位。口唇面取(平坦)。外面横位沈線1条。外面横位沈線間に入組文(平行位)。文様帯地なし。縄文LR(体部)。ミガキ、ナデ(台部)。底部台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(11.1)	(4.4)	9.8	北-土器 5354
16	94	9	ㄗ710	VM39	捨J	89	台付鉢	晩期1b	小波状口縁。台形突起1単位(2期一組。頂部押正)。口唇面取なし。外面2条の沈線間に入組文(平行位)。文様帯地なし。縄文LR(体部)。ミガキ、ナデ(台部)。底部台。	ナデ、ミガキ	炭化物(内外面)	-	(16.5)	7.0	15.5	北-土器 5236

表4 土器観察表 (30)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
16	94 10	-	-	VM40 (P-5525)	捨J	89	台付鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面:沈線文(上向き)の2重の弧線文(4単位。各単位の幅は一定しない)。横位沈線5条(文様帯下端の沈線が「ノ」字状に垂下、弧線文に対応して配置)。2かち4条目の横位沈線は弧線文に連続。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。底部ナデ。右部ナデ。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(66)	(15.9)	北-土器 5127	
-	94 11	-	-	VM39 (P-5391)	捨N	89	台付鉢	晩期1b	平口縁。B突起(連続)。口唇面取。外面:横位沈線1条。入組文(平行線化)。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。ミガキ(台部)。底部台。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(82)	(18.5)	北-土器 5196	
-	94 12	-	-	VL40	捨J	89	鉢	晩期1a~ 1b	小波状口縁。三山突起(単位)。口唇面取(外側が平)。外面:ミガキ、ナデ。底部丸底	ミガキ、ナ デ	炭化物(内外面)	胎土砂継ぎ多く	丸底	(9.5)	北-土器 6290	
-	94 13	-	-	VM40 (P-5641)	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面:沈線文(連続する二重の上向きの弧線文と、相対する一重の下向きの弧線文。口縁形状とは対応しない)。沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(168)	(5.1)	北-土器 6428	
-	94 14	7710	-	VL39 (P- 10154)	捨J	89	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面:沈線文。沈線間に刻目列1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ。粘土 紐接合痕	炭化物(内外面)	-	(200)	(9.5)	北-土器 6088	
-	94 15	-	-	VL40	捨V炭上	89	鉢	晩期1a~ 1b	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面:縄文LR。	ナデ	-	胎土軟質、小 継ぎ多い	(86)	(7.7)	北-土器 5997	
-	94 16	7710	-	VM39	捨J	89	鉢	後期8~ 晩期1b	平口縁。突起か。外面:沈線文(弧線文)。横位沈線3条(1条目の沈線は弧線文で途切れる)。無文帯。横位沈線5条。無文帯。横位沈線2条。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(116)	(9.6)	北-土器 6090	
-	94 17	-	-	VM40 (P-5614)	捨J	89	鉢	晩期前葉	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線1条。ナデ。底部丸底。	ナデ	-	-	(11.8)	(8.5)	北-土器 5337	
-	94 18	7710	-	VM39	捨J	89	浅鉢	晩期前葉	小波状口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線2条。ナデ。底部丸底。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(160)	(7.4)	北-土器 5293	
-	94 19	-	-	VM40 (P-5626)	捨J	89	鉢	晩期前葉	口縁形状不明。外面:ミガキ。底部丸底。	ナデ	-	-	-	(7.4)	北-土器 5353	
-	94 20	7710	-	VM39	捨J	89	台付鉢	晩期1a~ 2	外面:縄文LR(炭化物附着により原形不明。底部)。ナデ(台部)。底部台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	(6.4)	北-土器 5422-3	
-	94 21	-	-	VL40	捨J	89	鉢	後期後葉 晩期前葉	平口縁。口唇面取なし。外面:ミガキ。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(188)	(5.8)	北-土器 6443	
-	95 1	-	-	VL40	捨J 捨U下	89	鉢	晩期1a	小波状口縁。口唇面取なし。外面:外面:沈線文(口縁形状に沿った弧線文)。横位沈線1条。入組文。三又文(沈線)。入組文に連続。横位沈線2条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(180)	(12.0)	北-土器 6217	
-	95 2	-	-	VM39 (P-5394)	捨N	89	台付鉢	晩期1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線1条。入組文。入組文の空隙に沈線による三又文。	ナデ	-	胎土軟質	(198)	-	北-土器 6545	
-	95 3	-	-	VL40	捨J	89	鉢	晩期1a	平口縁。突起(2種類交互(各形突起。頂部円形突起(二山状台形突起)。口唇面取(平坦)。外面:沈線文(口縁形状に沿った2重の弧線文。下の弧線文は突起下で三又状となる箇所あり)。入組文(入組部に凹形突起)。三又文(入組文に連続)。磨消縄文LR。ミガキ(体部下半)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(168)	(14.3)	北-土器 5304	
-	95 4	-	-	VM40	捨J	89	鉢	晩期1a	平口縁。一山突起(3単位残存)。口唇面取(平坦)。外面:沈線間に沈線文(上下交互の弧線文、三又文が連続(1箇所残存))。沈線間に短沈線1条。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(176)	(7.5)	北-土器 5607	
-	95 5	-	-	VM39	捨N	89	鉢	晩期1a	小波状口縁。外面:横位沈線1条。入組文。沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(24.2)	(9.8)	北-土器 6424	
-	95 6	-	-	VM39 (P-5392-5394)	捨N	89	鉢	晩期1a~ 1b	小波状口縁。外面:沈線間に入組文。入組文の空隙に挟りによる三又文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(140)	(5.5)	北-土器 5463	
-	95 7	-	-	VM40	捨J	89	鉢	晩期1a	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面:沈線間に入組文。入組文の空隙に挟りによる三又文。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(160)	(7.0)	北-土器 6382	
-	95 8	-	-	VL40	捨V炭上	89	鉢か	晩期1a	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面:沈線文。挟りによる三又文。磨消縄文LR。	ケズリ	-	-	(9.0)	(4.8)	北-土器 5992	
-	95 9	-	-	VM40	捨J	89	鉢	晩期1a	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線1条。入組文。沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(25.0)	(8.6)	北-土器 6363	
-	95 10	-	-	VL40 VM40	捨J	89	鉢	晩期1a	小波状口縁。口唇面取なし。外面:沈線文(口縁底部部に連続する上向きの弧線文)。横位沈線1条。入組文(入組文に連続)。三又文(入組文に連続)。横位沈線1条。縄文LR。	ミガキ	炭化物(内外面)。外面ふき こぼれ	-	(13.4)	(7.0)	北-土器 6130	
-	95 11	-	-	VM40 (P-5621)	捨J	89	鉢	晩期1a	小波状口縁。外面:入組文。横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(13.6)	(6.3)	北-土器 6366	



表4 土器観察表 (31)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	95	12	-	VM38	捨B6下	89	鉢	晩期1aか	外面眼鏡状隆帯(隆帯上縄文LR)。ミガキ。	ミガキ	炭化物(外面)	-	-	-	(7.3)	北-土器 5725
-	95	13	ㄗ710	VL39 (P- 10154)	捨J	89	鉢	晩期1aか	平口縁。突起(1単位残存)。外面沈線文。沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(17.0)	-	(6.2)	北-土器 6276
-	95	14	-	VL40	捨J	89	鉢か	後期8	小波状口縁。外面横位沈線2条。沈線文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(26.0)	-	(7.8)	北-土器 5471
-	95	15	-	VM38	捨N相当	89相当	深鉢か	後期8	平口縁。口唇面取(平垣)。外面横位沈線2条。入組文6単位(入組部は凹文)。三叉文(挟り)。入組文の空線。玉抱三叉文)。横位沈線2条。磨消縄文LR。ミガキ(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	19.0	-	(11.6)	北-土器 5136
-	95	16	ㄗ710	VM39	捨J	89	鉢か	後期8	平口縁。外面入組文。縄文地施文(LR)。	ナデ	-	-	(19.4)	-	(9.1)	北-土器 6092
-	95	17	-	VL40	捨J	89	鉢か	後期8か	外面沈線文。沈線で区画された無文帯1条。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	-	(10.2)	北-土器 6383
-	95	18	ㄗ724	VL38,39	捨B6下	89	鉢か	後期8	平口縁。二山状台形突起(1単位残存)。口唇面取。外面沈線文(口縁突起につながる上向き)の弧線文)。三叉文(挟り)。口縁突起下)。沈線間に短沈線列1条。入組文。沈線間に短沈線列1条。入組文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	(32.0)	-	(13.2)	北-土器 6061
-	95	19	-	VM39	捨N	89	鉢か	後期7-4	平口縁。二山状台形突起。口唇面取(平垣)。外面口縁形状に沿った刻目列1条。貼瘤。沈線間に刻目列1条。入組文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(23.0)	-	(5.8)	北-土器 6461
-	95	20	ㄗ710	VK39 (P- 10103)	捨X炭	89	浅鉢	晩期3	平口縁。B突起1単位(2個一組)。口唇面取(平垣)。沈線。外面横位沈線2条。突起(上の沈線内に1単位、口縁突起の間に配置)。底部凹底(張り出し状の脚4単位)。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	12.2	2.7	4.7	北-土器 5231
-	95	21	ㄗ710	VJ39	10上層	89	鉢か	後期7-3	平口縁。口唇面取(平垣)。外面貼瘤列1条。沈線文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.0)	-	(4.2)	北-土器 5885
-	95	22	ㄗ710	VL39	捨V炭上	89	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取(平垣)。内側厚。外面沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ナデ	赤彩(内外面)	-	(20.0)	-	(4.1)	北-土器 6054
-	95	23	ㄗ710	VM39	捨J	89	鉢か	後期7-3	平口縁。口唇面取(平垣)。外面貼瘤列3条。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(31.0)	-	(5.8)	北-土器 6378
-	95	24	-	VM40	捨J6層	89	浅鉢	晩期3	裝飾的な口縁。口唇内側肥厚(肥厚部刻目)。外面横位沈線2条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	褐色から黒色 膜状附着物 (内外面。赤 彩が被膜か)	-	(15.0)	-	(3.5)	北-土器 6031
-	95	25	ㄗ710	VK39	捨X炭	89	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に刻目列。横位沈線1条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ミガキ	褐色膜状附着 物(外面。赤 彩)	-	(12.2)	-	(4.1)	北-土器 6190
-	95	26	-	VM40 (P-5636) VO44	捨J 東Ⅲ-1	89	浅鉢	晩期2	小波状口縁。三山突起7単位。口唇面取(平垣)。外面沈線文。沈線間に短沈線列1条(頸部)。沈線文。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部下半)。	ミガキ	-	-	17.0	-	(8.0)	北-土器 5309
-	95	27	ㄗ710	VL39	捨J	89	浅鉢か	後期後葉 晩期前葉	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条(口縁部と体部の境)。ミガキ。	ミガキ	-	-	(15.8)	-	(4.7)	北-土器 6319
-	95	28	-	VM39 (P-532-534)	捨N	89	浅鉢	後期8~ 晩期1a	平口縁。突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面口縁形状に沿った沈線文。ナデ(口縁部)。縄文LR(体部)。	ミガキ。最上 段の粘土紐 接合痕残存	-	-	(16.0)	-	(4.3)	北-土器 5465
-	95	29	ㄗ710	VL39	捨V炭上	89	片口鉢	晩期2-4	片口。B突起(1単位残存。2個一組)。口唇面取(平垣)。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(12.0)	-	(10.3)	北-土器 6118
16	96	1	-	VM40	捨J	89	台付 浅鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面入組文(横位に連続)。挟りによる三叉文。横位沈線1条。磨消縄文LR。ミガキ(体部上半から台部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	26.0	7.7	(15.0)	北-土器 5415
16	96	2	-	VM39 (P-533-534)	捨N	89	台付 浅鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面入組三叉文。横位沈線1条。縄文地施文(一部磨消縄文LR)。縄文LR(体部上半)。ナデ(体部下半から底部)。底部台。台部ナデ。	ナデ	-	-	34.8	13.0	18.0	北-土器 5133
-	96	3	-	VM40	捨J	89	浅鉢	晩期1b	平口縁。三山突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面ナデ(口縁部)。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内面)	VI写84-8と同一 個体。VI写84-8 には沈線文が認 められる	(11.2)	-	(4.6)	北-土器 5557

表4 土器観察表 (32)

図版	写真 図版	番号	シ シ シ	グ リ ド 番 号	現 場 層 位	振 替 層 位	器 種	時 期	形 態・外 面 文 様 等	内 面 特 徴	付 着 物	備 考	口 径 (cm)	底 径 (cm)	高 さ (cm)	整 理 No
-	96	4	710	VL29 (P-10148)	捨J	89	台付 浅鉢か	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面:抉りによる三又文。沈線文(入組文)。横位沈線1条。縦 文地施文(LR)。ミガキ(体部)。	ミガキ	-	-	(34.4)	-	(7.2)	北-土器 6091
-	96	5	710	VM39 (P-10035)	捨J	89	浅鉢	晩期1b	平口縁。三山突起(連続)。口唇面取なし。外面:横位沈線2条。入組三又文。横位沈線3条。 文線帯地文なし。縄文LR(口縁部、体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	器壁薄い	(14.0)	-	(7.2)	北-土器 6533
16	96	6	-	VM40 (P-5633)	捨J	89	浅鉢	晩期1b	小波状口縁。三山突起(推定5単位(4単位残存、頂部刻目本)。口唇面取なし。外面:入組文(7 単位)。沈線文。眼鏡状隆帯。文線帯地文なし。ミガキ。底部丸底。	ミガキ	-	-	(20.2)	丸底	(9.8)	北-土器 5336
-	96	7	-	VM40 (P-5592) VM40	捨Ja層 e	78	台付皿	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面:沈線による三又文。入組三又文。横位沈線1条。文線帯 地文なし。ミガキ。底部台。台部:沈線文、透かし孔。	ミガキ	-	-	(22.5)	(7.7)	6.2	北-土器 5737
-	96	8	-	VL40	捨J	89	台付 浅鉢	後期後葉 晩期前葉	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:ナデ。外面:口縁部に面取時の粘土の段。底部台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	19.6	-	(7.0)	北-土器 5411
17	96	9	-	VM39 (P-5392)	捨N	89	皿	晩期1a	平口縁。二山突起(2単位残存)。口唇面取なし。外面:横位沈線1条。入組文4単位か。沈線文。 横位沈線1条。磨消縄文LR。ミガキ(口縁部、体部下半から底部)。底部丸底。	ナデ	-	-	(22.2)	丸底	4.4	北-土器 5323
-	96	10	-	VM40 (P-5339)	捨J	89	壺	晩期1b~ 3	外面:縄文LR(体部)。	ミガキ(口縁 部)、ナデ (体部)	-	-	-	-	(17.0)	北-土器 5393
-	96	11	710	VM39 (P-10046)	捨J	89	壺	晩期1b	平口縁。口唇面取なし。外側壁厚。外面:沈線で区画された無文帯。横位沈線1条(底部直上)。 ナデ(口縁部)。縄文LR(体部から底部)。底部低平な高台。	ナデ	-	-	5.4	4.8	18.2	北-土器 5080
17	96	12	710	VM39 (P-10033)	捨J	89	壺	晩期1b	外面:眼鏡状隆帯(頸部と体部の境)。横位沈線1条。沈線文。磨消縄文LR。底部:平底(外側に 張り出す)。	ケズリ	赤彩(外面) 内面(口縁部) 着色物(内面体 部下半から底 部)	-	-	-	14	北-土器 5041
17	96	13	-	VM40 (P-5528)	捨J	89	壺	晩期2	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線1条(口縁部)。ミガキ。底部: 丸底(円形の凹状のくぼみ)。	ミガキ(口縁 部)、ナデ (体部)	口縁突起に黒 色付着物	-	(7.6)	丸底	10.6	北-土器 5249
-	96	14	710	VM39 (P-10037)	捨J	89	壺	晩期前半	平口縁か。口唇面取(平坦)。外面:縄文LR(体部から底部、粗雑)。ナデ(全面)。底部:丸底。	ナデ	-	-	(6.0)	丸底	(12.1)	北-土器 5042
-	96	15	-	VM40 (P-5608.5610)	捨J	89	壺	晩期1b	外面:頸部に横位沈線と円形刺突交互に5単位。隆帯:両側に沈線。文線帯地文なし。ナデ(口縁 部)。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	-	-	(10.3)	北-土器 5298
-	96	16	-	VM39 (P-10024)	捨N	89	壺か	後期後葉 ~晩期	外面:ナデ。底部丸底。高台状の円形貼付。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	-	(4.3)	北-土器 5378
-	96	17	710	VM39	捨J	89	注口か	晩期2	平口縁。口唇面取なし。外面:2条の沈線間に半歯状文。沈線文。横位沈線3条。刻目列1条。 文線帯地文なし。	ナデ	-	-	(10.2)	-	(8.2)	北-土器 6235
-	96	18	710	VK39	捨X炭	89	注口	晩期2~3	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面:退化した半歯状文。沈線間に刻目列。沈 線文(体部:頸部に連続する弧線文)。突起(注口:両側に各2個、頂部縦位刻目本)。ミガキ (体部下半から底部)。注口:先端肥厚。注口:上部と基部に突起各1個(縦位のB字状)。底部:丸 底。	ミガキ(口縁 部)、ナデ (体部)	-	-	(8.3)	丸底	4.7	北-土器 5276
17	96	19	710	VK39	捨X炭 捨X	89 89・120・121	注口	晩期3	平口縁。突起1単位(3個一組。中央は粘状で頂部刻目本。片側に横位突起、もう一方は欠損。 注口(対応)。口唇内削ぎ。外面:沈線間に刻目列1条。沈線文。沈線間に刻目列1条。体部:屈 曲部に装飾的な突起が巡る。横位沈線1条。注口下に沈線文。ミガキ(体部下半)。	ミガキ	-	-	12.0	-	(7.2)	北-土器 5230
17	96	20	710	VM39 (P-10036)	捨J	89	注口	晩期1b	平口縁。装飾的な突起4単位(2種類交互)。口唇面取なし。三又文。外面:沈線文、横位沈線 1条。沈線文(注口下に凹状文)。文線帯地文なし。ミガキ(体部下半から底部)。底部丸底。 注口:基部肥厚。	ナデ	-	-	4.7~ 6.6	丸底	7.3	北-土器 5030
-	96	21	-	VL40	捨J	89	注口	晩期1a~ 1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面:沈線文(口縁部:底部を繋ぐ連続する弧線文)。横位沈線2条。 突起(把手状、片側に刺突)。沈線文(突起間のみ)。充塞縄文(LR)。弧線文内側に突起下の み。ミガキ。	ナデ	-	-	(14.0)	-	(7.4)	北-土器 5553

表4 土器観察表 (33)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	97	1	-	VM40	捨J	89	注口	晩期1a~1b	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:ミガキ。注口先端肥厚(基部に隆帯一周)。底部丸底。	ナデ	-	-	(7.0)	丸底	13.0	北-土器 5349
-	97	2	-	VM40 (P-5628, 5631,5646)	捨J	89	注口	晩期1b	平口縁(正面に突起がついていた可能性あり)。口唇面取(平坦)。外面:沈線で区画された縄文帯(口縁部)。沈線文(注口周囲のみ)。ミガキ。注口先端肥厚。基部に割離痕。底部丸底。	ナデ	-	-	(9.0)	丸底	(12.2)	北-土器 5299
-	97	3	ㄗ710	VM39	捨J	89	注口	晩期1b	小波状口縁。一山突起(単位)。口唇面取なし。外面:沈線文(相対する縦位の弧線文、口縁部上端に連続して巡る。口縁形状には対応しない)。横位沈線1条。ミガキ。	ミガキ(口縁部、ナデ(体部))	-	-	11.0	-	(11.5)	北-土器 5184
-	97	4	ㄗ710	VL39	捨J	89	注口	晩期1b	外面:沈線文(彫去状、注口周囲のみ)。充填縄文LR後ミガキ。底部丸底。	ナデ	黒色付着物(内面部分)	-	-	丸底	(7.8)	北-土器 5180
-	97	5	-	VL40	捨J	89	注口	後期7-4	平口縁。突起(単位)(3単位残存)。口唇面取(平坦)。外面:肥厚(肥厚部縄文LR)。外面:沈線で区画された縄文帯2条(頂部と体部の境)。ミガキ。底部高台。	ナデ	黒色付着物(内外面口縁部)	-	7.7	2.8	(15.6)	北-土器 5480
-	97	6	-	VM39	捨N	89	注口	晩期1b	外面:ミガキ。注口先端沈線。基部に沈線、玉抱三又文。地文なし。	ナデ	-	-	-	-	(3.1)	北-土器 6329
-	97	7	ㄗ710	VM39	捨J	89	注口	晩期1b	外面:沈線文。磨消縄文LR。注口先端肥厚。基部に彫らみ(玉抱三又文)。	ナデ	-	-	-	-	(5.1)	北-土器 6154
-	97	8	ㄗ710	VM39	捨J	89	香炉	後期後葉	外面:透かし孔。略扁。沈線で区画された縄文帯(縄文LR)。縄文帯に略扁(頂部凹形刺突)。ナデ(体部下半~台部)。底部台。	ミガキ	炭化物(内面)	-	(9.5)	6.6	6.7	北-土器 6433
-	97	9	-	VL37	捨B6,捨B10	89	深鉢	榎林	波状口縁。口唇面取なし。外面:口縁に沿った隆沈線。隆沈線による文様帯区画。磨消縄文LR。ミガキ(口縁部)。	ナデ	炭化物(外面)	VI写109-17と同一体	-	-	(7.5)	北-土器 5726
-	97	10	-	VM38	捨B6下	89	鉢か	後期後葉 晩期前葉	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:刻目列2条。文様帯地文なし。器面磨滅。	ナデ	炭化物(外面)	II FIG3-4-5、VI写91-13、VII写87-7、VIII写98-24と同一体	(12.0)	-	(4.0)	北-土器 5713
-	97	11	-	VM40 (P-5581)	捨J下	89下	鉢か	晩期1b	小波状口縁。二山突起(単位)単位。外面:沈線文(弧線文が部分的にナデ消される)。沈線間に刻目列1条。文様帯地文なし(縄文がナデ消された痕跡あり)。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(22.2)	-	(12.0)	北-土器 6296
-	97	12	-	VM40 (P-5554)	捨J下	89下	深鉢か	後期前葉	外面:縄文LR(体部)。ナデ(底部)。底部高台。	ナデ	-	-	-	9.0	(8.5)	北-土器 5279
-	97	13	-	VM40 (P-5540)	捨J下	89下	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面:沈線文(口縁突起を区切る弧線文と突起に対応する三角形文交互)。横位沈線2条。入組三又文。横位沈線2条。入組三又文(入組文に接線)。	ナデ、ミガキ	炭化物(内外面)	-	(24.0)	-	(8.5)	北-土器 6457
17	97	14	-	VM40 (P-5551) VM40	捨J下 捨J	89下 89	注口	晩期1b	平口縁。大突起(単位)(台形、頂部三山状)。大突起間に小突起(鋭状、頂部刻目1本)。口唇:沈線(大突起側のみ)。外面:口縁大突起に玉抱三又文がモチーフの隆帯。玉抱分は穿孔。沈線で区画された縄文帯1条。沈線文(彫去)。磨消縄文LR。ミガキ(口縁下半から頸部、体部下半から底部)。注口先端肥厚。基部に隆帯。底部丸底。	ナデ	赤彩(外面:口縁内側の口縁部分のみ。文様部分のみ遊影か)	胎土精微 濃度分析No14	12.9	丸底	27.3	北-土器 5198
-	97	15	-	VM40 (P-5601)	捨J下	89下	注口	晩期1a~1b	外面:ミガキ。注口基部肥厚、粗雑な沈線文。底部丸底。	ナデ	-	-	-	丸底	(7.9)	北-土器 5054
-	97	16	ㄗ710	VJ39	10層	89以下	鉢か	後期8	平口縁。突起(2種類交互(二山状台形突起/台形突起、頂部刻目2から3本))。口唇面取(平坦)。外面:二山状台形突起の下に縦位短沈線。横位短沈線2条。入組文。三又文(入組文に接線)。	ミガキ	-	(24.0)	-	(10.2)	北-土器 5377	
-	97	17	-	VJ39	10層	89以下	鉢か	後期7-4	口唇形状不明。口唇面取なし。外面:口縁形状に沿った刻目列1条。横位沈線1条。刺突列1条。入組文。注口先端肥厚。基部に隆帯。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(20.0)	-	(4.5)	北-土器 6498
-	97	18	-	VJ39	10層	89以下	鉢か	後期前葉	外面:沈線間に刻目列1条。突起箇所。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	(3.7)	北-土器 6358	
-	98	1	-	VF39	sec7 (ハ47)層	92	台付鉢か	晩期5	平口縁。突起(1単位残存)。外面:横位沈線5条(4条目の沈線に縦位の短沈線)。地文なし。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	-	-	-	-	(3.5)	北-土器 5941
18	98	2	-	VF39	ハ47層	92	台付浅鉢	晩期3	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇:刻目。外面:横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ。底部:台。台部:端部肥厚(肥厚部縦位沈線2条)。	ミガキ	赤彩(内外面)	出土状況写真(写真57)では内面彩文のように見える	(19.7)	10.1	(10.1)	北-土器 6248

表4 土器観察表 (34)

写真 図版	番号	シマ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	98 3	-	VO39 (P-5395)	△外7層	92	注口か	晩期2	平口縁。B突起1単位。口唇面取なし。外面2条の沈線間に羊歯状文。横位沈線1条。ナデ(口縁部下半)。沈線間に刻目列1条(口縁部と体部の境。刻目列は十数個一組。刻目列の単位に対応して、下の横位沈線が途切れる)。文様帯地文なし。	ナデ	-	貫通孔1個(口縁突起に対応。貫通孔周囲に剥離痕。注口か。)	6.5	-	(5.9)	北-土器 5739
-	98 4	-	VN39 (P-5454)	△外7層	93	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇内削ぎ。外面ナデ。	ナデ	炭化物(外面)	-	(37.4)	-	(24.4)	北-土器 5185
-	98 5	-	VN39 (P-5430)	△外7層	93	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平里)。外面縄文LR。	ナデ、ケズリ	炭化物(内外)	-	(32.8)	-	(23.4)	北-土器 5265
-	98 6	-	VN40 (P-5307)	△外7層 (黒縄)	93	鉢	晩期2	平口縁。B突起(5単位残存)。口唇刻目。外面横位沈線1条。羊歯状文。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(17.0)	-	(8.2)	北-土器 6331
-	98 7	-	VN40 (P-5355)	△外7層 (黒縄)	93	台付鉢	晩期2	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線1条。羊歯状文。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。ミガキ(台部)。底部台。台部透かし孔。地文なし。	ナデ。横位 沈線1条	-	-	(15.0)	-	(8.8)	北-土器 6218
-	98 8	-	VN40 (P-5286)	△外7層 (黒縄)	93	鉢か	晩期2	平口縁。口唇面取(平里)。刻目。外面沈線間に短沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(23.4)	-	(5.7)	北-土器 5617
-	98 9	-	VN39 (P-5430)	△外7層 (△外4層)	93	鉢	晩期1b~ 2	平口縁。口唇刻目。外面沈線文(連繫する弧線文)。沈線間に短沈線列2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(14.6)	-	(5.2)	北-土器 5523
-	98 10	-	VN39	△外7層 (△外4層)	93	鉢	晩期1b	平口縁。口唇面取(平里)。刻目。外面横位沈線4条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(14.2)	-	(7.2)	北-土器 5274
-	98 11	-	VN39 (P-5424)	△外7層 (△外4層)	93	鉢	晩期1b	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。沈線文(上向きの弧線文)3単位残存。弧線文を抱える平行化した三又文(両端とも三又状)。文様帯下端の沈線「J」字状に垂下(弧線文に対応)。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	180	-	(9.6)	北-土器 5175
-	98 12	-	VN40	△外7層 (黒縄)	93	鉢	晩期1b	平口縁。B突起(3単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線2条。沈線文(入組文)。沈線による三又文。横位沈線2条。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(25.8)	-	(4.8)	北-土器 6302
-	98 13	-	VN40 (P-5317)	△外7層 (黒縄)	93	鉢	晩期1b	小波状口縁。外面横位沈線2条。沈線による三又文。沈線文(入組文)。横位沈線2条。磨消縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(25.6)	-	(10.2)	北-土器 6288
-	98 14	711	VN40 (P-5491)	△外7層 (黒縄)	93	鉢	晩期1b	小波状口縁。外面沈線文。文様帯地文なし。縄文(体部。炭化物付着のため原形不明)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(26.0)	-	(9.1)	北-土器 6328
-	98 15	-	VN40 (P-5314)	△外7層 (黒縄)	93	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面2条の沈線間に入組三又文。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(15.6)	-	(11.3)	北-土器 6241
-	98 16	-	VN40 (P-5317)	△外7層 (黒縄)	93	鉢	晩期1b	平口縁。突起(2単位残存。2種類の一山突起交互か)。外面沈線間に入組三又文。沈線文。磨消縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(28.0)	-	(8.3)	北-土器 6415
-	98 17	711	VN39	△外7層	93	鉢	晩期前葉	小波状口縁。口唇部分的に面取(平里)。外面縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(25.0)	-	(11.6)	北-土器 5616
-	98 18	-	VN40 (P-5322)	△外7層 (黒縄)	93	鉢	晩期前葉	小波状口縁。外面ケズリ。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(23.8)	-	(8.5)	北-土器 6317
-	98 19	-	VN40 (P-5317)	△外7層 (黒縄)	93	鉢か	後期後葉 か	波状口縁。二山状台形突起(頂部内外に貼附)。外面沈線文。磨消縄文LRか。	ナデ	炭化物(内面)	-	-	-	(4.5)	北-土器 5618
-	98 20	-	VN40	△外7層 (黒縄)	93	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条。沈線間に刻目列1条。横位沈線2条。彫去による雲形文。磨消縄文LR。	ナデ	赤彩(内外面)	-	(18.0)	-	(5.0)	北-土器 6420
18	98 21	-	VN40 (P-5304)	△外7層 (黒縄)	93	台付皿	晩期2-3	平口縁。B突起推定4単位(3個一組1箇所。2個一組1箇所)。外面沈線文。横位沈線2条。底部台。台部透かし孔(三又文、円形)。横位沈線(上端と下端に各2条)。	沈線1条。底 面に凹線。上 の段	-	12.1	8.0	6.7	北-土器 5373	
-	98 22	-	VN39 (P-5416)	△外7層 (△外4層)	93	台付 浅鉢か	晩期1b	平口縁。口唇面取(内削ぎ状)。内側に面取時の粘土の段あり。2条の沈線間に入組三又文。文様帯地文なし。ミガキ(体部)。	ミガキ	-	-	(20.8)	-	(6.0)	北-土器 5447
-	98 23	-	VN40 (P-5306)	△外7層 (黒縄)	93	浅鉢	晩期1b	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に入組三又文。文様帯地文なし。ナデ(体部)。	ナデ	-	-	(20.2)	-	(5.0)	北-土器 6335
-	98 24	-	VN39 (P-5416 5443444 VN40)	△外7層 (△外4層) 黒褐色	93	台付皿	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(外削ぎ状)。外面平行線化した連続する三又文(末端に「J」の字文や三角文が加わって入組三又文状となる)。縄文地施文(LR)。ミガキ(体部)。底部台。	ミガキ	-	-	28.0	-	(7.5)	北-土器 5187
-	98 25	-	VN40 (P-5297)	△外7層 (黒縄)	93	壺	晩期3	平口縁。口唇面取。外面横位沈線2条(口縁部)。横位沈線3条(頸部と体部の境。彫去状)。突起2単位。ミガキ。底部平底。	ミガキ(口 縁部から頸 部にナデ (体部))	赤彩(外面、 内面口縁部 のみ)	-	11.0	6.0	19.7	北-土器 5005

表4 土器観察表 (35)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
18	99	1	-	VN39 (P-5452)	アロ713 (ハ4層)	93	壺	晩期2	平口縁。口唇面取(平田)。外面横位沈線1条(口縁部)。隆帯間に突起(頂部並「ノ」字状刻目と横位沈線交互に6から7単位)。沈線間に刻目列1条(刻目数画一組、下位の沈線は刻目の単位に対応して逐列される)。沈線間に刻目列1条。横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ。底部平底。底面凹状。	ナデ	-	5.9	6.2	(19.7)	北-土器 5319	
-	99	2	-	VM40 (P-522308)	黒褐	95	壺	晩期2	外面横位沈線2条。突起(1箇所残存)。羊歯状文。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	-	-	-	(11.1)	北-土器 6546	
18	99	3	-	VN39 (P-5472)	アロ713 (ハ4層)	93	壺	晩期1b	平口縁。口唇面取なし。外側肥厚。外面魚眼三叉文。沈線文。無文帯1条。沈線間に沈線文(人組文)。無文帯1条。磨消縄文LR。縄文RL(口縁部、底部付近)。ミガキ(頂部)。	ミガキ(口縁部)、ナデ(体部)。沈線1条(口縁部)	褐色膜状附着物(赤彩か。外面、内面口縁部のみ)	-	8.9	-	(26.0)	北-土器 5744
18	99	4	-	VN39 (P-5440)	アロ713 (ハ4層)	93	壺	晩期1b	外面横位沈線各1条(頸部境界)。沈線文。磨消縄文LR。沈線で区画された無文帯。縄文LR(体部下半)。ミガキ(底部)。器面剥離顕著。底部凹底。	ナデ	赤彩(外面、内面口縁部のみ)	-	4	(16.2)	北-土器 5096	
-	99	5	7411	VM39	アロ713	93	壺	中期後葉	外面隆帯(棒状把手か)。沈線文。文様帯地文なし。	ナデ	-	-	-	(4.0)	北-土器 5623	
-	99	6	-	VM40 (P-5316)	アロ713 (黒褐)	93	注口	晩期1b	平口縁。一山突起推定1単位。口唇面取(平田)。外面(口縁部)玉拍三叉文(口縁突起下)。沈線文(上向き弧線文)。横位沈線(両端が三叉状となり弧線文を囲む)。横位沈線1条(口縁突起に対して「ノ」字状に垂下)。縄文地施文(口縁、弧線文内のみ磨消)。ミガキ。外面(体部)人組文。三叉文。磨消縄文LR。注口基部に人組文(画面に挟りによる三叉文)。	ミガキ(口縁部)、ナデ(体部)	-	14.6	-	(16.0)	北-土器 5510	
-	99	7	7411	VN39	SN-g	94	鉢	晩期2	平口縁。突起(2単位残存)。口唇刻目。外面口唇形状に対応した刻目列(刻目下端は横位沈線に接続)。横位沈線1条。沈線間に羊歯状文。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(23.0)	-	(6.8)	北-土器 5602
-	99	8	7411	VM40	SN-g	94	鉢	晩期2	小波状口縁。口唇面取なし。外面沈線文(口唇形状に対応した横位に連続する上向きの弧線文)。沈線間に短沈線列2条。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(12.0)	-	(8.0)	北-土器 6391
-	99	9	7411	VM38 (P-5517)	SN-g	94	鉢	晩期	平口縁。二山突起1単位。口唇面取(平田)。外面縄文LR。底部低平な高台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	12.6	5.2	10.3	北-土器 5227
18	99	10	7411	VM39 (P-5498)	SN-g	94	台付 浅鉢か	晩期1b	外面ミガキのちケズリ。	ナデ(台部)、ミガキ	-	普通孔。底面4個、体部下半推定4個(3箇所残存)。底面1箇所は穿孔より直上。3部位の孔は1列に並ぶ。焼成後両面穿孔	-	-	(17.2)	北-土器 5138
18	99	11	7411	VM40	SN-g	94	浅鉢	晩期1b	平口縁。立体的な突起1単位。B突起(4単位残存)。口唇面取なし。外面沈線文。沈線で区画された無文帯1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部下半から底部)。底部凹底。	ナデ	-	18.6~21.6	7.0	6.9	北-土器 5254	
-	99	12	7411	VM37	黒褐下層	95下層	浅鉢	晩期7-4 ~晩期1a	平口縁。口唇面取(平田)。外面ミガキ。底部高台。	ミガキ	-	(23.2)	(9.0)	(9.0)	北-土器 5731	
-	99	13	-	VM40	黒褐	95	深鉢	晩期2	VI写S3-1と同一個体。	-	-	-	-	-	北-土器 5402	
-	99	14	-	VN38	黒褐	95	深鉢	晩期2	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇刻目。外面横位沈線1条。沈線間に短沈線3条。文様帯地文なし。ナデ、ケズリ(体部から底部)。底部平底。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.4)	(7.4)	19.5	北-土器 5743
-	99	15	-	VN40	黒褐	95	深鉢か	晩期1b	小波状口縁。外面沈線文(口唇突起部に対応する上向きの二重の弧線文)。沈線間に短沈線列1条。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(16.0)	-	(7.2)	北-土器 6265
-	99	16	-	VQ41-42	黒褐	95	深鉢	晩期	外面縄文LR。底部平底。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	6.4	(13.8)	北-土器 5376
-	100	1	-	VP40	黒褐	95	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目(押圧状。口唇外側)。横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ、沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(17.4)	-	(6.2)	北-土器 6240
-	100	2	-	VN39	黒褐	95	鉢か	晩期4-5	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LRか(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(10.0)	-	(6.6)	北-土器 6250

表4 土器観察表 (36)

写真 図版	番号	レゾ など	グリップ 取上番号	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	100 3	-	VP40	黒褐	95	鉢	晩期3	平口縁。B突起(6単位残存)。口唇刻目。外面:横位沈線1条(上位2条の沈線に上下交互に4から6間一組の刺突列)。突起(肩部)1箇所。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。	炭化物(内外面)	貫通孔2個一組	(18.0)	-	(4.9)	北-土器 6129
-	100 4	-	VO40	黒褐	95	鉢	晩期2	平口縁。B突起(連続)。外面:沈線文(末端は口縁突起の中心に連繫し、もう一方の末端は隣接する口縁突起に鋭角に連繫)。沈線間に羊歯状文。沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。沈線文。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(22.0)	-	(6.8)	北-土器 6421
-	100 5	-	VO39	黒褐	95	台付鉢	晩期2	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇面取なし。刻目。外面:口縁形状に対応した刺突列。刺突列の下端は横位沈線に接続。沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	貫通孔2個一組	12.7	-	(8.2)	北-土器 6071
-	100 6	-	VP42	黒褐	95	鉢	晩期2-3	平口縁。B突起(3単位残存)。口唇刻目。外面:横位沈線(末端は口縁突起の中心に連繫し、もう一方の末端は隣接する口縁突起で垂下)。横位沈線1条。羊歯状文。横位沈線2条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(14.2)	-	(8.5)	北-土器 6066
-	100 7	-	VN39 (P-5259)	黒褐	95	鉢	晩期2	平口縁。B突起(連続)。口唇刻目。外面:口縁形状に対応した刺突列。刺突列の下端は横位沈線に接続(横位沈線の末端は口縁突起の中心に連繫し、もう一方の末端は隣接する口縁突起に鋭角に連繫)。横位沈線2条。羊歯状文。横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)。	炭化物(内外面)	-	16.0	-	(12.2)	北-土器 6063
-	100 8	-	VO40 (P-5251)	黒褐	95	台付鉢	晩期2-3	平口縁。B突起(3単位残存)。外面:横位沈線1条。羊歯状文。横位沈線2条(体部と台部の境)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(8.5)	-	(10.5)	北-土器 6067
-	100 9	-	VN39	黒褐	95	鉢	晩期1b~ 2	平口縁。B突起(3単位残存)。外面:横位沈線2条。沈線文。刺突。文様帯地文なし。	ナデ	-	胎土砂雜多い。 焼成不良	(24.0)	-	(3.8)	北-土器 6120
19	100 10	ㄗㄏㄏ	VN38 (P-5243554)	黒褐	95	台付鉢	晩期1b	平口縁。口唇面取なし。外面2条の沈線間に連続する入組三又文。沈線文。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。ナデ(台部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(13.8)	6.8	14.4	北-土器 5245
-	100 11	-	VO41	黒褐	95	鉢	晩期1bか	小波状口縁。二山突起推定1単位。口唇面取なし。外面:沈線文。突起(口縁突起下)。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(21.0)	-	(6.0)	北-土器 6289
-	100 12	-	VQ41	黒褐	95	鉢	晩期1a	平口縁。台形突起(1単位残存、頂部刻目1本)。口唇外削ぎ状。外面:沈線文。三又文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	(19.0)	-	(10.0)	北-土器 6482
-	100 13	-	VN39 (P-5275)	黒褐	95	台付鉢	晩期前葉	外面:横位沈線1条。縄文LR(体部)。ナデ(台部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(7.0)	-	(9.7)	北-土器 5102
-	100 14	-	VN39	黒褐	95	鉢	後期8	小波状口縁。口唇面取(平里)。外面:沈線文。挟りによる三又文。磨消縄文LR。ナデ(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	-	(11.2)	北-土器 5568
-	100 15	ㄗㄏㄏ	VN37	黒褐	95	鉢	後期7-4	平口縁。口唇面取(内削ぎ状)。外面:沈線間に刻目列3条。横位沈線1条。文様帯地文なし。	ナデ	-	-	(22.0)	-	(4.5)	北-土器 6140
-	100 16	-	VN40	黒褐	95	鉢	晩期	小波状口縁。口唇面取なし。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(20.4)	-	(8.7)	北-土器 6255
-	100 17	ㄗㄏㄏ	VN37	黒褐	95	台	晩期前葉	台部:ナデ。	ナデ	-	-	-	(8.0)	(2.9)	北-土器 6137
-	100 18	-	VM40 (P-5220)	黒褐	95	台	晩期前葉	台部:ミガキ。	ナデ	-	-	-	(8.4)	(3.5)	北-土器 6072
-	100 19	-	VO42	黒褐	95	皿	晩期3	裝飾的な口縁。外面。横位沈線2条(1条目の沈線は口縁形状に対応して棘状に分枝)。彫去による雲形文。横位沈線1条。磨消縄文LR。底部凹底。円形の沈線。	ミガキ。横位沈線1条(口縁部)。	褐色膜状附着物(外面、赤彩)	-	(24.6)	(3.4)	6.4	北-土器 5524
-	100 20	-	VP40 (P-5268)	黒褐	95	浅鉢	晩期3	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇刻目。外面:刻目列1条。横位沈線3条。彫去による雲形文。沈線文。横位沈線2条。底部に2重圈線をナデ消した痕あり(その上に縄文施文)。磨消縄文LR。底部凹底(周囲に沈線1周)。	ナデ。突起内側に隆帯剥離痕	-	(35.4)	5.0	9.0	北-土器 6073	
-	100 21	-	VO39	黒褐	95	浅鉢	晩期3	平口縁。突起1単位(2間一組か)。口唇面取なし。外面2条の沈線間に彫去による雲形文。文様帯地文なし。器面磨滅。底部丸底。	磨滅	-	-	23.4	丸底	7.6	北-土器 5390
-	101 1	-	VO42 (P-5436)	黒褐	95	浅鉢	晩期3	外面:沈線による雲形文。磨消縄文LR。底部丸底。	ナデ	黒色物質附着物(外面)	-	-	丸底	(3.0)	北-土器 5398
-	101 2	-	VP42	黒褐	95	浅鉢	晩期3	平口縁。連続するB突起。外面:横位沈線2条。沈線による雲形文。横位沈線1条。磨消縄文LR。ミガキ(体部下半)。	ミガキ。沈線(突起内側)。沈線1条(口縁部)。	-	-	(25.6)	-	(6.2)	北-土器 6323

表4 土器観察表 (37)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	101	3	-	VN40	黒褐	95	浅鉢	晩期2-3	平口縁。B突起推定1単位(5個一組)。口唇面取なし。外面:横位沈線1条(上位2条の沈線に上下交互に7から10個一組の刺突列)。突起1箇所(口縁突起中心に対応)。横位沈線3条(底部と平口縁の境)。縄文LR(体部)。	ナデ。口縁突起内側に隆帯、突起	-	-	(168)	-	(5.3)	北-土器 6064
19	101	4	-	VO42	黒褐	95	台付皿	晩期2	平口縁。大突起1単位(頂部にB突起各1個)。小突起4単位(B突起、2個一組)。口唇面取(平坦)。刻目(口唇外側)。沈線。外面:沈線1条(口縁小突起に1分枝)。横位沈線1条。突起1単位(縦長。口縁本突起に対応)。沈線文。磨消縄文RL。底部台。台部透かし孔。三叉文。交互に3単位か。地文なし。端部は沈線で区画された縄文帯。	ミガキ	平面満形	-	186	7.8	北-土器 5273	
19	101	5	-	VO38 (P-5382B)	黒褐	95	皿	晩期2	平口縁。口唇面取(外周き状)。部分的に沈線。外面:横位沈線1条。三叉文(末端が渦を巻く)。平口縁文。横位沈線1条。沈線で区画された無文帯。沈線間に羊歯状文。横位沈線1条(底部直上)。文様帯地文なし。底部凹底(周囲に沈線文1周)。	ナデ	-	(31.1)	(5.0)	(8.1)	北-土器 6085	
19	101	6	-	VN40 (P-5220)	黒褐	95	台付浅鉢	晩期1b	平口縁。台形突起1単位(頂部刻目2本)。口唇面取。4本一組の刻目推定7単位(4単位残存(文様単位とは対応しない))。外面:沈線文(文様6単位。口縁突起下は上向き弧線。文1本と相対する二重の弧線文、他は二重の円文)。横位沈線3条(文様間を繋ぐ)。縄文地縄文(LR)。ミガキ(体部)。底部台。	ミガキ	-	238	-	-	北-土器 5152	
-	101	7	セパット	VO38	黒褐	95	壺	晩期3	平口縁。B突起推定1単位(1単位残存。2個一組)。口唇面取なし。外面:横位沈線2条。ミガキ。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(128)	-	(2.5)	北-土器 6472
-	101	8	-	VP42	黒褐	95	壺	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面:ミガキ。	ナデ。沈線1条(口縁部)	赤彩(外面、内面は口縁から頸部のみ)	-	(5.0)	-	(6.9)	北-土器 6069
-	101	9	-	VP42	黒褐	95	壺	晩期3	外面:隆帯2条(頸部と体部の境)。突起1箇所(横位のB字状)。ミガキ。底部凹底。	ナデ	赤彩(外面、内面は口縁から頸部のみ)	塗膜分析No1	-	4.5	(10.4)	北-土器 6070
-	101	10	セパット	VN37	黒褐	95	壺か	晩期2	外面(頸部)ミガキ(上半)。羊歯状文(下半)。外面(体部):沈線間に刻目1条。横位沈線1条。刻目列(刻目上端を横位沈線で繋ぐ(8から9個一組))。体部屈曲に裝飾的な突起(横位のB字状。2個一組、5単位か)。横位沈線1条。終りによる三叉文。沈線文。	ナデ	赤彩(外面、内面頸部の)	-	-	(6.7)	北-土器 5569	
-	101	11	-	VN40	黒褐	95	壺	晩期2	外面:羊歯状文。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部下半から底部)。底部:平底。	ナデ	炭化物(外面)	-	6.0	(10.0)	北-土器 5503	
-	101	12	-	VO42 (P-5435)	黒褐	95	壺	晩期2-3	口唇形状不明。外面:ミガキ。底部凹底。	ナデ	-	-	(58)	(6.4)	北-土器 5397	
-	101	13	-	VN38 (P-5252)	黒褐	95	壺	晩期前葉	外面:ミガキ。底部凹底。	ナデ	赤彩(外面、内面口縁部のみ)	-	3.5	(11.0)	北-土器 5100	
-	101	14	-	VP40 (P-5235)	黒褐	95	壺	晩期前葉 ~中葉	平口縁。口唇面取なし。外面:ナデ、ケズリ。底部:平底。	ナデ	-	-	(50)	5.0	14.1	北-土器 5051
-	101	15	-	VQ41 (P-5406)	黒褐	95	壺	晩期1b~3	外面:横位沈線1条(頸部と体部の境)。縄文LR。底部:低平な高台。	ナデ	赤彩(外面、内面口縁部のみ)	-	6.4	(12.6)	北-土器 5034	
19	102	1	-	VO38 (P-5278)	黒褐	95	注口	晩期3	外面:横位沈線2条。沈線文(彫去による沈線文)。注口周囲に隆帯(隆帯上に縦位のB字状突起)。彫去による雲形文。横位沈線2条。磨消縄文LR。ミガキ(頸部)。底部:平底。沈線1条。注口:端部肥厚。基部に隆帯(隆帯上に縦位のB字状突起4単位。2単位欠損)。	ナデ	-	-	5.5	9.7	北-土器 6576	
-	102	2	-	VO39	黒褐	95	注口	晩期2	外面:刺突列(頸部と体部の境。4から6個一組。5単位)。沈線文。刺突列(5から6個一組。5単位)。沈線で区画された無文帯。沈線文(体部屈曲部)。横位沈線1条(注口下で途切れる)。文様帯地文なし。ナデ(体部下半から底部)。底部:丸底。	ナデ	-	-	丸底	(6.7)	北-土器 5747	
19	102	3	-	VO42 (P-5490)	黒褐	95	注口	晩期2	外面:羊歯状文(粗雑)。横位沈線1条(注口下で渦を巻く)。文様帯地文なし。ミガキ。底部:丸底。	ナデ	-	-	丸底	(6.2)	50.23	北-土器 5023
19	102	4	-	VN38 (P-5247)	黒褐	95	注口	晩期2	平口縁。B突起1単位(2個一組、注口部に対応して配置)。口唇面取なし。外面:入組三叉文(口縁部。変形的)。羊歯状文(体部)。横位沈線1条(注口下部で入組三叉文となる)。文様帯地文なし。ミガキ(体部下半から底部)。注口:先端肥厚。底部:丸底。	ナデ	-	4.4	丸底	6.7	北-土器 5009	
19	102	5	-	VN39	黒褐	95	注口	晩期1a	外面(頸部):入組文。入組文の突端は三叉文。外面(体部):沈線文。沈線による三叉文。磨消縄文LR。ミガキ(体部下半)。注口:基部に彫らみ(二袋状、上面に三叉文)。	ナデ	-	-	-	(14.3)	北-土器 6249	
-	102	6	-	VO38 (P-5358)	黒褐	95	注口	晩期1a	平口縁。口唇面取なし。外面:沈線文。横位沈線1条。磨消縄文LR。ナデ(口縁部、体部下半)。	ナデ	-	(78)	-	(10.3)	北-土器 6087	

表4 土器観察表 (38)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	102	7	ㄗ9	VM37	捨9	96	台付鉢 か	晩期5	平口縁。二山突起(1単位残存)。口唇:面取(平用)。外面:横位沈線6条(3条目に突起1個、4-6条目に縦位の短沈線)。沈線文(弧線文3条)。縄文地施文(LR)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	-	(14.0)	-	(4.8)	北-土器 5540
-	102	8	ㄗ9	VM37	捨9	96	鉢	晩期1b	平口縁。連続する突起(三山突起1単位/突起2単位)。外面:沈線文(口縁突起に対応する上向きの弧線文)。刺突列1条(刺突は横位沈線に接線)。横位沈線1条。沈線間に刺突列1条。横位沈線1条。入組三又文。沈線間に刺突列1条。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(19.4)	(7.9)	北-土器 5541	
-	102	9	ㄗ9	VM37	捨9	96	台付鉢 か	晩期	外面:細文LR(体部)。ナデ(底部、台部)。右部:横位沈線1条(部分的に2条、ナデ消されている部分あり)。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	7.6	北-土器 5359	
19	102	10	ㄗ9	VM37 (P-5289)	捨9	96	台	晩期5	外面:ミガキ。底部:台。台部:横位沈線、穿孔8単位(孔の部分に工字文)。	ナデ。底面に沈線(円形)	-	胎土:シルト質で精良	11.6	7.5	5.0	北-土器 5140
19	102	11	ㄗ9 ㄗ9 ㄗ9	VM37 VM37 VL37	捨9 捨8 捨6	96 12 17	壺	晩期5か	平口縁。口唇:沈線。外側肥厚。外面:工字文、変形工字文(沈線1条併う)。横位沈線。磨消縄文LR。細文LR(体部下半)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)。ナデ(体部)	-	「VK37 P1層 振数43の上層」 「VJ36 10-2層」 で同一個体 出土	(13.8)	(7.0)	(19.6)	北-土器 5173
19	102	12	ㄗ9	VM37 (P-5484)	捨9	96	壺	晩期4-5	平口縁。突起6単位(2個一組)。口唇:面取なし。外側肥厚。外面:肥厚部に横位沈線2条(下の沈線に突起(頂部刻目1本)6単位、口縁突起間に配置。下の沈線は口縁突起の片側に向かって分枝)。文様帯地文なし。ミガキ。	沈線2条(口縁部)。上の赤彩は片側に口縁突起に向かつて分枝	口縁内外面および頸部境界に帯状の赤彩残存。外面全面に黒色膜状付着物が認められることから、彩文の可能性あり	-	11.2	-	(7.8)	北-土器 5226
-	102	13	ㄗ9	VM37 (P-5483)	捨9	96	壺	晩期4-5	外面2条の沈線間に連繋入組文。横位沈線2条(底部直上)。文様帯地文なし。ミガキ(体部下半、底部)。底部凹底。	ナデ	赤彩(外面)	聖山1式か	-	4.4	(7.3)	北-土器 5285
-	102	14	-	VM35	捨10相当	103以下相当	浅鉢か	晩期4-5	平口縁。口唇:面取なし。外面:環状沈線(低平、肩部に1条)。ナデ(口縁部)。細文LR(体部)。	ナデ	赤彩(内面、外面)口縁部のみ残存。塗り分けの可能性あり	-	(13.8)	(3.5)	北-土器 5670	
-	102	15	ㄗ9	VM37	捨10下層 捨7相当	103以下相当	鉢か	晩期4	平口縁。口唇:刻目。外面:横位沈線3条。沈線文。突起(刺突)。文様帯地文なし(口縁部)。磨消縄文LR(体部)。	ミガキ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	VJ写74-17と同 一個体	(18.8)	-	(4.5)	北-土器 5891
-	102	16	ㄗ9	VM37	捨10	103以下	鉢	晩期4	平口縁。突起(1単位残存)。外面:横位沈線3条(口縁突起部分でせり上がり途切れる)。突起(2個一組。1単位残存。口縁突起に対応。突起間と突起間に横位の短沈線)。文様帯地文なし。細文LR(体部)。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	胎土:小礫多く、 調整粗雑	(23.0)	-	(6.5)	北-土器 6277
-	102	17	-	VL37	捨10相当	103以下相当	鉢	晩期1bか	平口縁。口唇:刻目。外面:沈線で区画された無文帯。細文LR。	ナデ。口縁刻目時の粘土の段残存	炭化物(内外面)	-	(22.2)	(6.0)	北-土器 5720	
-	102	18	-	VK37	捨10相当	103以下相当	鉢	晩期1b	平口縁。口唇:面取なし。外面:横位沈線2条。入組文。沈線文。横位沈線3条。文様帯地文なし。細文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(11.0)	(11.0)	北-土器 5619	
-	102	19	-	VL36	捨10相当	103以下相当	鉢か	後期7-4	平口縁。一山突起(1単位残存、肥厚)。口唇:面取なし。外面:下向きの弧状の沈線間に刻目列(口縁突起)。刻目列1条。横位沈線2条。刻目列1条。貼輪(円形)。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(16.0)	(3.5)	北-土器 5655	
-	102	20	-	VL37	捨10相当	103以下相当	不明	後期後葉 か	外面:沈線と隆帯で人面を表現。2単位残存。	摩滅	-	-	-	(5.5)	北-土器 6484	
-	102	21	ㄗ9	VL37	捨10黄縄	103	深鉢	中期	外面:ナデ(底部)。底部:平底。	ナデ	-	-	-	9.0	(2.5)	北-土器 5878
-	102	22	ㄗ9	VL37	捨10(チ)	104	鉢	晩期1a~ 1b	平口縁。突起か。口唇:面取(平用)。外面:沈線文(縦位の二重の弧線)。磨消縄文LR(粗雑)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(12.0)	(4.7)	北-土器 6001	
-	102	23	ㄗ9	VL37	捨10(チ)	104	壺	晩期1b	平口縁。口唇:面取なし。外面:玉拍三又文。文様帯地文なし。ミガキ。	ミガキ(口縁部)。ナデ(体部)	赤彩(内外面)	-	8.4	(5.3)	北-土器 5688	



表4 土器観察表 (39)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
18	102	24	-	VN44 (P-5894)	東Ⅲ-2	107	浅鉢	晩期2	平口縁。B突起1単位(5個一組)。口唇部分的に面取。外面沈線間に刻目列(7から8個一組、6単位、刻目列の単位に対応して下の沈線途切れる)。横位沈線2条。突起1単位(縦位のB字状)。文様帯地文なし。ミガキ。底部凹底。張り出し状の胸(4単位。1単位のみ内面押庄)。	ミガキ	赤彩(内外面)		(14.4)	5.7	6.4	北-土器 5220
-	103	1	-	VO39	㇗418層	109	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取(平坦)。外面沈線間に刻目列(刻目は数個一組、刻目の単位に対応して下位沈線が途切れる)。横位沈線2条。彫去による雲形文。磨消縄文LR(組織)。	ミガキ	-		(16.6)	-	(3.0)	北-土器 6003
-	103	2	-	VO39	㇗418層	109	鉢	晩期2	平口縁。B突起(連続)。外面横位沈線1条(末端は口唇突起に連繋、沈線の上に2から3個一組の刻目)。沈線間に羊歯状文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)		(11.6)	-	(4.1)	北-土器 6113
-	103	3	-	VF39	㇗418層	109	鉢	晩期2	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇面取(平坦)。外面2条の沈線間に沈線文(羊歯状文)か。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)		(20.0)	-	(4.6)	北-土器 5882
-	103	4	-	VO39 VO39 VN39 VO40	㇗418層 ㇗418層 ㇗418層 ㇗418層 黒縄	109 63 10 95	皿	晩期2	平口縁。三山突起推定1単位(1単位残存。三山突起の脇に小突起)。口唇面取なし。外面(口唇部)短沈線(口唇突起下、横位)。2条の沈線間に羊歯状文。外面沈線間に羊歯状文。底部平底。	ミガキ。隆帯(突起内側)	-		(26.0)	(15.2)	7.3	北-土器 5563
-	103	5	-	VO39	㇗418層	109	鉢	晩期2	外波状口縁(浅い押庄)。口唇面取なし。外面沈線間に刻目列3条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)		(17.4)	-	(6.6)	北-土器 5983
-	103	6	㇗11	VM39	SN-h	109	鉢か	晩期2	平口縁。突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面沈線間に短沈線2条。横位沈線1条。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)		(19.0)	-	(5.2)	北-土器 6308
18	103	7	㇗11	VM39 (P-5534)	SN-h	109	浅鉢	晩期1b	平口縁。突起1単位(2個一組のB突起の面側に小さいB突起各1個)。口唇面取(外側が口唇面横位沈線1条(口唇突起に引っかけて分枝。横位に連続する三叉文(部分的に両端が三叉状となり、入組三叉文となる)。横位沈線2条(上の沈線に上向きに棘状の折り)。文様帯地文なし。ミガキ。底部平底。	ミガキ。口唇B突起内側に隆帯	赤彩(内外面とも口縁部のみ)		(25.6)	(9.4)	(9.3)	北-土器 5238
-	103	8	㇗11	VM40	f	109	壺	晩期1b	外面沈線文。文様帯地文なし。縄文LR(体部下半)。	ナデ	-		-	-	(6.3)	北-土器 6059
-	103	9	-	VL41	捨下	112	付浅鉢	晩期1a~1b	平口縁。B突起推定4単位(2単位残存)。口唇面取(平坦)。外面ナデ。	ナデ	炭化物(内外面)		(14.6)	-	(6.7)	北-土器 5346
-	103	10	-	VL41 VL40	捨下 IV	112 129	壺/注口	晩期1a	外面突起4単位。横位沈線2条(上の沈線は突起を上下に分断)。沈線5単位(文様モチーフはすべて異なる)。磨消縄文RL。ナデ(口縁部)。	ナデ	-		-	-	(10.7)	北-土器 5347
-	103	11	-	VL41 (P-10159)	捨下	112	注口	晩期1b	平口縁。突起1単位(欠損)。口唇部分的に面取(平坦)。外面沈線で区画された縄文帯(口縁部、LR)。ミガキ。注口基部に粘着(2個)。底部丸底。	ミガキ	黒色膜状付着物(漆か。内外面)。内面は注口より右側のみに付着		(9.7)	丸底	15.3	北-土器 5066
-	103	12	-	VL41 (P-10178)	捨下	112	注口	晩期1a	平口縁。口唇面取(外側が口唇面)。	ナデ	-		(9.8)	丸底	(9.8)	北-土器 5077
-	103	13	-	VL41 (P-10170)	捨下	112	注口	後期後葉	平口縁。口唇面取なし。外面、ミガキ。注口基部に粘着(2個)。底部高台。	ナデ	-		(6.0)	1.8	(12.0)	北-土器 5076
18	103	14	-	VL41	炭c	116~118	深鉢	後期後葉 晩期前葉	平口縁。口唇面取(平坦)。外面ナデ。底部高台。	ナデ	炭化物(内外面)		10.3	4.2	10.5	北-土器 5278
-	103	15	-	VL40	炭c層	116~118	鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線4条(3条目の沈線は突起部分でV字状となる。4条目の沈線は突起部分で途切れる)。突起(2個一組)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)		(13.8)	-	(9.4)	北-土器 6156
-	103	16	-	VL40	炭c層	116~118	深鉢	晩期1b	小波状口縁。台形突起(1単位残存。頂部刻目2本)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った連繋する弧線文)。三叉文(沈線)。口唇波頂部に対応するが口唇突起下では単位が乱れる)。沈線間に短沈線列1条。縄文地施文(LR)。短沈線列部分は雑な磨消。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)		(25.4)	(7.6)	北-土器 5448	
-	103	17	-	VL41	炭c	116~118	鉢か	晩期1b	平口縁。口唇面取(平坦)。外面沈線で区画された無文帯。縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)		(17.6)	-	(9.7)	北-土器 5260
-	103	18	-	VL40	炭c層	116~118	注口	晩期1a~1b	外面沈線文。短沈線による凹み。ミガキ。	ナデ	-	人面表現か(口部分)	-	-	(3.5)	北-土器 6465
-	103	19	㇗10	VL39	捨下層	121	片口鉢	晩期中葉	平口縁。片口。三山突起(2単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線2条。縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)		(27.8)	-	(8.3)	北-土器 5985

表4 土器観察表 (40)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	103	20	㇗710	VL39	捨X下層	121	浅鉢	晩期3	裝飾的な口縁。口唇・内側肥厚部。刻目(肥厚部)。外面彫去による雲形文。磨消縄文LR。 外面縄文LR。底部張り出し状の脚3単位(内面押圧)。	ミガキ	褐色膜状付着物(内外面、赤彩)	-	(186)	-	(3.0)	北-土器 5612
-	103	21	㇗710	VL39	捨X下層	121	浅鉢か	晩期前葉 ~早葉	外面縄文LR。底部張り出し状の脚3単位(内面押圧)。	ミガキ	-	-	-	丸底	(2.9)	北-土器 5975
-	103	22	㇗710	VK39	捨X	120	浅鉢	晩期2	平口縁。口唇面取(平坦)。外面溝位沈線2条。羊歯状文。横位沈線3条。沈線文。文様帯地文なし。	ミガキ	赤彩(内外面)	胎土雲母含む	(20.2)	-	(3.3)	北-土器 5840
20	103	23	㇗710	VK39 (P-10076)	捨U上	122	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取(内割ぎ状)。外面沈線間に刻目列(刻目列8単位)。横位沈線2条。彫去による雲形文。横位沈線3条。磨消縄文LR。ナデ(底部)。底部凹底。	ミガキ	褐色膜状付着物(赤彩か。内外面に若干残存)	-	18.5	5.4	7.8	北-土器 5183
-	104	1	-	VJ40	捨U	122-125	深鉢	晩期5	平口縁。B突起1単位残存。口唇面取(内割ぎ状)。外面横位沈線5条(3条目に突起1個残存)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(22.0)	-	(5.6)	北-土器 5597
-	104	2	-	VK40 (P-5955)	捨U	122-125	深鉢	後期前葉 ~晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ、ミガキ	炭化物(内外面)	-	(34.0)	-	(33.5)	北-土器 5241
-	104	3	-	VL40	捨U	122-125	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面沈線文(上向き)の弧線文と三又文が交互に連続。口縁形状に対応。横位沈線4条(沈線間に逆C字状の沈線1箇所)。縄文地施文(LR)。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	21.4	-	(11.0)	北-土器 5178
-	104	4	-	VK40	捨U	122-125	深鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面沈線文(横位)に連続する渦巻文。渦巻文の中心に刺突。渦巻文の下に横位に連続する上向きの弧線文。沈線間に短沈線1条。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(外面)	「VL40 V炭層 振替89-125」で 同一個体出土	(13.4)	-	(9.7)	北-土器 5594
-	104	5	-	VL41	捨U	122-125	鉢か	晩期1b	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に沈線文。三又文(挟り)、沈線。横位沈線1条。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ナデ	-	-	-	(4.3)	北-土器 5578	
-	104	6	セク10	VL41 VL39	捨U 捨J	122-125 89	鉢	晩期1a~ 1b	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に沈線文。三又文(挟り)、沈線。横位沈線1条。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ミガキ	-	-	(19.4)	丸底	12.0	北-土器 5599
-	104	7	-	VJ40	捨U	122-125	鉢	晩期8~ 1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面沈線間に短沈線1条。入組文。沈線間に短沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	20.4	-	(10.1)	北-土器 5189
-	104	8	-	VJ40 (P-5691)	捨U	122-125	鉢	晩期1a	平口縁。三山突起(1単位残存)。外面沈線文(横位)に連続する上向きの弧線文。沈線間に入組文。入組文の空所に沈線による三又文。磨消縄文LR。ナデ(体部)。器面調整粗粒。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(12.4)	-	(9.3)	北-土器 5420
-	104	9	-	VJ40	捨U	122-125	台付鉢	晩期1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面沈線間に短沈線1条。三又文(挟り)、入組文に接続。磨消縄文LR。ナデ(体部から台部)。底部台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	7.3	(8.5)	北-土器 5418
-	104	10	-	VK40	捨U	122-125	鉢	晩期1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面入組文推定6単位。横位沈線1条。磨消縄文LR。ミガキ(体部)。	ナデ、ミガキ	炭化物(内外面)	-	18.3	14.0	5177	
20	104	11	-	VK40 (P-5942)	捨U	122-125	台付鉢	晩期1a	平口縁。一山突起(10単位(間隔不定)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った連続した上向きの弧線文)。横位沈線1条。入組文5単位(各単位の長さは一定しない。入組文の描出が下手で下書きや削りつけをせず施文していると考えられる。突起位置と文様に対応しない)。横位沈線2条。磨消縄文LR。縄文LR(体部上半)。ナデ(体部下半から台部)。底部台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	20.0	8.6	20.7	北-土器 5246
20	104	12	-	VJ40 (P-5812- 1)	捨U	122-125	台付鉢	晩期1a	平口縁。突起10単位(車線)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(波頂部を繋ぐ上向きの弧線文、波頂部に対応して横位短沈線と十字状交互)。横位沈線1条。入組文4単位(1単位ずつまじり、入組文内に縦位沈線)。沈線による三又文(入組文に接続)。横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	貫通孔2個1対。 胎土小粒多い	21.4	9.2	21.6	北-土器 5148	
20	104	13	-	VJ40 (P-5815)	捨U	122-125	台付鉢	晩期1a	平口縁。台形突起10単位(車線)。突起の間隔不定。口唇面取なし。外面沈線文(口縁形状に沿った上向きの弧線文)。三又文(挟り)、口縁突起に対応して配置。沈線文(3単位、長方形)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	13.5	7.0	10.9	北-土器 5137
-	104	14	-	VL41 (P-10142)	捨U	122-125	鉢	後期8	平口縁。突起推定10単位(3単位残存、台形突起、頂部突起)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った上向きの弧線文)。横位沈線1条。入組文。横位沈線2条。磨消縄文LR。ナデ(体部、部分的に縄文LR)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(22.5)	-	(16.5)	北-土器 5237
-	104	15	-	VK40 (P-5598)	捨U	122-125	台付鉢 か	晩期1a	平口縁。突起(3単位残存、2種頭交互(台形突起、頂部突起)3本/一山突起、頂部刻目1本)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った連続した上向きの弧線文)。その下に一山突起を繋ぐ上向きの弧線文。描き直し痕残存)。入組文。三又文(挟り)、入組文に接続。横位沈線1条。粗粒な磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(23.4)	-	(20.7)	北-土器 5216
-	104	16	-	VJ40 VK40	捨U	122-125	鉢	後期8	平口縁。口唇面取(連続)。一山突起(連続)。外面沈線文(口縁形状に沿った連続する上向きの弧線文)。2条の沈線間に入組文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	21.0	(9.1)	北-土器 5401	

表4 土器観察表 (41)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリップ (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	104	17	-	VL40	捨U	122-125	鉢	後期8	平口縁。台形突起(頂部刻目)。口唇面取(平坦)。外面:沈線文(口縁形状に沿った連続した横位の弧線文(二重))。入組文(沈線文(粗線))。文様帯地文なし。	ナデ(調整粗)	炭化物(内外)	-	(16.2)	-	(7.0)	北-土器 5477
-	105	1	-	VJ40	捨U	122-125	鉢	後期8	平口縁。一山突起(3単位残存、大小2種類)。口唇面取(平坦)。外面:口縁形状に沿った横位の弧線文(二重)。沈線文。磨消粗文。	ナデ	炭化物(内外)	-	(25.0)	-	(11.0)	北-土器 5431
-	105	2	-	VK40	捨U 捨W	122-125 128	鉢	後期8	平口縁。台形突起(2単位残存)。突起文様2種類(突起形状に沿った弧線文と、沈線による円文の中心に穿孔(沈線間の粗沈線列が突起部を連繫。その下に竹筥状刻突)。口唇面取(平坦)。外面:入組文。入組文の空隙に挟りによる三叉文。沈線間に短沈線列1条。磨消粗文。L。R。	ナデ	炭化物(内外)	(43.4)	-	(13.0)	北-土器 5290	
-	105	3	-	VK40 (P-5814)	捨U	122-125	鉢	後期7-4	平口縁。大小の台形突起(2単位残存、頂部刻目)。口唇面取。外面:口縁形状に沿った刻目列と沈線各1条。口縁突起下に貼附。沈線間に刻目列1条。入組文(彫去状)。沈線間に刻目列2条(下の1条に貼附2箇一組)。磨消粗文。L。R。ナデ(底部)。	ミガキ	炭化物(内外)	(24.0)	-	(19.2)	北-土器 5219	
20	105	4	-	VL40	捨U	122-125	鉢	後期後葉 晩期前葉	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:ケズリ後細文。L。R。底部:低平な高台。	ナデ	炭化物(内外)	-	(15.5)	(6.8)	北-土器 5217	
-	105	5	-	VL40 (P-5814) VK40	捨U 捨W	122-125 128	台付鉢 か	後期後葉	外面:ナデ(台部)。底部:台。	ナデ	-	焼成不良、高台 剥離	-	8.9	(2.6)	北-土器 6058
-	105	6	-	VK40	捨U	122-125	鉢	晩期前葉	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:ナデ。底部:丸底。	ナデ	-	-	(11.0)	丸底	北-土器 5545	
-	105	7	-	VK40	捨U 捨V上層	122-125 80	浅鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面:沈線文(渦巻文。端部が口縁波底部に連繫。口縁波頂部に対応して配置)。三叉文(沈線。口縁波底部に対応して配置)。横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ。底部:丸底。	ミガキ	-	(16.0)	丸底	7.0	北-土器 5446	
-	105	8	-	VJ40 (P-5692)	捨U	122-125	鉢	晩期	平口縁。口唇部分的に面取(平坦)。外面:細文。L。R。底部:丸底。	ナデ	-	貫通孔個	13.4	丸底	7.5	北-土器 5288
-	105	9	-	VK40	捨U	122-125	台	後期後葉 か	外面:ナデ(台部)。	ナデ	-	-	-	7.2	(5.2)	北-土器 6571
-	105	10	-	VK40 (P-5712)	捨U	122-125	壺	晩期2-3	外面:ナデ。底部:丸底(中心にくぼみ)。	ナデ	炭化物(外面)	-	-	2.4	(4.8)	北-土器 5375
-	105	11	-	VJ40	捨U	122-125	壺	晩期	外面:ナデ。底部:平底。	ナデ	-	胎土軟質、小 礫多い、	-	4.0	(5.5)	北-土器 5585
-	105	12	-	VK40	捨U	122-125	壺小	晩期前半 か	外面:細文。L。R。底部:平底。	ナデ	-	底面からの立ち 上がり丸みを帯 びる	-	8.0	(7.0)	北-土器 5382
-	105	13	-	VK40	捨U	122-125	壺	晩期前葉	平口縁。口唇面取なし。外面:横位沈線(頸部と体部の境)。ミガキ(口縁部)。細文。L。R(体部)。	ナデ	赤彩(外面、 口縁内側のみ、 内面体部上端 に赤色顔料付 着、外面およ び口縁内面の 赤彩より彩や かに発色)	-	(7.4)	-	北-土器 5596	
-	105	14	-	VK40 (P-5895)	捨U	122-125	注口	晩期1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:ミガキ。注口基部に膨らみ(二袋状)。底部:丸底。	ナデ	-	-	7.0	丸底	10.5	北-土器 5036
-	105	15	-	VJ40	捨U	122-125	注口か	後期後葉	平口縁。二山状台形突起5単位(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面:突起5単位(口縁部。突起4箇所残存(横位に貫通孔)。ミガキ。底部:高台)。	ミガキ	-	-	13.2	-	(5.7)	北-土器 5600
20	105	16	-	VL41 (P-10141)	捨U	122-125	壺	晩期1a~ 1b	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線各1条(頸部と体部の境、底部と台部の境)。突起4箇所残存(横位に貫通孔)。ミガキ。底部:高台。	ナデ	赤色脈状付着 物(外面:被熱 部分にのみ残 存。内面:口縁 部のみ)。黒 色~褐色脈状 付着物(内面 体部~底部)	内外面とも片側 のみに被熱痕。 横倒しの状態で 被熱したもの と推定される。	4.5	5.9	12.5	北-土器 5033
-	105	17	-	VK40 (P-5931)	捨U	122-125	注口	後期7-4	外面:沈線文。貼附(縦に2から3個一組6単位、そのうち3単位は頂部に削突)。磨消粗文。L。R。ミガキ(体部から底部)。注口:先端に沈線と細文。底部:高台(欠損、欠損部にアスファルト状の黒色付着物)。	ナデ	-	-	-	-	(13.6)	北-土器 5039

表4 土器観察表 (42)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリップ (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	105	18	-	VK40	捨U	122・125	香炉	後期後葉	外面貼瘤(貼瘤上に縄文RL)。沈線文、刻目。透かし孔。磨消縄文RL。	ナデ	-	-	-	(4.4)	北-土器 5589	
20	105	19	-	VK40	捨U,W	122・125・128	鉢	後期8～ 晩期1a	平口縁。一山突起(溝縁、頂部刻目1本)。口唇面取(平坦)。外面2条の沈線間に入組文。文 様粗雑。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(17.1)	(9.7)	北-土器 5164	
-	105	20	-	VL40	捨下	124	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面横位沈線1条。縄文地施文。縄文RL。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外 面)	-	(19.2)	(8.5)	北-土器 5536	
-	105	21	-	VL40	捨下	124	鉢	晩期1a	平口縁。一山突起(9単位残存)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線1条。入組文5単位。 三又文(供り、入組文に接続)。沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ミガキ	炭化物(内外 面)	-	17.5	(9.6)	北-土器 5144	
-	105	22	-	VL40 (P- 10165)	捨下	124	浅鉢	晩期1a～ 1b	小波状口縁。突起推定1単位(欠損)。口唇面取なし。外面沈線間に入組文。磨消縄文LR。ミ ガキ(口縁部、底部)。底部凹底(中央凸部に膨らむ)。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	16.2	6.2	北-土器 5561	
-	105	23	-	VL40 (P- 10166)	捨下	124	注口	晩期1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面ミガキ。注口先端肥厚。底部丸底。	ナデ	黒色付着物 (内面)	-	6.2	丸底	9.3	北-土器 5075
20	106	1	-	VL40	捨V炭下 捨V下	125 82	深鉢	晩期1b～ 2	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面沈線で区画された無文帯。縄文LR。底部高台。	ミガキ	炭化物(内外 面)	-	17.6	-	(14.1)	北-土器 5171
-	106	2	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	深鉢	後期8	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線1条。入組文。入組文の空隙に沈線による三又文。横位沈 線2条。磨消縄文RL。ナデ(体部下半から底部)。底部高台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(11.6)	5.6	12.3	北-土器 5159
-	106	3	ㄗ710	VK39 (P- 10121)	捨下	125	深鉢	後期8	平口縁。台形突起(1単位残存、頂部押圧)。口唇面取(平坦)。外面横位沈線1条。入組文。 沈線による三又文(入組文に接続)。沈線で区画された縄文帯。磨消縄文LR。ナデ(体部)。 底部高台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(23.0)	7.7	-	北-土器 5214
-	106	4	ㄗ710	VL39 (P- 10161)	捨V炭下	125	深鉢	後期7-4	波状口縁(2単位残存)。口唇面取(平坦)。外面口縁形状に沿った刻目列と沈線各1条。入組 文(口縁形状に対応)。沈線間に刻目列1条。磨消縄文LR。ミガキ(体部から底部)。被熱によ り器面荒れている。底部高台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(12.0)	6.3	14.3	北-土器 5205
-	106	5	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	深鉢	晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面ミガキ。底部平底(やや凸状)。	ナデ	-	-	(13.0)	7.4	5.2	北-土器 5936
-	106	6	ㄗ710	VK39	捨下	125	深鉢	後期後葉 ～晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ	-	-	(28.0)	-	(13.4)	北-土器 5304
-	106	7	-	VL40	捨V炭下	125	深鉢	後期後葉 ～晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外 面)	-	20.5	-	(8.9)	北-土器 5202
-	106	8	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	深鉢	後期後葉 ～晩期	外面横位沈線1条。底部高台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	-	6.3	(8.1)	北-土器 5927
-	106	9	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	深鉢	後期後葉 ～晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ、面取 時の粘土の 段残存	炭化物(外面)	-	(28.6)	-	(7.4)	北-土器 5343
-	106	10	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	深鉢	後期後葉 ～晩期	平口縁。口唇面取(平坦)。外面縄文LR。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外 面)	-	31.0	-	(19.8)	北-土器 5143
-	106	11	-	VL40	捨V炭下	125	深鉢か	晩期1bか	外面横位沈線1条(底部直上)。縄文LR(体部)。ナデ(底部)。底部低平な高台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	5.0	(5.4)	北-土器 5543	
-	106	12	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	鉢か	晩期3	平口縁。B突起(2単位残存)。口唇刻目。外面横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文RL(体 部)。磨滅。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(内外 面)	-	(14.0)	(4.6)	北-土器 5817	
-	106	13	-	VL40	捨V炭下	125	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面沈線による三又文。沈線文(入組文)。縄文地施文。縄文 LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(16.0)	(5.5)	北-土器 5813	
-	106	14	ㄗ710	VL40	捨V炭下	125	鉢	晩期1a～ 1b	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面短沈線列1条。沈線間に沈線文(縦位の入組文、弧線文)。 横位沈線1条。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(21.4)	(9.3)	北-土器 5519	
-	106	15	-	VL40	捨V炭下	125	鉢	晩期1b	小波状口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条。沈線文(連続する上向き二重の弧線文と 下向きの弧線文)。下向きの弧線文は間隔不定。沈線間に短沈線列1条。縄文地施文。縄文LR (体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(16.0)	(7.7)	北-土器 5367	
-	106	16	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	鉢か	晩期1a	小波状口縁。口唇面取なし。外面口縁波頂部下に巴状の沈線文と弧線文交互。三又文。沈線 間に入組文(部分的に三又文)。磨消縄文LR。	ミガキ	炭化物(内外 面)	-	(21.0)	(8.5)	北-土器 5344	



表4 土器観察表 (44)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	107	17	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	鉢	後期8	平口縁。二山状台形突起。口唇面取(平坦)。外面沈線文(口縁形状に沿った上向きの弧線文。口縁突起下に「ハ」字状文が施される箇所あり)。2条の沈線間に組文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(228)	-	(11.7)	北-土器 5907
-	107	18	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	鉢	後期8~ 晩期1a	平口縁。二山状台形突起と一山突起(頂部刻目本)各1単位残存。口唇面取(外別ぎ状)。外面2条の沈線間に組文。磨消縄文LR。縄文LR(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(31.0)	(21.0)	北-土器 5388	
-	107	19	-	VL40	捨V炭下	125	鉢	晩期前葉	平口縁。台形突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面沈線文。透かし孔(口縁突起下)。縄文(磨滅)。	ナデ	-	-	-	-	-	北-土器 5805
-	107	20	-	VL40	捨V炭下	125	鉢	後期後葉	口縁形状不明。台形突起(1単位残存)。外面口縁形状に沿って刻目列。口縁突起に三叉文。沈線間に刻目列1条。	ナデ	炭化物(内外面)	-	-	-	(3.4)	北-土器 5814
-	107	21	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	鉢か	後期7-4	平口縁。口唇面取(平坦)。外面沈線間に刺突列3条。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.4)	-	(4.0)	北-土器 5912
-	107	22	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	鉢	後期後葉 ~ 晩期前葉	平口縁。口唇面取(平坦、外面に面取時の粘土の段あり)。外面縄文LR。底部高台。	ナデ	炭化物(内外面)	-	11.5	7.8	10.6	北-土器 5153
-	107	23	-	VL40	捨V炭下	125	台付鉢	後期後葉	平口縁。二山突起推定7単位(6単位残存)。口唇面取(平坦)。外面ミガキ(口縁部から底部)。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	(13.7)	6.7	9.3	北-土器 5172
-	107	24	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	鉢	晩期	平口縁。口唇面取なし。外面縄文LR。底部丸底。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	14.2	丸底	7.6	北-土器 5176
-	107	25	-	VL40	捨V炭下	125	鉢	晩期1b~ 2	小波状口縁。外面沈線文(人相状の弧線文。口縁形状に対応させているが部分向に対応しない)。横位に連繋する軸状の束り。沈線で区画された無文帯。沈線文。横位沈線2条。文様帯地文なし(口縁部)。磨消縄文LR(体部)。ナデ(底部)。	ミガキ	-	(10.4)	-	(6.6)	北-土器 5800	
-	107	26	-	VL40	捨V炭下	125	浅鉢か	晩期1b	小波状口縁か。突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(連繋する上向きの弧線文)。沈線で区画された縄文帯(縦位沈線に区画された無文部併う)。横位沈線1条。磨消縄文LR。ミガキ(体部)。	ミガキ	-	(24.0)	-	(5.5)	北-土器 5472	
-	107	27	ㄗ710	VK39	捨U下	125	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。内側肥厚。外面沈線2条。地文なし。ミガキ。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(14.2)	(3.0)	(3.4)	北-土器 5588
-	107	28	-	VL40	捨V炭下	125	浅鉢	晩期1b	小波状口縁。二山突起(1単位残存)。口唇面取(平坦)。外面沈線文(上下に相対する横位に連繋した弧線文。下の弧線文は二重)。沈線間に刻目列1条。文様帯地文なし。ミガキ(体部)。	ナデ	黒色 附着物 (内外面)	-	(15.6)	-	(5.1)	北-土器 5450
-	107	29	-	VL40	捨V炭下	125	浅鉢	晩期前葉	平口縁。口唇面取なし。外面ミガキ。	ミガキ	炭化物(内外面)	-	19.4	-	5.8	北-土器 5174
-	107	30	-	VL40	捨V炭下	125	台付皿 か	晩期1a~ 1b	小波状口縁。口唇面取(平坦)。外面ミガキ。	ミガキ	-	-	(22.8)	-	(6.0)	北-土器 5213
-	107	31	-	VL40	捨V炭下	125	浅鉢か	晩期1b	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面沈線で区画された縄文帯(LR。口縁に平行)。沈線文(上向きの弧線文)。横位沈線(端部が三叉状となり弧線文囲む)。横位沈線(口縁突起下で「ノ」の字状に垂下)。文様帯地文なし。ミガキ。	ナデ	-	(15.4)	-	(4.8)	北-土器 5520	
-	107	32	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	鉢	晩期前葉	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条(頸部と体部の境)。ナデ。	ナデ	-	(14.4)	-	(7.5)	北-土器 5897	
-	108	1	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	壺	晩期	外面横位沈線1条(頸部と体部の境)。縄文LR(体部)。	ナデ	-	-	-	(6.0)	北-土器 5341	
-	108	2	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	壺	晩期1a~ 1b	平口縁。口唇面取(平坦)。外面隆帯(隆帯上に横位沈線と縦位沈線交互。各6単位か)。ナデ(口縁部)。縄文LR(体部)。	ナデ	-	(10.0)	-	(9.0)	北-土器 5345	
-	108	3	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	壺	後期後葉 ~ 晩期	平口縁。口唇面取なし。外面ナデ。	ナデ	-	6.2	-	(4.3)	北-土器 5898	
-	108	4	-	VL40	捨V炭下	125	注口	晩期1a~ 1b	外面沈線文。把手(側面に刺突)。	ナデ	-	-	-	-	-	北-土器 5921
-	108	5	-	VL40	捨V炭下 捨V下	125 82	注口	晩期1a	外面ミガキ。注口基部に膨らみ(一袋状、上面に押圧)。	ナデ	アスファルト (注口刺突部、 注口部に充 填)	-	-	-	(10.2)	北-土器 5193
-	108	6	ㄗ710	VL39	捨V炭下	125	注口	晩期1aか	外面沈線文。磨消縄文LR。注口基部に刺突(2個)。	ナデ	-	-	-	-	-	北-土器 5925
-	108	7	ㄗ710	VK39 VK40	捨U下 捨U	125 122-125	香炉	後期後葉	波状口縁4単位。口唇部斜めに面取。外面頸部に貫通孔。4本の把手(向かい合う2本には口縁下に穿孔。他の2本には透かし孔)。ナデ。	ナデ	-	-	-	-	(4.8)	北-土器 5592

表4 土器観察表 (45)

図版	写真 図版	番号	シ ノ ト など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	108	8	-	VL41	捨V炭下	125	香炉	後期後葉 か	外面横位沈線2条。沈線文(弧線文)。貼瘤。	ナデ	炭化物(内面)	胎土砂様多い	-	-	(3.8)	北-土器 6495
20	108	9	-	VL41 VL40	捨V炭下 IV	125 129	香炉	後期後葉 か	外面・頂部に帯状のS字隆帯(両側刻目各1本。穿孔1)。沈線文。透かし孔。貼瘤。磨消縄文L.R.(体部)。	ナデ	炭化物(内面)	頂部の隆帯は断面のモチーフか	-	6.8	北-土器 6544	
-	108	10	-	VK37	捨P3下	127	深鉢	晩期1b	小波状口縁。三山突起(1単位残存)。外面2条の沈線間に入組三又文か。縄文地施文。縄文L.R.(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.0)	(11.6)	北-土器 5441	
-	108	11	724	VL38.39	捨P3下	127	深鉢か	後期後葉 (晩期前葉)	外面縄文L.R。底部平底。					(5.7)	(2.7)	北-土器 6029
-	108	12	-	VK37 VK37 VJ38	捨P3下 炭3 10	127 55 24	鉢か	後期7-3	平口縁。口唇面取(平田)。外面・沈線間に貼瘤列3条(貼瘤周囲沈線)。沈線文(格子目状)。沈線間に貼瘤列1条。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外面)	J層 振替89「VK37 P3層 振替57-62・127」で同一個体出土	(30.0)	-	(10.7)	北-土器 5828
-	108	13	-	VK39	捨P3下	127	鉢か	後期7-4	平口縁。口唇突起。頂部十字刻目。口唇面取(平田)。外面刻目列。円形の貼瘤(2個残存)。入組文。沈線間に刻目列1条(上に貼瘤)。磨消縄文L.R。ミガキ(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.6)	-	(7.3)	北-土器 6393
-	108	14	-	VK37	捨P3下	127	鉢	晩期1b	小波状口縁。B突起(2単位残存、2個一組)。外面横位沈線1条。入組三又文。横位沈線3条。文様帯地文なし。縄文L.R.(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	(18.0)	-	(7.9)	北-土器 6128
-	108	15	724	VK38.39 (P-10079)	捨P3下	127	鉢	晩期3	平口縁。B突起14単位。口唇刻目。外面横位沈線4条(上位2条の沈線に上下交互に3個一組の刺突列)。突起(肩部に1箇所、縦位のB字状)。文様帯地文なし。縄文L.R.(体部)。	ナデ、ミガキ(口縁部)	炭化物(内外面)	-	15.0	-	(7.2)	北-土器 5221
-	108	16	-	VK37	捨P3下	127	鉢	晩期3	平口縁。B突起(連続)。外面・沈線間に刻目列(刻目12から13個間隔で刻目1個をナデ消し、1単位とする。5単位)。横位沈線2条。突起(肩部に1箇所、縦位のB字状)。文様帯地文なし。縄文L.R.(体部)。	ナデ	炭化物(内外面)	-	14.0	-	7.8	北-土器 5191
21	108	17	724	VL38.39	捨P3下	127	台付鉢	晩期1a	平口縁。口唇面取(平田)。外面・沈線文(楕円文)。楕円文の空欄に上下に対向する三又状の柄。沈線間に短沈線列。縄文地施文L.R。ケズリ(体部)。底部台。台部ナデ。	ナデ	炭化物(内外面)	-	18.0	6.4	15.3	北-土器 5128
-	108	18	-	VK39	捨P3下	127	浅鉢	晩期3	平口縁。B突起1単位か(1単位残存、2個一組)。口唇面取なし。内側肥厚。外面横位沈線2条。地文なし。ミガキ。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	VJ写108-20と同一個体	(13.2)	3.4	5.0	北-土器 5528
-	108	19	724	VL38.39	捨P3下	127	浅鉢	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。地文なし。ミガキ。底部凹底。	ミガキ	赤彩(内外面)	-	(16.0)	(4.0)	6.5	北-土器 5728
-	108	20	-	VK39	捨P3下	127	浅鉢	晩期3	VJ写108-18と同一個体。							北-土器 6409
-	108	21	-	VK37	捨P3下	127	浅鉢か	後期8	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇面取(平田)。外面・沈線間で区画された縄文帯(L.R。口縁部)。隆帯1条(隆帯上に横位沈線1条。貼瘤1個残存。縄文L.R)。ミガキ。隆帯間に楕円形隆帯5単位。突起と楕円形隆帯は交互に配置。地文なし)。ナデ(口縁部)。縄文L.R.(体部から底部)。底部低平な高台。	ミガキ	炭化物(外面)	-	(22.0)	-	(7.6)	北-土器 5474
-	109	1	先行ト	VL38 VK38 VL38	捨P3 捨P3 B5-B6	127 57-62・127 34-63-89	壺	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面・沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。沈線間に刻目列2条。横位沈線1条。文様帯地文なし。ミガキ(肩部、体部から底部)。	ナデ	-	-	19.0	12.0	(50.0)	北-土器 5192
-	109	2	-	VK39	捨P3下	127	壺	晩期2か	平口縁。口唇面取なし。外面・沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。沈線間に刻目列2条。横位沈線1条。文様帯地文なし。ミガキ(肩部、体部から底部)。	ミガキ(口縁部)、ナデ(体部)	-	-	(9.0)	-	(11.4)	北-土器 6245
-	109	3	-	VL38.39	捨P3下	127	壺	晩期3	表飾的な口縁。口唇・外側肥厚。外面・沈線文。地文なし。	沈線文	赤彩(内外面)	VJ写73-22・VII写105-19と同一個体	(29.0)	-	(4.3)	北-土器 6022
-	109	4	-	VK39	捨P3下	127	壺	晩期2-3	外面磨減。底部凹底。	ナデ	-	発泡土器か	-	(4.0)	(3.4)	北-土器 6101
21	109	5	-	VK39 (P-5884)	捨P3下	127	壺	後期後葉 (晩期前葉)	平口縁。口唇面取なし。外面・沈線文L.R。ケズリ(ケズリ後縄文施文)。底部平底。	ナデ	炭化物(外面)	-	(8.4)	7.0	(18.0)	北-土器 5006
21	109	6	-	VK39 (P-5885)	捨P3下	127	注口	晩期3	平口縁。突起1単位(中心に短突起1個。両側に横長突起2個。注口に対応)。口唇内削ぎ。外面・沈線間に刻目列1条。横位沈線1条。沈線文。横位沈線1条。沈線間に刻目列1条。体部屈曲部に連続する表飾的な突起。横位沈線1条。注口下に沈線文。文様帯地文なし。ミガキ(体部下半から底部)。底部丸底。	ミガキ	-	(10.5)	丸底	7.6	北-土器 5306	
21	109	7	先行ト	VK38 (P-5572) VK37	捨P相当 地山直上 捨P3下	127 127	深鉢	晩期上層 d	平口縁。口唇・土組貼付により肥厚(肥厚部貼土組貼付)。外面・貼土組貼付4単位か。縄文地施文L.R。	ナデ	炭化物(外面)	-	20.3	-	(21.0)	北-土器 5130

表4 土器観察表 (46)

図版	写真 図版	番号	シマ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	附着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	109 8	-	-	VL37	捨P3下	127	深鉢	円筒上層 d	平口縁。二山状台形突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部粘土組貼付)。外面:口縁突起 外面:口縁突起に粘土組貼付。縄文地施文。縄文LR(体部)。	ナデ	-	-	(26.0)	-	(10.2)	北-土器 6555
-	109 9	-	-	VL37	捨P3下	127	深鉢	中期後葉	台形突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:口縁突起 粘土組貼付。縄文地施文(LR)。	ナデ	-	-	(30.0)	-	(8.1)	北-土器 6558
-	109 10	-	-	VL37	捨P3下	127	深鉢	円筒上層 e	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:口縁突起に隆帯。突起(1箇所、口縁突起に対応)。縄文LR(体部)。	ナデ。口縁 突起内側に 粘土組貼付	炭化物(外面)	-	(24.2)	-	(11.0)	北-土器 6554
-	109 11	-	-	VL37	捨P3下	127	深鉢	中期後葉	平口縁。二山状台形突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:口縁突起に隆帯。突起(1箇所、口縁突起に対応)。縄文LR(体部)。	ナデ。口縁 突起内側に 粘土組貼付	炭化物(外面)	-	(25.4)	-	(12.1)	北-土器 6548
-	109 12	-	-	VL37	捨P3下	127	深鉢	中期後葉	平口縁。二山状台形突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:口縁突起に隆帯。突起部分で張り出す。外面:縄文LR。	ナデ。粘土 組貼付	-	-	(42.8)	-	(13.4)	北-土器 6568
-	109 13	-	-	VL37	捨P3下	127	深鉢	円筒上層 e	平口縁。突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:口縁突起に粘土組貼付。縄文地施文(LR)。	ナデ。粘土 組貼付(突起 内側)	-	-	(23.8)	-	(9.4)	北-土器 6564
-	109 14	-	-	VL37	捨P3下	127	深鉢	中期後葉	平口縁。突起(1単位残存。橋状把手)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:口縁突起高側に粘土組貼付。外面:縄文LR(2条一組)。縄文地施文(LR)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(20.6)	-	(9.3)	北-土器 6549
-	109 15	-	-	VK37	捨P3下	127	深鉢	榎林	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:口縁突起高側に粘土組貼付。外面:縄文LR(2条一組)。縄文地施文(LR)。	ナデ	-	-	(39.4)	-	(11.9)	北-土器 6557
-	109 16	-	-	VK39	捨P3下	127	深鉢	榎林	平口縁。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	(33.6)	-	(8.2)	北-土器 6236
-	109 17	-	-	VK37	捨P3下	127	深鉢	榎林	VI写97-9と同一個体。	-	-	-	-	-	(6.1)	北-土器 6566
-	109 18	-	-	VL37	捨P3下	127	深鉢	中期後葉	平口縁。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内面)	-	(12.0)	-	(5.3)	北-土器 6561
-	110 1	-	-	VK40	捨W	128	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ、ミガ キ	炭化物(内外 面)	-	(36.0)	-	(38.5)	北-土器 5242
-	110 2	-	710	VK39	捨W	128	深鉢	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	(33.4)	-	(16.0)	北-土器 5741
-	110 3	-	-	VK40 (P-5975)	捨W	128	深鉢か	後期後葉 ~晩期	平口縁。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	胎土:小礫多い	(31.8)	-	(12.8)	北-土器 6380
-	110 4	-	710	VJ39	10下層	128	鉢か	晩期4	平口縁。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	炭化物(外面)	-	(18.2)	-	(3.3)	北-土器 5712
-	110 5	-	-	VJ40	10下層	128	鉢か	晩期1a~ 1b	平口縁。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	胎土:小礫多い	(30.0)	-	(9.0)	北-土器 6114
-	110 6	-	-	VK40 VK40 (P-5976)	捨W 捨U-W	128 122-125-128	鉢か	晩期1a	平口縁。台形突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	「VK40 捨U層 振替 122-125層」 で同一個体出土	24.6	-	(13.9)	北-土器 5302
-	110 7	-	-	VJ40	10下層	128	鉢	晩期1a	平口縁。突起(3単位残存。2種類交互か(頂部刻目2本の台形突起/一山突起))。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(25.6)	-	(10.2)	北-土器 5549
-	110 8	-	-	VK40	捨W	128	鉢	晩期1b	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ミガキ	炭化物(内外 面)	-	18.0	-	(16.0)	北-土器 5240
-	110 9	-	-	VK40	捨W	128	鉢	後期8~ 晩期1a	平口縁。二山状台形突起(1単位残存)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(12.0)	5.2	11.3	北-土器 5310
-	110 10	-	-	VK40	捨W	128	鉢か	後期後葉	平口縁。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(18.4)	-	(9.5)	北-土器 6238
-	110 11	-	-	VJ40	10下層	128	鉢か	晩期1bか	平口縁。一山突起(1単位残存、頂部刻目1本)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	胎土:小礫含む	(26.2)	-	(8.0)	北-土器 5867
-	110 12	-	-	VK40	捨W	128	鉢	後期8	平口縁。台形突起(1単位残存、頂部刻目2本)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部)に縄文LR。外面:縄文LR。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(25.6)	-	(15.4)	北-土器 5535



表4 土器観察表 (47)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	110	13	-	VK40	捨W	128	台付 浅鉢	後期7-4 ~晩期1a	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:ナデ。底部台。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(19.8)	7.4	9.4	北-土器 5413
-	110	14	7/10	VK39 VK39	捨W 捨P3下	128 127	浅鉢	後期8	平口縁。突起か。口唇面取なし。外面:沈線文。磨消縄文LR。底部高台。	ナデ	-	-	(11.8)	6.0	4.8	北-土器 5690
-	110	15	-	VK40	捨W	128	壺	晩期1a	外面:隆帯各1条(口縁端部と頸部)。頸部の隆帯に突起6単位(頂部縦位刻目と横位刻目交互)。横位沈線1条。沈線文(2本一組)。磨消縄文LR。ナデ(口縁部)。	ナデ、ユビ オサエ(肩 部)	炭化物(内面)	-	-	(19.0)	-	北-土器 5252
21	111	1	-	VK40 (P-5979) VK40	捨W 捨U・W	128 122・125・128	注口	晩期1a	平口縁。突起8単位(4単位残存。2種類交互(台形突起・頂部が半円状と波頭状になる二山突起。半円部分に削突)配置の面縁は不定)。口唇面取(平坦)。外面(口縁部):口縁端部隆帯貼付(口縁突起)に対応して突出。突出部を数人で三又状の抉り)。外面(体部):横位沈線2条。沈線文(2重の弧線文、上向きと下向き交互に3単位残存)。弧線文内に部分的に棘状の抉り。弧線文内に連繫する2条の斜位沈線(連繫部は三又状の抉りとなる。沈線間に2条の短沈線)。横位沈線2条。磨消縄文LR。ミガキ(口縁部)。注口先端肥厚。基部に膨らみ(二袋状)、上面に円形削突。	ミガキ(口縁 部)、ナデ (体部)、ユ ビオサエ(肩 部)	赤彩(外面口 縁部にわずか に残存)	-	16.0	-	(20.8)	北-土器 5204
-	111	2	-	VL40 (P-5986)	捨W	128	注口	後期7-4	平口縁。一山突起(1単位残存)。口唇面取なし。外面:横位沈線3条(頸部と体部の境)。ナデ。注口基部に膨らみ(一袋状)。底部高台。	ナデ	-	-	7.2	1.6	14.9	北-土器 5410
-	111	3	-	VJ40	10下層	128	香炉か	後期後葉	外面:透かし孔か。突起(頂部刻目4本)。縄文LR。	ナデ	-	-	-	-	(2.6)	北-土器 5944
-	111	4	-	VK40	捨W 捨U・W	128 122以下	深鉢	大木10	平口縁。突起推定4単位(2単位残存)。口唇面取なし。外面:沈線文。磨消縄文LR。	突起内側に 縦位の隆帯、 隆帯1条。ナ デ	-	-	(21.6)	-	(10.9)	北-土器 5160
-	111	5	7/10	VK39	捨Q	129	台付鉢 か	晩期3	平口縁。B突起(1単位残存)。口唇刻目。外面:横位沈線4条(上位2条の沈線に上下交互に3個一組の削突列)。文様帯地文なし。縄文LR(体部)。	ナデ。沈線1 条(口縁部)	-	-	(13.6)	-	(5.5)	北-土器 5845
-	111	6	-	VP39	7・8下層	129	鉢か	晩期2	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:羊歯状文。文様帯地文なし。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(14.0)	-	(3.4)	北-土器 5892
-	111	7	-	VM39	捨O	129	鉢か	晩期1a	平口縁。突起3単位残存(2種類交互(二山状台形突起・台形突起))。口唇面取(平坦)。外面:三又文(抉り)。口縁突起下)。入組文。入組文の空隙に抉りによる三又文。沈線間に短沈線列1条。磨消縄文LR。ナデ(体部)。	ナデ。体部 に粘土紐接 合残存	炭化物(内外 面)	(28.0)	-	(18.0)	北-土器 5567	
-	111	8	-	VL40	IV	129	鉢か	後期8	平口縁。一山突起。口唇面取(平坦)。外面:沈線間に入組文。磨消縄文LR。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(16.0)	-	(8.2)	北-土器 5436
-	111	9	7/10	VL39	捨Q 捨V底下層	129 125	鉢か	後期7-4	平口縁。三山突起推定4単位(2単位残存。中央の突起やや大きい)。口唇面取(平坦)。外面:沈線間に刻目列3条。刻目列上に貼附(貼附は口縁突起に対応。突起間にも付される。8単位か。3個一列)。文様帯地文なし。ミガキ(体部)。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(26.4)	-	(11.0)	北-土器 5368
-	111	10	-	VK40	捨Q	129	壺	晩期1a~ 1b	平口縁。口唇面取(平坦)。外面:横位沈線各1条(口縁部、頸部と体部の境)。突起(2箇所残存。横位に貫通孔)。縄文LR。	ナデ	-	-	(10.0)	-	(7.9)	北-土器 6117
-	111	11	7/10	VK39	捨Q	129	深鉢	円筒上層 d	平口縁か。口唇面取なし。外面:隆帯(斜頸部著)。縄文地施文。単軸糸条1類。	ナデ	炭化物(外面)	-	(9.0)	-	(10.1)	北-土器 5695
21	111	12	-	VL40	捨Q V底下	129 125	深鉢	円筒上層 e	波状口縁4単位(波頭部とレ状突起、突起に縄文L押圧)。口唇粘土紐貼付により肥厚(肥厚部に縄文LR)。外面:縄文LR。	ナデ	炭化物(外面)	-	24.0	-	(22.3)	北-土器 5125
-	112	1	-	VM38	表土	表土	壺	晩期5	外面:横位沈線13条以上(部分的に縦位の短沈線により途切れる)。文様帯地文なし。ナデ(体部下半)。	ナデ	-	-	(8.6)	-	(2.0)	北-土器 5601
-	112	2	-	VL38	表土	表土	不明	晩期後葉	外面:変形工字文。磨消縄文LRか(摩滅)。	ナデ	-	-	-	-	(4.1)	北-土器 5705
-	112	3	-	VM39	捨aD層	上層	鉢か	晩期3	VI号33-2と同一個体。	ナデ	-	-	(26.0)	-	(3.0)	北-土器 5754
-	112	4	-	VM38	捨A.D層	上層	鉢か	晩期5	平口縁。突起(2単位残存)。口唇面取(平坦)。沈線。外面:工字文。地文なし。摩滅。	ナデ	炭化物(内外 面)	-	(16.0)	-	(4.1)	北-土器 5755

表4 土器観察表 (48)

図版	写真 図版	番号	レゾ など	グリッド (取上番号)	現場層位	振替層位	器種	時期	形態・外面文様など	内面特徴	付着物	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	整理No
-	112	5	-	VM39	捨ad層	上層	壺	晩期4-5	平口縁。一山突起1単位(頂部横位沈線)。B突起9単位(大小交互、大突起5単位、小突起4単位)。外面沈線文。隆帯。突起10単位(2個一組、口縁突起に对应)。文様帯地文なし。ミガキ。	ミガキ(口縁部から頸部)、ナデ(体部)。沈線3条。1条目は一山突起部分で凸部となり、2条目は口縁B突起(大突起)片側直部に分枝	-	口縁部と頸部下半に赤彩。頸部上半は黒色物質付着。塗分けの可能性あり。体部には黒地に赤彩が帯状に残存。彩文か	13.5	-	(7.0)	北-土器 5492
-	112	6	-	VL38	包含層	包含層	深鉢	晩期	小波状口縁。外面条痕(格子目状)。	ナデ	炭化物(外面)	-	(25.2)	-	(8.2)	北-土器 5501
-	112	7	-	VL38 (P-5953)	包含層	包含層	台付鉢	晩期4	平口縁。口唇刻目。外面横位沈線3条(1条目の沈線内に刻目列)。立ち上がる大突起(肩部に1箇所、側面に沈線、付け根に小突起各2個)。突起(大突起の反対側に1箇所2個一組)。横位沈線1条(体部と台部の境)。細文RL(体部)。底部凸。口唇沈線文。	ナデ。沈線1条(口縁部)	炭化物(内外面)	(15.0)	-	(13.2)	北-土器 5277	
-	112	8	-	VL38	包含層	包含層	台付鉢	晩期2-3	平口縁。B突起(連続)。口唇面取なし。外面横位沈線1条。沈線間に歯状文。突起(2個一組、肩部に1箇所残存、頂部刻目)。沈線間に沈線文。唇消細文RL。細文RL(体部下半から底部)。底部凸。口唇沈線文(三文文)。透かし孔(3単位)。地文なし。肩部肥厚(肥厚部細文)。	ミガキ	炭化物(内外面)	(11.6)	7.5	9.0	北-土器 5383	
-	112	9	-	VK38	包含層	包含層	皿	晩期3-4	裝飾的な口縁。口唇内側肥厚(肥厚部刻目、B突起)。外面2条の沈線間に彫去による雲形文。底部平底(沈線1条)。	唇減	褐色膜状付着物(内外面)	-	(27.0)	11.3	6.1	北-土器 6084
-	112	10	-	VL38	包含層	包含層	鉢	大木7bか	平口縁。口唇面取なし。外面突起。縄文押圧。隆帯。縄文地施文(LR)。	ナデ	-	VI写81-17と同 一全体	(11.0)	-	(3.5)	北-土器 6270
-	112	11	-	VK38	包含層	包含層	深鉢	円筒上層e	波状口縁。(波頂部二山突起、粘土細貼付)。口唇隆帯貼付により外側に肥厚(肥厚部細文押圧、粘土細貼付)。外面沈線文(胸骨文)。縄文地施文。縄文LR。	ナデ、粘土紐貼付(突起内側)	-	(27.0)	-	(8.8)	北-土器 6143	
-	112	12	-	VO40	不明	不明	浅鉢	晩期2-3	平口縁。突起(1単位残存、欠損)。口唇面取なし。外面2条の沈線間に半歯状文。内面口唇部地文なし。体部唇消細文LR。ミガキ(底部)。底部張り出し状の脚(2単位残存、内面浅い押圧)。	ミガキ	-	(11.0)	丸底	5.2	北-土器 5534	
21	112	13	-	VO40 (P-5217)	不明	不明	壺	晩期3	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線(口縁部と底部直上に各2条)。隆帯2条(隆帯間に横位のB字状突起単位、3個欠損)。横位沈線で区画された文様帯3段に彫去による雲形文。文様帯地文なし。ミガキ。底部平底(彫去状の円形の沈線)。	ナデ	赤彩(外面、内面口縁部のみ)	6.2	6.8	17.0	北-土器 5081	
-	112	14	-	VM39	壁清掃、捨ad,k他	不明	壺	後期後葉 ~晩期	外面ナデ(口縁部)。細文RL(体部)。	ナデ	漆膜(内面のみ。褐色で縮み膨潤著。部分的に厚く付着)	-	-	(5.2)	北-土器 5678	

表5 土製品観察表 (1)

図番号	写真 図版	分類	セクションなど	出土位置	層位	振替層位	取上番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理番号
図22-1	写113	土偶		VM-38 VL-37	捨B 炭4	11・15-18 13	特-5052	122	70	12	62.6	大洞A式に伴う、粗製。顔面に突起で無文。乳房は粘土粒。下半部はパンツ状文様にて突起を充填。	北土-5085 北土-5117
図22-2	写113	土偶(中実)		VK-40	捨W	128	-	(37)	25	12	18.9	右足部、つま先3本。中実。	北土-5092
図22-3	写113	土偶(中空)		VM-39	捨J	89	-	(23)	(25)	4	3.1	乳房。粘土粒。無文。	北土-5112
図22-4	写113	土偶(中実)		VL-39	捨D	26	-	(52)	(40)	15	25.4	左肩部。無文。	北土-5118
図22-5	写113	手づくね土偶		ワカク VK-43	東Ⅲ-1	69	-	50	37	25	35.9	手づくね土偶。手・足部を突起状に表現、雑な製作である。	北土-5070
図22-6	写113	土偶(中空)		VO-38	黒色土	8	-	(34)	(16)	4	4.6	右手部。横位沈線。	北土-5116
図22-7	写113	土偶(中空)		VM-39	捨B	11・15-18	-	(37)	(24)	6	5.6	足部。横位沈線と刺突列。	北土-5107
図22-8	写113	土偶	トナリ2	不明	明褐色	76	特-5017	(26)	(38)	23	42.9	中空。腕部。横位沈線。	北土-5093
図22-9	-	土偶(中空)		VP-40	黒褐色	95	-	(40)	(37)	5	12.5	脚部。LR。	北土-5108
図22-10	写113	土偶(中実)		VL-39	捨U上	122	-	(28)	(48)	27	30.8	左手部。LR。	北土-5114
図22-11	写113	土偶(中空)		VP-40	明褐色	76	-	(30)	(47)	6	8.8	体部。LR。	北土-5109
図22-12	写113	土偶(中空)		VO-43	I	1	-	(26)	(62)	8	17.4	体部。RL。横位沈線と山形文。	北土-5106
図22-13	写113	土偶(中空)		VL-39	捨K,捨N平行	ワ17の34~89平行	-	(26)	(45)	7	10.6	漆付着か、右目部。中空。LR。	北土-5115
図22-14	写113	土偶		VN-43	I	1	-	(44)	(45)	5	23.6	左肩部。LR磨消細文。	北土-5111
図22-15	写113	土偶(中空)		VP-40	黒褐色	95	P-5268	(45)	(48)	6	18.4	体部片。LR。入組文。	北土-5102
図23-16	写113	土偶		VN-40	捨J	89	特-5062	72	74	20	107.1	赤色顔料塗布。中実。顔部、眉と鼻部に粘土粒、目部に遮光器、口部は貫通。	北土-5077
図23-17	写113	土偶		VL-38	捨M(根)	35・36(抜根)	-	(46)	(30)	18	17.5	首にあすワルト跡。中実。顔面、目・口を刺突。	北土-5232
図23-18	写113	土偶	セ9	VL-38	捨10(ト)	99	-	(72)	(52)	20	112.4	首にあすワルト跡。中実。顔部、眉と鼻部に粘土粒、目部に遮光器、口部は貫通。	北土-5079
図23-19	写113	土偶(中実)		VL-37・38	捨P	セ15の43以下	-	(40)	(37)	10	12.8	乳房部欠損。右胸部無文。	北土-5113
図23-20	写113	土偶(中実)		ワカク VK-42	東Ⅲ-1	69	特-5093	(36)	(22)	12	13.9	体部下。LR。縦位沈線。	北土-5083
図23-21	写113	土偶		VN-40	不明	不明	特-5019	(92)	(73)	15	83.6	土偶中央部に貫通孔。中実。乳房に粘土粒、正中線。RL。	北土-5078
図23-22	写113	屈折土偶		VL-35	捨5相当	56相当	特-5117	(74)	(34)	22	52.1	屈折土偶で残存部は下半身部の股部分。	北土-5089
図23-23	写113	土偶(中実)		ワカク VL-43	東Ⅲ-1	69	特-5096	(55)	20	17	31.8	右足部。LR磨消細文。足裏部は平坦。	北土-5091
図23-24	写113	土偶(中実)		VN-39	捨J	89	特-5127	(72)	32	32	92.2	屈折土偶(手背)。表裏面に横位沈線。	北土-5087
図23-25	写113	土偶(中実)		VO-39	明褐色	76	特-5025	(37)	(25)	20	10.7	右手部。RL。縦位沈線。	北土-5094
図24-26	写114	土偶		VN-41	東Ⅲ-1	69	特-5092	(165)	(102)	5	306.3	体部は中空、脚腕部は中実、中心部に正中線、表面に弧状文、裏面に入組文。RL。	北土-5038
図24-27	写114	土偶		VP-40	黒褐色	95	特-5033	(50)	(44)	27	56.5	図24-29と同一の可能性あり。中実、左腕部。LR。	北土-5088
図24-28	写114	土偶		VN-38	捨K	34-63	-	(26)	(20)	5	7.7	右脚部。中実。指先を刺突。	北土-5105
図24-29	写114	土偶		VP-40	黒褐色	95	特-5028	(44)	(56)	35	52.5	図24-27と同一面体の可能性あり。中実、右腕部。LR。	北土-5090
図24-30	写114	遮光器(中空)	セ24	VL-38・39	捨P3下	127	特-5147	(91)	(82)	5	61.6	精製。赤色顔料塗布。乳右胸欠損。左右弧状文。RL。	北土-5076
図25-31	写114	仮面付土偶		VO-39 VN-44	セ17下部 東Ⅲ-1	92 69	特-5040 特-5086 特-5085	212	82	5	370.1	仮面付土偶と思われる。耳を表現している。体部、脚部にアスファルト。顔面が円形、脚腕部にB状突起。体部中央に二条の正中線。裏面パンツ状文。	北土-5080 北土-5096
図25-32	写114	遮光器(中空)土偶		VN-44	東Ⅲ-1	69	特-5088	(70)	67	6	58.9	赤色顔料塗布。台形の王冠。顔部、耳B状突起。	北土-5081
図25-33	写115	遮光器(中空)		VO-39	セ13	63	特-5048	(48)	(50)	4	38.9	全面に赤色顔料を塗布。山形状王冠。	北土-5037
図26-34	写115	遮光器(中空)土偶	セ11	VN-39	e下部	78下部	-	(67)	(102)	5	119.3	顔面。円形状の粘土粒。横位沈線。刺突。	北土-5097
図26-35	写115	遮光器(中空)土偶		VN-44	東Ⅲ-1	69	特-5094	(42)	28	5	27.0	断面にアスファルト。左脚部、足指を刺突。	北土-5084
図26-36	写115	土偶(中空)		VM-38	捨K	34-63	-	(52)	(40)	5	29.4	体部上半。横位・楕円形。	北土-5098
図26-37	写115	土偶		VP-40	黒褐色	95	P-5268	(25)	(45)	5	13.7	体部。中空。LR磨消細文。	北土-5104
図26-38	写115	土偶(中空)		VL-39	捨K	34-63	-	(48)	(50)	5	41.7	顔部、目が三角、鼻が隆帯、口の端部に弧状文。	北土-5110
図26-39	写115	土製品		VL-41	捨C	68	-	53	17	3	26.0	漏斗状。LR。入組文。端部に凹み。	北土-5266
図26-40	写115	遮光器(中空)土偶		VN-39	黒褐色	95	特-5027	(88)	(66)	4	83.6	右肩部。LR磨消細文。	北土-5082
図26-41	写115	耳飾り		VJ-39	捨Pか	セ15の43以下	特-5067	37	34	13	15.8	無文。円形。中央部に穿孔。	北土-5017
図26-42	-	異形土製品		VN-39	セ17/13 セ14	93	-	(26)	(45)	3	8.2	無文。形態不整形。	北土-5274
図26-43	-	土製品		VN-41	東Ⅲ-1	69	-	(62)	(57)	3	35.1	中空。形態不明。土偶(?)	北土-5273

表5 土製品観察表 (2)

図番号	写真 図版	分類	ツケなど	出土位置	層位	振替層位	取上番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理番号
図27-44	写115	耳飾り		VM-39	7 ツケ13 へ 鉢4	93	特-5050	27	(22)	(17)	62	欠損。白形。無文。	北土-5019
図27-45	写115	耳飾り		VO-40	明掲	76	特-5021	13	13	10	06	赤色顔料塗布、中央部に穿孔、欠損。白形。	北土-5013
図27-46	写115	耳飾り		VK-35	捨4	54	-	25	27	14	91	無文。白形。	北土-5123
図27-47	写115	耳飾り		VM-40	捨F	11	特-5029	21	20	5	1.4	全面に赤色顔料塗布。周縁に刻み、白形。	北土-5014
図27-48	写115	耳飾り		VK-41	東III-1	69	特-5112	27	27	20	18.1	中央部に穿孔。放射状沈線。白形。	北土-5018
図27-49	写115	耳飾り	㊦10	VL-39	捨L上	32	特-5130	39	38	25	33.6	欠損。白形。無文。弧状文。刺突。	北土-5020
図27-50	写115	耳飾り		VO-40	黒褐色	95	特-5020	22	22	4	2.8	全面に赤色顔料塗布、中央部に穿孔。耳栓形。	北土-5012
図27-51	写115	耳飾り		VL-41	捨U	122,125	特-5150	62	58	5	48.9	中央部に穿孔、口形。	北土-5016
図27-52	写115	耳飾り		VL-41	捨U	122,125	特-5137	(37)	35	14	13.8	中央部に穿孔。欠損。口形。弧状文。	北土-5029
図27-53	写115	耳飾り		VL-37	捨B6	63-89	-	(20)	(40)	5	11.7	欠損表面。無文。	北土-5122
図27-54	写115	土玉		VK-35	捨4	54	-	10	(6)	(6)	0.3	赤色顔料塗布。欠損。	北土-5125
図27-55	写115	動物形土製品		VK-41	捨G	11・25	特-5118	(45)	28	(16)	16.3	頭部。口ばしが長い。目は隆帯(トリ)。香炉頂部か。	北土-5032
図27-56	写115	動物形土製品		VK-38	地山直上	129	-	(32)	(7)	5	2.5	脚部有。無文。	北土-5121
図27-57	写115	有孔土製品	㊦10	VL-39	捨U上	122	特-5125	(45)	(66)	38	147.5	焼成前に斜位方向に穿孔したと思われる。整形は不整形。	北土-5220
図27-58	写115	陶輪形土製品		VL-41	捨U	122,125	-	17	90	44	11.0	表面弧状文、裏面縄文。両端部に穿孔。	北土-5257
図27-59	写115	棒状土製品		VK-38	捨P3	57-62-127	-	(30)	(8)	6	2.3	両端欠損。中央部に隆帯。	北土-5072
図27-60	写115	有孔土製品	㊦10	VL-39	捨X下	121	特-5149	38	32	7	11.3	表面に黒色付着(漆)。中央部、貫通孔。	北土-5119
図27-61	写115	スプーン形土製品		VM-41	東III-2	107	-	(50)	(33)	5	11.9	スプーン形、LR。つまみ部欠損。	北土-5103
図27-62	写115	土版		VL-37	捨B2相当	20相当	-	63	58	22	43.1	表面はなめらかに對して裏面は凹凸(整形している)。	北土-5245
図27-63	写115	土版		VL-39	炭	37	-	46	27	26	27.0	欠損。方形。表面平坦で斜位沈線。	北土-5224
図28-64	写115	土冠	㊦10	VL-39	捨Gb	65	特-5125	(45)	(66)	38	117.5	欠損。中美。先端部男性性器、裏面女性性器を表現。	北土-5075
図28-65	写115	石剣状土製品	㊦24	VK-38-39	捨P3下	127	-	(40)	20	14	12.3	両端部、欠損。中実。横位沈線。	北土-5120
図28-66	写116	焼成粘土塊		VM-37	捨B	11・15-18	-	70	52	37	105.7	無文。不整形(大型)。	北土-5071
図28-67	写116	焼成粘土塊		VL-37	捨10相当	103以下	-	75	52	25	78.1	無文。不整形(大型)。	北土-5217
図28-68	写116	焼成粘土塊	㊦9	VM-37	炭	37	-	35	21	22	16.2	無文。不整形(小型)。	北土-5208
図28-69	写116	焼成粘土塊		VM-37	8	12	-	23	16	15	4.7	無文。不整形(小型)。	北土-5198
図28-70	写116	焼成粘土塊		VM-39	捨A(根の下)	14(根の下)	-	32	27	15	9.7	無文。不整形(小型)。	北土-5207
図28-71	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨M(根)	35-36(抜根)	-	35	21	10	5.9	無文。不整形(小型)。	北土-5205
図28-72	写116	焼成粘土塊		VL-41	捨H	84	-	32	20	13	5.0	無文。不整形(小型)。	北土-5222
図28-73	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨M(根)	35-36(抜根)	-	45	26	15	11.0	無文。不整形(小型)。	北土-5209
図28-74	写116	焼成粘土塊	㊦10	VL-39	捨P	㊦15の43以下	-	46	32	14	14.7	無文。不整形(小型)。	北土-5199
図28-75	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨A(捨B)	14	-	42	30	15	9.9	無文。不整形(小型)。	北土-5204
図28-76	写116	焼成粘土塊		VL-39	捨M(根)	35-36(抜根)	-	34	25	14	11.5	無文。不整形(小型)。	北土-5212
図28-77	写116	焼成粘土塊	㊦9	VM-39	捨D(抜根)	26(抜根)	-	20	23	13	3.5	無文。不整形(小型)。	北土-5210
図28-78	写116	焼成粘土塊		VM-37	3	47	-	32	26	16	8.0	無文。不整形(小型)。	北土-5197
図28-79	写116	焼成粘土塊		VL-37	捨M(抜根)	35-36(抜根)	-	34	27	14	10.3	無文。不整形(小型)。	北土-5213
図28-80	写116	焼成粘土塊		VM-39	捨D(抜根)	28(抜根)	-	20	13	8	2.8	無文。不整形(小型)。	北土-5214
図28-81	写116	焼成粘土塊		VK-38	捨M(根)	35-36(抜根)	-	26	21	21	7.9	無文。不整形(小型)。	北土-5211
図28-82	写116	焼成粘土塊		VM-39	捨A・D・b	上層	-	27	28	16	8.8	無文。不整形(小型)。	北土-5201
図28-83	写116	焼成粘土塊	㊦9	VL-37	捨6	17	-	32	30	20	13.6	無文。不整形(小型)。	北土-5206
図28-84	写116	焼成粘土塊		VL-38	表土	表土	-	21	17	10	2.0	無文。不整形(小型)。	北土-5223
図28-85	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨A	14	-	20	20	16	5.2	無文。不整形(小型)。	北土-5236
図28-86	写116	焼成粘土塊		VM-37	不明	不明	-	18	16	12	3.2	無文。不整形(小型)。	北土-5227
図28-87	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨M	35-36	-	26	27	17	7.0	無文。不整形(小型)。	北土-5229
図28-88	写116	焼成粘土塊		VK-38	捨M	35-36	-	32	35	12	11.8	無文。不整形(小型)。	北土-5255
図28-89	-	焼成粘土塊		VM-37	捨B	11-15-18	-	36	26	21	16.1	無文。不整形(小型)。	北土-5261
図28-90	写116	焼成粘土塊		不明	I	I	-	32	30	14	9.0	無文。不整形(小型)。	北土-5228
図28-91	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨M	35-36	-	30	32	18	11.9	無文。不整形(小型)。	北土-5225

表5 土製品観察表 (3)

図番号	写真 図版	分類	ツツヨなど	出土位置	層位	振替層位	取上番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理番号
図28-92	-	焼成粘土塊		VM-37	捨B	11・15-18	-	36	27	26	15.1	無文。不整形(小型)。	北土-5260
図28-93	写116	焼成粘土塊		VK-37	I	I	-	35	24	22	15.6	無文。不整形(小型)。	北土-5256
図28-94	写116	焼成粘土塊		VM-39	捨D(抜根 荒れ)	26(抜根)	-	34	25	15	7.5	無文。不整形(小型)。	北土-5249
図28-95	写116	焼成粘土塊		VM-41	東Ⅲ-2	107	-	34	30	15	12.3	無文。不整形(小型)。	北土-5250
図28-96	写116	焼成粘土塊		VL-40	捨C	68	-	21	18	10	2.1	無文。不整形(小型)。	北土-5254
図29-97	写116	焼成粘土塊		VM-38	捨M	35-36	-	30	20	18	7.6	無文。不整形(小型)。	北土-5251
図29-98	写116	焼成粘土塊		VM-38	捨b	11・15-18	-	26	24	14	7.1	無文。不整形(小型)。	北土-5252
図29-99	写116	焼成粘土塊		VM-43	東Ⅲ-1	69	-	18	16	8	2.0	無文。不整形(小型)。	北土-5253
図29-100	写116	焼成粘土塊		VM-39	捨A・D・b (抜根 荒れ)	上層	-	28	26	13	7.4	無文。不整形(小型)。	北土-5218
図29-101	写116	焼成粘土塊	㊦10	VL-39	炭b中間	29	-	25	18	17	5.7	無文。不整形(小型)。	北土-5244
図29-102	写116	焼成粘土塊		VM-38	捨B	11・15-18	-	30	18	17	9.3	無文。不整形(小型)。	北土-5216
図29-103	写116	焼成粘土塊		VK-38	包含	包含層	-	25	23	20	5.7	無文。不整形(小型)。	北土-5242
図29-104	写116	焼成粘土塊		VM-40	明褐色土	76	-	27	23	20	6.8	無文。不整形(小型)。	北土-5241
図29-105	写116	焼成粘土塊		VM-41	東Ⅲ-1	69	-	38	22	12	10.6	無文。不整形(小型)。	北土-5239
図29-106	写116	焼成粘土塊		VK-38	捨B相当	11・15-18相当	-	30	25	17	7.5	無文。不整形(小型)。	北土-5234
図29-107	写116	焼成粘土塊	先行トナ	VK-39	捨A	14	-	34	17	16	5.2	無文。不整形(小型)。	北土-5235
図29-108	写116	焼成粘土塊		VL-37	捨M(抜根)	35-36(抜根)	-	39	27	28	21.5	無文。不整形(小型)。	北土-5238
図29-109	写116	焼成粘土塊		VM-38	捨B2	20	-	41	25	18	11.8	無文。不整形(小型)。	北土-5233
図29-110	写116	焼成粘土塊	先行トナ	VL-38	捨P3	57-62・127	-	42	35	21	23.9	無文。不整形(小型)。	北土-5231
図29-111	写116	焼成粘土塊		VL-37-38	捨P	㊦15の43以下	-	38	28	12	13.6	無文。不整形(小型)。	北土-5246
図29-112	-	焼成粘土塊		VM-39	捨M	35-36	-	44	30	16	12.6	無文。不整形(小型)。	北土-5243
図29-113	写116	焼成粘土塊		VM-38	捨A	14	-	46	34	24	28.9	無文。不整形(小型)。	北土-5248
図29-114	写116	焼成粘土塊		VL-37	捨M(抜根)	35-36(抜根)	-	40	24	18	14.5	無文。不整形(小型)。	北土-5215
図29-115	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨M(銀)	35-36(抜根)	-	55	35	23	29.8	無文。不整形(小型)。	北土-5200
図29-116	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨A(捨B)	14	-	52	26	12	10.2	無文。不整形(小型)。	北土-5221
図29-117	写116	焼成粘土塊		VL-38	捨A(捨B)	14	-	55	40	22	34.2	無文。不整形(小型)。	北土-5203
図29-118	写116	焼成粘土塊		VL-38	表土	表土	-	47	24	17	13.8	無文。不整形(小型)。	北土-5226
図29-119	写116	焼成粘土塊		VM-38	捨B3	25	-	74	54	33	79.9	無文。不整形(大型)。	北土-5247
図29-120	写116	焼成粘土塊		VL-39	炭e	37	-	48	46	24	47.3	無文。不整形(小型)。	北土-5240
図29-121	写116	焼成粘土塊		VM-37	捨B	11・15-18	-	42	37	36	44.2	無文。不整形(小型)。	北土-5259
図29-122	写116	焼成粘土塊		VK-38	表土	表土	-	56	40	33	27.4	無文。不整形(小型)。	北土-5219
図29-123	写116	焼成粘土塊	トナ	VM-39	捨A	14	-	66	50	35	80.4	無文。不整形(大型)。	北土-5202
図29-124	写116	焼成粘土塊		VM-39	捨A・D・b	上層	-	62	58	17	51.7	無文。不整形(小型)。	北土-5230
図29-125	写116	焼成粘土塊		不明	I	I	-	46	36	25	50.6	底面が平坦で無文、不整形(小型)。	北土-5074
図29-126	写116	焼成粘土塊		VM-38	捨B3	25	-	48	34	19	31.7	粘土塊というより粘土板、不整形(小型)。	北土-5073
図30-127	写117	円盤状土製品(有孔)		VO-42	明釉	76	-	42	41	6	11.1	中央部に一次穿孔有り。鉢形。㊦状炭化物付着。LR。	北土-5028
図30-128	写117	円盤状土製品(有孔)		VL-39	捨P3下	127	-	(37)	(40)	6	11.8	深鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。二次穿孔。RL	北土-5153
図30-129	写117	円盤状土製品		VL-37	捨B6	63-69	-	54	54	5	23.7	深鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。LR。横位沈澱。粘土粒。	北土-5193
図30-130	写117	円盤状土製品		VK-36	捨1	23	-	40	34	6	9.5	鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。LR。弧状文	北土-5176
図30-131	写117	円盤状土製品		VM-39	㊦	63	-	32	31	4	5.3	鉢の胴部片。縦位沈澱。	北土-5177
図30-132	写117	円盤状土製品		VK-38	捨M抜根	35-36	-	47	43	5	14.7	深鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。RL。	北土-5171
図30-133	写117	円盤状土製品		VK-37	炭3相当	55相当	-	42	41	5	9.0	鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。LR。	北土-5189
図30-134	写117	円盤状土製品		VL-39	捨3相当	32-34相当	-	43	42	6	12.0	深鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。LR。	北土-5172
図30-135	写117	円盤状土製品	㊦24	VL-38-39	捨B6下	89	-	38	37	5	10.4	深鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。LR。	北土-5190
図30-136	写117	円盤状土製品	㊦79	VM-37	9	96	-	35	35	5	6.7	鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。LR。	北土-5179
図30-137	写117	円盤状土製品		VP-39	㊦	129	-	37	39	4	8.4	鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。LR。	北土-5195
図30-138	写117	円盤状土製品		VM-41	東Ⅲ-1	69	-	24	27	4	2.2	鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。RL。	北土-5174
図30-139	写117	円盤状土製品	㊦10	VL-39	下	下層	-	28	30	5	6.3	鉢の胴部片、㊦状炭化物付着。LR。	北土-5149

表5 土製品観察表 (4)

図番号	写真 図版	分類	ツツリなど	出土位置	層位	振替層位	取上番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理番号
図30-140	写117	円盤状土製品	ツツリ	VR-38-39	捨P3下	127	-	25	26	5	4.0	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5192
図30-141	写117	円盤状土製品		VN-43	東Ⅲ-1	64	-	33	32	5	7.4	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5162
図30-142	写117	円盤状土製品		VR-36	捨4	59	-	35	38	5	9.0	鉢の胴部片。RL。	北土-5181
図30-143	写117	円盤状土製品		VR-37	捨P3	57-62-127	-	36	48	6	12.6	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。RL。	北土-5182
図30-144	写117	円盤状土製品		VN-42	I	1	-	37	42	5	11.0	深鉢の胴部片。RL。	北土-5068
図30-145	写117	円盤状土製品		VP-42	黒褐色	95	-	44	42	7	14.0	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5169
図30-146	写117	円盤状土製品	ツツリ	VL-39	捨J	89	-	42	40	4	8.2	深鉢の口頸部片。LR。	北土-5185
図30-147	写117	円盤状土製品		VK-36	捨4	54	-	43	42	5	10.4	鉢の胴部片。21有。LR。	北土-5194
図30-148	写117	円盤状土製品	先行トノメ	VK-38	捨P	ツツリ15の43以下	-	42	42	5	10.4	鉢の口頸部片、口唇部を残して製作、22状炭化物付着。LR。	北土-5163
図30-149	写117	円盤状土製品		VN-43	東Ⅲ-1	69	-	42	34	5	9.2	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5188
図30-150	写117	円盤状土製品		VO-39	ハ・43	63	-	44	42	5	12.2	鉢の胴部片、22状炭化物付着。	北土-5180
図30-151	写117	円盤状土製品		VL-35-36	不明	不明	-	44	38	5	11.6	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。RL。	北土-5196
図30-152	写117	円盤状土製品		VL-39	捨J	89	-	52	51	5	19.0	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。RL。	北土-5170
図30-153	写117	円盤状土製品	ツツリ	VK-39	捨W	128	-	48	50	5	14.8	深鉢の胴部片。LR。	北土-5173
図30-154	写117	円盤状土製品	ツツリ	VL-38-39	捨B6下	89	-	52	60	5	22.2	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。RL。	北土-5151
図30-155	写117	円盤状土製品		VL-41	捨L	32-34	-	38	42	4	7.6	深鉢片、22状炭化物付着。LR。21有。	北土-5160
図30-156	写117	円盤状土製品		VL-40	捨L	32-34	-	47	52	5	17.3	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5157
図30-157	写117	円盤状土製品		VN-43	東Ⅲ-2	107	-	50	50	5	18.5	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5175
図30-158	写117	円盤状土製品		VK-40	捨U	122,125	-	48	42	5	11.7	深鉢の胴部片。RL。	北土-5166
図30-159	写117	円盤状土製品	ツツリ	VK-36	捨4	54	-	44	35	4	7.5	鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5178
図30-160	写117	円盤状土製品	ツツリ	VJ-39	捨10下	128	-	75	74	6	51.8	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。RL。	北土-5164
図30-161	写117	円盤状土製品		VL-39	捨V下	82	-	56	62	5	23.1	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。RL。	北土-5161
図30-162	写117	円盤状土製品		VP-41	黒褐色	95	-	52	67	5	26.1	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5154
図30-163	写117	円盤状土製品	ツツリ	VN-39	捨J	89	-	42	44	5	12.4	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。LR。	北土-5184
図30-164	写117	円盤状土製品		VK-38	捨M	35-36	-	34	36	5	7.2	鉢の胴部片、22状炭化物付着。21有。RL。	北土-5167
図30-165	写117	円盤状土製品		VP-41	明褐色	76	-	33	34	4	6.6	鉢の胴部片。RL。	北土-5165
図30-166	写117	円盤状土製品		VO-39	ハ・42	10	-	44	38	4	9.1	鉢の胴部片、22状炭化物付着。無文。	北土-5191
図30-167	写117	円盤状土製品		VN-43	東Ⅲ-1	69	-	41	44	5	10.6	鉢の胴部片。LR。	北土-5187
図30-168	写117	円盤状土製品	先行トノメ	VK-38	捨P	ツツリ15の43以下	-	40	41	5	11.4	深鉢の胴部片。21有。	北土-5155
図30-169	写117	円盤状土製品		VK-39	捨A	14	-	46	45	5	15.4	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。L。	北土-5156
図30-170	写117	円盤状土製品		VL-40	捨V	ツツリ10の80以下	-	45	43	5	10.9	鉢の胴部片。無文。	北土-5183
図30-171	写117	円盤状土製品		VL-36	焼土最下	不明	-	40	47	5	14.0	深鉢の胴部片。RL。21有。	北土-5152
図30-172	写117	円盤状土製品	ツツリ	VL-39	捨J	89	-	48	45	3	11.2	鉢の底部片、22状炭化物付着。無文。	北土-5168
図30-173	写117	円盤状土製品		VL-37	7	52-97	-	40	38	5	11.3	鉢片、無文。	北土-5186
図30-174	写117	円盤状土製品		VO-39	明褐色	76	-	67	68	5	43.2	鉢の底部片。平底。無文。	北土-5061
図30-175	写117	円盤状土製品		VN-43	東Ⅲ-1	69	-	63	60	4	23.9	鉢の底部片。平底。無文。	北土-5024
図30-176	写117	円盤状土製品	ツツリ	VK-39	捨W	128	-	53	53	4	18.4	深鉢の胴部片、22状炭化物付着。無文。	北土-5150
図30-177	写117	円盤状土製品		VO-42	明褐色	76	-	74	73	5	33.8	深鉢形胴部、22状炭化物付着。LR。	北土-5265
図30-178	写117	円盤状土製品		VN-43	東Ⅲ-1	69	-	52	50	4	13.1	深鉢の胴部片。無文。	北土-5158

表6 ミニチュア・小型土器観察表 (1)

図番号	写真 図版	器種	時期	出土位置	層位	振替層位	取上番号	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考	整理番号
図3-5	-	深鉢	晩期前葉 中葉	VM-41 SQ39	-	-	P-9	-	2.1	(3.0)	外面縄文RL。底部凹底。内面:ナデ。	北土-5276
図31-179	-	不明	後期後葉 晩期	VK-40	捨U	122-125	-	-	-	(25)	外面沈線文。地文なし。内面:ナデ。	北土-5268
図31-180	-	鉢	後期後葉 晩期	VL-40	捨V下	82	-	(6.0)	丸底	3.4	平口縁。口唇面取なし。底部丸底。内外面:ナデ。	北土-5269
図31-181	写118	浅鉢	晩期中葉	VL-39 せ10	捨J	89	-	(8.0)	-	(32)	平口縁。口唇面取なし。口唇外側肥厚。外面隆帯。隆帯上沈線1条。彫去による雲形文か(体部~底部)。地文なし。ミガキ。内面:ナデ。付着物赤彩(外面)。図31-182と同一か。	北土-5279
図31-182	写118	浅鉢	晩期中葉	VM-39	捨K	34-63	-	(8.6)	-	(26)	平口縁。口唇面取なし。口唇外側肥厚。外面隆帯。隆帯上沈線1条。ミガキ。内面:ナデ。図31-181と同一か。	北土-5277
図31-183	-	不明	不明	VL-37	6・7	せ9の17~97	-	-	-	(40)	体部分が屈曲する。先端は面取だが、口縁部分が透かし孔か判然としない。内外面:ナデ。	北土-5278
図31-184	-	不明	後期後葉 晩期	VM-39	黒褐色	95	P-5287	-	-	(17)	外面沈線文。地文なし。内面:ナデ。	北土-5267
図31-185	-	不明	後期後葉 晩期	VM-39	へ'外	不明	-	-	-	(22)	外面沈線文。地文なし。内面:ナデ。	北土-5275
図31-186	写118	不明	後期後葉 晩期	VM-39	へ'外3	63	-	(5.0)	-	(22)	平口縁。口唇面取なし。外面沈線文。地文なし。内面:ナデ。	北土-5337
図31-187	-	鉢	後期後葉 晩期	VM-35	黒褐色	95	P-5287	(6.0)	-	(34)	平口縁。口唇面取なし。外面:ナデ。内面:ナデ。	北土-5272
図31-188	-	鉢小	後期後葉 晩期	VK-37	10-2	9	-	-	4.1	(21)	外面縄文RL(底部)。底部平底。内面:ナデ。付着物炭化物(外面)。	北土-5271
図31-189	写118	台付鉢	後期後葉 晩期	VL-41	捨X	89-120-121	-	-	3.0	(32)	外面沈線。ナデ。内面:ナデ。底部台。備考:器面磨減。外面凹凸顕著。	北土-5262
図31-190	写118	浅鉢	後期後葉 晩期	VO-42	明褐色	76	-	-	方形	(40)	平口縁か。口唇面取なし。内外面:ナデ。底部脚推定4単位(2単位残存)。備考:平面長方形。	北土-5263
図31-191	写118	台付鉢	後期後葉 晩期	VO-41	明褐色	76	特-5945	-	-	(15)	内外面:ナデ。底部台。	北土-5264
図31-192	写118	台付鉢	後期後葉 晩期	VL-40	捨場下	捨場下層	-	4.0	2.0	3.0	平口縁か。口唇面取なし。内外面:ナデ。底部台。	北土-5328
図31-193	写118	不明	後期後葉 晩期	VK-39	捨A	14	-	-	2.0	1.2	内外面:ナデ。底部平底。備考:底部片。	北土-5315
図31-194	-	深鉢	晩期1b	VL-39	捨V底上	89	-	6.0	2.7	6.4	小波状口縁。口唇面取なし。外面:波頭部下に側突。口縁形状に対応する連繫する上向き弧線文。ナデ(体部上半)。沈線間に沈線による入組文や弧線文(体部中位)。ナデ(底部)。底部平底。内面:ナデ。	北土-5325
図31-195	写118	浅鉢	後期後葉 晩期	VM-40	捨J	89	-	8.5	丸底	3.3	平口縁。口唇面取なし。外面:ナデ。底部丸底。内面:ナデ。	北土-5309
図31-196	写118	浅鉢	後期後葉 晩期	VO-40	暗褐色	不明	-	(7.2)	丸底	(39)	平口縁。口唇部分的に面取(平足)。外面:ナデ。底部丸底。内面:ナデ。付着物赤色顔料付着(内面)。	北土-5129
図31-197	写118	鉢	後期後葉 晩期前葉	VM-41 SQ37の副	東Ⅲ-1	69	P-10072	8.0	丸底	4.2	平口縁。口唇面取なし。外面:ナデ。底部丸底。内面:ナデ。	北土-5011
図31-198	写118	壺	晩期1b~2	VM-41	東Ⅲ-1	69	-	-	3.0	(32)	外面沈線文。横位沈線2条。地文なし。底部平底。内面:ナデ。付着物赤彩。	北土-5007
図31-199	写118	壺	後期後葉 晩期	せ77 VK-43	東Ⅲ-1	69	特-5087	-	2.0	(37)	内外面:ナデ。底部平底。	北土-5130
図31-200	写118	壺	後期後葉 晩期	VM-41	東Ⅲ-1	69	特-5115	(2.0)	丸底	2.9	平口縁。口唇面取なし。内外面:ナデ。底部丸底。	北土-5136
図31-201	写118	壺	後期後葉 晩期	VL-40	灰b	28-29-31	-	2.0	丸底	(32)	平口縁。口唇面取なし。内外面:ナデ。底部丸底。備考:口縁部内側に折り返し。	北土-5003
図31-202	写118	台付鉢 小	後期後葉 晩期	VM-40	せ10 黒褐	93	-	-	-	(38)	外面沈線。ナデ(体部)。内面:ナデ。底部台。	北土-5009
図32-203	写118	香炉	晩期前葉	VM-40	灰b	28-29-31	特-5035	-	-	(5.0)	香炉頸部。内外面:ナデ。穿孔2箇所。	北土-5133
図32-204	写118	壺	晩期2~3	VM-40	せ10 黒褐	93	特-5038	-	丸底	(44)	外面頸部と体部の境に隆帯1条。隆帯上に簡略化した半歯状文。底部直上に彫去状の沈線1条。底部丸底。付着物体部~底部の片面に黒色底状付着物(部分的に赤色)。	北土-5010
図32-205	写118	不明	不明	VM-39	捨B6	63-89	-	-	-	(32)	外面:ナデ。突起。内面:ナデ。備考:内面に粘土細粒合痕が顕著に残存することから、ミニチュア土器ではなく土製品の可能性がある。	北土-5007
図32-206	写118	壺	不明	VM-38 せ11	SN-d	77	P-5503	-	3.8	(48)	外面無文(頸部)。入組文。三叉状の抉り。横位沈線1条。地文なし。縄文LR(体部下半~底部)。底部平底。付着物赤彩(外面、内面口頸部のみ)。	北土-5133
図32-207	写118	壺	後期後葉 晩期	VL-41	捨H	84	-	-	(2.5)	(38)	外面縄文RL。底部平底。内面:ナデ。	北土-5003
図32-208	写118	壺	晩期2~3	VO-39	へ'外8	109	特-5041	-	-	(3.5)	外面沈線間に刻目1条(肩部)。地文なし。ミガキ。底部凹底。	北土-5136

表6 ミニチュア・小型土器観察表 (2)

図番号	写真 図版	器種	時期	出土位置	層位	振替層位	取上番号	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考	整理番号
図32-209	写118	壺	晩期2~3	VK-40	捨X	89-120-121	P-10101	4.8	2.0	4.7	平口縁。口唇面取なし。外面口縁部に沈線1条。ミガキ。底部凹底。付着物赤彩(外面、内面口頭部)。褐色付着物(内面底部~底部)。	北土-5002
図32-210	写118	壺	晩期2~3	VK-41	東Ⅲ-1	69	P-10080	3.5	九底	5.3	平口縁。口唇面取なし。外面底部直上に沈線1条。ナデ。底部丸底。	北土-5128
図32-211	写118	壺	晩期3か	VK-38 先行Vb/c VL-39 4710	捨B3	25	-	2.0	2.2	5.8	外面ミガキ。底部凹底。	北土-5004
図32-212	写118	壺	晩期	VN-41	捨J	89	P-10151	3.4	4.3	(6.7)	平口縁。口唇部分的に面取。口唇外側に肥厚。外面沈線1条(頸部)。ナデ(口縁部)。縄文LR(体部~底部)。底部平底。	北土-5001
図32-213	写118	壺	後期後葉~ 晩期	VN-41	東Ⅲ-1	69	-	-	2.0	(3.4)	内外面ナデ。底部平底(底部凹状)。	北土-5141
図32-214	写118	台	晩期	VN-40	明褐色	76	-	-	5.2	(2.7)	外面穿孔多数(1周)。地文なし。内面ナデ。	北土-5146
図32-215	写118	台	晩期2~4	VK-37	捨P	4715の43以下	-	-	4.2	(2.4)	外面沈線文(弧線文)。末端に透かし孔。地文なし。内面ナデ。	北土-5138
図32-216	写118	台付鉢	後期後葉~ 晩期	VN-44	東Ⅲ-1	69	-	-	-	(2.0)	内外面ナデ。	北土-5143
図32-217	写118	台付鉢	晩期	VN-40	7D713 黒褐色	93	-	-	3.7	(4.5)	平口縁。口唇面取なし。内外面ナデ。底部台。付着物内面に黒色膜状付着物。	北土-5127
図32-218	写118	台	晩期1b/c	VN-41	東Ⅲ-2	107	-	-	(4.0)	(2.8)	内外面ナデ。	北土-5137
図32-219	写118	台付鉢	後期後葉~ 晩期	V0-40	明褐色	76	-	-	-	(2.0)	内外面ナデ。底部台。	北土-5131
図32-220	写118	台	晩期	VN-42	東Ⅲ-2	107	-	-	3.4	(2.5)	内外面ナデ。底部台。	北土-5134
図32-221	写118	壺	晩期1b~2	VN-39	捨N	89	P-5392~ 5394の範囲	-	-	(3.2)	外面沈線文。地文なし。内面ナデ。	北土-5145
図32-222	写118	壺	晩期前葉~ 中葉	VN-40	7D713 黒褐色	93	-	-	-	(3.0)	外面沈線文。地文なし。内面ナデ。	北土-5139
図32-223	写118	浅鉢	晩期前葉	VN-39	7D713 明褐色	95	P-5287	(6.6)	九底	2.3	平口縁。口唇面取なし。外面沈線文。地文なし。底部丸底。	北土-5147
図32-224	写118	壺	晩期	VN-39	7D713 明褐色	93	特-5051	3.4	2.5	3.4	平口縁。口唇部分的に面取。内外面ナデ。底部平底。	北土-5008
図32-225	写118	浅鉢	後期後葉~ 晩期	V0-40	黒褐色	95	-	(5.5)	九底	3.0	平口縁。口唇面取なし。外面沈線文。地文なし。底部丸底。	北土-5142
図32-226	写118	浅鉢	晩期	VN-44	東Ⅲ-2	107	-	6.1	九底	2.8	平口縁。突起1個。口唇面取なし。内外面ナデ。底部丸底。	北土-5148
図32-227	写118	不明	後期後葉~ 晩期	VN-40	黒褐色	95	-	-	2.0	2.0	内外面ナデ。底部平底。	北土-5005
図32-228	写118	香炉	晩期後葉	VK-41	東Ⅲ-1	69	特-5116	-	-	(2.8)	香炉頂部。穿孔1箇所。円形刺突列。地文なし。	北土-5023
図32-229	写118	浅鉢	晩期3か	VN-39	不明	不明	-	(7.2)	九底	(2.4)	平口縁。口唇面取なし。沈線文。地文なし。底部丸底。内面ナデ。	北土-5132
図32-230	写118	鉢	晩期3	VL-39	捨V下	82	-	9.0	3.6	7.1	平口縁。口唇刻目。外面沈線間に刻目1条(刻目は数個一組)。横位沈線1条。文様帯地文なし。横位沈線2条。文様帯地文なし。細文LR(体部)。ナデ(底部)。底部高台。内面ミガキ。	北土-5326
図32-231	写118	台付鉢	晩期1a/c	VL-41	捨C	68	P-10045	(9.6)	-	(7.1)	小波状口縁。口唇面取なし。外面ナデ(口縁部)。細文LR(体部から底部)。底部台。内面ナデ。付着物炭化物(内外面)。	北土-5295
図32-232	写118	台付鉢	晩期中葉	VN-39	捨D	26	-	8.9	4.4	7.6	平口縁。一山突起単位。口唇面取なし。外面沈線文(4単位、1単位ずつまり)。底部凹底。内面ナデ。付着物炭化物(内外面)。	北土-5331
図32-233	写118	台付鉢	晩期2~3	VL-39 4710	捨V下	125	-	-	5.2	(3.6)	細文LR(体部下から底部)。底部台。台部沈線文(4単位、1単位ずつまり)。底部凹底。内面ナデ。付着物炭化物(内外面)。	北土-5333
図32-234	写118	壺	晩期3	VK-39	捨P3上	57	-	-	(5.6)	(3.6)	外面彫去による雲形文。横位沈線2条(底部直上)。磨消細文LR。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩(外面)。	北土-5334
図32-235	写119	鉢	後期後葉~ 晩期	VN-39	黒褐色	95	P-5262	-	九底	4.0	内外面ナデ。底部丸底。	北土-5135
図32-236	写119	鉢	晩期2	VL-40	捨H	84	-	9.9	4.7	(6.6)	平口縁。B突起(縦線)。口唇面取なし。外面沈線文(三又文の末端に弧線文重畳)。横位沈線1条。沈線間に刻目列(刻目の前後一組、下位の沈線は刻目の単位に対応して途切れる)。横位沈線2条。沈線で区画された無文帯(底部)。文様帯地文なし。細文LR(体部下)。底部低平な高台。内面ナデ。	北土-5336
図32-237	写119	壺	晩期2	VK-38	捨P3	57-62-127	P-5657	3.7	3.6	10.2	平口縁。B突起なし。外面横位突起単位(頸部刻目)。2条の沈線間にC字状刻目列。沈線文。横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩(外面、内面口縁部のみ)。	北土-5284
図32-238	-	鉢か	後期後葉	VL-40	捨W	128	P-5089	-	5.0	(7.5)	外面細文LR。底部高台。横位沈線2条(彫去状)。地文なし。ミガキ。内面ナデ。付着物赤彩(外面、内面口縁部のみ)。	北土-5318
図32-239	写119	壺	晩期3	VL-37	捨B4 捨10	60-63-89 103以下相当	-	-	-	(7.6)	外面隆帯2条(隆帯に突起4単位)。横位沈線2条(彫去状)。地文なし。ミガキ。内面ナデ。付着物赤彩(外面、内面口縁部のみ)。	北土-5324
図32-240	写119	壺	晩期1b~2	VN-42	明褐色	76	P-5497	(7.8)	5.5	7.8	平口縁。B突起(1単位残存)。外面横位沈線各1条(頸部上下界)。横位沈線1条。沈線で区画された無文帯。磨消細文LR。細文LR(体部下から底部)。ミガキ(頸部)。付着物赤彩(外面、内面口縁部から体部上)。	北土-5299
図32-241	写119	壺	晩期3	V0-40	明褐色	76	P-5226	-	1.8	(6.1)	外面隆帯1条。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩(外面)。	北土-5305
図32-242	写119	壺	晩期3	VP-39	黒褐色	95	P-5246	-	2.3	(6.2)	外面沈線文。突起(1箇所残存、縦位のB字状)。沈線2条(彫去状)。地文なし。ミガキ。器面剥離顕著。内面ナデ。付着物赤彩(外面)。	北土-5329



表6 ミニチュア・小型土器観察表 (3)

図番号	写真 図版	器種	時期	出土位置	層位	振替層位	取上番号	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考	整理番号
図33-243	写119	壺	後期後葉	VL-40	捨V炭下	125	-	38	4.0	外面ナデ (体部から底部)。底部高台 (底面が凸状のため接地面は高台ではなく高台内面)。内面ナデ。小波状口縁か。口唇面取 (外側状)。外面ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (外面、内面、口縁部のみ)。	北土-5330	
図33-244	写119	壺	晩期1b~3	WN-39	捨K下	63	P-5384	(6.0)	(5.3)	平口縁。口唇面取なし。外面沈線文。横位沈線各1条 (口縁部、底部直上)。突起単位 (縦長、頂部横位刻目)。口縁部のみ。外面沈線文。三又文。横位沈線各1条 (口縁部と頸部の境、頸部と体部の境)。文様帯地文なし。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (内外面)。	北土-5306	
図34-245	写119	鉢	晩期2	WN-39	ハノ3層	63	P-5410	(8.8)	(5.2)	平口縁。口唇面取なし。外面沈線文。横位沈線各1条 (口縁部、底部直上)。突起単位 (縦長、頂部横位刻目)。口縁部のみ。外面沈線文。三又文。横位沈線各1条 (口縁部と頸部の境、頸部と体部の境)。文様帯地文なし。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (内外面)。	北土-5292	
図34-246	写119	壺	晩期1a	VL-41	捨U	122・125	P-10138	4.0	4.0	7.8	平口縁。口唇面取なし。外面沈線文。横位沈線各1条 (口縁部、底部直上)。突起単位 (縦長、頂部横位刻目)。口縁部のみ。外面沈線文。三又文。横位沈線各1条 (口縁部と頸部の境、頸部と体部の境)。文様帯地文なし。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (内外面)。	北土-5286
図34-247	写119	壺	晩期2か	VL-40	捨V炭	89・125	-	-	-	(5.3)	外面横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ。内面ナデ。	北土-5332
図34-248	写119	壺	晩期1b~2	WN-41	東Ⅲ-1	69	P-5866	-	3.8	(6.9)	外面横位沈線1条。沈線で区画された無文帯。磨消縄文LR。縄文LR (体部下半から底部)。器面刺刺顕著。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (外面、内面、口縁部のみ)。	北土-5304
図34-249	写119	壺	晩期3	VL-39 ヤ10	捨V下	82	P-10124	4.1	2.7	9.3	平口縁。口唇面取なし。外面隆帯2条 (頸部と体部の境、隆帯間に縦位のB字状突起4単位、下の隆帯に横位のB突起4単位)。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (外面、内面、口縁部のみ)。	北土-5288
図34-250	写119	壺	後期後葉~ 晩期前葉	WN-39	捨J	89	P-10043	(5.1)	4.5	7.4	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線 (底部直上)。ミガキ。底部高台。内面ナデ。三山突起 (1単位残存)。口唇面取なし。外面横位沈線 (底部直上)。ミガキ。底部高台。内面ナデ。	北土-5308
図34-251	写119	壺	晩期3	VP-40	明褐色	76	P-5239	-	2.5	(7.5)	外面2条の沈線間に刻目列1条。地文なし。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物外面黒色処理か。	北土-5298
図34-252	写119	壺	晩期1b~2	WN-41	東Ⅲ-1	69	P-5998	-	3.2	(6.8)	外面三又文 (頸部)。横位沈線1条。沈線文。横位沈線2条。文様帯地文なし。ミガキ (口縁部、体部下半から底部)。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (外面、内面、口縁部のみ)。	北土-5297
図34-253	写119	壺	晩期前葉~ 中葉	WN-39	プロック13 (ハノ4)	93	P-5426	5.9	4.5	9.5	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条 (頸部と体部の境)。縄文LR (体部から底部)。底部凹底。内面ナデ。	北土-5322
図34-254	写119	壺	晩期2~3	WN-38	明褐色	76	P-5228	-	3.0	(8.4)	外面半横状文 (簡略化)。文様帯地文なし。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (外面)。	北土-5283
図34-255	写119	壺	後期後葉~ 晩期前葉	VJ-40	10F	128	P-5565	-	3.7	(7.4)	外面縄文LR。底部高台。内面ナデ。	北土-5300
図34-256	写119	壺	後期後葉~ 晩期前葉	WN-40	捨Ja	89	P-5591	5.0	4.0	6.8	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線各1条 (頸部と体部の境、底部直上)。ナデ (口縁部)。縄文LR (体部から底部)。	北土-5291
図34-257	写119	壺	晩期中葉~ 後葉	VL-35	捨5相当	56相当	P-5995	4.5	-	7.3	平口縁。口唇面取なし。外面ナデ (口縁部)。LR/RL非結東羽状文 (体部)。内面ナデ。付着物黒色付着物 (外面)。	北土-5296
図34-258	写119	壺	晩期中葉~ 後葉	WN-39	捨D抜根 (完)	26抜根	-	(4.6)	4.0	7.5	平口縁。貼部突起 (1単位残存)。口唇面取なし。外面ナデ (口縁部)。縄文LR (体部から底部)。底部凹底。内面ナデ。付着物炭化物 (外面、内面)。	北土-5311
図35-259	-	壺	後期前葉~ 晩期前葉	WN-39 ヤ11	SN-h	109	P-5535	4.0	3.4	9.2	平口縁。口唇面取 (平坦)。外面横位沈線1条 (頸部と体部の境)。ナデ (口縁部)。縄文LR (体部から底部)。	北土-5323
図35-260	写119	壺	晩期中葉~ 後葉	VK-37	10-2	9	P-5731	-	4.8	(8.1)	外面ナデ (口縁部)。縄文LR (体部から底部)。底部凹底。内面ナデ。	北土-5302
図35-261	写119	壺	晩期中葉~ 後葉	VK-37	捨P1	43の上層	P-5830	5.5	3.8	9.6	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条 (口縁部と体部の境)。ナデ (口縁部)。縄文LR (体部から底部)。	北土-5303
図35-262	写119	壺	後期後葉~ 晩期前葉	WN-41	東Ⅲ-1	69	-	6.0	5.0	(9.8)	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線1条 (頸部と体部の境)。ミガキ、ナデ (口縁部)。縄文LR (体部から底部)。	北土-5312
図35-263	写119	壺	晩期中葉~ 後葉	VK-39	捨P2上	43	P-5715	5.5	4.3	7.9	平口縁。口唇面取なし。外面沈線 (口縁部と体部の境、部分的にナデ消し)。ナデ (口縁部)。縄文LR (体部から底部)。	北土-5293
図35-264	写119	壺	晩期2~3	WN-40	黒褐色	95	P-5273	6.0	3.8	8.1	平口縁。口唇面取 (平坦)。外面横位沈線1条 (頸部と体部の境)。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (内外面)。	北土-5281
図35-265	写119	壺	晩期中葉~ 後葉	VL-38	捨D	26	-	(5.2)	4.0	(7.8)	平口縁。口唇面取なし。外面ナデ。底部凹底。内面ナデ。	北土-5307
図35-266	写119	壺	晩期前葉~ 中葉	VL-34	捨4相当	54相当	P-5340	(4.8)	(3.8)	8.7	平口縁。口唇面取なし。外面ナデ。底部凹底。内面ナデ。	北土-5310
図35-267	写119	壺	後期後葉~ 晩期前葉	VL-39 ヤ10	捨V下	82	P-10125	6.0	5.5	10.0	平口縁。口唇面取。外面ナデ。底部凹底。内面ナデ。付着物炭化物 (内外面)。	北土-5289
図35-268	写119	壺	晩期1a	VK-38	捨P3	57・62・127	P-5619	-	(3.6)	(10.1)	外面ケズリ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (外面、内面、口縁部のみ)。	北土-5282
図35-269	写120	壺	晩期2~3	WN-39	プロック13 (ハノ4)	93	P-5425	7.6	丸底	7.0	平口縁。口唇面取 (平坦)。外面横位沈線1条 (頸部と体部の境)。ミガキ。底部凹底。内面ナデ。付着物赤彩 (内外面)。	北土-5314
図35-270	写120	壺	晩期3	VK-40	捨S	66	-	5.0	2.8	(5.8)	平口縁。口唇面取なし。外面隆帯2条 (口縁部、隆帯上に突起1個残存)。地文なし。ミガキ。底部凹底。張り出し状の脚4単位。内面ナデ。付着物赤彩 (内外面)。	北土-5327
図35-271	写120	壺	晩期2	WN-40	プロック13	93	-	(7.0)	1.3	(5.0)	平口縁。口唇面取なし。外面ミガキ。底部凹底。内面ナデ。張り出し状の4単位。内面押圧。内面ナデ。ミガキ。付着物赤彩 (内外面)。	北土-5335
図36-272	写120	注口	晩期2	フナ WN-44	東Ⅲ-1	69	P-5922	-	丸底	(5.0)	外面沈線間に退化した半横状2段。横位沈線1条。体部屈曲部に沈線文。注口両側に突起 (頂部刻目) 各1個。屈曲部下に横位沈線1条 (注口下で2重の弧線文に連結)。注口基部突起 (頂部刻目) 1個。底部凹底。内面ナデ。	北土-5294
図36-273	写120	注口	後期後葉	WN-39	プロック13 (ハノ4)	93	P-5468	-	1.5	7.5	外面ナデ。底部高台。注口基部に隆帯付 (馬蹄形)。内面ナデ。	北土-5319

表6 ミニチュア・小型土器観察表 (4)

図番号	写真 図版	器種	時期	出土位置	層位	器種	種	部位1	部位2	LR	焼け	切痕	備考	高さ (cm)	底径 (cm)	口径 (cm)	取上番号	振替層位	高さ (cm)	備考	整理番号
図36-274	写120	注口	晩期1b	WK-38	捨P3	捨P3	93	P-5656	-	-	-	-	(55)	丸底	-	P-5656	57-62-127	(55)	外面沈線文(注口周囲のみ)。文様帯地文なし。ミガキ。底部丸底。内面:ナデ。	北土-5301	
図36-275	写120	注口	晩期2	WK-37	捨P	捨P	4715の43以下	P-5928	-	5.5	-	-	(58)	丸底	5.5	P-5928	4715の43以下	(58)	平口縁。B突起帯冠1単位(単位残存、注口に対応)。口唇面取なし。外面短沈線列4から5条。2条の沈線間に刻目列。注口下に弧線文。文様帯地文なし。ナデ。底部丸底。内面:ナデ。	北土-5285	
図36-276	-	注口	晩期1a	VL-39 4710	捨J	捨J	89	P-10150	-	-	-	-	(58)	丸底	-	P-10150	89	(58)	外面:ミガキ。底部丸底。内面:ナデ。	北土-5290	
図36-277	写120	注口	晩期1a~1b	WN-39	プロック13 (ハ/ト4)	捨K下	63	-	-	3.0	-	-	(40)	丸底	-	P-5419	93	(40)	外面:ミガキ。底部丸底。内面:ナデ。	北土-5320	
図36-278	写120	注口	晩期1a	VL-41	捨C	捨C	68	P-10044	-	-	-	-	(57)	丸底	-	P-10044	68	(57)	外面:ナデ。	北土-5287	
図36-279	写120	注口	晩期2	VL-37	捨B4 捨10	捨B4 捨10	60・63・80 103以下相当	-	-	-	-	-	(41)	丸底	-	-	-	(41)	外面沈線間に刻目列2条(上列は注口上部のみ4個一組、他は連続。下列は注口部で下の沈線が三叉状となる)。横位沈線(注口下で縦三叉文となる)。文様帯地文なし。ナデ(体部下半)。底部丸底。内面:ナデ。	北土-5316	
図36-280	写120	注口	晩期1a	VL-40	捨V段	捨V段	89-125	-	-	4.6	-	-	(88)	丸底	4.6	-	-	(88)	平口縁。口唇面取なし。外面横位沈線2条。ミガキ。底部丸底。内面:ナデ。	北土-5317	
図36-281	写120	注口	晩期3か	WN-40	黒褐色	黒褐色	95	特-5026	-	1.7	-	-	2.0	丸底	1.7	特-5026	95	2.0	平口縁。口唇面取なし。外面沈線間に剛突起3条。地文なし。注口基部に沈線1条。底面凹底。内面:ナデ。	北土-5006	
-	写120- 282	壺	晩期2~3	VM-39	捨K下	捨K下	63	-	-	-	-	-	(70)	丸底	3.0	-	-	(70)	外面:ミガキ。底部凹底。内面:ナデ。	北土-5313	
-	写120- 283	壺	後期後葉~ 晩期前葉	WN-39	プロック13 (ハ/ト4)	捨K下	93	P-5468	-	8.0	-	-	(77)	丸底	3.0	P-5468	93	(77)	外面:ミガキ、ナデ。底部高台。内面:ナデ。	北土-5321	
図36-284	-	浅鉢	晩期3	VL-40	捨S	捨S	66	-	-	-	-	-	2.5	丸底	8.0	-	-	2.5	平口縁。面取なし。外面横位沈線2条。雲形文(彫去)。地文なし。底部丸底。円形沈線。内面:ミガキ。	北土-5258	

表7 骨角器観察表

図版番号	写真番号	グリット(南北)	グリット(東西)	層名	器種	種	部位1	部位2	LR	焼け	切痕	備考	重量(g)	日付	メッシュ	備考	整理番号	整理No
74-1	192	VM	38	捨B2	角芯	角芯	frg	-	-	-	-	試料0458から抜出	-	2014/7/29	-	B510	M-242	M-242























表8 石器観察表 (11)

Table with columns: 写真番号, 番号, 図番号, 番号, 整理番号, 出土位置, 層位, 振替層, S番/特番, 器種, 長さ(mm), 幅(mm), 厚さ(mm), 重量, 石質, 備考. It lists 154 items of archaeological artifacts with their respective specifications and findings.



表8 石器観察表 (13)

Table with 16 columns: 写真番号, 番号, 図番号, 番号, 整理番号, 出土位置, 層位, 振替層, S番/特番, 器種, 長さ(mm), 幅(mm), 厚さ(mm), 重量, 石質, 備考. Rows include numbered entries (157-161) describing archaeological artifacts with their physical characteristics and soil layers.













表8 石器観察表(19)

写真番号	番号	図番号	番号	整理番号	出土位置	層位	振替層	S番/特番	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量	石質	備考
186	24	-	-	793	VL-37	捨10相当	103以下相当	S-X	石製円盤	36.9	43.6	10.6	16.3	未鑑定	
186	25	-	-	5395	VL-40	捨V炭下層	125	S-X	石製円盤	120.5	121.0	11.1	361.4	粗馬鞍山岩	未製品、縦刻、石皿破片転用
186	26	69	2	7534	VL-38-39 セク24	捨P3下層	127	S-X	石製円盤	60.0	59.0	23.0	109.6	鞍山岩	
186	27	-	-	2035	VK-39	捨P3下層	127	P-X	石製円盤	65.6	75.0	10.6	67.3	凝灰岩	被熱
186	28	-	-	5377	VK-39 セク9	炭4	13	S-X	石製円盤	64.7	56.8	18.1	89.6	アイサイト	不整六角形、3辺稜面、縦横刻
187	1	70	4	6457	VM-38	捨B	11-15-18	S-X	玉素材	21.0	19.0	8.0	4.1	緑色凝灰岩	
187	2	69	3	1512	VM-38	捨B3	25	特-5059	玉	10.0	10.0	8.0	0.6	緑色凝灰岩	
187	3	-	-	2116	VK-39 セク10	捨Gb	65	S-X	玉素材	14.7	12.3	12.0	2.1	緑色凝灰岩	
187	4	-	-	333	VJ-39	捨U上層	122	S-X	玉	8.4	7.8	4.8	0.2	緑色凝灰岩	
187	5	69	7	7759	VM-41	東Ⅲ-1	69	S-X	玉	13.0	14.0	8.0	1.3	緑色凝灰岩	平玉
187	7	69	4	7597	VM-41	東Ⅲ-1	69	特-5081	玉	38.0	27.0	10.0	10.3	珪岩	
187	8	69	5	2030	VM-41	東Ⅲ-1	69	特-5111	石製品	50.0	22.5	9.0	10.2	泥岩	自然礫に挟り作り出し
187	9	69	11	810	VM-40	捨J	89	特-5071	石製品	24.0	36.0	7.0	4.9	緑色凝灰岩	
187	10	70	3	6459	VM-42	東Ⅲ-1	69	S-X	玉素材	20.5	20.5	20.0	8.1	緑色凝灰石	バルブあり
187	11	69	10	1513	VM-39 セク10	捨H下層	83	特-5124	玉	19.0	12.0	7.0	2.3	ヒスイ	
187	12	70	2	6455	VJ-39	10	89以下	特-5064	玉	14.5	10.0	8.0	1.6	緑色凝灰岩	玉材に研磨と浅い穿孔
187	13	69	13	803	VL-41	捨I下層	112	S-X	石製品	44.0	39.0	8.0	6.0	凝灰岩	赤色顔料
187	14	70	6	817	VK-40	捨U	122-125	特-5102	玉素材	36.0	33.0	26.0	(32.1)	珪質頁岩	北東整理番号801と接合
187	15	-	-	801	北東	トレ-1		S-4005	玉素材	36.0	33.0	26.0	(32.1)	珪質頁岩	北整理番号817と接合
187	16	70	1	7585	VL-37	捨P3下層	127	S-X	石製品	54.0	44.0	4.0	14.1	軽石	
187	17	69	9	7765	VL-41	東Ⅲ-1	69	特-5146	軽石製品	53.0	66.0	27.0	16.9	軽石	有孔
187	18	69	8	2038	VM-41	東Ⅲ-1	69	特-5113	石製品	53.0	58.0	20.0	54.3	凝灰岩	
187	19	69	6	7594	VM-41	東Ⅲ-1	69	特-5135	石製品	35.0	34.0	7.0	9.4	凝灰岩	
187	20	69	12	7657	VP-40	黒褐色	95	S-X	石製品	42.0	38.0	20.0	24.0	頁岩	
188	1	-	-	2117	VO-39	I	1	S-X	石製品	81.6	84.4	11.3	75.1	凝灰岩	
188	2	-	-	2203	VO-40	I	1	S-X	石製品	49.1	59.3	8.4	21.8	凝灰岩	
188	3	70	12	2739	VK-36 セク9	捨2	46	S-X	石製品	20.0	19.0	5.0	1.3	珪質頁岩	破片、赤彩
188	4	70	11	5657	VK-38	捨M/P	38-39	S-X	石製品	39.0	50.0	14.0	20.3	シルト岩	周辺同一層で大洞C1・C2出土
188	5	73	1	1511	VP-39	ベルト8	109	特-X	石製品	41.0	31.0	32.0	58.3	チャート	アスファルト
188	6	70	7	820	VK-38	I	1	S-X	石製品	40.0	34.0	19.0	30.6	マンガン/ジュール	
188	7	-	-	799	VL-39	捨D	26	S-X	自然礫	45.5	25.5	18.7	30.3	マンガン/ジュール	
188	8	70	9	7591	VK-40	捨G	11-25	S-X	石製品	39.0	37.0	7.0	14.5	粗粒凝灰岩	
188	9	70	8	7624	VL-37-38	捨P	セク15の43以下	S-X	石製品	71.0	36.0	21.0	59.9	凝灰岩	線刻
188	10	73	2	7592	VK-40	捨U	122-125	S-X	石製品	56.0	38.0	21.0	21.4	シルト岩	
188	11	-	-	828	VM-35	捨10相当	103以下相当	S-X	磨石	68.5	46.0	38.5	117.4	鞍山岩	石製品?
188	12	70	10	7519	VM-41	東Ⅲ-1	69	S-X	凹石	108.0	78.0	4.0	37.3	凝灰岩	石製品?
189	1	70	14	5312	VM-40	捨J	89	特-5039	石製品	116.0	45.0	14.0	95.4	凝灰岩	
189	2	70	13	7518	VM-40	明褐色	76	特-5024	石製品	72.0	80.0	46.0	269.8	アイサイト	
189	3	73	3	7517	VL-41	炭C	116-118	S-X	石製品	88.0	90.0	69.0	400.5	緑色凝灰岩	手の拳状
189	4	72	2	2026	VM-41	東Ⅲ-1	69	特-5126	石製品	73.0	65.0	37.0	262.9	閃緑岩	
190	1	-	-	2012	VM-41	I	1	特-X	石製品	111.3	96.6	45.6	584.9	凝灰岩	
190	2	71	4	7724	VO-40	明褐色	76	S-X	石製品	101.0	75.0	36.0	286.4	凝灰岩	凹作出し
190	3	71	6	7714	VL-36	捨4炭化物層	54炭化物層	S-X	石製品	95.0	84.0	46.0	415.4	凝灰岩	皿状
190	4	-	-	2023	VO-41	黒褐色	95	S-X	石製品	94.6	83.1	25.4	175.4	凝灰岩	窪み作り出し
190	5	71	2	7728	VL-40	東Ⅲ-1	69	S-X	石製品	61.0	55.0	37.5	166.5	凝灰岩	
190	6	72	7	5127	VL-37	捨P6	63-89	S-X	石製品	68.8	64.2	41.7	199.1	凝灰岩	半球状、線刻、擦痕
190	7	71	5	7598	VM-41	東Ⅲ-1	69	特-5100	石製品	68.0	65.0	37.0	213.1	凝灰岩	
190	8	71	1	5346	VM-38	捨N	89	S-X	石製品	64.0	54.0	36.0	166.0	凝灰岩	
190	9	71	7	7774	VM-39	捨J	89	S-X	石製品	56.0	55.0	32.0	122.9	凝灰岩	
190	10	73	4	7515	VO-39	ベルト2	10	特-5042	石製品	98.0	92.0	60.0	737.3	凝灰岩	
191	1	71	3	7596	VM-40	黒褐色 ブロック13	93	特-5037	石製品	80.0	75.0	42.0	245.3	凝灰岩	
191	2	72	4	1240	VM-41	東Ⅲ-2	107	S-X	石製品	61.2	59.9	31.3	149.4	緑色凝灰岩	円形、裏面・側面敲打加工痕
191	3	72	3	7595	VM-36	捨10相当	103以下相当	特-X	石製品	64.0	65.0	43.0	234.5	凝灰岩	
191	4	72	5	7504	VO-39	ベルト8	109	S-X	石製品	86.0	60.0	37.0	194.4	凝灰岩	
191	5	-	-	8822	VL-38-39 セク24	捨P3下層	127	S-X	石製品	86.6	83.5	79.3	820.9	花崗岩	
191	6	-	-	2040	VP-41	明褐色	76	S-X	石製品	62.0	69.2	29.3	1.0	凝灰岩	皿状
191	7	73	8	5315	VM-38	捨B4	60-63-89	S-X	石製品	68.0	91.0	37.0	180.0	凝灰岩	皿状
191	8	73	7	5311	VL-37	捨P3	57-62-127	S-X	石製品	78.0	54.0	25.0	68.9	凝灰岩	皿状
191	9	72	1	2205	VR-40	黒褐色	95	S-X	石製品	55.0	42.0	30.0	68.2	凝灰岩	皿状
191	10	73	6	5644	VK-39	捨P2	43-44	S-X	石製品	57.5	37.8	18.0	23.1	凝灰岩	皿状
191	11	73	5	5643	VK-39	捨A	14	S-X	石製品	52.0	46.0	12.0	20.9	凝灰岩	皿状



表9 石製円盤観察表(2)

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Includes sections for 円9, 円10, 円11, 円12, 円13 and various numbered rows.

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Includes sections for 円14, 円15, 円16, 円17 and various numbered rows.







表9 石製円盤観察表(5)

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Contains data for items 6-24.

円33

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Contains data for items 144-144.

円34

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Contains data for items 122-122.

円35

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Contains data for items 116-116.

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Contains data for items 116-116.

円36

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Contains data for items 15-15.

円37

Table with columns: 写真番号, 整理番号, 出土地点, 振替層・備考, 長(mm), 幅(mm), 厚(mm), 重量(g), 石質. Contains data for items 157-157.